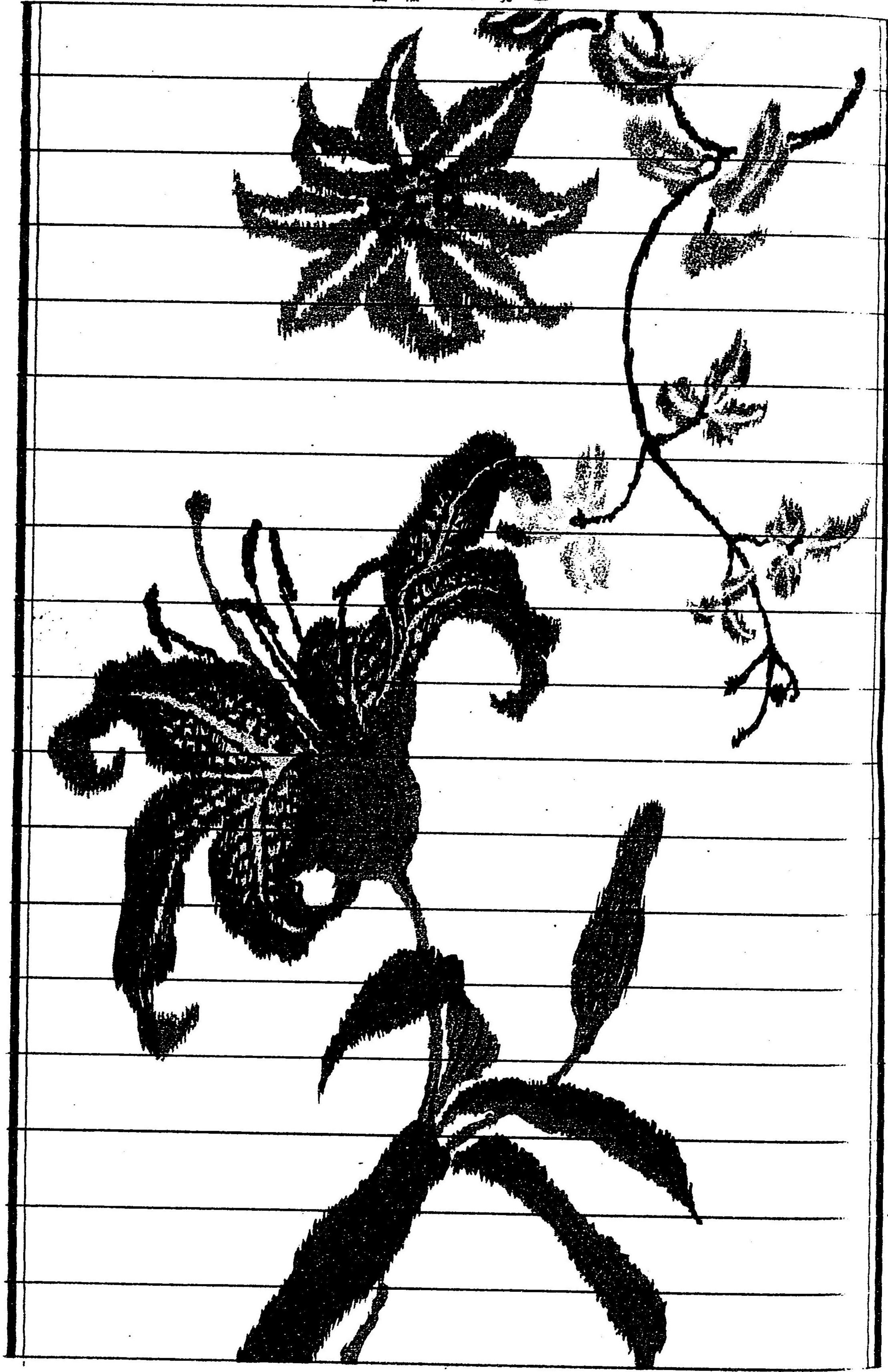


友 禪 御 召

二 分 一 縮 圖



東 京 府 小 菅 丹 治 出 品



禪 友 重 二 羽

圖 縮 一 分 二



品 出 店 服 吳 屋 坂 松 藤 伊 府 京 東

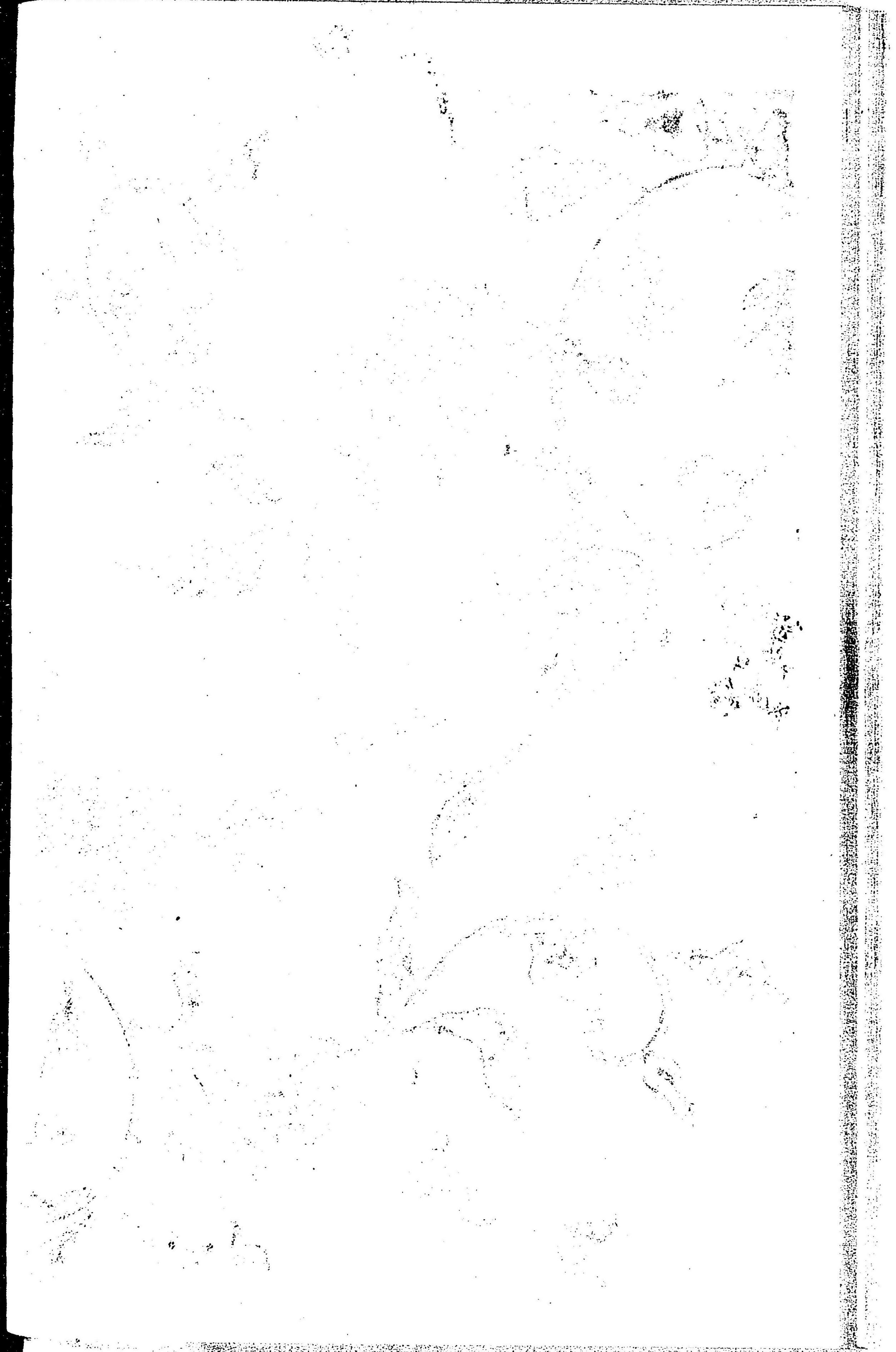


地 衿 襦 長 禪 友 紹

圖 縮 一 分 五



品 出 門 衛 右 關 上 池 府 京 東





大 和 錦 女 帶 地

二 分 一 縮 圖



東 京 府 高 崎 屋 東 京 店 出 品



博多解シ織女帯地

二分ノ一縮圖

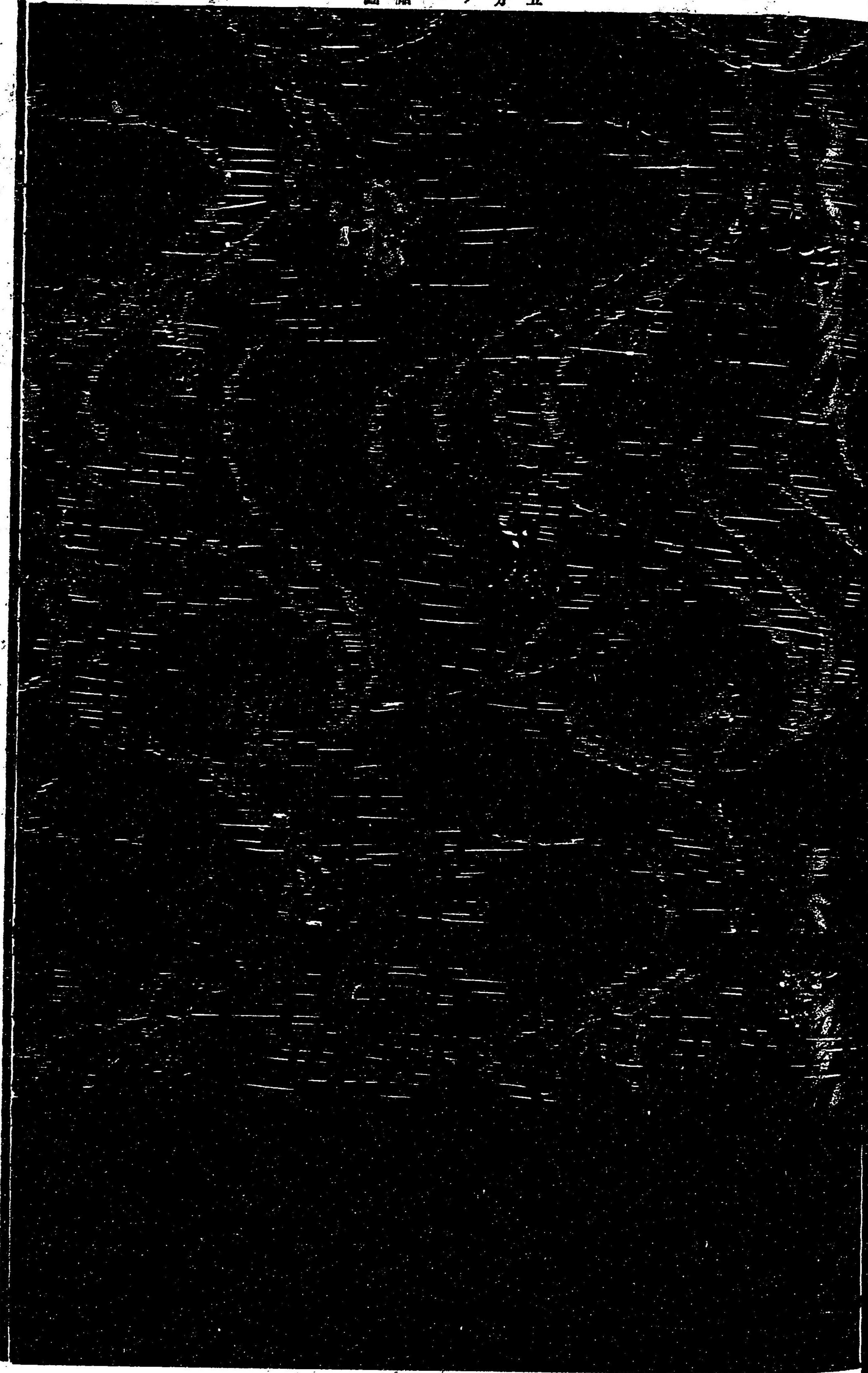


東京府高橋政右衛門出品

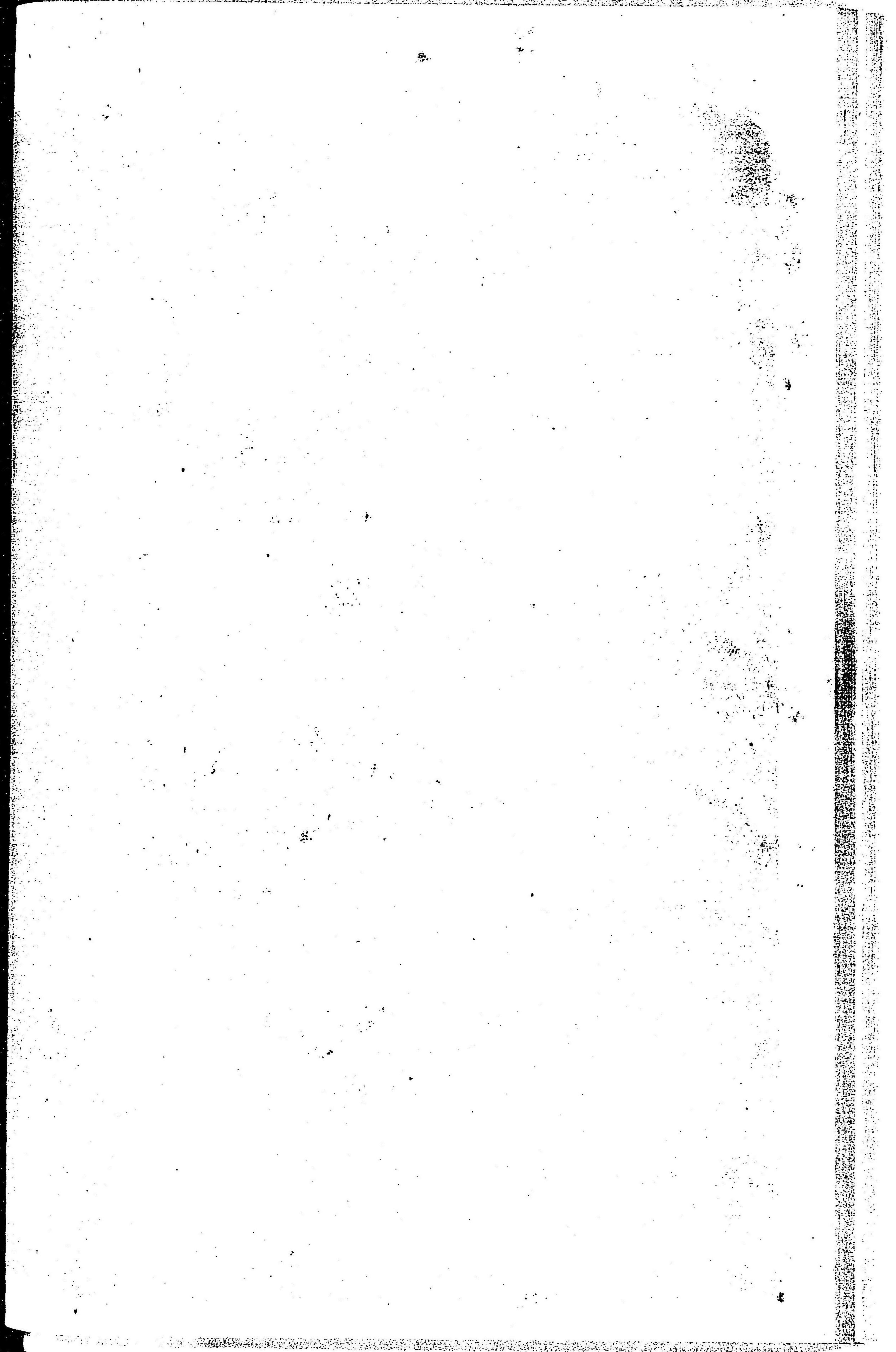


地帶女織漣

圖縮一ノ分五

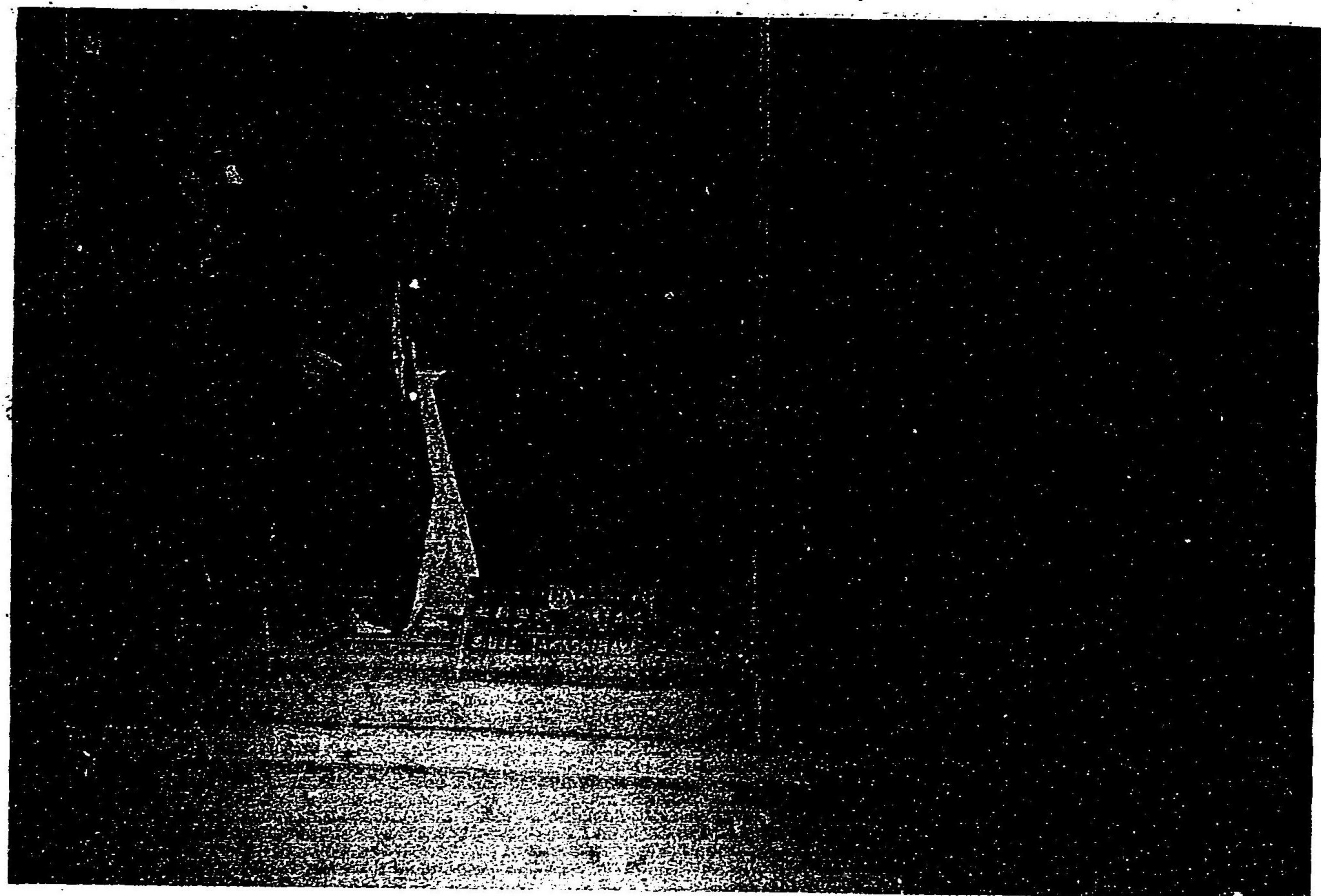


品出店服吳屋木白府京東

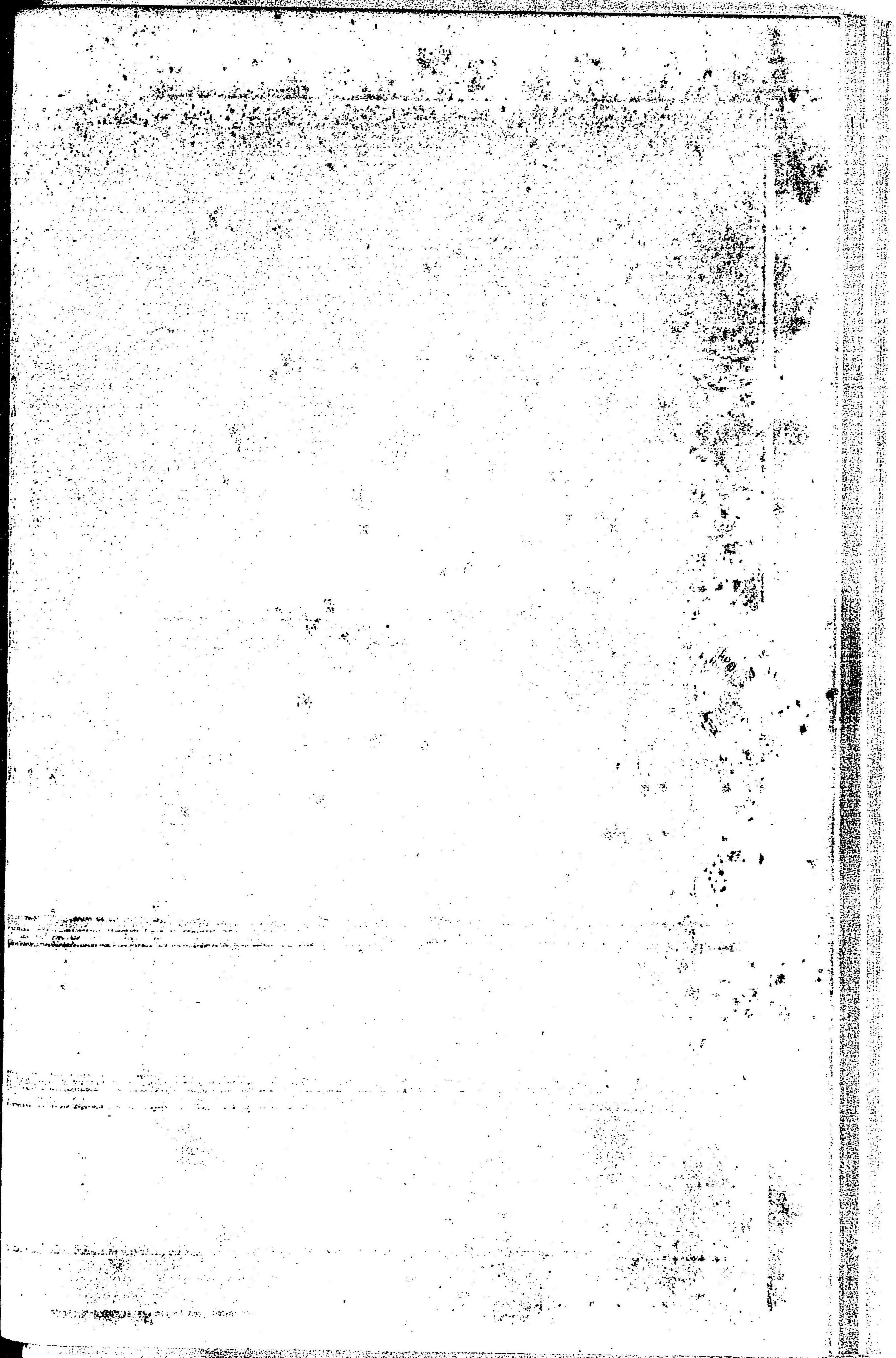
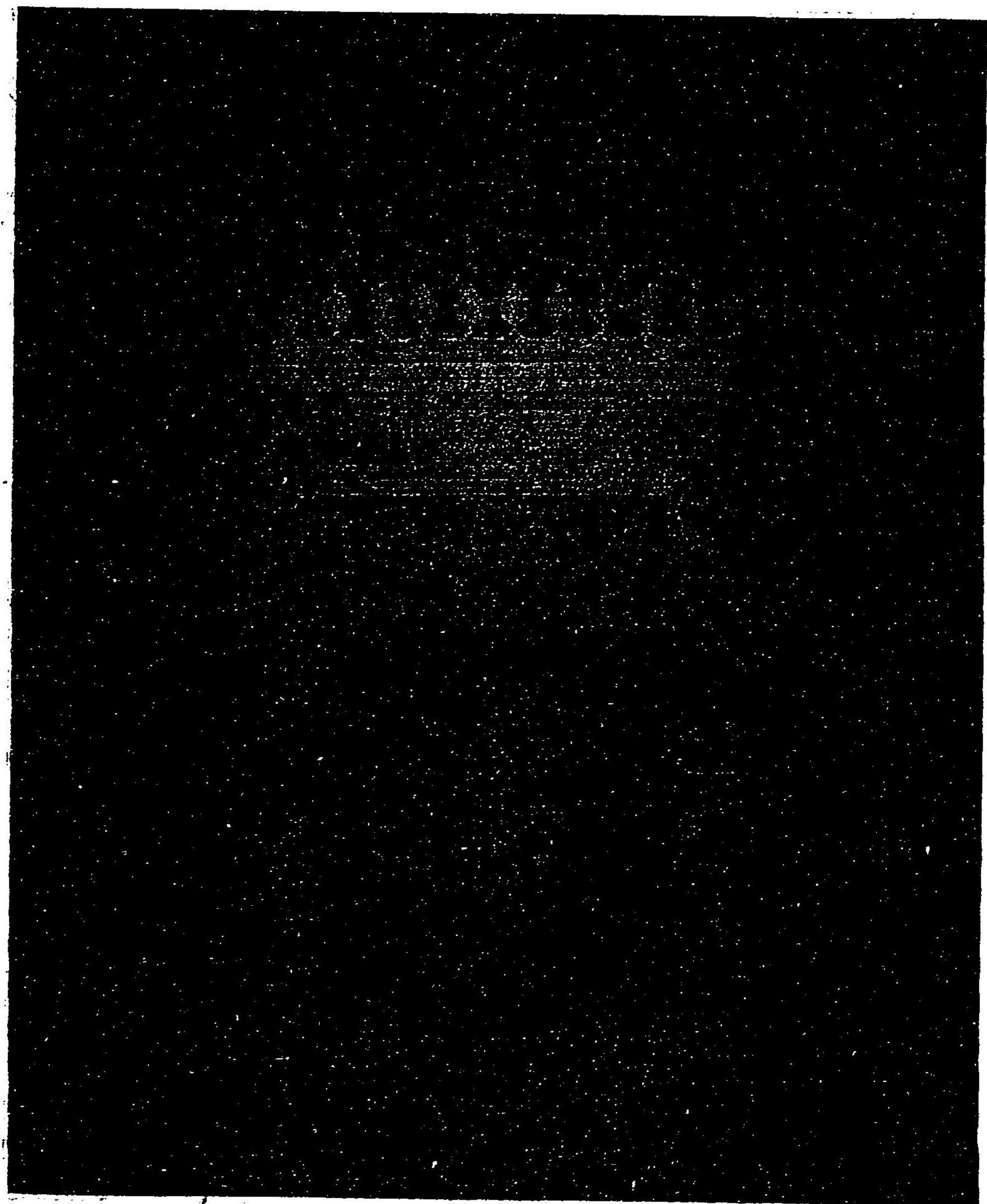




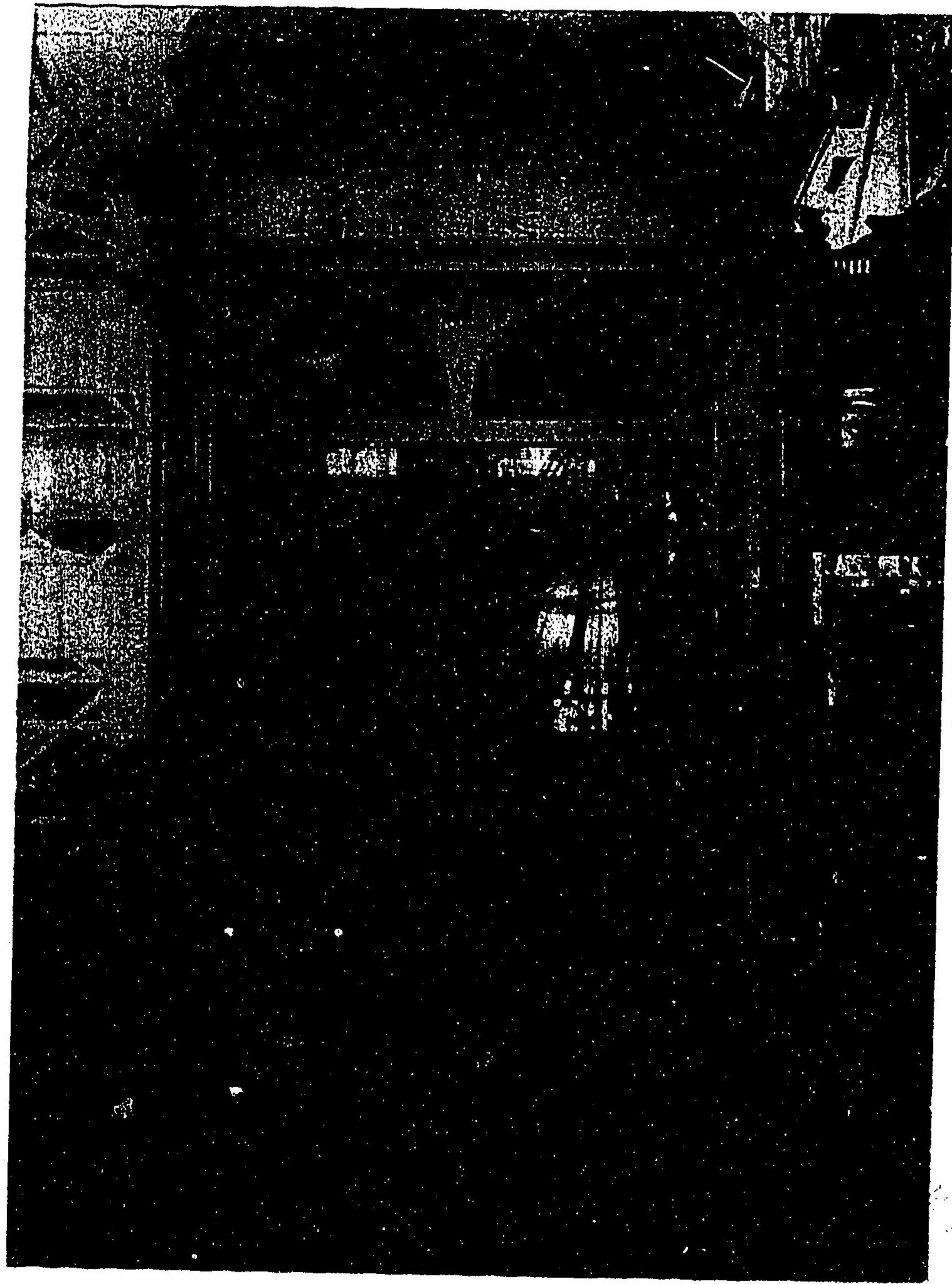
飯田新七陳列人形



三越吳服店出品四季ノ被服





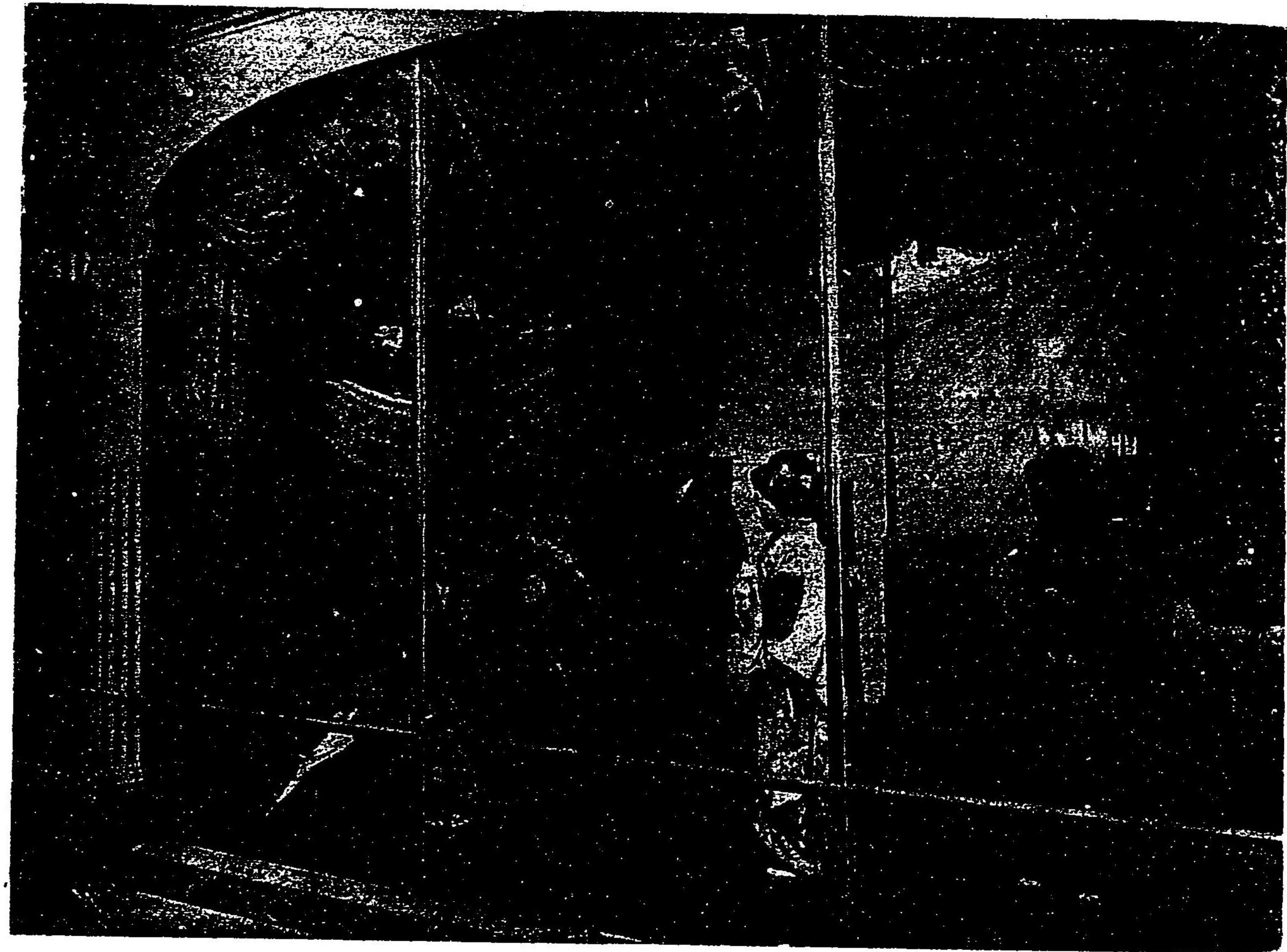


會和嘉一郎出品輸出絹織物絹綿交織物

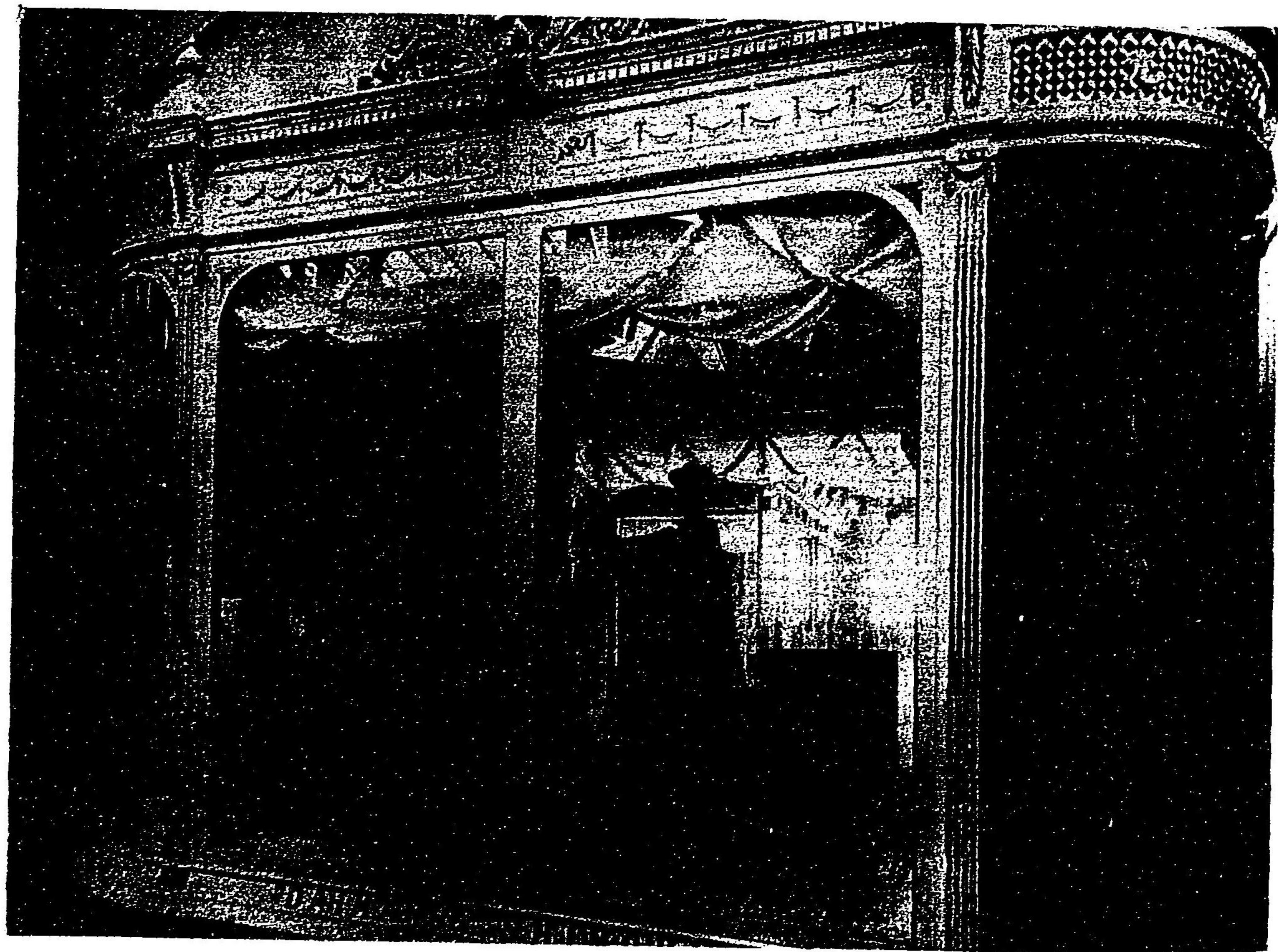


伊藤治郎左衛門出品染織物各種



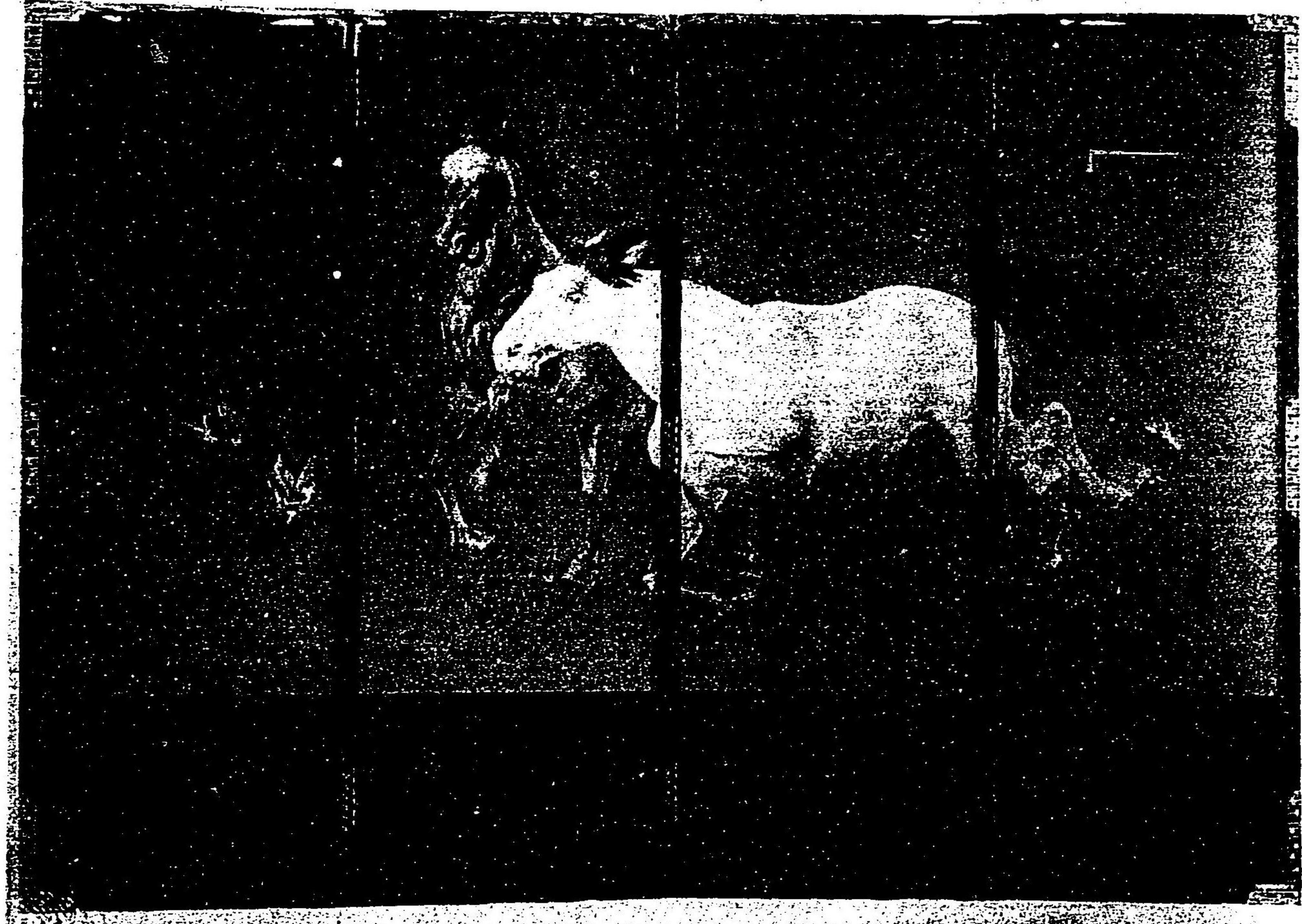


物 織 染 品 出 ( 屋 木 白 ) 郎 太 彦 村 大

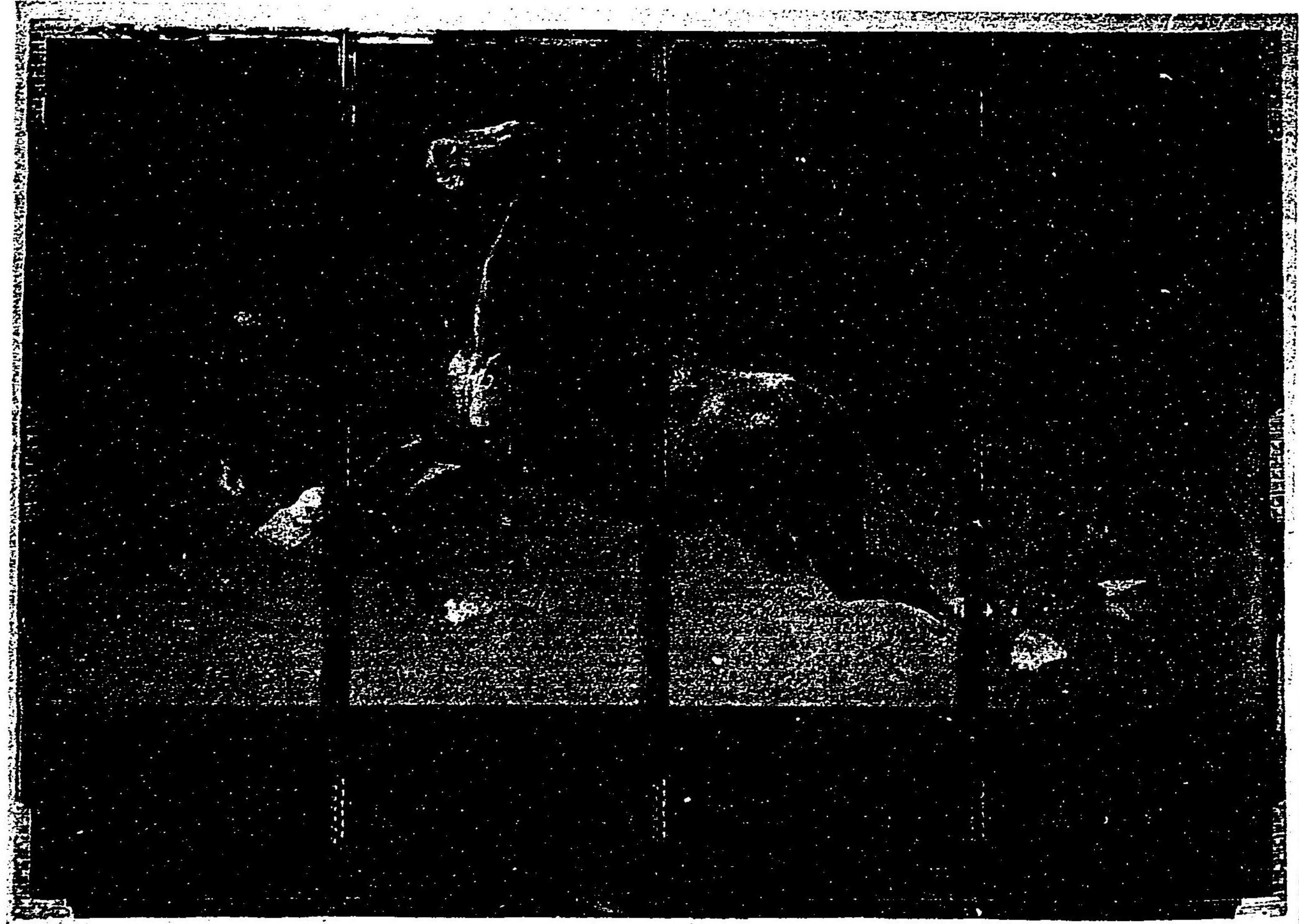


物 織 染 品 出 ( 丸 大 ) 郎 太 正 村 下





飯田新七東京店(高島屋)出品刺繡屏風







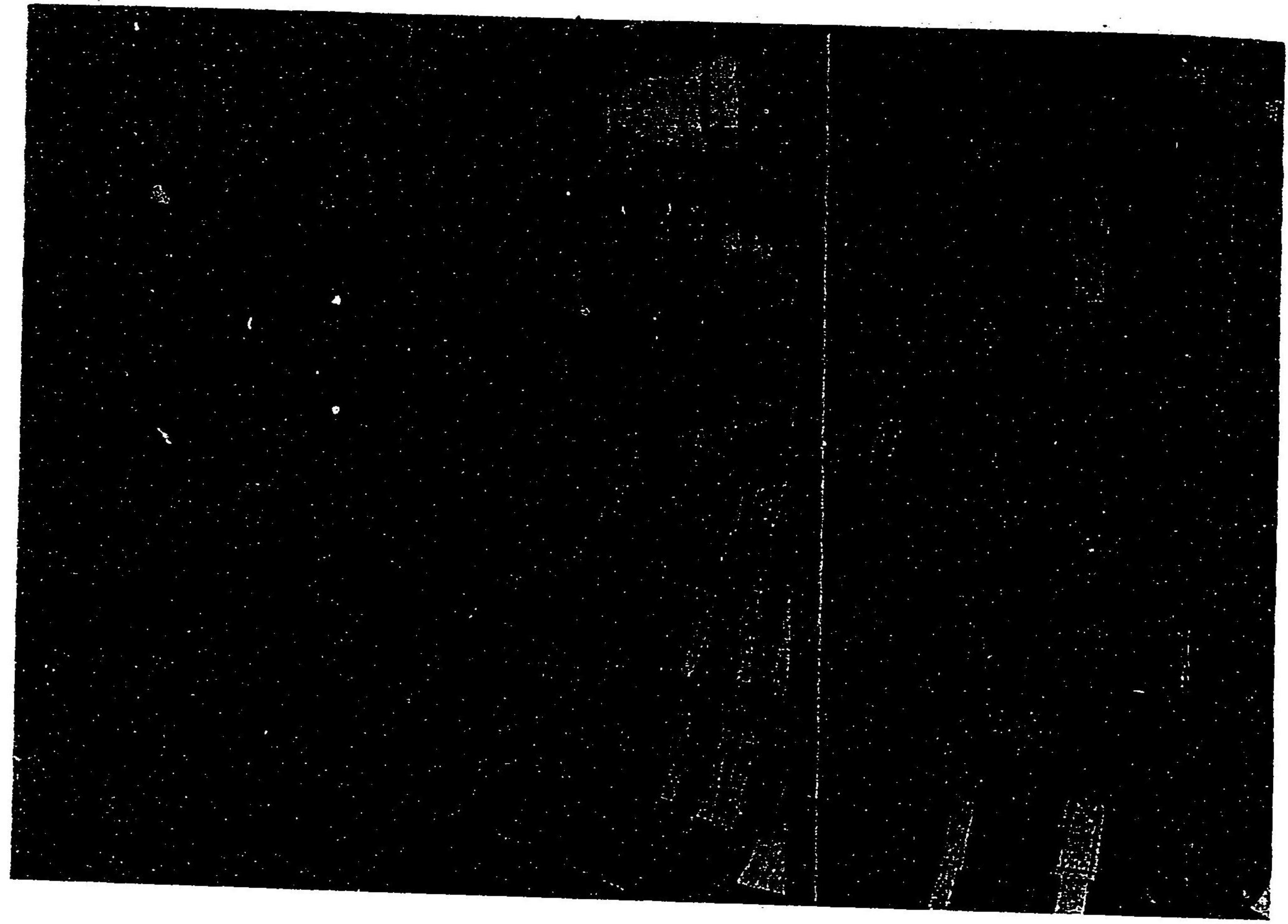
八王子織物同業組合出品絹織物



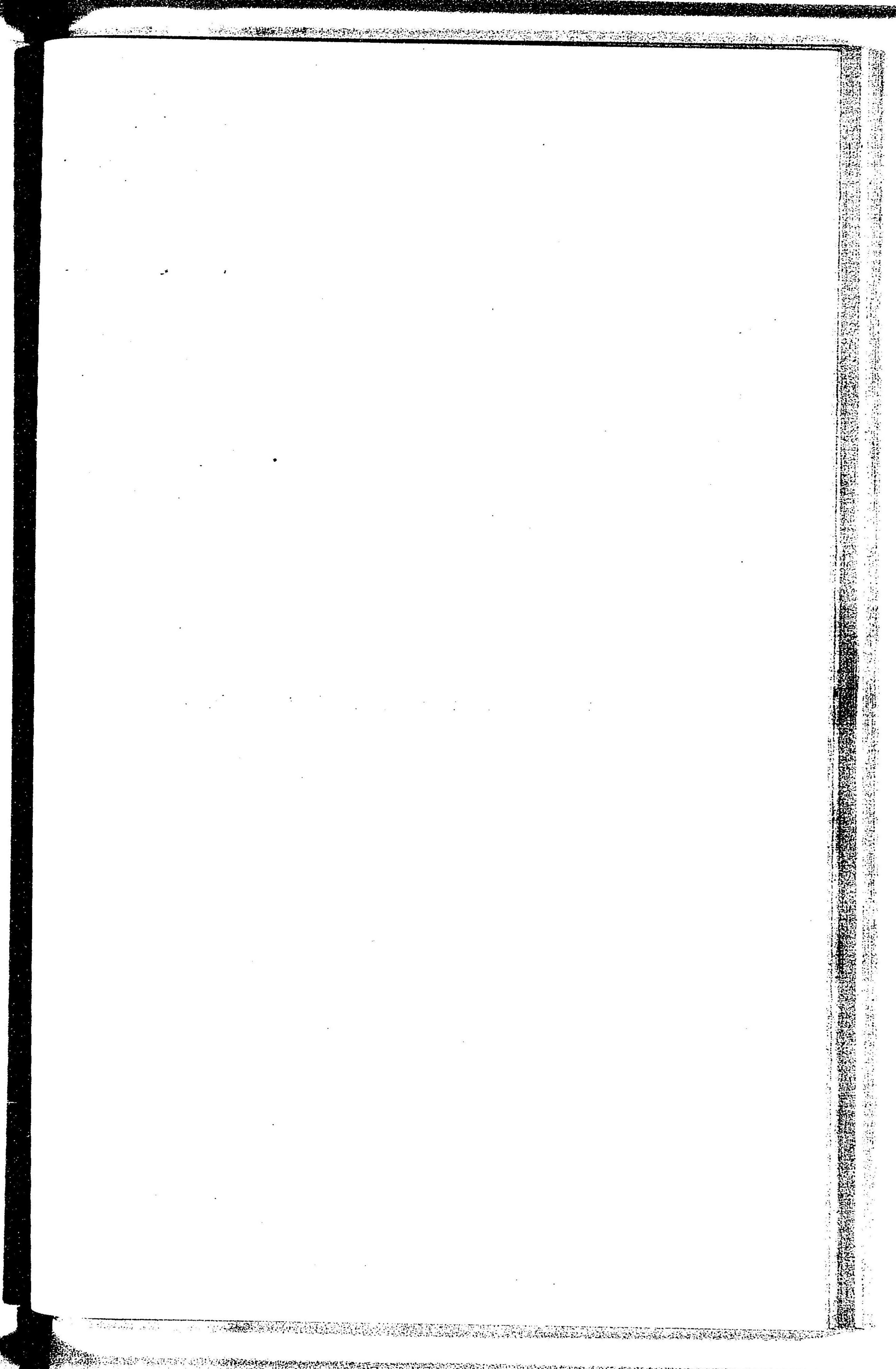
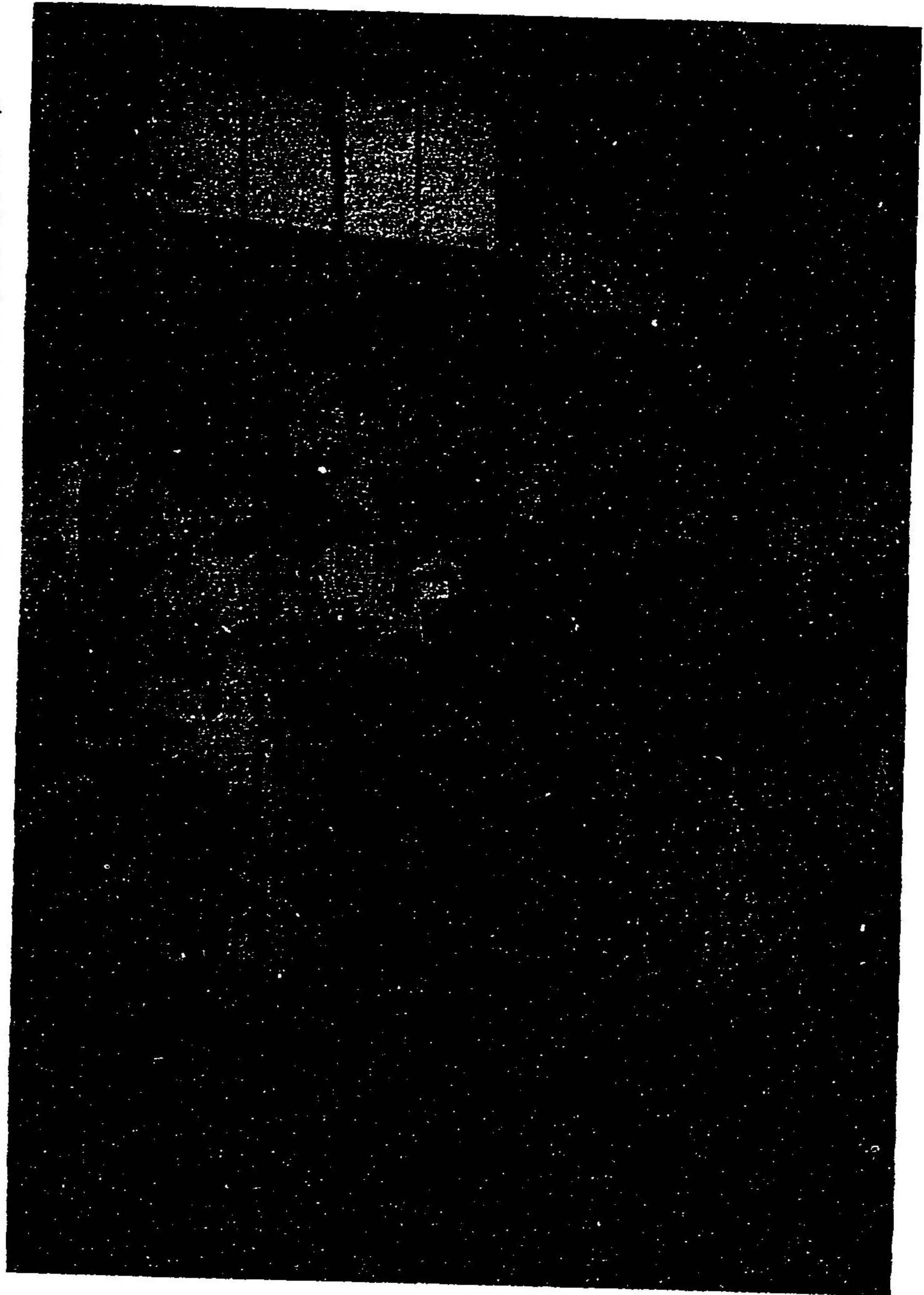
栃木縣足利織物同業組合出品染織各種物



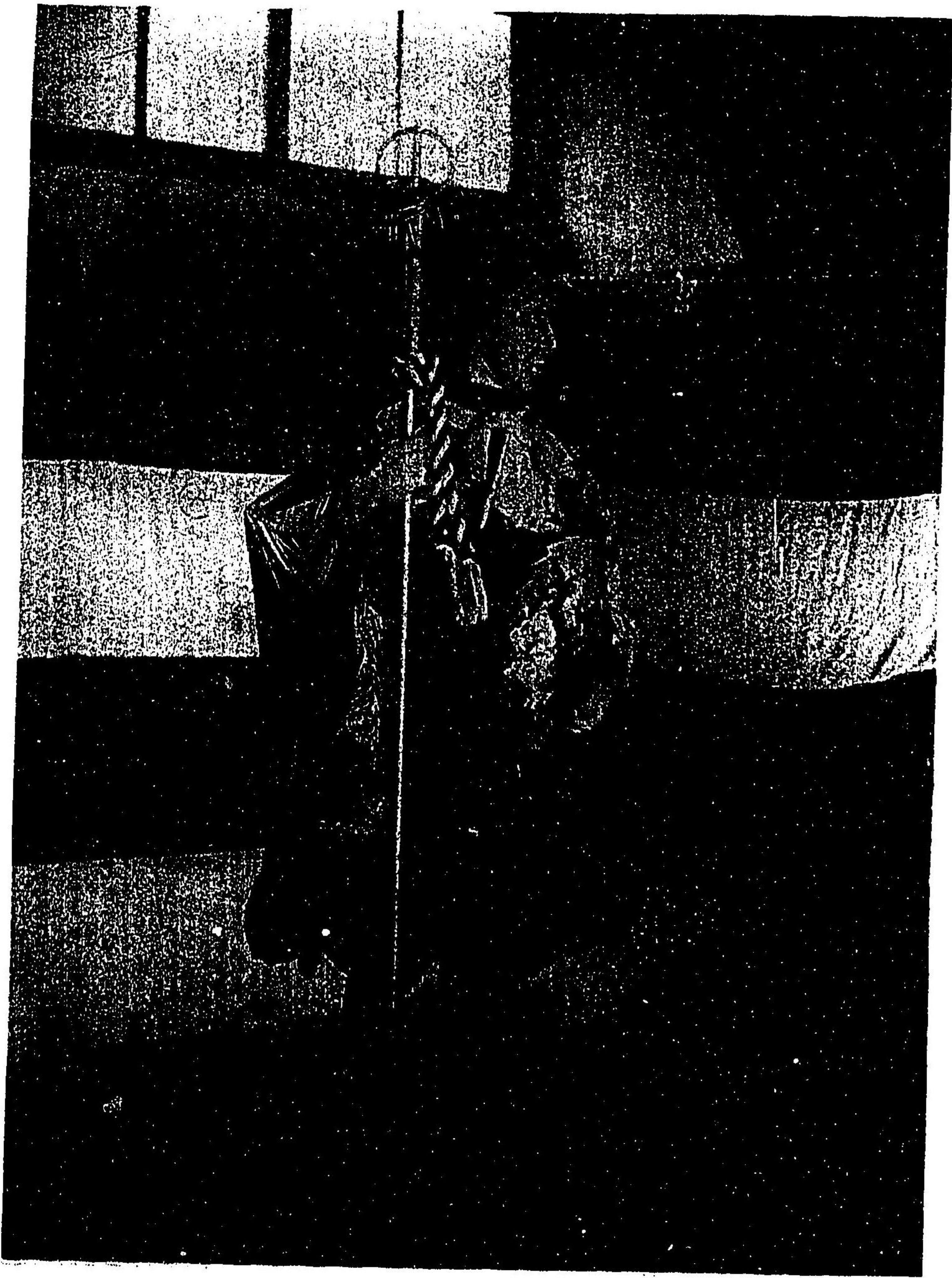
八王子織物同業組合出品絹織物



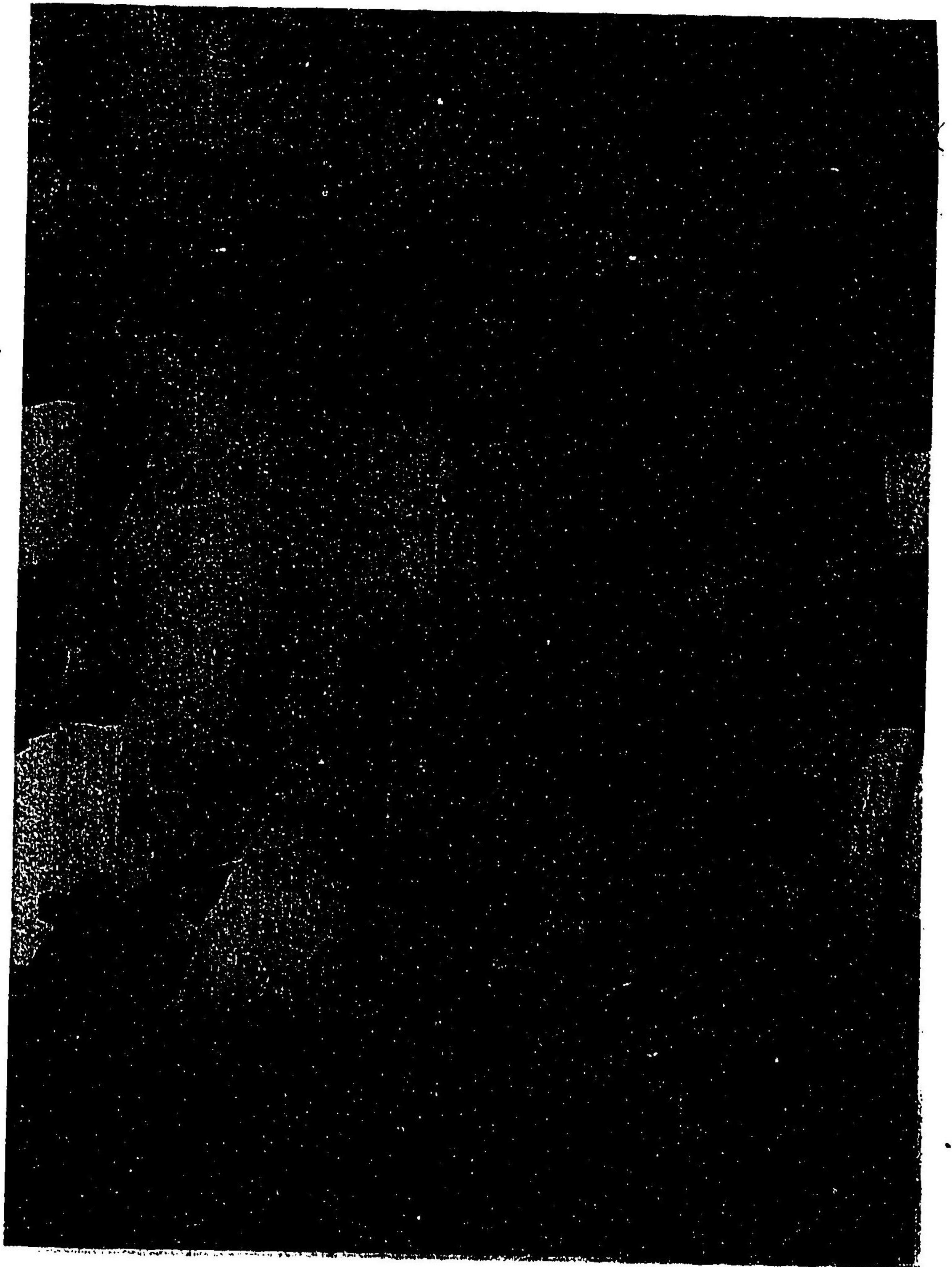
牛山武兵衛出品絹布友染







牛山武兵衛出品絹布友染







品 出 物 織 染 縣 木 柝



# 東京勸業博覽會審查報告卷八

## 高松審査部

### 第一篇 總評

報告員 審査官 山口 貴雄  
同 岡本 金一郎

本部ハ染織、刺繡ヨリ其原料、工程器具等ニ至ルマテ纖維工業ニ關スル全般ノ品種ヲ網羅シ博覽會中最モ重要ナル地位ヲ占ムルノミナラス、斯業近時ノ發展ハ實ニ顯著ナルモノアルヲ以テ吾人ノ期待スル所極メテ大ナルモノアリシニモ拘ラス其出品比較的少數ナルノミナラス技術上ノ手腕モ亦平生ノ力量ヲ實現セサルモノノ如キハ吾人ノ深ク遺憾トスル所ナリ蓋シ這回ノ博覽會タル當初ヨリシテ今日ノ盛舉ヲ想像シタルニハ非スシテ漸次ニ騎虎ノ勢ヲ昂進シタルモノ加フルニ出品人ノ主腦タル東京市民ハ由來出品ノ事ニ慣レズ他府縣民ハ種々ナル誤解ヨリシテ兎角氣乗セサルノ傾向アリシヲ以テ或ハ出品ノ多カルヘキニ少キカ如キ或ハ精ナルヘキニ粗ナルカ如キ往々ニシテ豫期ニ背反スルノ状態ヲ呈露スルヲ免レサリシハ望蜀ノ情ヨリシテ之ヲ謂ヘハ寔ニ千秋ノ恨事タラスンハアラス事情既ニ此ノ如シ其出品ノミニ徴シテ各地ノ特産ヲ論評スルハ衷心私カニ忍ヒサルモノナキニ非サルモ請フ姑ク勇ヲ鼓シテ主要ナル品種ニ就キテ一二ノ評語ヲ加ヘン

第百〇九類中内地向白絹類(其一)ハ生絹、斜子等ノ出品ヲ主トシ極メテ少數ノ羽二重、縮緬類等ヲ見ル埼玉縣ノ斜子及生絹ハ之ヲ從來ニ比スルニ毫モ技術ノ進歩ヲ認メス蓋シ製産組織ノ然ラシムル所カ東京府ノ八王子ハ近來需用ノ増加著キニ拘ラス其品質ニ改進ヲ見サルハ遺憾ナリ絲織類(其二)ハ東京府



及山形縣ノ出品多數ヲ占ム其品質概ネ佳良ニシテ配色意匠ノ時好ニ適スルモノ少カラズ技術進步ノ狀顯著ナリ特ニ八王子物ヲ然リトス米澤物ハ全ク之ニ反ス深ク憾ムヘシトス袖太織類其三ハ群馬縣ノ伊勢崎編最モ多數ヲ占メ埼玉縣ノ秩父編及東京府ノ節織之ニ亞ク此種ノ織物ハ需用廣大産額ノ増進著キモノナルニ之ヲ品質上ヨリ觀レハ概シテ進步ノ跡ナシ伊勢崎編ノ如キ特ニ然リトス御召風通絹上布類其四ハ群馬縣ノ桐生御召將ニ發展ノ機運ニ傾向セントシ燃絲整理ノ工程及意匠配色等ニ於テ西陣ノ製品ニ比スルモ殆ト遜色ナキニ至レルモノアルハ喜フヘシ透綾及絹上布ハ新潟縣特産ノ一ニシテ他ノ容易ニ企及シ能サル所ナルニ今回ノ出品ハ平昔ノ手腕ヲ充分ニ發揮セサルモノニハ非サルカ博多織其五ハ僅ニ東京府ノ八王子物ニ於テ進步ノ稍著キヲ見ルノミ而モ紋樣編柄ニ在リテ斬新ト稱スヘキモノナキヲ憾ム群馬縣ノ桐生博多紋樣趣味兩ナカラ佳良ナリト雖モ其進運ノ遲緩ナルハ惜ムヘシ袴地類其六ハ組織配色等時好ニ適應スヘキ出品少カラズト雖モ概シテ著キ進步ヲ認メス甲斐絹洋傘地洋服裏地類其七ハ主トシテ山梨縣ノ出品ニ係レリ甲斐絹ハ染色極メテ不完全ニシテ變色ノ患アリ且毫モ新生面ヲ開クノ跡ナキハ惜ムヘシ洋傘地及洋服裏地ハ其進步稍見ルヘシ共同的經營ニ依リテ事業ノ刷新ヲ圖ル蓋シ焦眉ノ急務ナランカ高等織物其八ニ屬スル出品トシテハ京都府産廣帶地ヲ主モナルモノトシ出品者ニシテ吳服商タル以上ハ大概此品種ヲ出品セサル者ナシト謂フモ不可ナキ有様ナリトス蓋シ觀客ヲ呼フノ手段トシテ裝飾ヲ盛ニスルコト靡然トシテ風ヲ爲シタルノ結果ニシテ特ニ綴錦ヲ選ミタルニ觀ルモ其趣旨ノ存スル所ヲ知ルヘシ而シテ是等品種ニ關スル近時ノ進歩ハ配色意匠ニ在リテ其技術上ニ採ルヘキモノ亦此範圍ヲ出テス惜ムラクハ卒爾ノ製作推敲ニ暇ナク一頭地ヲ抜クノ精妙品ニ乏シカリシコトヲ特ニ茲ニ注意スヘキハ室内裝飾用ノ織物ニシテ東京御所御用織物ノ一部ヲ斯業上ノ參考トシテ其筋ノ許可ヲ得テ出陳シタルモノ是ナリ其種類ハ金華山織琥珀地繡取織真田入小柳織等殆ト本邦ニ於テ會テ織出ササル種類ニ屬シ我機織術ノ進歩ヲ窺ヒ得テ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ輸出向白絹類其九ハ我邦國際貿易上至大ノ關係ヲ有スル品種ナルニモ拘ラ

ス出品極メテ少キノミナラス其品質ニ至リテモ二三ノ出品ヲ除クノ外ハ殆ト品騰ヲ值セス二三ノ出品トハ何ソヤ福島縣ノ羽二重京都府及群馬縣ノ薄縮緬即チ是ナリ而シテ茲ニ特筆ヲ要スルハ近年京都府富山縣及山形縣ニ起リタル絹モスリンノ事業ニシテ其品質技術等殆ト外國品ト駢馳セントスルニ至リタレトモ其價格ハ未タ歐米市場ニ輸販シ得ルノ程度ニ達セス僅ニ印度ノ需用ニ應スルニ過キサルハ惜ムヘシ輸出向柄物其十即チ「タフタ」等ノ製造ハ近時輸出ノ盛況ニ伴ヒ甚シク發達シタリト雖モ原絲ノ選擇ヲ誤リ製織宜シカラサルカ爲メ織疵又ハ汚點ヲ生スルモノアリ殊ニ整理ノ宜シキヲ得サルモノ往々ニシテ之アルヲ見ル婦人洋服地ハ意匠配色等進歩シ殆ト外國品ト逕庭ナカラントスルハ喜フヘシ「リボン」ハ需用ノ増加ニ伴ヒ漸次發展シ一年ニ其規模ヲ擴張シ設備ヲ完成セントスルノ機運ニ達シタルハ慶スヘキノ現象ナリ尙一層新組織ノ應用及柄合ノ研究ヲナシ耳ノ織製ニ注意シ整理ノ完全ヲ期スヘシ絹綿交織物其十一ノ進歩發達ハ實ニ顯著ナルモノアリ就中栃木縣ノ絹綿御召群馬縣ノ觀光繻子及後染繻子ニ於テ然ルヲ見ル白綿布類其十二ハ力織機ノ利用擴張セララルニ伴ヒ製品ハ漸次精巧トナリ産額ノ膨大ヲ來セリ三十七八年戰役ニ於テ軍需品ヲ優ニ供給スルヲ得タルニ微知スヘカラスヤ爾來滿韓地方ニ販路ヲ發展シ今ヤ羽翼ヲ南方ニ展ハサントシツツアリ然レトモ粗惡ノ原綿ヲ使用セル内地紡績絲カ輸入綿絲ニ對シテ遜色アルヲ免レサル間ハ到底本邦製白綿布ハ外品ニ一籌ヲ輸セサルヘカラサルヤ明ケシ當業者宜シク紡績業者ト提携シ奮勵一番スルヲ要ス金巾天竺、タオル、足袋底地、帆布等何レモ技術上ノ進歩ヲ認ム綿「ブレエド」ハ「バテンレース」ノ材料トシテ需用多キモノナルニ其製織ヲ開始スル者少カリシカ今回東京府ノ出品ニ之ヲ見ル深ク喜フヘシト爲ス綿「フラインネル」類其十三ハ顯著ナル進歩ノ形跡ヲ認メス殊ニ近來起毛ノ完成ニ赴クニ從ヒ地合ヲ粗ニスルノ傾ヲ生シ來リタルハ甚タ遺憾ナリ是レ製業者ノ陥リ易キ缺點ニシテ例令毛立チ佳良ニシテ地合ノ粗惡ヲ補ヒ得ルトスルモ斯ノ如キハ本業ノ爲メニ採ラサル所ナリ捺染「フランネル」ハ綿物ヲ壓シテ産出増加ノ傾向アルモ今回ノ出品中二三ノ染色不完全ニシテ見ルニ堪ヘサルモノアリキ又尺幅ノ甚タ不



整ナルモノアルハ惜シムヘシ綿緋類其十四ハ意匠ヲ施スヘキ範圍至リテ狭キカ故ニ柄合ノ斬新目ヲ驚カスヘキモノヲ見スト雖モ一般ニ染色確實トナリ組織粗雜ナラス産額亦漸次多大ノ増加ヲ來セリ需用ノ趨勢知ルヘシ而シテ染色法ノ改善セラレ工費ノ節減セラレタルハ特許發明ニ負フ所多シ綿縮類其十五ハ廣幅物ニ於テ一二優良ナル瓦斯縮及楊柳縮ヲ除クノ外何等ノ進歩ヲ呈セサルハ甚タ遺憾トスル所ナリ是レ燃絲ノ不完全ナルト整理ノ方法宜シキヲ得サルニ基因スルモノナレハ若シ之カ共同工場ヲ設ケ完全ナル器械ヲ設備シ一般ノ需用ニ應スルヲ得ハ燃絲ト整理ハ爲メニ一定セラレ隨ヒテ製品ノ改善ヲ期待スヘキナリ着尺縮ハ近來中形浴衣地ノ流行ニ壓倒セラレ産額頓ニ減少シ僅ニ中形生地トシテ餘脈ヲ存スルニ過キササルヲ以テ何等進歩ノ形跡ヲ認ムル能ハサルナリ綿雜類其十六ハ木綿綿、普通絹綿、交織物及無地物ヲ含ムカ故ニ需用範圍廣大ニ製産區域モ亦從ヒテ廣ク殆ト各府縣トモ多少ノ出品ヲ見サルコトナカリキ木綿綿ハ紡績術ノ進歩ト織成ノ發達ト相俟チテ組織佳良ニ學理ノ應用ハ染色ヲ確實好良ナラシメ意匠亦斬新是レ競ヒ一般ノ嗜好ヲ喚起スルニ足ル殊ニ二三同業組合ノ勸誘指導ハ組織ト染色ヲ確實堅牢ナラシムルニ與リテ力アラシム最モ嘉賞スヘキ事實ナリトス絲入物ハ近來頗ル進歩ノ形跡ヲ示シ價格低廉ニシテ克ク高等織物ノ觀ヲ呈セシメ得ルニ至リタルハ紡績絹絲、シルク、ト、絲及柞蠶絲等ノ用途ノ漸ク擴張セララルニ基因スト雖モ織技ノ進歩ナキニ非スハ到底此効果ヲ見ルコト能ハサリシナラン尙一層ノ注意ヲ要スルハ整理法ノ研究及其應用是ナリ青綿ニ就キテハ別ニ可否ノ點ヲ認メスト雖モ靑藍ト硫化色素トヲ併用セルモノ漸次多カラントスルハ近時ノ現象ニシテ亦已ムヲ得サルニ出ツト雖モ其染料ノ選擇ハ最モ注意ヲ要スル所トス麻織物其十七ハ帆布、マツト、ヘシアン、等亞麻又ハ「ジユート」ヲ原料トセルモノニ在リテハ近時ノ發展實ニ著キモノアリト雖モ上布其他ニ至リテハ需用ノ減退ト共ニ舊態依然タルヲ免レス毛織物其十八ハ羅紗、毛布、フラインネル、及セル等ニシテ一般ニ組織佳良染色亦堅牢ノ度ヲ加ヘ一段ノ進歩タルコト明カナリ就中セルヲ然リトス各種多様ノ地合ヲ出シ柄行ノ新規ナルモノ尠カラズ無地綿ノ羅紗及晒、モスリン等ハ其技

術ノ進歩ヲ疑ハスト雖モ製造ノ困難ナル未タ海外品ニ對シテ遜色ナシト云フヲ得ス段通其他敷物類其十九ハ段通及由多加織ヲ主トス段通ハ一二出品ヲ除クノ外意匠配色概シテ不良ニシテ僅ニ舊套ヲ因襲スルニ過キス由多加織ハ染色上ニ一段ノ研究ヲ重ヌルコトヲ要ス臺灣及韓國ノ出品ニ係ル染織物其二十及其二十一ハ多クハ粗雜ニシテ内地製品ト比較スヘクモアラスト雖モ彼地現時ノ狀態ヲ以テスレハ亦已ムヲ得サル所ナランカ

第百十類出品中特筆ヲ要スヘキ事項ハ機械ヲ用キテ染色及仕上ヲナシタルモノヲ多ク見ルニ至リタルコト是ナリ當業者カ多量ノモノ又ハ重目ノ織物ヲ染色スルニハ從來ノ如ク人力ノミニ依リテ能ク之ヲ爲シ能ハサルヲ悟リタルニ原クト雖モ又一ニハ三十七八年戰役ノ影響ニシテ同役ニ要シタル軍用品製作ノ爲メ急速機械ノ設備ヲ爲セシモノ多キニ依ルモノトス捺染機ヲ用キテ染色シタル中形白緋、緋緋、更紗、綿、ネル等ノ出品ハ何レモ優良ノモノニシテ將來此種ノ業ハ益、發達スヘキモノナルコトヲ示セリ又媒染劑、拔染劑等ヲ巧ニ應用シテ作りタル形染物數種アリ此等ハ當業者間ニ學理ノ智識カ普及シタルヲ示スモノニシテ亦喜フヘキ現象ナリトス友禪類其一ハ意匠及配色ニ於テ斬新奇拔ナルモノヲ認ムト雖モ染色上ノ技術ニ至リテハ著キ進歩ノ跡ヲ見ス尙地入染料ノ選擇、染法仕上等ニ於テ改良スヘキ餘地アラシカ半襟ハ意匠及技術ニ於テ見ルヘキモノ少カラスト雖モ此種ノモノトシテハ價格貴キニ過クルノ感アルモノアリ無地染其二ハ概シテ進歩ノ形跡ヲ認ム就中綿布無地染ニ在リテハ「カーキ」色染及清國向、シーチング等ハ染色堅牢ニシテ仕上亦宜シキヲ得タリ絹布無地染ハ單ニ外觀ノ美ヲ競ヒ染色堅牢ノモノナキハ遺憾トスル所ナリ將來染料ノ選擇及應用法ニ就キテ改良スヘキ餘地少カラス紋附ハ一二佳品アリシモ概シテ進歩ノ形跡ヲ認メス形附類其三ハ中形ハ意匠技術共ニ進歩セルヲ認ムレトモ流行ノ色相ヲ得シカ爲メニ不堅牢ナル染色ヲ爲スモノアルハ遺憾ナリ捺染機械ニ依リテ製造セシ緋類等ニハ一見シテ織方ニ依リテ作りタルモノト識別シ難キ精巧品アリ而シテ其價ハ緋緋ノ半額以下ナリ故ニ此種ノモノハ將來織緋ヲ壓倒スルニ至ランカ綿織物ニ捺染ヲ施スカ如



キ機織法ト捺染法ト併用セル出品數種アリタリ更紗ニハ佳良ナル出品ナキニ非サレトモ多クハ染色不堅牢ニシテ尙改良ノ餘地アリ小紋手拭地風呂敷等ノ出品ニハ改良進步セルモノナシ縹類(其四)ハ紺及紅紋共ニ進步ノ跡ヲ認メス絲好及羽二重絞ニハ稍稱揚スヘキモノアルモ用途未タ多キニ至ラズ染絲類(其五)ハ出品僅少ニシテ特ニ評説ヲ加フルノ要ヲ認メス

第百十一類中刺繡(其一)ハ其出品僅少ナルノミナラス一ニノモノヲ除キテハ何レモ尋常一様ニシテ蔚然傑出スルノ佳品ヲ見ス蓋シ本品ハ所謂世界的商品ニシテ奇想天來スレハ價值測リ知ルヘカラス切ニ斯技ノ進境ヲ望ム手巾類(其二)ハ刺繡ヲ施シタルモノ多數ヲ占メ而モ一二ノ出品ヲ除キテハ配色意匠等進境ヲ認ムル能ハサルヲ遺憾トス又捺染ヲ應用シタルモノナキニ非サルモ染色不良ニシテ洗滌ニ耐ヘサルモノ比々皆是ナリ深ク惜ムヘシト爲ス

第百十二類中生絲(其一)ハ主トシテ東京府ノ出品ニ係リ其地ノ府縣ノ製産ニ屬スルモノ少カリシハ遺憾ナリキ而シテ肉眼検査ニ於テ色澤感觸其他品質ノ大ニ見ルヘキモノアリシカ又甚タ區々ナルモノ即チ色白キモ澤少ク或ハ黝色ヲ帶ヒ或ハ粗硬ニ失スルモノアリ束絲ハ其方法同様ナレトモ精巧ナラス絡交ハ概シテ佳ナルモ梓角附着ノ度ヲ失ヒ緒留ハ輪掛多ク力絲ノ如キハ頗ル不同ニシテ之ニ使用スル綿絲ハ太ク且數種アリ器械検査ニ於テハ再繰、織度、類節、強力及伸度ノ成績ハ概シテ良好ナリ要スルニ製絲家ハ各自其業務ヲ擴張シ産額ヲ増加シ之ヲ數年前ニ比スレハ大ニ進歩セルモノト謂フヘシ然レトモ其製品ニ關シテハ之カ一定ノ方法即チ原料ノ選擇、繰絲ノ整理、特ニ其検査ノ方法等ニ注意ヲ要スルモノ尙多クアリトス當業者宜シク始終市場ノ實況ニ鑑ミ之カ改善ヲ實施センコト最モ緊要ノ事ナリトス絹撚絲(其二)ノ出品ハ東京及群馬ノ一府一縣ノミニシテ其他ノ府縣ニ於ケル精良撚絲ノ出品ナカリシハ眞ニ遺憾ナリトス而シテ僅少ナル器械製ノモノアリシモ多クハ八丁撚ト稱スル舊式ノ製法ニ係ルモノナリトス何レモ其品質上見ルヘキモノナキニ非サルモ概ネ普通ニシテ彼是ノ評言ヲ要セス近時東京府下八王子地方ニ於テ佛國式器械撚絲工場ヲ設ケ優良ナル撚絲製造ニ着手

シタルハ同地方織物業者ノ爲メニ至大ノ便利ヲ與ヘタルモノニシテ美舉ト謂フヘシ直縹(其三)ハ出品僅少ニシテ原質製作亦共ニ普通ナリトス綿絲其他絲綿(其四)中紡績絲及紡績麻絲ハ稍進歩ノ實績ヲ認ムト雖モ綿紡績絲ニ至リテハ近時或ハ品位ヲ墜セシニ非サルヤノ感アルハ遺憾トスル所ナリ即チ絲條ノ均一ナラサルト撚度ノ不揃ナル等ハ機業家ノ常ニ訴フル所ニシテ特ニ力織機ノ利用ニ作フテ一層精良ノ原絲ヲ必要トスルハ言フ俟タサル所ナルヲ以テ當業者宜シク原綿ノ選擇ト其混合ニ注意シ精絲ヲ紡出スルコトヲ圖ルヘシ然レトモ各種紡績ノ事業ハ何レモ其前途ヲ慮リ小工場分立ノ不利ヲ認メ規模ヲ擴張シ設備ヲ完成スルカ如キ其經營時宜ニ適スルノ一事ハ大ニ嘉スヘキナリ其他ノ雜絲ニ在リテハ刺繡絲、ミシン絲等ヲ除クノ外ハ舊態依然タルノ感アリ撚班及染色ノ完全ヲ圖リ原料ノ配合ニ注意シ動力利用ノ途ヲ擴メ規模ヲ擴張シ製品ヲ一定スルコトヲ勉ムヘシ

第百十三類晒白精練其他工程ニ屬スル諸品トシテハ神奈川縣ノ羽二重精練ヲ主ナルモノトス精練整理ノ方法宜シキニ適スルヲ認ム綿布綿絲ノ漂白ハ色澤ニ於テ缺クル所アリ一段ノ研究ヲ望マサルヲ得ス獸皮、羽毛、諸織物等ノ洗濯色上ケニ關スル出品ハ僅ニ之ヲ兵庫縣ノ出品ニ見ル其技術未タ精妙ト爲スヘカラサルモ將來着手ヘキ有望ナル事業ノ一タルヲ疑ハス

第百十四類製造ニ關スル方法、器具、裝置、標本等ニ屬スル出品ノ主ナルモノハ杼、綜、統、綜、統、小間、型紙、箆等ニシテ仔細ニ點檢スレハ缺點ノ指摘スヘキモノナキニ非サルモ近時此種ノ製作業専門的ニ興起シタルノ結果歩一步ヲ進メ來ルコトハ固ヨリ明カナリ

高松部出品並ニ授賞統計表

品 種	出品點數	出品人員	授賞人員	名譽賞	一等賞	二等賞	三等賞	褒 狀
百〇九類 其一	二八九	二〇五	六二	金 牌	一	六	一八	三七
其二	一、四三三	二九九	一一四	銀 牌	一	一〇	二〇	四六
								四七







百十二類	1	3	10	9	148
百十三類	1	1	1	8	31
百十四類	1	1	1	4	7
計	4	11	5	21	72
合計	4	18	24	47	145

第二篇 織物

第一章 内地向白絹類

報告員 審査官 山田 三郎

此類ニ屬スル出品ハ斜子、絹紗、平羽二重、絞羽二重、鹽瀬、綾、綸子、八ッ橋織、市樂織、平絹、節絹、紬、太織、山繭織等ノ多種ニ涉レリト雖モ東京府ノ斜子、埼玉縣ノ斜子及裏地生絹、群馬縣ノ絹ヲ除キテハ其出品數量極メテ鮮少ニシテ寂々寥々只僅ニ標本的ニ出陳セラレテ他ノ柄物ノ間ヲ點綴スルニ過キサリシヲ以テ内地向白絹ノ現時ニ於ケル實力ヲ窺知スルコトヲ得サルハ頗ル遺憾トスル所ナリキ抑、今次ノ博覽會カ名ハ單ニ一東京府ノ博覽會ニ過キスト雖モ其規模宏大其内容亦廣ク全國各府縣ノ出品ヲ促シ盛觀敢テ内國勸業博覽會ニ讓ラサルヘシトノ聲ハ夙ニ全國ニ反響セシ所ナルヲ以テ各府縣ニ於ケル商業者カ自家ノ商品ト製産品トヲ世上ニ紹介スルノ好機會ナリシハ言ヲ俟タサルヘケレハ吾人ハ本類ノ出品蓋シ亦盛況ヲ極ムルナラント豫期シタリキ而モ出品狀態カ前述ノ如ク單ニ標本的ナリシハ寧ロ意外トスル所ニシテ吾人ヲシテ充分ナル評議ヲ試ムルニ由ナキヲ憾トス其原因蓋シ諸種ノ事情ノ伏在セシニ依ルナルヘシト雖モ吾人ハ全國各府縣ノ商工業者カ自己ノ商品ト製品トヲ世間ニ紹介スルニ於テ餘リニ吝ナリシヲ深ク惜マサルヲ得サルナリ

斜子類 東京、埼玉、岐阜、長野、福島ノ一府四縣ヨリ出品セリ就中東京府及埼玉縣ノ出品其大部分ヲ占メ他ハ僅ニ一二點ヲ算スルニ過キスシテ所謂標本的出品ニ屬ス東京府及埼玉縣ノ練斜子ハ共ニ原料ノ

選擇宜シキヲ得織方叮嚀、組織整齊、精練亦佳良ニシテ今次出品ノ内地向白絹類中ニ於テ確ニ一異彩ヲ放テリ只糊料ヲ用フルコト適當ナラス往々色澤ノ沈ムモノアルハ惜ムヘシ長野縣出品ノ練斜子亦優良ノ品タルヲ失ハサレトモ糊料ヲ用フルノ過度ナルヲ覺ユ其他ノ出品ハ遠ク及ハス概スルニ斜子トシテ毎次ノ共進會博覽會等ニ出陳セラレタルニ比シ技術上甚シキ進步ヲ認ムル能ハサルハ蓋シ白地織物トシテ已ムヲ得サルモノアラシク

絹及紗類 東京、群馬、埼玉、新潟、熊本、神奈川等諸府縣ノ出品ニ係レリ群馬縣ノ生絹ハ流石ニ本場トシテ知ラルル丈ケアリテ原料最モ適當ニシテ製織ノ技優逸觀ルヘキモノアリ然レトモ元來同縣製産ノ生絹ハ製織ノ際糊料白蠟等ヲ施スコト巧ナルカ故ニ生織ノ儘ニテハ布面ノ平滑組織ノ緊密大ニ品質ノ美ヲ飾レルモ一旦之ヲ精練スルトキハ甚シキ目減リヲ生シ需用者ヲシテ大ニ失望セシムルノ缺點ハ從來ノ共進會博覽會等ノ審査ニ於テ屢、指摘シテ注意ヲ促シタル所アルニ拘ラス今回ノ出品亦其弊ヲ絶テサルモノアリ徒ニ巧ヲ弄スルニ專ナルトキハ如何ニ特殊ノ原料ト製織ノ巧トヲ以テスルモ永ク聲價ヲ維持スルコト難キニ非スヤ出品中又非常ニ重目物アリシカ絹ノ特質上ヨリ觀ルトキハ適用ヲ誤リタルモノニシテ需用上價值少キモノナレハ稱揚スヘキノコトニ非ス其他ノ諸府縣ノ出品ハ少數ナルヲ以テ之カ批評ヲ略ス

綾絹類 東京府、宮城、秋田、岐阜、群馬、福島諸縣ノ出品ニ係レリ八ッ橋織、市樂織等稍、佳良ノ品質ナキニ非サレトモ出品極メテ少數ニシテ此種織物ノ實力ヲ發揮シタルモノニ非ス

紬、太織類 廣島縣及東京府ノ山繭織、岐阜、山形、長野、富山、福島諸縣ノ白紬等ヲ重ナルモシトス山形縣ノ長井紬、長野縣ノ上田紬ハ原料組織共ニ佳良ニシテ市販品ニハ容易ニ見ルヲ得サル品質ナリシカ價格ノ不廉ナルヲ覺エタリ概シテ此種類モ亦出品少數ニシテ評議ニ値スルモノ多カラス

生絹類 東京府、埼玉、群馬、福島、諸縣ノ出品ニ係レリ埼玉縣ノ出品最多ニシテ概シテ原料ノ選擇宜シキヲ得經緯ノ權衡亦適當製織ノ巧能ク布面ノ整齊ヲ得テ染絹裏地用トシテハ蓋シ適良ノ品タルヲ失ハ



ス只其耳拵ノ依然トシテ舊態ヲ改メス耳絲ニ粗惡ノ原料ヲ用キ爲メニ商品トシテノ價值ヲ失墜セシムルコト多キノミナラス使用上ノ障害ヲ顧ミサルモノアルヲ見ル宜シク改善スヘシ價格亦往々不廉ニ失スルノ感ナキ能ハサルモノアリ深ク考察スルヲ要ス福島縣ノ平絹節絹群馬縣高崎ノ生絹等共ニ出品少カリシヲ惜ム

縮緬類 東京府滋賀岐阜群馬三縣ノ出品ニ係レリ即チ東京府ノ出品中八王子町ノ製産ニ係ルモノ一ニテ除キテハ悉ク丹後長濱岐阜地方ノ製産品ナルヲ以テ一見縮緬主産地ノ製品ヲ網羅シタルカ如キモ出品點數寥寥トシテ單ニ三主産地ニ於ケル縮緬織物ノ各種ニ涉リテ標本的ニ出品シタルニ過キサルヲ以テ此種類ニ向ヒテ能ク適切ナル評議ヲ試ムル能ハサルヲ憾ム出品中平地物ニ於テハ經緯ノ權衡ヲ得タル皺起ノ稍整齊ナル精練仕上ケノ適良ナル布地ノ柔軟宜シキヲ得タル優逸ノ品質ヲ見ルト雖モ紋縮緬ノ至リテハ柄樣舊套ヲ脱セス一般ニ皺縮物トシテ從來ニ比シ著キ進歩ヲ認メス特ニ緯撚ニ於テ些ノ力ヲ致シタルノ跡ナク往々皺起ノ不均一ニ基ク布面ノ整齊ヲ缺クモノアルヲ見ルハ畢竟在來ノ不完全ナル撚車ニヨリテ一ニ作業當事者ノ必然ヲ期スヘカラサル熟練ニノミ信賴シテ深ク思フ茲ニ致ササルニ因ルノ缺點ナリト謂フヘシ緯絲ノ撚度カ皺縮織物ノ品位ヲ左右スルニ多大ノ關係ヲ有スルヲ思ハハ奮勵一番完全ナル器械ニヨリテ完全ナル撚絲作業ヲナスノ研究ハ皺縮物製織業者ノ當面ノ急務ナラスヤ

繪絹類 東京府及岐阜縣ノ出品ニ係レリ東京府ノ出品亦岐阜製産ノモノニシテ通シテ僅少ノ出品ニ過キサルモ然カモ原料適良ニシテ組織ノ整齊ナルハ勿論製織ノ技倆大ニ見ルヘク其原料ニ施シタル糊料ノ殊ニ適當ナルヲ覺エタリ勉メテ已マスンハ京都産ノ墨ヲ摩スルニ至ランカ

羽二重類 東京新潟長野福島岐阜群馬ノ出品ニ係レリ別ニ優良ノ出品ナキヲ以テ敢テ論評スルノ値ナシト雖モ輓近羽二重ノ需用ハ日ニ月ニ増加シ其友禪染ノ工ヲ施シタルモノノ如キハ着尺ニ帶地ニ世上ノ歡迎スル所トナリ從來縮緬カ占有セル用途ハ爲メニ其一角ヲ失ヒタルノ感ナキ能ハサルノ盛

況ナレハ其素地ノ出品ハ蓋シ必ス多カラサルヘカラサル筈ナルニ寥々トシテ振ハサリシハ吾人ノ大ニ失望セシ所ナリ

内地向白絹類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一〇八	六六			二	三	七		一二	〇、一八	
神奈川縣	二	一							一	〇、五〇	
新潟縣	五	四							二	〇、三五	
埼玉縣	八九	七七			一	五	一〇		二七	〇、三九	
群馬縣	四〇	二三			二	三	四		九	〇、三九	
栃木縣	一	一							一	一、〇〇	
滋賀縣	六	四			一				三	〇、七五	
岐阜縣	一八	一二				一	三		四	〇、三三	
長野縣	五	五				二			二	〇、四〇	
宮城縣	二	一							一	一、〇〇	
福島縣	六	五							一	〇、五〇	
秋田縣	二	二							一	〇、五〇	
山形縣	一	一									
富山縣	一	一									
廣島縣	一	一									
熊本縣	二	一									
計	二八九	二〇五	一	六	一八	三七			六二	〇、三一	

第二章 絲織類

其一

報告員 審査官 早崎龜壽



本類ノ出品ハ東京、大阪、神奈川、長野、群馬、山形、秋田、廣島ノ二府六縣ニ涉リ其出品數比較的尠シト謂フヘ

一五二

カラサルモ多クハ東京、山形一府一縣ノ出品ニ係レリ東京府八王子物ハ技術進步ノ狀顯著ナルモノアリ之ニ反シテ山形縣米澤物ニ於テハ更ニ發達ノ跡ヲ認メサルヲ遺憾トス其他ハ少數ノ出品ニ過キス從ヒテ觀ルニ足ルヘキモノ尠シ

東京府 本府ハ本博覽會ノ開催地タリシ爲メ出品多數ニシテ本類ノ大部分ハ八王子物ナリトス今之カ種類ヲ擧クレハ手絲織、諸絲織、綾絲織、壁御召、コート地、縞縞、黒八丈及黃八丈等ニシテ品質佳良、色合、模様等時好ニ適シタルモノ尠カラズ近年ニ於ケル技術進步ノ狀實ニ顯著ナリト謂フヘシ殊ニ材料ノ選擇ニ於テ比較的低廉ナル絹紡績絲ヲ利用シ新ナル組織ノ結合及縞ノ組織ヲ適用シテ一種ノ地風ヲ作リ撚絲ノ改良ヲ行ヒテ撚度ノ整正ヲ計リ壁撚及撚搦ノ應用最モ巧ナリ加フルニ仕上ノ技術進步シ一新面目ヲ施セルノ觀アルハ賞スルニ餘リアリ今其最モ顯著ナルモノニ就キテ批評スレハ或ハ品質佳良ニシテ柄合ハ能ク世人ノ嗜好ニ適シ向上的精神ヲ遺憾ナク出品物ノ上ニ表示シタルアリ或ハ材料ノ使用製織ノ方法巧ニシテ配色意匠等斬新優雅、仕上ノ方法亦適良ナルアリ大體ニ於テ大ニ稱揚スルニ足ル若シ夫レ當業者相誠メ粗製濫造ニ流ルルナク刻苦勵精現今ノ趨勢ヲ持續シ更ニ研鑽ノ功ヲ積マハ將來ノ發達期シテ待ツヘナリ惜ムラクハ猶未タ染色ニ於テ染料ノ選擇宜シキヲ得ス色合堅牢ナラサルモノアリ改善ヲ要ス彼ノ精練セサル絹絲ノ煮附染法ヲ行フカ如キハ絲質ヲ害スルコト甚シク實驗ノ結果ニ依レハ染色ヲ終レル儘ニテ既ニ絹絲ノ強伸力ヲ減スルコト二割ニ及ヒ一ケ年ニテ四割ニ及フモノアリ漫ニ價格ノ廉ヲ競ヒ不知不識ノ間ニ信用地ニ落チ販路杜絶スルノ窮境ニ陥ラザランコトヲ豫防スルヲ要ス謹ムヘキハ工業家ノ粗製濫造ニ在リ當業者深ク誠ムル所ナカルヘケンヤ黒八丈ハ西多摩郡五日市附近ヨリ製産スル一種特有ノ物産ナルカ遺憾ナカラ些ノ改良進步ノ跡ヲ認メス過度ノ増量ヲ行ヒ絲質ヲ脆弱ナラシムルコト甚シク今ヤ全ク同織物ハ社會ヨリ忘レラレントスルニ至レリ是レ「シルケット」又ハ綿黒八丈ナトノ廉價ナル競争品ノ出テタルニ依ルヘシト雖モ品質其者

ノ粗惡ナルコト亦主因タラスンハアラス當業者宜シク改善ノ道ヲ講シ名聲ヲ恢復センコトヲ要ス黃八丈ハ主トシテ八丈島特有ノ物産ニシテ愛スヘキ趣味ニ乏シカラスト雖モ其產額一ケ年僅ニ二三萬圓ニ過キス殆ト論スルニ足ルモノナシ

終ニ臨ミテ一言スヘキモノアリ抑、八王子ハ關東有數ノ機業地タルニモ拘ラス婦人用高等着尺地トシテハ二三ノ出品ヲ見シニ過キス京都、桐生等ニ倣ヒ御召類ノ生産ヲ圖ルノ可ナルヲ信ス又男女夏物用トシテノ種類甚タ乏シキカ如シ撚絲ノ改良ト相俟チテ細絲ノ使用ヲ圖リ毛絲ノ應用ヲ試ムル等新機軸ヲ出シ一種夏期用着尺地ヲ製出スヘキノ要アルコトヲ同地ニ向ヒテ勸告ス

神奈川縣 本縣ノ出品ハ津久井郡ヨリ生産スルモノニシテ八王子絲織ヲ摸シテ未タ全カラサルモノ評スルニ足ラス

群馬縣 本縣出品ノ主ナルモノハ桐生物ナルカ絹織物製造ヲ以テ有名ナルニ拘ラス其出品甚タ僅少ニシテ或一二ノ配色適良ニシテ地風趣味共佳良稍、一異彩ヲ放テルモノノ外概シテ進步セリト認ムヘキ優品ヲ見サルハ遺憾ナリ大體此少數ノ出品ヲ以テ桐生絲織類ノ眞價ヲ評スヘカラサルヤ言フ迄モナシ山形縣 米津ノ出品多數ヲ占メ品種ノ主ナルモノハ絲織、地紋、綾織、刺子及壁絲織等ニシテ品位一定シ一種特別ノ風合ヲ有シ中ニハ品質佳良價格恰當ニシテ社會ノ需用ニ適シ見ルヘキモノ尠カラズ然レトモ本縣今回ノ出品ハ數年來殆ト進步ノ跡ヲ認ムル能ハス原料ノ選擇宜シキヲ得ス撚絲ノ方法拙劣ニシテ撚度整齊ナラス殊ニ撚搦ノ如キ見ルニ足ルヘキモノナシ色染ノ方法ヲ誤リ過度ノ増量ヨリシテ絲質ヲ害シ絹味ヲ損シテ一種ノ鳴リヲ與ヘ仕上ノ工程不完全ニシテ殆ト織落シノ儘ニ非サルヤノ觀アリ改善ヲ要ス特ニ配色柄行ニ至リテハ斬新ノ點ヲ認ムルヲ得ス模様時好ニ適セサルモノ多シ是レ主トシテ販路ヲ關西ニ求ムルニ歸因スル所アルヘシト雖モ社會流行ノ趨勢ヲ洞察スルノ足ラサルニ由ラスンハアラス當業者ノ反省ヲ請ハサルヲ得ス說ヲ爲ス者アリ曰ク今回ノ出品ハ單ニ普通ノ市販品ヲ其儘參考トシテ出陳シタルニ止マリ特ニ意ヲ用キタルモノニ非ス從ヒテ光彩人目ヲ驚カスニ



足ルモノナシト或ハ然ラン果シテ然ラハ所謂博覽會出品物ナル際物ニ非スシテ真正ニ平素ノ品位ヲ代表セル理想的博覽會出品物ト謂フヘシ何ソ際物ヲ出品シテ人目ヲ驚スノ必要アラシヤ要ハ社會進運ノ大勢ニ伴ヒ年次發達センコトヲ期スルノミ望ムラクハ當業者タル者奮勵一番原絲ノ選擇撚絲ノ改良組織及配色ノ研究竝ニ仕上ノ方法ニ於テ大ニ改善アラシコトヲ以上ノ外秋田縣ノ秋田八丈長野縣ノ上田縞等二三出品ニ過キス又其産額尠少ニシテ更ニ進歩發達ノ跡ヲ認メス

其二

報告員 審査官 關本幸次郎

吾人ハ先ツ茲ニ山形縣ノ米澤物(絲織地紋綾御召綾絳袴地博多羽二重タフタ)ニ關シテ一言セントス抑米澤ハ鷹山公時代ヨリ絲織ノ產地トシテ世ニ知ラレ明治二十五年創メテ同業組合ヲ設ケ爾來規約ノ勵行時弊ノ矯正ニ努メタル結果織物ノ品位ヲ高メ遂ニ八王子ト相對シ絲織產地トシテ有數ノ位置ヲ占ムルニ至レリト雖モ今回ノ出品ノ如キハ米澤織トシテ全力ヲ傾注セシモノニ非ス僅ニ其一半ヲ窺フニ過キサレハ之ヲ以テ米澤織ノ全般ヲ揣摩スルハ其當ヲ得タリト謂フヘカラス然リト雖モ今單ニ出品物ニ付忌憚ナク其缺點ヲ指摘セハ原料ハ優ニ八王子ニ勝レリト雖モ意匠配色共ニ地味ニ過キ都市ノ時好ニ適セス染色ハ割合ニ堅牢ナルモノ多シト雖モ其薄色物ニ於テ往々日光ニ不堅牢ナルモノアルハ遺憾トス又整理ノ工程ニ於テ缺如スルモノアルヲ認ム即チ多クハ光澤ナク皺縮スル如キ外見ヲ呈スルモノアルハ一ハ其爲メナラン是レ大ニ改善發達ヲ企圖スヘキ點ナリ裝飾ノ如キモ亦注意ヲ要スヘキ點尠カラズ即チ其一例ヲ示セハ織物ノ帶紙ノ如キハ一見稍舊式ノ感アリ殊ニ數ヶ月間場内ニ陳列シテ日光ニ露出スル時ハ如何ニ堅牢ナル染色ニテモ多少侵サレ帶紙部トノ境界歴然タルヨリ察スレハ寧ロ之ヲ廢止スルノ可ナルヲ見ル羽二重ニ其原料ノ選擇宜シキヲ得タリト雖モ職工ノ技術未タ完カラス又其精練宜シキヲ得サルハ缺點トス大ニ努ムヘキナリ「タフタ」ニ於テハ原料製織共ニ

佳ナリト雖モ工場ノ掃除不完全ナル爲メカ飛散セル塵埃ノ横絲ト共ニ織リ込マレ點々飛白ノ生セルアルハ甚タ缺點トスル所又其整理宜シキヲ得サル爲メ琥珀ノ特色トスル畝目ヲ潰シタルハ惜ムヘシ終ニ臨ミ米澤織發展策トシテ聊カ卑見ヲ述ヘンニ從來ノ同業組合ハ營業者ニ對シテ束縛過度ノ爲メカ粗製濫造ノ弊ハ稍矯正シ得タレトモ同時ニ反ツテ其進歩發達ヲ妨ケタルノ嫌アリ昨今漸ク覺夢一番稍門戶開放ノ發展主義ヲ試ミアルモ多年ノ慣習ハ遽ニ改メラルルモノニ非ス只自今益濫造ノ弊ヲ矯ムルト同時ニ極力積極的ニ奮フテ改良進歩ヲ企圖セサルヘカラス然ラハ之カ實施法トシテ直接如何ニセハ可ナランカ其方法多々アルヘキモ要ハ機業家對商業家ノ活動即チ商業家ハ能ク中樞市場ニ於ケル商況ヲ達觀シ而モ機敏時好ニ適セル見本ヲ常ニ蒐集シテ機業家ニ配布シ流行ニ先ンシ米澤織ノ特色ヲ益發揮スルニ足ルヘキ製織ヲ勸誘スルコトヲ努ムヘシ又機業家ハ廣ク各機業地ヲ視察シ各自研究ニ怠リナク見本以上ノ精良品ヲ織出スルニ努メ柄樣ノ如キモ自ラ進ミテ流行ヲ造ルノ覺悟アルヲ要ス又製造法ニ於テ薄色物ノ多クハ堅牢ナル「アリザリン」屬色素ニテ染成シ不堅牢ナル酸性色素、鹽基性色素ノ如キヲ全廢スルコトトスヘシ左スレハ織物ノ品位ヲ高メ今回ノ如ク陳列期間數ヶ月ニ亘ルモ空氣日光塵埃等ノ作用ニ對シテ著キ褪變色ヲ見ルカ如キコトナキノミナラス洗濯其他ニ於テモ適ニ堅牢ヲ認メラルルニ至ラン次ニ撚絲ノ改良ニ關シテハ從來ノ撚絲車ノ要部ヲ改正シテ撚絲ヲ均一ニシ及織物最終工程ナル整理ニ付キテ大ニ研究工夫ヲ凝ラスヘシ又織物ノ種類モ時勢ニ應ジテ其産出ヲ圖ラサルヘカラス我邦現今ノ狀態ヨリ察スルニ將來ノ趨勢ハ從來ノ織物モ敢テ用キラレサルニ非サレトモ女物ニテハ御召類男物ニテハ夏物トシテ縞織類ハ殊ニ其用途愈多カラントス然ルニ米澤地方ニテハ如上ノ物産殆ト之ナシ深ク同地方ノ爲メニ惜ム所ナリ次ニ東京府ノ八王子物ニ就キテ觀ンカ米澤物ニ反シテ滿幅ノ力ヲ注キシモノノ如シ從ヒテ之ヲ數年前ニ比スレハ進歩顯著ニシテ意匠配色共ニ都市ノ時好ニ適シ嶄然頭角ヲ現セルヲ認ム而シテ其裏面ヲ觀察スレハ原料ニ於テハ比較的粗惡ナルカ如シ故ニ其製造ノ技術大ニ熟シ整理又宜シキヲ得タリ



ト雖モ往々節毛アルヲ見ル又染色ハ縦絲及筋絲染ニ於テ稍佳ナルモ横絲染ハ一般ニ增量過多ニシテ且堅牢ナルモノアリ特ニ絳染ノ如キハ如上ノ外斑點アルヲ免レヌ是レ八王子織物得意時ノ一針トシテ猛省ヲ要スヘキ所尙技術巧妙ニ過キ一層ノ奇利ヲ漁センカ爲メ社會ヲ瞞着スル底ノ粗製濫造ニ流レサランコトヲ敢テ製造家諸氏ニ望ム所ナリ

群馬縣桐生織物中其絲織トシテハ出品僅少以テ其全般ヲ窺フヘカラスト雖モ單ニ出品ノミニ就キテ批評スレハ縞柄配色稍時好ニ適セリト雖モ其原絲一般ニ善良ナラス又風味依然トシテ舊態ヲ脱セス即チ品質硬固ナルノ傾向アリ要スルニ改良進步ノ餘地大ニ存スルアルヲ見ル努ムヘキナリ

此他秋田縣、神奈川縣、長野縣、大阪府、廣島縣等ノ出品アリシモ其數僅少ニシテ一ノ精良品ナク取立テテ評スヘキモノナシ

絲織類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一、二二五	一五七	一	七	一三	三一	二九	八一	〇、五二		
大阪府	九	四	一	一	一	一	一	一	〇、二五		
神奈川縣	三二	一五	一	一	一	一	一	一	〇、六〇		
群馬縣	二	二	一	一	一	一	一	一	一、〇〇		
長野縣	一四六	五四	一	六	一〇	二	二	二	〇、五五		
山形縣	一七	五	一	一	一	一	一	一	〇、四〇		
秋田縣	一	一	一	一	一	一	一	一	〇、八〇		
廣島縣	一、四三三	二二九	一	一〇	二〇	四七	四七	一二五	〇、八〇		
計											

第三章 純、太織類

其一

報告員 審査官 早崎龜壽

本類ハ東京、埼玉、群馬、山形等ノ出品ニ係レリ抑本品ハ社會ノ上下ヲ通シ廣ク需用セララルモノニシテ年次其産額ヲ増加スルノ勢ナルニ拘ラス今回ノ出品ハ別ニ進歩セルコトヲ認ムル能ハス今左ニ府縣別トシテ之カ批評ヲ試ムヘシ

東京府 本府ノ出品中重ナルモノハ八王子ノ節織、西多摩郡ノ太織ナリ何レモ發達ノ淵源深カラスト雖モ八王子ハ由來織物ノ生産地トシテ名アリ西多摩郡亦八王子ト近接セルヲ以テ本品ノ如キ新製品又ハ場違品タルニ拘ラス出品中見ルヘキモノ尠カラス一ケ年ノ産額七十萬圓餘ニ及フト云フ然リト雖モ更ニ品位ノ一定セルモノナク概シテ地質餘リニ硬ク趣味ヲ傷ヒ色澤ヲ失フタルモノ多シ殊ニ仕上ノ方法等ニ於テ更ニ講究スル所ナキモノノ如シ望ムラクハ一步ヲ進メテ原料ノ選擇ニ注意シ精練染色ノ方法ヲ改メ緯絲ノ密度ノ整正ナラシメ仕上ノ完全ヲ期シテ實質ト風合ヲ新ニシ更ニ柄行ノ斬新ヲ謀リ絳模様ノ應用ヲ巧ナラシメンコトヲ蓋シ斯クノ如キヲ得ハ今後ノ需用益多カルヘキハ疑ヲ容レヌ

埼玉縣 本縣ノ出品ハ秩父太織、飯能太織ノ二者ニシテ年産額二百萬圓餘ヲ有スル著名ノ物産タルニ拘ラス出品僅少ナリ然レトモ秩父太織トシテハ秩父織物組合ノ出品アリ加フルニ東京市柿原萬藏、大森喜右衛門ノ出品アリ以テ秩父太織ノ大體ヲ評シ得ヘシト信ス由來本品ハ都鄙ノ別ナク社會ノ各階級ヲ通シテ需用スル所ノモノニシテ普通織物中ノ普通品ト稱スヘク當業者ニシテ研究當ヲ得ハ頗ル有望ナル事業ト謂フヘシ然ルニ今回ノ出品ヲ三五年前ニ比スルニ進歩ノ格段ニ見ルヘキモノナキハ甚タ遺憾トス固ヨリ特有ノ趣味ヲ有シ染色堅牢ニシテ實用的着尺トシテ取ル所多キハ本品ノ本場トシテ誇ルニ足ルヘシ望ムラクハ精練染色ノ改新ヲ謀リ社會流行ノ趨勢ニ鑑ミテ配色柄行ノ斬新ヲ講シ絳模様ノ研究ヲ爲シ進ミテ整理ノ完成ヲ期センコトヲ更ニ一言ヲ附記シ當業者ニ勸告セント欲スルモノアリ他ナシ本品ノ如キ品位一定セル工業品ニ在リテハ宜シク共同製産ノ方法ヲ講スルコト是ナリ即チ少クトモ精練、染色、整經及仕上ノ如キハ共同工場ヲ設置シテ作業ヲ行ヒ品質ヲ改善シ併セ



テ工費ノ節減ヲ謀リ良品ヲ低廉ニ廣ク社會ニ供給スルニ在リ斯クノ如キハ本品特有ノ主眼ニ非サルナキカ在來ノ地合ト趣味トニ加フルニ此舉ヲ以テセハ産額ハ今日ニ倍蓰スルコト蓋シ疑ナカラシ山形縣 本縣ノ出品ハ長井町附近ヨリ産スル長井紬ヲ主ナルモノトス近來稍、進歩ノ見ルヘキモノアルハ喜フヘキナリ即チ從來ニ比シテ染色ヲ改良シ柄行時好ニ適シテ價格相當ナル等社會ノ需用ニ適應セリト云フヘシ動モスレハ偶、染色ノ方法ヲ誤リ絲質ヲ脆弱ナラシムルモノアリ改善ヲ要ス尙進ミテ原料ノ選擇製織ノ方法意匠ノ工風等ニ意ヲ注キ絹味ニ潤柔ナル趣味ヲ帶ハシメ價格高キニ失セザランコトヲ講究改進セハ蓋シ一層聲價ヲ高ムルコトヲ得ン

鹿兒島縣 本縣ノ出品ハ大島紬ヲ主トス一種ノ雅趣ヲ有シ技術ノ巧妙ナル殆ト他ニ比スヘキモノナシト雖モ爾來毫モ進歩發達ノ跡ヲ認ムルコト能ハス而モ是レ本品ノ特色ナリト云フヘキカ漫ニ變改ヲ企テス單ニ製造方法ノ改新ヲ計ランコトヲ要ス其他結城紬、井波紬、山繭織、柞蠶織等出品僅少殆ト評スルニ足ルモノナシ

其二

報告員 審査官 渡 邊 季 吉

群馬縣伊勢崎地方ノ特産ナル伊勢崎綿ハ從來ヨリ地質ノ強固ト染色ノ堅牢ト相待チ價高カラス實用的ナルヲ以テ着尺品トシテ上下一般ノ嗜好ヲ吸引スルニ至リ隨ヒテ其産額年一年ト増進シ明治三十九年度ノ如キハ五十萬疋以上ヲ算セリ又盛ナリト謂フヘシ製織技術上ノ點ニ至リテハ其製品殆ト平織組織ノ一種ニ過キスト雖モ絹紡使用ノ熟達セル之ヲ純絹ノ織物ト對照スルモ敢テ遜色ナキカ如ク又絹綿交織物ノ一見純絹物ト識別シ難キモノアルニ至ラシメタルハ亦技術上ノ進歩ト稱スルヲ得ン殊ニ綿物ニ於テハ柄行及色合ノ配合、緋織ニ在リテハ斬新ニシテ然モ巧妙ナル工夫緋ヲ織出シ優美ニシテ趣向ニ富ミタルモノ少カラサルカ如キハ意匠進歩ノ結果ト稱スヘキナリ今出品ニ付キ之ヲ評セシニ地方組合員ノ製品トシテ熱心ニ出品セシモノノ如ク原料精良品位略、一定シテ最劣等ノ品ヲ多ク

見サリシハ誠ニ喜フヘキ現象ナリトス而シテ下城彌一郎、椎名勤次郎、二氏ノ綿物、八田榮藏、坂垣作次郎、二氏ノ緋物ノ如キハ優品ト認ムヘキモ一般ニハ著キ進歩ノ跡ナク色緋ニ於テ技術巧妙ヲ極メシモ配色其宜シキヲ得サルモノ白緋ニ於テ汚染セシ如ク往々白地ノ純白ナラサルモノアリシハ遺憾ナリ殊ニ緋物ニ於テ緋ノ不揃兩耳ニ近クニ隨ヒ甚シキモノ稍、多クヲ見タリ是等ハ深ク注意ヲ要ス其他整理ノ點ニ於テ硬軟ノ度其宜シキヲ得ス爲メニ品位ノ揚カラサルモノアリシハ大ニ遺憾トスル所ナリ宜シク同地設置ノ工業試驗場ヲ利用シテ一定ノ整理ヲ爲シ改善ヲ計ルヲ急務トス其他編組、袴地、コート、地御召等大ニ昔日ノ觀ヲ一新シタルモノアリ將來有望ノモノナキニ非サルモ尙未タ幼稚ノ域ヲ脱セサルカ故ニ當業者タル者層一層意匠ヲ凝ラシ整理ヲ能クシ勉メテ時好ニ投スル様注意スルコト肝要ナラン

尙伊勢崎綿ニ付一考スヘキハ耐久性ノ減退ト交織物ト純絹織トノ價格ノ接近セルコトナリ從來伊勢崎綿ハ其價割合ニ廉ニ而モ耐久性ニ富ムヲ以テ中流社會ノ晴衣若クハ上流社會ノ常衣トシテ適當ノ資格ヲ有スルカ故ニ其需用頗ル盛況ヲ極メ今日殆ト其極ニ達シ居ルモノノ如シ然ルニ社會ノ漸次奢侈ノ風盛ナルニ連レ漸次上流社會ニ於テ着用セサルノ傾アルニ至ルト同時ニ下流社會ノ晴衣トシテ絹綿交織物ヲ多ク用フルノ大勢トナレリ加フルニ近來伊勢崎綿ヲ着用スル者ノ多數ノ意見ヲ徵スルニ從來ノ製品ニ比シ耐久性ニ於テ漸次大ニ減退セルモノノ如シト蓋シ廉價ノ原料ヲ應用シ價格ヲ低廉ナラシメ各種階級ノ需用ニ供應スルノ途ヲ講スルノ致ス所ナルノミナラス經絲量目ノ節減或ハ其度ヲ失スルノ致ス所ナランモ徒ニ絹紡ノ應用及經絲ノ節減ニ巧妙ノ度ヲ超ヘ苟モ濫用粗製スルカ如キニトアラシカ爲メニ伊勢崎綿本來ノ聲價忽チ失墜スルノ虞ナキヲ保セス當業者タル者宜シク盛時ニ於テ戒ムヘキコトナリトス假令絹紡ヲ全廢スルコトナキモ地方物産ノ發揚ヲ慮リ將來經絲目制限法ヲ固ク實行スルノ覺悟ナカルヘカラス

次ニ絹綿交織物ニ付キ説ヲ爲ス者アリ曰ク伊勢崎綿價格平均八圓内外交織物平均五圓内外ニシテ三



圓ノ等差アルヲ以テ別ニ純絹物トノ識別法ヲ爲ササルモ價格ニ依リテ直ニ其交織ト否トヲ知り得ヘキカ故ニ敢テ伊勢崎縞ノ聲價ヲ傷クルコトナシト又一説アリ曰ク交織物ハ兩耳絲中ニ二筋ノ赤絲ヲ織通シアルモ顧客其意ヲ解セス純絹物トシテ之ヲ用ユルコトアルノミナラス商店ニ於テモ之カ説明ヲナサス一時ヲ欺クコトナキヲ保セス爲メニ伊勢崎縞ノ聲譽ヲ落スコト大ナラン寧ロ同地方ニ於テ全然交織物ヲ製織セサルニ如カスト

以上兩說何レモ一理アルカ如シ然ルニ今同ノ出品ニ付價格ヲ調フルニ伊勢崎縞廉キハ四圓五十錢ヨリ高キハ十五六圓ニ上リ絹綿交織ハ三圓五十錢ヨリ六圓二十五錢ニ至ル即チ交織物ヨリモ價格ニ於テ廉ナル純絹物アルカ如キ現象ヲ呈シ兩種ノ價相接近セルノ結果直ニ前說ニ賛成シ難シ又後說ハ一ノ悲觀的論者ニシテ取ルニ足ラス現ニ前表ニ依ルモ明治三十九年度即チ交織物ノ產額ハ全數ノ約四割ヲ占メシ當時ニ於テモ純絹物ハ產額ニ於テ六萬餘疋價格ニ於テ百萬圓餘前年ニ比シ増進シ居ルニ徴スルモ交織物ノ爲メニ影響ナキヲ證スルニ足レリ之ヲ要スルニ今後純絹織ハ其價格ヲ稍高ムルモ地質ノ堅牢ヲ計ルノ目的ヲ以テ絹紡ノ濫用ヲ戒ムルト同時ニ經絲目制限法ヲ固ク實行シ交織物ハ成ルヘク價ヲ廉ニシ益之ヲ増織シテ以テ廣ク世ノ需用ニ應シ產額ヲ増殖セシムルト同時ニ交織物ニ對シテハ從來ノ識別ヲ爲シタル上新伊勢崎ノ如キ別名ヲ附シ顧客ヲシテ見違ノ憂ナカラシムルノ方法ヲ講スルコト肝要ナラント信ス

紬太織類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	三〇一	七二	一	二	二	七	一五	一	二六	〇、三六	
神奈川縣	一〇	八	一	一	一	三	二	一	五	〇、六三	
新潟縣	五	五	一	一	一	一	一	一	五	〇、六三	
埼玉縣	七五	一四	一	一	一	二	二	一	七	〇、四一	

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
群馬縣	三四五	一八〇	一	一	二	八	一九	三一	六〇	〇、三三	
茨城縣	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
長野縣	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
山形縣	三〇	八	一	一	一	二	三	二	七	〇、八八	
富山縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
鹿兒島縣	一二	三	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
計	七八四	二九四	一	一	五	一三	三六	五五	一〇九	〇、三七	

第四章 御召、風通、絹上布類

其一 御召類

報告員 審査官 岩下龍太郎

御召類ノ出品ハ東京、京都、神奈川、群馬、栃木及岐阜ノ二府四縣ナリシカ古來京御召トシテ有名ナル京都府ノ出品少キハ遺憾トスル所ナリ先ツ柄樣ニ關シテ觀レハ漆箔ノ如キ異種ノ原料ヲ織込ミ或ハ撚ノ強キ絲ヲ經ニ使用シ或ハ組織ノ具合ニ因リ勾配ノ紋樣ヲ表シタルモノ或ハ解織ヲ應用スル等當業者ノ苦心ヲ察スヘキナリ今回ノ出品中嶄然頭角ヲ表シタルハ解織御召ニシテ如何ニ工夫ヲ凝ラセシカノ形跡歴々見ルコトヲ得ヘク御召ノ面目ヲ一新セシモノト謂ツヘキナリ絳物ニ在リテハ舊來纈染ニテ到底成シ能ハサルカ如キ紋樣ヲ製織シ得ルニ至リシニモ拘ラス出品中賞讃ノ價值アルモノヲ認メサリシハ惜ムヘシ

萬人向ナランコトヲ勉ムレハ平凡トナリ斬新ナラントスレハ好奇ニ陥リ淡泊ナランコトヲ企ツレハ無味乾燥トナリ巧妙ナラント欲スレハ實用ニ遠カリ易シ正邪曲直ノ分ルル所其間髪ヲ容レス物其中庸ヲ得ルハ極メテ難シト雖モ之ヲ得ントスルニ周到ナル用意ヲナシ萬人向ニシテ平凡ナラス巧妙ニシテ實用的品ノ製織ヲ爲スコソ緊要ナレ

今回出品ノ御召類ハ之ヲ第五回内國勸業博覽會當時ノ狀態ニ比シ進歩ノ形跡ヲ認ムルハ喜悅ニ堪ヘ



ナル所ナリ然レトモ新柄ヲ製出セントセシ熱誠ノ結果力餘リテ少シク突飛ニ流レシモノナキニ非ス彼ノ寶玉御召ナル一種ノ御召ハ名稱ノ示スカ如ク小玉處々織物ノ表面ニ突起シ裝飾的美觀ヲ呈スレトモ着尺物トシテ實用上ノ價值如何再考ヲ要スルナリ元來此種ノ織物ハ日常美術品ニ屬スルモノナレハ美的性質ヲ具備セシムヘク實用ヲ云々スルハ要求多キニ似タリト雖モ好奇ノ嫌ナキ能ハサルナリ青貝入友禪ノ如キ金泥大模様ノ長襦袢ノ如キ之ニ類ス珍奇ニ走ルハ人性ノ通有ニシテ現今特ニ其性質増大ノ傾キアルニヤ此ノ如キ製作品市場ニ表レタルヲ見タリ故ニ寶玉御召ノ類カ一部需用者ノ嗜好ニ或ハ満足ヲ與フルコトアルヘキモ尙考案ノ餘地アルヲ信スルナリ略言スレハ保守主義ノミヲ唱ヘ進取主義ヲ採ラサルニ非ス宜シク其織物ノ用途ニ適スル性質ヲ備フル範圍内ニ於テ新柄ヲ案出スヘキコトヲ極力獎勵スルニ在ルノミ

其二 風通、絹上布類

報告員 審査官 萩原清彦

風通類ハ需用少キ爲メ絹上布類ハ新潟縣ノ出品アルニ止マルヲ以テ其點數極メテ少ク直ニ以テ其全豹ヲ窺フ能ハサルモ一般ニ其進歩見ルヘキモノナク依然舊態ヲ存スルニ過キス元來風通類ハ其組織ニ重織ナルヲ以テ使用スヘキ原料及製織ノ方法ハ現今最モ流行セル御召類ニ比シ難易ノ差甚シク價格モ亦廉ナル能ハス年一年ニ其需用ヲ減シ桐生、足利、米澤地方ニ於テ僅ニ製織セラルルニ止マリ絹織物ノ主產地ナル京都ノ如キハ單ニ二ノ數寄者ノ需用ニ應スル外此種ノ織物ニ注目スル者ナク本邦絹織物工業トシテハ僅ニ其體面ヲ維持スルノ現況ナリトス然レトモ其組織ノ堅牢ト原料ノ選擇ニ其方法ヲ誤ラスンハ他織物ノ企及スル能ハサル一種ノ味ヲ有スルモノナレハ昔時ノ隆盛ヲ再ヒスルハ敢テ難キニ非サルヘシ加之流行ハ年々歲々其向フ所ヲ異ニシ新案ト稱シ新意匠ト唱フルモ其歴史ハ必スヤ或ル期間ヲ經テ曩ニ流行セルモノニ再現セルコトヲ證明スルモノナレハ常業者須ク動機ヲ逸スルコトナク組織ノ堅牢ヲ利用シテ新ニ流行ヲ喚起スルニ勉メサルヘカラス殊

ニ漸次隆盛ノ域ニ進ミツツアル絹綿交織ト此種ノ織物トノ融合ハ管ニ其ノ價格ヲ廉ニスルノミナラス一種ノ觸味ヲ織物ニ與フルモノナレハ注目ノ價值ナシトセス

絹上布透綾類ハ新潟縣ヲ除キ他府縣ノ出品絶無ニシテ同縣ノ特産物トシテ市場ニ覇ヲ唱フルモノナレトモ獨占ノ事業ニ伴フ弊害ハ此織物ニ於テモ亦其形跡ヲ現シ今回ノ出品ノ如キ技倆ニ於テ巧妙精緻ナルモノ一ニナキニ非サレトモ意匠配色ハ概シテ斬新ナルモノ少ク流行ヲ喚起スルニ足ルモノナキヲ憾ム而シテ斯ノ如キ織物ハ需用ノ範圍狭小ニシテ夏時用トシテ中流以上ノ社會ニ供給セラルルモノナルト其方法モ簡易ニシテ單ニ材料ノ選擇及作工法ノ如何ニヨリ其價值ヲ定ムルモノナレハ特ニ改良ノ點ヲ指摘シ進歩ヲ促カスハ極メテ困難ナリト雖モ意匠配色ノ方法ニ注意シテ流行ニ後レサランコトヲ勉メ原料ノ研究ヲ試ミ各種材料ヲ應用シ作工ノ方法モ亦簡易迅速ナラシメハ更ニ其價格ヲ廉ナラシメ供給ノ範圍ヲ擴張スルヲ得ンカ殊ニ近時ノ通弊ナル當業者ノ意志強固ナラスシテ世ノ風潮ニ從ヒ直ニ其業ヲ變換スル如キハ最モ戒ムヘキ所ニシハ此種ノ織物主產地新潟縣ノ如キ輸出織物隆盛ナルトキハ在來ノ特技ヲ棄テ之ニ赴キ一旦不況ニ際スレハ舊業ニ復スル實例ヲ往々耳ニシ且今回出品ニ卓越セルモノナキ遠因或ハ此點ニ基キタルニ非スヤノ疑ナキ能ハサルヲ以テ特ニ附記シテ當業者ノ反省ヲ望ムモノナリ

御召絹上布類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊員	受賞合計	受賞割合
東京府	一一七	三五	一	一	二	一	五	一	八	〇、二三	
京都府	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇	
神奈川縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇	
新潟縣	五〇	一八	一	一	三	六	二	一	一二	〇、六六	
群馬縣	三七	一〇	一	一	四	一	一	一	七	〇、七〇	
栃木縣	二五	一〇	一	一	二	一	一	一	五	〇、五〇	







博多織類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	七二二	七六	一	二	八	三	一	一四	〇、一八
京都府	六	四	一	一	一	一	一	一	〇、二五
埼玉縣	二	二	一	一	一	一	一	一	〇、三三
群馬縣	七八	二九	一	一	一	一	一	一	〇、三八
靜岡縣	七	二	一	一	一	一	一	一	〇、三三
山形縣	二四	七	一	一	一	一	一	一	〇、五六
福岡縣	五	一	一	一	一	一	一	一	〇、二〇
計	八四四	一二一	一	七	一二	一一	一	三一	〇、二六

第六章 袴地類

報告員 審査官 早崎龜壽

本類ノ出品ハ東京、新潟、宮城、山形及秋田ノ一府四縣ニシテ就中東京府ハ最モ多數ニシテ山形縣之ニ次キ新潟、宮城順次之ニ次ク福岡ノ如キハ著名ノ製造地タルニモ拘ラス一ノ出品セルモノナク僅ニ東京商人ヲ介シテ二三ノ出品アルヲ見シニ過キス乃チ全國ニ涉リ詳細ニ比較審査スル能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ今是等諸府縣ノ出品ニ就キテ概評スレハ何レモ著キ進歩ヲ認メスト雖モ品質佳良柄行斬新社會ノ嗜好ニ投合セルモノ尠カラズ更ニ原料ノ選擇、撚絲ノ改良、染色整經及製織ノ方法等尙改良スヘキモノ多シトス當業者一層ノ研究ヲ要ス

東京府 本府ノ出品ハ八王子物殆ト其全部ヲ占メ一種ノ特色ヲ有シ概シテ原料ノ撚度一定シ地合緊密配色時好ニ投シ社會ノ需用ニ適スヘキモノ少カラサルハ喜フヘシ年次産額ヲ増加シ昨明治三十九年ニ在リテハ七十萬圓餘ニ及ヒシモノ故ナキニ非サルナリ然レトモ原料ノ選擇未タ宜シキヲ得ス殊

ニ緯絲ニ至リテハ頗ル粗惡ニシテ其染色ノ方法亦當ヲ得サルモノアリ更ニ一段ノ改善ヲ要ス而シテ本品ニハ石場平、八千代平、茶宇平、東平、無雙平、博多平、紹平、扶桑平等ノ名稱アリト雖モ製作上著キ相違アルニ非ス要ハ撚絲ノ種類、撚度等ニ多少ノ差異アルニ過キスシテ八千代平、石場平ノ如キハ同地袴地ノ代表品ト見做シテ誤リ無カラシカ

八千代平ハ松本欣三郎ノ製品ニシテ箆ハ二十四算トス經絲ハ四本諸撚絲ヲ羽二重ニ引揃ヘ箆一齒二本入リトナシ緯絲ハ坐繰三本片撚ヲ三本引揃ヘテ打込ミタルモノニシテ織上リ一反百四十匁内外ナリ、石場平ハ石場茂吉ノ製品ニシテ箆十九算經絲ハ四本諸撚絲ヲ羽二重ニ引揃ヘ箆一齒三本又ハ四本入トナシ緯絲ハ八千代平ト大同小異ナリ織上ノ重量百五十匁以上ニ及フ何レモ柄行時流ニ適シ原料ノ選擇地合等宜シキニ適ヘルハ賞スヘキナリ更ニ高雅ノ趣味ヲ帶ハシメ工場經營ノ方法ヲ改新シ價格ノ低廉ヲ期スルヲ得ハ蓋シ完璧タラン

茶宇平及紹織袴地ハ近來ノ創始ニ係リ前者ハ松本欣三郎ノ製品ニシテ箆ハ二十算トス經絲ハ四本諸撚絲ヲ用キ箆一齒ニ四本ヲ引込ミ内一本ハ羽二重ニ引揃ヘタルモノナリ是レ箆目明キヲ防キ地合ニ一種ノ趣味ヲ帶ハシムルト同時ニ袴地ニ於テ最モ生シ易キ皺ヲ防キタルノ考案ニシテ新規ナラスト雖モ製作上ノ苦心捨ツヘカラス又柰代龍喜及久保田喜右衛門等ノ出品ニ係ル紹組織ノ袴地ハ其用途ノ適否ニ至リテハ多少ノ論議ヲ免レスト雖モ袴地トシテ本組織ヲ試ミタルハ確ニ新案タルノ價値アリト謂フヘク夏期用トシテ年次需用ヲ増加スト云フ以テ社會カ新趣向ヲ歡迎スルコトノ如何ニ切ナルカヲ推知スルニ足ラン

新潟縣 本縣ノ袴地ハ山邊里並ニ五泉ヨリ製出セララルモノニシテ山邊里平ハ小田長四郎ノ獨占事業ニシテ名聲噴々タルモノ豈容易ノ業ナランヤ其苦心經營大ニ察スヘキナリ而シテ其品質配色ニ於テハ著キ進歩ノ跡ヲ認メスト雖モ事業ノ統一ヲ得品位一定セルハ他ニ見サル長所ト謂フヘシ更ニ撚絲ノ改良ヲ圖リ整經ノ完全ヲ期シ新組織ノ應用ヲ試ムル等一段ノ改善ヲ望ム特ニ柄行ノ改新ハ急ヲ



要スルモノアリ五泉ハ由來袴地ノ名産地タリシカ近來更ニ進歩ノ微スヘキナク出品亦甚タ佳ナラス  
 宮城縣 仙臺平ハ袴地ノ本場ヲ以テ目スヘキ生産地ナルニモ拘ラス出品中更ニ進歩ノ認ムヘキモノ  
 ナカリシヲ遺憾トス然レトモ本練平ニシテ其組織及趣味等遠ク他ノ企及シ能ハサルモノアリシハ流  
 石ニ古來有名ナル特産品タリシ名残ヲ止ムルモノニシテ捨ツヘカラサル點ナリ望ムラクハ同業者一  
 致協力一意斯業ノ發達ヲ期シ共同作業ノ方法ヲ講シ撚度ノ整正ヲ期シ整經ノ完全ヲ計リ以テ一大刷  
 新ヲ成サントトフ

山形縣 本縣米澤産ノ袴地ハ原料ニハ本縣産ノ器械絲又ハ折返絲ヲ使用シ經絲ハ多ク諸撚ニシテ緯  
 絲ハ片撚ナリ一種ノ特風ヲ有スルト同時ニ同業組合ノ監督獎勵ニヨリ品位稍一定セルト價格ノ比較  
 的低廉ナルハ大ニ嘉スヘシト雖モ概シテ原料ノ選擇宜シキヲ得ス撚絲ノ工程全カラス染色ノ方法適  
 度ヲ得サルモノアリ爲メニ潤澤ニ乏シクシテ不快ナル一種ノ鳴リヲ有シ趣味佳ナラス柄行モ亦更ニ  
 斬新ト稱スヘキモノナシ出品中多ク見ル所ノ紐入袴地ノ如キハ既ニ一般ノ流行ニ後ルル遠シト云フ  
 ヘキナリ望ムラクハ更ニ撚絲染色整經ノ改善ヲ謀リ柄行及組織ノ研究ヲ怠ラス一大發達ヲ告ケンコ  
 トフ

袴地類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金	牌銀	牌一等賞	二等賞	三等賞	褒	狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	二七四	四三									一三〇、三〇〇	
新潟縣	一七	七									三〇、四三	
群馬縣	二	二										
宮城縣	一三	三									三一、〇〇〇	
山形縣	三三	一五									六〇、四〇〇	
秋田縣	二	一										
計	三四一	七一									二五〇、三五	

第七章 甲斐絹洋傘地、洋服裏地類

報告員 審査官 河口 孝

第一節 甲斐絹

甲斐絹ノ出品ハ山梨及神奈川ノ二縣ニシテ大體上色相及柄柄ニ於テハ稍進歩ノ形跡アリ併ノ應用モ  
 亦多少見ルヘキモノアリト雖モ概シテ進歩甚タ遅々トシテ振ハス染色ノ變褪シ易キカ如キ原料ノ選  
 擇宜シキヲ得サルカ如キ織方ノ注意足ラスシテ爲メニ經緯緯段緯ツレ等種々ノ缺點ヲ顯セルカ如キ  
 其他改善革新ヲ要スヘキ點多々アルニ拘ラス兩縣ノ當業者概ネ之カ改進ノ途ヲ講スルコトヲ爲サス  
 單ニ他地方ニ於テ摸倣シ難キ特種ノ趣味ニノミ倚賴シ時勢ニ伴フ進歩發達ヲ觀念ニ乏シキノ感ア  
 ルハ惜ミテモ尙餘リアリ當業者豈深ク猛省セサルヘケンヤ

山梨縣 本縣甲斐絹ノ産額ハ一ヶ年三百萬圓ヲ降ラス本縣ニ於ケル重要物産ノ一ニシテ之ヲ神奈川  
 縣産ノモノニ比スレハ其品質遙ニ優ルモノアリ然レトモ忌憚ナク批評スレハ既ニ前述セシ如ク進歩  
 發達ノ見ルヘキモノ甚タ乏シク品質不揃技術上ノ缺點一二ニシテ止マラス是レ其營業組織多クハ甚  
 タ小ニシテ農家婦女子ノ内職的工業ニ屬シ從ヒテ技術ノ改良發達等ニ思フ及ホス者稀ナルノ致ス所  
 カ今回ノ出品中或ル一二ヲ除クノ外ハ染色概ネ變褪シ甚シキニ至リテハ醜狀殆ト見ルニ堪ヘサルモ  
 ノアリ甲斐絹ノ用途ハ主トシテ裏地ナルヲ以テ左マテ堅牢ナル染色ヲ施スノ必要ナシト雖モ今日ノ  
 有様ニテハ需用者ノ要求スル程度ニ及ハサルコト甚タ遠シ願フニ本縣ニ於ケル甲斐絹染色ノ改良ハ  
 久シキ以前ヨリ唱ヘラルルニモ拘ラス或ル一二ノ色ヲ除クノ外ハ毫モ改良セラレサルニ至リテハ當  
 業者ノ不熱心ナル推シテ知ルヘキナリ而シテ改良セラレタル色ハ紅梅色及紺色ナリ即チ紅梅色ハ從  
 前ハ「ヨーシン」ヲ以テ染色シタリシカ不堅牢ナルカ爲メ現今ハ全ク「ローダミン」ヲ代用スルニ至リタリ  
 又紺甲斐絹ハ染色不良ノ爲メ一時非常ナル不況ニ陥リタルヲ以テ百方改良ノ途ヲ講シ「ダイアゾ」化染



料ヲ使用スルコトニ定メ組合モ亦其取締法ヲ設ケテ制裁ヲ加ヘタルヲ以テ再ヒ名聲ヲ恢復スルコトヲ得タリ其他一般ノ染色モ紺色ノ例ニ依リ組合ニ於テ適當ナル染料ヲ指定シテ當業者ニ其使用ヲ強ユルハ差シ當リ極メテ適切ナル改良案ナルヘシ自家染ノ陋習ハ依然トシテ行ハレ居レトモ染色ノ完全及一定ヲ望ムニ於テハ須ク此陋習ヲ打破シ共同染色場ヲ各地ニ設クルカ如キ方法ニ依リ色染業ヲ獨立セシムルノ途ニ出テサルヘカラス又甲斐絹ニ於ケル經絲ノ下拵ハ一般ノ練絹織物ノ製造トハ異ナリ生絲ノ儘整經シタル後周密ノ注意ヲ以テ精練色染等ヲ施シ糊附シテ充分ニ緊張シ干切ニ卷キ取ルナリ所謂濕シ卷キト稱シ此處理法カ甲斐絹ノ趣味ニ影響ヲ與フルコト大ナルヘシトハ言ヘ此方法ハ將來如何ナル運命ヲ有スルモノナルヤ大ニ講究ヲ値スル問題ナリ即チ此方法ハ甚タ手數ヲ要スルノミナラス絲ノ取扱モ亦大ニ困難ナリ現今ノ如ク甲斐絹ノ製造カ副業的ニ營マルル時代ニ於テハ此手數尙忍フヘシト雖モ一ノ獨立事業トシテ經營セラルルノ曉ニ際シテハ適當ナル機械ノ考案セラルルマテハ到底忍フコト能ハサルナリ畢竟ハ一般練絹織物ノ製造ニ於ケルカ如ク總ノ時色染シテ然ル後整經スルノ方法ヲ採用セサルヲ得サルニ至ルヘキナリ而シテ此方法ニ依リテ製織シタル甲斐絹カ在來ノ方法ニ依レルモノニ比シ甚シク趣味ヲ異ニシ商品トシテ容易ニ成功セサルカ如キ憂ハナカルヘシト信ス特ニ將來輸出甲斐絹ノ製造ヲ企畫スルニ際シテハ第一着手トシテ經絲ノ下拵ヲ改良スルノ要アラシ經糊及緯絲ニ油ヲ施スコト多キニ過クルノ弊ハ尙改メラレサルカ如シ是レ亦大ニ注意ヲ望ム甲斐絹ニ於ケル仕上ハ從來別ニ施スコトナカリシカ適切ナル整理法ヲ案出センコトヲ望ム機具ノ改良トシテハ「バツタン」及「金篋」ノ使用盛大トナリシ外別ニ認ムヘキモノアラス殊ニ「バツタン」ニ適スル管卷法未タ熟練セラレサルノ結果ナラン耳引ケヲ出スコト少シトセス管柄ノ形狀並ニ卷キ方及進ミテハ管卷機械ニ就キ充分ノ研究ヲ要ス繪甲斐絹製造ニ就キテハ近時經絲捺染カ各種ノ織物ニ應用セラルルニ至リタルト共ニ一革新ヲナササルヘカラス以前ニ於テハ繪甲斐絹ハ模様ノ輪廓カ不整トナルヲ忌ミタレトモ今日ハ却リテ輪廓ノ正シカラサルコト恰モ「ホゴシ」織ノ如クナルヲ可トスルモノ

アルニ至リタルハ大ニ注意ヲ値スルノ事項ナリ今ヤ本縣ノ甲斐絹ハ殆ト内地物ニ限ラルルモ將來適當ノ施設ヲ爲スニ於テハ輸物トシテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ランコト決シテ望ミナキニ非ス然ルニ本縣機業ノ最モ大ナル缺點ハ品質ノ一定及製作期日ノ確實ヲ保スルコト能ハサルニ在リ本縣輸出甲斐絹ノ製造カ過去ニ於テ幾度カ失敗シタルハ粗製濫造ノ弊與リテ力アリト雖モ前記ノ缺點カ其經營ヲ困難ナラシメタルニ依ルコト亦甚タ多カラシ此缺點ヲ除クニハ工場組織ニ依ルヲ最良トスト雖モ地方ノ狀況ハ容易ニ斯ノ如ク爲スヲ許ササルカ故ニ此際産業組合法ニ依リテ共同經營方法ヲ講スルヲ以テ策ノ得タルモノト信ス即チ小機業家カ各分立シテ凡テノ仕事ヲ各個ニ行フ事ヲ止メ共同シテ事業ノ經營ヲ爲スニ在リ換言スレハ原料ノ購入及色染下拵等共同ニ行フノ方法ヲ講シ製織ハ各自ノ家ニ於テナシ織リ上リタル時ハ再ヒ共同シテ整理シ販賣スルノ方法ヲ行フニ在リ共同經營ハ獨リ輸物ノ製造ニ對スル準備ナルノミナラス内地物ノ製造ニ於テモ亦改進ヲ促スノ時機ハ既ニ到達シタルヲ以テ當業者ハ之カ實行ニ就キ深ク考慮センコトヲ望ム甲斐絹ノ組織ヲシテ平織ニ限ラシムルコト及甲斐絹以外ニ他ノ織物ノ製造ヲ試ミルコト少キハ誠ニ遺憾トスル所ナリ宜シク新組織ノ案出及新織物ノ製造ヲ試ムルヲ要ス多年細絲ノ取扱ニ熟練セル手腕ヲ以テ各種薄絹織物ノ製造ヲ企畫スルニ於テハ近時著ク發達シタル洋傘地及服裏地ト共ニ成功ヲ期スルコト難カラサルヘシ特ニ天與ノ水力ハ將來機械的織物業ノ發達ニ至大ノ便宜ヲ與フルナリ要スルニ本縣ノ機業ハ各種ノ方面ヨリ研究ヲ要スヘキ點甚タ多キカ如シ當業者ハ須ク奮勵事ニ當ランコトヲ望ム

神奈川縣 本縣甲斐絹ハ山梨縣ニ近接セル津久井郡ヨリ産出ス此地方ハ昔時ハ専ラ川和綿ト稱スル織物ノ產地タリシカ近年ニ至リ同織物ノ製造ハ大ニ減少シ郡中甲州街道ニ沿ヘル村落ニ於テ盛ニ甲斐絹ヲ産出シ昨明治三十九年度ノ産額ハ約四十萬圓ニシテ甲州上野原ノ市場ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ而シテ此地方ハ川和綿製造ノ素地アルニヨリ繪甲斐絹ノ製造最モ盛ニシテ其價ハ本場物ニ比シ低廉ナリ然レトモ概シテ織物ノ組織粗ニシテ光澤ナク味モ亦惡シク繪甲斐絹ノ如キハ甚



シク地ヲ汚シタルモノアリ一般ニ原料ハ粗雜ニシテ織リ方モ亦注意ヲ缺ケル點多シ其染色ハ山梨縣ノ出品ノ如ク變色シタルモノヲ認メサリシカ是レ一ニハ陳列館ノ場所ノ中央ニ位シ薄暗クシテ光線ノ影響ヲ受クルコト少カリシハ一ノ僥倖ニ過キサラン平常ニ於ケル染色ハ山梨縣ノモノニ比シテ寧ロ一層不完全ナルカ如シ本縣甲斐絹ノ製造ニ於ケル營業組織ハ山梨縣トハ趣キヲ異ニセル所アリ即チ機業家ハ製品ノ販賣又ハ原料ノ購入ヲ自ラ市場ニ赴キテ爲ス者少ク地方ニ商人ト稱スル者アリ此者カ原料ヲ市場ヨリ購入シテ機業家ニ貸與シ製品ヲ引キ取リタル上差引勘定ヲ爲スナリ賃織ヲ爲ス者ハ少クシテ機業家ノ多數ハ以上ノ方法ニテ商人ヲ中心トシテ各獨立シテ業ヲ營ムト雖モ前記ノ如ク原料ノ購入及製品ノ販賣ハ勿論色合及縞柄ノ選定竝ニ其染色等總ヘテ商人ノ手ニ於テスルコト一般ナルヲ以テ若シ商人カ適當ニ計畫指導セハ斯業ノ改良ヲ計ルハ蓋シ甚シキ難事ニ非サルヘシ然レトモ現今ノ方法ヲ見ルニ機業家ハ原料ヲ商人ヨリ受取リ之ヲ各自ノ家ニ於テ別々ニ精練シ然ル後再ヒ商人ニ渡シテ染色スルノ順序ナリ若シ夫レ精練モ亦商人ノ手ニ於テ共同ニ行フニ至ラハ甚タ佳ナラン又商人カ施ス所ノ染色ハ極メテ幼稚ニシテ其任ニ當ル者モ染色ノ智識殆トナキ者多シ要スルニ大體ノ營業組織ニ於テハ却リテ山梨縣ノモノニ優ル所アリト雖モ其技術ニ關シテハ及ハサル所多シ尙製作技術上ニ關シテハ山梨縣ニ就キテ述ヘタル事項ヲ參照シ將來大ニ改良ヲ計ランコトヲ望ム

## 第二節 洋傘地

洋傘地ヲ出品シタルハ東京府及山梨縣ノ二トス蓋シ本品ハ近年大ニ發達シタル織物ノ一ニ屬シ今同ノ出品中ニモ其優良品ヲ見ルコトヲ得タリ然レトモ尙改良ヲ要スル點尠シトセス即チ原料ノ選擇ニ一層ノ注意ヲ加ヘ織度均一ニシテ類節ナク且燃ノ整然タルモノヲ使用スヘシ然ラサレハ經筋橫段等ヲ生シ大ニ品質ヲ損スヘシ機具ノ改良モ亦最モ必要ニシテ現今ノ如ク不完全ナル機具ヲ使用シ製品ノ良否ハ一ニ織工ノ手練如何ニノミ依ルカ如キハ甚タ不確實ナル操業法ナルヲ以テ今後確實ナル進

歩ヲ爲サシメントスルニハ人力ヲ減シ得ヘキ機械器具ノ利用ニ勉メサルヘカラス織上後ノ整理ニ關シテハ特ニ考慮ヲ要スルモノアリ洋傘地トシテ主要條件ナル透見ノ良好トナリシコトハ嘉賞スヘシト雖モ之カ爲メニ施行スル布面ノ摩擦甚タ強キニ過キ綾目ヲ潰スノミナラス絹ノ本然ノ光澤ヲ損シ一種忌ムヘキ金屬狀ノ光澤ヲ帶ハシメタルハ甚タ遺憾トスル所ナリ是レ其用具ニ基因スルモノナレハ現今使用シツツアル不完全ナル摩擦整理用器具ハ一日モ早ク捨テ之ニ代フルニ摩擦整理機械ノ設備ヲ以テセサルヘカラス尙洋傘地ノ製造ハ各種ノ工程ヲ行フノ際最深ノ注意ヲ要スルモノアリ然ルニ當業者ノ現狀ヲ見ルニ仕事ヲ注意深ク且叮嚀ニ爲スノ習慣ニ於テ大ニ缺クル所アルカ如シ例ヘハ絲ノ類節ヲ除クコト少キカ爲メニ製造上種々ノ故障ヲ生シ織物ノ品質ヲ害スルコト甚シキカ如シ宜シク整經ノ際又ハ機臺ノ上ニテ之ヲ除クコトニ勉メサルヘカラス獨リ洋傘地ニ限ラス本邦ニ於ケル絹織物ノ製造ハ歐洲諸國ニ比シ總ヘテノ仕事ニ於テ注意周密ナラサルノ缺點アリ事小ナルニ似タリト雖モ其及ホス所ノ害ハ甚タ大ナルヘキヲ以テ此缺點ヲ忽諸ニ附スヘカラス尙染色ニ就キテハ日光及水洗ニ極メテ堅牢ナルモノノミヲ選ムヘシ

今回ノ出品中ニハ婦人用夏洋傘地ハ僅一二點ニ過キサリシカ此種洋傘地ノ製造ハ近年大ニ盛大ニ向ヘリ是亦染色及意匠ニ注意シ以テ時好ニ後ルルナランヲ要ス

山梨縣 本縣ノ主要織物タル甲斐絹ノ依然トシテ進歩ノ跡ヲ認メサルニ反シ洋傘地ハ近時大ニ發達シタルハ本縣織物業ノ爲メニ稍意ヲ強フスルニ足ル然レトモ翻リテ過去ノ歴史ヲ緝ケハ幾度カ粗製濫造ノ惡評ヲ蒙リタルコトハ蔽フヘカラサル事實ニシテ之ヲ思ヘハ今日ノ盛況モ果シテ之ヲ永遠ニ維持シ得ルヤ否ヤ憂慮ニ堪ヘサルナリ希クハ當業者德義ヲ重シ盛況ナルノ時期ニ於テ特ニ粗濫ノ弊ヲ戒メサルヘカラス元來本縣ニ於ケル洋傘地ノ主產地ハ南都留郡瑞穂明見ノ二箇村ナリシカ近時ハ漸次其區域ヲ擴メテ近傍ノ村落ニ及ホシ明治三十九年度ニ於ケル產額ハ約五十萬圓ニ達シ其上等品ハ優ニ他ノ地方ヲ壓スルニ足ル又品質劣等ニ位セルモノノ製產少カラズ勿論需用ノ程度ニ依リ品



位劣等ニシテ價格低廉ナルモノノ製造亦甚々必要ナレトモ此種ノモノハ動モスレハ粗造濫造ニ陥リ易キ憂アリ當業者カ最モ注意ヲ要スヘキハ實ニ此點ニ在リ猛省セサルヘカラス婦人用洋傘地ノ耳ニ附セル縞及模様ハ其意匠野卑ナルモノ多シ近時夏洋傘地ノ製造漸ク盛ナラントス時好ヲ察スルニ敏ナラサルヘカラス製造ノ方法及機具ノ改良ヲ要スヘキ點種々アリト雖モ最モ急務トスルハ經絲ノ下拵ナリ現今實行セル所ノ整經後ニ於テ色染ヲ施スノ方法ハ非常ニ不便ニシテ取扱ニ困難ナルノミナラス品質ニ惡影響ヲ及ホスコトハ當業者カ自認セル所ナリ速ニ完全ナル整經機ヲ備ヘ一般練絹織物製法ニ依リ色染後ニ整經スルノ方法ヲ採用セサルヘカラス油ノ使用ハ多キニ過キテ惡臭ヲ帶フルモノ少カラス又營業上ノ組織モ甲斐絹ト同シク極メテ小仕掛ニシテ將來ノ發達上不便尠ナカラス特ニ洋傘地ノ改良ハ機械的作業ニ待ツコト多キヲ以テ速ニ共同生産ノ途ヲ講シ成ルヘク改良ヲ行フニ便ナルコトニ勉メサルヘカラス

東京府 本府ノ出品ハ豐玉織物合資會社ノ製品及笹島作藏ノ甲州産洋傘地アルノミ豐玉織物合資會社ノ洋傘地ハ嘗テハ他ノ地方ノモノヨリハ一頭地ヲ拔キ殆ト獨歩ノ觀アリシカ今回ノ出品ハ絶ヘテ進歩ノ跡ヲ認メサルハ大ニ遺憾トスル所ナリ原絲ノ選擇ニ缺クル所アリ經筋横ツレ等モ亦多ク整理ノ不適當ナル爲メ布ノ光澤ヲ害シ且小皺多キ等ノ缺點アリ今後一層ノ注意ヲ加ヘ改進ノ途ヲ講セシコトヲ望ム空目絲ヲ應用シタル洋傘地ノ出品アリタレトモ撚絲ノ技ニ於テ缺クル所アルカ爲メ未タ良好ナル成績ヲ得タリト認ムルコト能ハス曩ニ同社ノ製品カ染色不良ノ爲メ招キタル惡評ハ其後百方改良ニ勉メ居ルニモ拘ラス今日ニ至ルモ尙多少信用ニ關係スルノ跡アルハ甚々遺憾ニ堪ヘサル所ナリ將來大ニ猛省センコトヲ希望シテ止マヌ

第三節 洋服裏地

洋服裏地ノ出品ハ東京、新潟、群馬及山梨ノ一府三縣ニシテ概シテ進歩ノ跡ヲ認メ得レトモ原絲ノ選擇及整理ニ於テ尙大ニ改良ノ餘地ヲ存ス東京府ノ出品ハ八王子、桐生及京都ノ製品ニシテ品質佳良ナル

モノアリ新潟縣ノ出品ハ品質能ク揃ヒ製織ノ技術モ亦佳ナリト雖モ光澤ニ乏シキト縞柄ノ舊套ヲ脱セサルトハ缺點ナリ群馬縣ノ出品ハ原絲ノ選擇織リ方及整理等大ニ改良ヲ要スル點アリ山梨縣ノ出品ハ概シテ良好ナリト雖モ整理ヲ施ササルモノ又ハ其方法ノ當ヲ得サルモノ多ク品質ヲ損スルコト少シトモ本縣ノ服裏地ハ常ニ此點ニ於テ甚シク不利ヲ招キツツアリ將來完全ナル整理ヲ施スニ勉メシコトヲ望ム

甲斐絹、洋傘地、洋服裏地出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一八	四	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、二五
神奈川縣	三七	一二	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、三三
新潟縣	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	三	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨縣	八八	五二	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一五〇	七一	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第八章 高等絹織類

報告員 審査官 近藤 徳太郎

本類ニハ紋織、女帶地、胴裏地、裂地、及室内裝飾用織物等ヲ包含シ東京府ノ出品殆ト全部ヲ占ム然レトモ實際東京ニ於テ製造シタルモノハ東京織物製造組合員ノ出品ニ係ル帶地及裂地數點アルノミ又埼玉縣ノ帶地群馬、栃木兩縣ノ胴裏地ハ各出品地ノ産出ニ係リ是等ヲ除クトキハ總ヘテ吳服販賣商ノ出品ニシテ擧リテ西陣製造ニ係ルモノナリ

今本類ノ織物ヲ組織ノ上ヨリ細別スレハ帶地ニハ緞錦、繻珍、厚板等ヲ主ナルモノトシ絲錦、小柳、紋和奈天ノ如キハ各二三點ヲ見ルノミ裂地ニ於テハ錦、金襴、唐織、金唐草、寫金版、模様織等アリ胴裏地ハ緞子、紋



琥珀ノ二種ニ止マレリ而シテ爰ニ最モ注意スヘキハ室内裝飾用ノ織物ニシテ東京御所御用織物ノ一部ヲ斯業上ノ参考トシテ其筋ノ許可ヲ得テ出陳シタルモノ是ナリ即チ其種類ハ御紋章ヲ現セル所ノ金華山織、琥珀地縮取織、真田入小柳織、琥珀及縹子ノ縞織ナル墨士哥織等殆ト本邦ニ於テハ未タ織出ササル種類ニ屬シ最モ斬新壯麗ノ紋織物ナルト同時ニ我カ機械ノ術カ進歩シタルノ跡ヲ窺ヒ得テ海外知名ノ機業國ト拮抗スルノ地位ヲ占ムルハ敢テ至難ニ非サルコトヲ聯想セシメタリ

翻リテ帶地ニ就キテ言ヘハ一時元祿模様ノ流行シタル餘波ヲ受ケテ皆大模様ヲ顯セシモ時好ハ既ニ一變シテ桃山時代風ノモノヨリ傍ラ光琳風ノ畫法ニ倣フモノ新流行ナルカ如シ故ニ金絲ニ併スニ金平箔或ハ漆箔ヲ織込ミタルモノ多ク所謂金泥織ノ名ヲ命シタルモノ是ナリ圖樣ノ巧拙良否ハ暫ク論セサルモ今日ノ如ク社交ノ盛ナル時ニ於テハ婦人社會モ深窓ニ靜座シテ閑日月ヲ送ルヲ許サス從ヒテ服裝ノ粧飾モ自ラ昔日ト好ヲ異ニシ遠見ニ適スルモノ亦可ナラン蓋シ模様ノ大ナルハ頗ル當ヲ得タリ然ルニ組織ニ至リテハ千篇一律ニシテ其變化甚タ少シ曰ク縹珍曰ク厚板唯綴錦ノ如キハ輓近之ヲ廣帶地ニ應用シタル新奇ノモノナリト雖モ其價ハ極メテ貴シ果シテ之カ流行ノ風ヲ爲スヤ否ヤ品質ト價格ト相待チ克ク目的ニ副フヤ否ヤ暫ク後日ノ結果ニ待ツノ外ナシ

願フニ前年製作ノ帶地類ハ品質堅硬ニ失シ絹織物ノ味ヲ存セサル傾アリテ婦女女子ノ需用品ニハ不適當ナリト思惟セシニ今日ハ大ニ之ヲ改良シテ地質緻密ナルモ品質稍軟キハ需用者ニ於テモ衛生上ノ思想發達シタルト製造者亦此意嚮ヲ迎ヘテ怠ラサルノ致ス所ナラン其他配色ノ巧ミナルニ至リシハ明カニ染色術ノ進歩シタルト意匠圖案ニ於ケル注意ノ致ス所ニシテ前日ノ如ク決シテ色相ノ單調ナラサルヲ認ム又珍金絲ニ平金箔漆箔ヲ混用スルコト稍多キニ至リシハ一時忘失セラレントシタルヲ挽回シタルモノニシテ製作技術ノ上ヨリ大ニ喜フヘシ

終ニ價格ノ點ハ如何固ヨリ廣帶地ノ如キハ婦人服裝中ノ主要物タレハ價ノ貴賤ハ論スルニ暇ナク專ラ精美ヲ凝セハ足ルカ如シト雖モ亦一面ヨリ論スレハ日需ノ要品ナリ不幸本會ニ於テモ各出品者ハ

精美ヲ競フノ心深クシテ日常ノ實用品タル方面ニ於ケル注意ハ極メテ淺薄嚴格ニ云フ時ハ更ニ意ニ介セサルノ傾アリ今少シク價格恰當ノ品モ精巧美麗ノ逸品ト相並ヘテ社會各方面ノ需用ニ適スル如ク出品シタルランニハ利益多シト信ス人或ハ曰ハン日常ノ用品トシテハ既ニ博多、縹子、絹綿交織若クハ友禪等アルニ非サヤト然リ敢テ之ヲ否認セサルモ帶地トシテ其大體ヨリ虚心平氣ニ觀察ヲ下セハ少ク價ノ高キニ失スル嫌アルハ何人モ異論ナカルヘシ或人曰ク十年前倫敦ノ店頭ニ掲ケタル絹織物ノ價格モ今日掲ケル所モ同品同價敢テ更ハルコトナシ然ルニ原料工賃ノ騰貴ハ十年前ト霄壤ノ差アリト此言俄ニ信シ難シト雖モ味アリト謂フヘシ望ムラクハ將來益學理ノ應用ヲ盛ニシ技術ト經濟トノ調合融和一層宜シキヲ得ルニ至ランコトヲ需用ノ程度ヲ顧ミサル過度ノ高價ハ大ニ謹マサルヘカラス思フニ社會ノ常態ハ決シテ此ノ如キ高價品ノミヲ以テ満足セサルハ明カナリ徒ニ逸品ノミノ出陳ヲ競フハ未タ博覽會ノ趣旨ニ副ハサルニ非サヤ

胴裏地ハ桐生及足利ノ製品ニシテ元來海外輸出織物ノ組織ヨリ轉化シタルモノナレハ品質薄手ナルニ拘ラス緻密ニシテ良好實用ニ適セリ模様配色ニ至リテハ通常ニシテ特ニ記スヘキモノナキモ唯竹模様ニ暈襖ヲ應用シタルモノノ如キハ意匠斬新ニシテ一種ノ興味アリ世人ノ嗜好ヲ迎フルニ足レリト信ス

裂地ニ至リテハ錦、金襴、緞子等ヲ始メ綿錦ノ如キ總ヘテ是レ表具用又ハ囊物ノ材料ナレハ敢テ斬新ナルモノヲ見ス就中一二點金唐草寫ノ金版模様織物ハ近來製作ノ稀ナル織物ナルカ今回ノ出品ニ之ヲ見タルハ斯業ノ參考ニ資シタルモノト謂フヘシ唐織ハ能樂裝束用ニシテ又決シテ新規ナラサルモ近來之カ需用ノ少ク復興セルモノアルヲ認ムルナリ

紋織女帶地、胴裏地、裂地及室内裝飾用織物類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一三八	四五	一	一	七	九	八	二	四	三三	〇.六二







ス蓋シ當然ノ事ト謂フヘシ之ヲ各縣ニ別チテ批評スルコト左ノ如シ但シ關西及北陸地方ノ羽二重ニ就キテハ林審査官ノ報告ニ讓ル

福島縣 本縣ノ出品ハ品質精良ニシテ組織精練亦良好蓋シ輕目物ノ精粹タリ本縣ハ近年保護獎勵ヲ加ヘ工業試驗場ヲ設ケテ研究指導ニ任シ又縣立羽二重検査所ヲ設ケテ其取締ヲナシ産業組合ノ組織ヲ獎勵スル等其施設スル所多ク昨明治三十九年度ノ産額實ニ五百萬圓ニ達ス尙力織機ノ數既ニ二百餘臺ニシテ本年中ニ運轉スヘキモノ千臺ニ達セントス將來指導宜シキヲ得ハ其産額亦今日ニ倍蓰スルニ至ルヘシ

山形縣 本縣ノ出品ハ組織整練等未タ完カラスト雖モ同縣カ明治三十四年以來獎勵ヲ加ヘタルノ結果力織機ノ應用ハ本縣最モ盛ニシテ品質モ稍均一ニシテ羽前物ノ名高ク昨明治三十九年ヨリ縣立検査ヲ施行セリ尙後益取締ト獎勵トニ盡スアラハ他日福島縣ト共ニ東北ニ一雄鎮タルコト疑ナカラシ秋田縣 本縣ノ出品ハ原料組織等未タ幼稚ナリトス多大ノ勉勵ヲ要ス

宮城縣 本縣ノ出品ハ原料組織稍見ルヘシト雖モ整練宜シキヲ得本縣亦近年工業巡回教師ヲ置キテ專ラ指導ヲナシ又縣立検査ヲ行ヒ整精場ヲ起サシメテ精練費ヲ補助スル等指導獎勵ヲ怠ラス目下産額僅少ニシテ宮城羽二重ノ名譽ラスト雖モ當業者ノ熱心益堅クレハ他日大ニ發展スルニ至ラン

其二 北陸地方出品

報告員 審査官

林

精

一

今出品ニ關スル情況ヲ述フルニ先チ聊カ北陸三縣輸出羽二重大勢ニ就キ記スル所アラントス我邦輸出貿易上重要品ノ一タル羽二重カ海外ニ歡迎セラルル情況ハ之ヲ帝國貿易年表ニ見ルニ明治二十三年ノ頃ニハ僅々八十餘萬圓ニ過キサリシカ後五年ヲ經タル明治二十八年ニハ其額十倍シテ八百三十餘萬圓トナリ十年ヲ經過シタル明治三十三年ニハ其額二十一倍シテ一千七百四十餘萬圓ニ上リ明治三十八年ニハ三十五倍シテ二千八百餘萬圓ニ達シ昨三十九年度ハ更ニ増加ヲ示セリ而シテ本

年上半期ノ商況ハ頗ル沈靜ニシテ福井金澤ノ如キ本場ノ機業家ハ殆ト同盟休業ノ悲境ニ在リ之カ原因ニ就キテ未タ詳細ニ調査スルノ餘地ヲ有セスト雖モ絲價ノ暴騰ハ製品ノ價格ニ伴ハス敢テ需用ノ減退セルニ非スシテ供給者ノ不引合ニ在リ畢竟スルニ是レ一時ノ現象ニシテ販路ノ前途ハ頗ル洋々タリ然リト雖モ内ニ自ラ衛リ進ミテハ各種ノ經營ニ極力盡ス所ナクンハ自ラ福ヲ轉シテ災トナスモノ無キニ非ス否退キテ深ク省ミルトキハ現情ニ於テ既ニ寒心ニ堪ヘサルモノアリ

今各府縣ノ情態ニ就キテ之ヲ觀ルニ明治三十七年ハ時局ノ爲メ内地向絹織物ノ不況ニ反シ輸出羽二重ノ商況頗ル活潑ナリシヲ以テ相競フテ之カ試織ニ勤メ翌三十八年ニ於ケル統計ニ依レハ一道二府三十八縣ノ多キニ達シ全ク製産セサル地方ハ僅ニ一府五縣ニ過キサリ盛況ヲ現出セリ爾來其現況ヲ今ニ維持スルモノ多カラスト雖モ然モ其製産地ノ範圍漸ク増加ヲ示セルハ明カナリ是レ一方ニ於テ斯業ノ發展上喜フヘキ現象ナレトモ之カ爲メ益品質ノ統一ヲ缺クハ數ノ免レサル所ナリ加フルニ輸出羽二重ニ就キ最モ古キ歴史ヲ有スル所ノ福井縣カ近年甚シク分裂シテ重キハ二十目付前後ヨリ輕キハ金澤及川俣物ヲ製造シ尙川俣ニ似テ非ナル薄絹ノ産出少カラス七八年以前ニ於ケル七十餘萬疋ノ産出ハ六付以上十付内外ノ羽二重ト薄絹ノ數種ニ止マリシカ近時ニ於ケル八十萬疋弱ノ製品ハ實ニ數十種ニ分裂セララルニ至レリ有力ナル一買繼商ノ語ル所ニ依レハ此頃大口注文ノ來ルニ際シ之ヲ福井ニ求ムルモ同一品種ノモノヲ蒐集スルコト頗ル困難ナルヲ以テ注文先ニ對シ成ルヘク之ヲ避ケ且勸誘セサル手段ヲ採リ其結果金澤物ヲ以テ之ヲ補フノ傾向トナレリ隨ヒテ兩縣ニ入り込ム注文歩合ハ明治三十七年以前ニ在リテハ福井物ノ七ニ對シ金澤物三ノ比ニ居リシカ翌三十八年ニハ六ト四トナリ昨三十九年度ニハ五ト五ノ比ヲ示シ本年上半年ハ英國向ノ注文少カリシニモ因ルヘシト雖モ前者ノ三ニ對シ後者ニ七ノ比ヲ見ルニ至レリト云フ是レ豈深ク注目スヘキ現象ニ非スヤ今明治三十三年以降八ヶ年間ニ於ケル北陸三縣ノ年産額ヲ對比スレハ左表ノ如シ



年次	石川縣	福井縣	富山縣
明治三十二年	羽二重 一八三、〇〇一	羽二重 五二四、一九二	羽二重 一〇八、四四七
同 三十三年	一九九、八〇四	五〇〇、三二〇	一〇五、七一二
同 三十四年	二三三、六五五	六五一、五一六	八二、一九二
同 三十五年	三七四、二二六	六五〇、四一四	一九二、〇二二
同 三十六年	四一七、〇九四	六四七、七一〇	六〇、四〇八
同 三十七年	七八六、七五五	九八八、七六〇	一一一、五三七
同 三十八年	六〇八、八〇九	六四一、四九三	一〇三、四五〇
同 三十九年	六九五、七八一	六八七、八七五	一二三、三四八

此表ニ依レハ福井ハ羽二重ニ三割ヲ増シ薄絹ニ於テ半減セリ富山ハ殆ト増減ナク獨リ石川ハ四倍近クノ増加ヲ示セリ其發達ノ跡驚クヘシ而シテ本年度上半期ハ疋數金額共ニ福井ヲ凌駕シタルカ如シ是本羽二重ノ需用減退シタル故カ否英國ノ如キハ大ニ其需用アリ米佛亦多少ノ賣行キ無キニ非ス然ラハ福井機業家ノ技術劣レルカ否各種ノ製品ニ應シ得ルハ即チ其技ノ進歩ヲ示セルナリ然ラハ粗製濫造ノ弊多キカ或ハ其品種ノ雜駁ナル丈此弊ニ陥リ易カラシ然レトモ金澤物亦未タ全ク此事ナキヲ保シ難シ然ラハ縣ノ獎勵又ハ組合監督ニ優劣アルカ否只縣立検査所ニ比シ組合立検査所ハ多少統一ヲ缺クノ場合ナキニシモ非ス其他精練ノ不統一ナルコト福井ハ全國ニ冠タリ然リト雖モ未タ以テ之カ原因ト認メ難シ乃チ今日ノ情態ニ推移シタル大原因カ實ニ品種ノ分裂ニ基クトセハ福井縣ノ當業者タル者大ニ猛省スル所ナカルヘケンヤ果シテ然ラハ之カ救濟策ハ如何實ニ製産者ノ協同經營ヲナスコト是ナリ然ルニ協同經營ノ事ハ從來政府及地方廳ノ勸誘獎勵久シテ未タ其實効舉ラサルナリ原絲織方精練仕上等ノ缺點モ協同ニ依リ改良シ易ク工賃價格ノ競争ヨリ生スル粗濫ノ弊モ之ニ依リ遞減シ得ヘク經濟情態ノ不健全モ之ニ依リ救濟シ得ヘク製産費ノ節減モ之ニ依リ囑望シ得ヘク取引

ノ圓滿商品ノ信用モ之ニ依リ期待シ得ヘシ嗚呼是レ協同ナル哉實ニ是レ協同ナル哉然レトモ茲ニ述フル所ノ協同トハ大工場大會社ノ組織ヲ意味スルニ非ス將來ニハ固ヨリ其必要アリト雖モ今直ニ大規模的組織ヲ強制スルカ如キハ未タ必シモ俄カニ首肯スル能ハサルナリ即チ今日ノ情態ヨリスレハ先ツ彼ノ産業組合法ニ基ク原絲ノ協同購入或ハ製品ノ協同販賣ヲ督勵スヘキニ在リ從來多少ノ力設ケ無キニシモ非サリシト雖モ其實際ニ於テ運用ノ妙ヲ得タルモノ稀ニシテ且未タ一般ニ行ハレサルハ頗ル遺憾ナリ冀クハ其組織ヲ完全ニシテ運用活動ヲ完フスル範圍ニ於テ成ルヘク大ナラシムルヲ要スル意ナリ夫レ然リ福井縣ノ如キ今日ノ情態ニ放任セハ假令力織機ノ應用ヲ勸誘スルモ此處ニ二十臺彼處ニ五十臺ノ小工場各自分立シテ製品ノ不統一、經濟情態ノ不健全、價格競争ノ弊害ハ決シテ除去スヘカラス然レトモ之ヲ統フルニ協同購入、協同販賣、或ハ協同下拵等ヲ以テセハ庶幾クハ之ヲ救濟スルコトヲ得ンカ

富山縣ハ福島、庄内地方ニ比シ發達遲々タル感アリ果シテ本縣羽二重ハ將來發達ノ餘地ナキカ否只從來營業上ノ活氣稍乏シキノ傾ナキニハ非サリシカ同縣羽二重ハ原絲ノ佳良ナルヲ以テ常ニ三縣中ノ上位ニ在リ而シテ價格割合ニ廉ナリト云フ此際奮發一番品質ノ一定、組織ノ改善ヲ圖リ且此際力織機ノ應用ニ力ヲ致スコト甚々急務ナラン

石川縣ハ其進歩前陳ノ如ク加フルニ近時検査及精練ノ設備等ニ一段ノ改良ヲ加フル所アリシハ喜フヘシ然レトモ所謂油斷大敵ナリ進ミテ營業組織ノ改善ヲ圖リ協同一致ノ基礎ヲ強固ニシ品質ノ不良ニ陥ラサランコトヲ期スヘシ今尙工場ノ弊若クハ粗製ノ醜聞時ニ出ツルカ如キハ此際務メテ防止スヘキナリ

以上各縣ノ情況夫レ此ノ如シ而シテ各地ニ共通セル技術上ノ重ナル缺點ヲ列舉スレハ大要左ノ如シ

- 一、織耳ノ粗惡ナルコト
- 一、織幅ノ不揃ナルコト
- 一、原絲ノ不揃ナルコト
- 一、組織ノ均整ヲ缺クコト
- 一、練白ノ不揃ナルコト



其他尙細カニ指摘スレハ前記以外ニモ缺點少カラス而シテ其改良ニ關シテハ實ニ十年一日ノ如ク喋々シテ今尙實績ヲ見ル能ハス是レ敢テ學者ノ説明ヲ待タス當業者自ラ既ニ已ニ其方法ヲ熟知セリ知リテ之ヲ爲ササルナリ否爲ササルニ非ス營業組織ノ不完全ト公德ノ缺乏トハ之ヲ爲ス能ハサルナリ豈慨歎ノ至リナラスヤ更ニ本業取引上ノ缺點ニ就キ指摘スレハ左ノ如シ

- 一、等級商標ノ信用セラレサルコト
- 一、記入量目ノ信用セラレサルコト
- 一、見本賣買ヲ行フ能ハサルコト
- 一、價格ノ變動甚シキコト

是亦茲ニ詳論スルノ要ナク是等缺點カ實ニ本業取引上ノ手數ヲ繁雜ナラシムル原因ニシテ其間ニ於ケル當業者ノ不利枚擧ニ違アラス之カ救済策ハ之ヲ要スルニ全國検査法ヲ劃一スルニ在リ検査ニシテ完全嚴密ニ行ハルレハ其弊ヲ改メ得ヘシ之ヲナスニハ現在ノ検査法ニ改良ヲ加ヘ尙及ハサル場合ハ官立検査所ヲ設ケテ之カ統一ヲ圖ルノ順序ニヨルコト適當ノ措置ナラン

末項記載セシ價格變動ノ弊ニ至リテハ經濟機關ノ不備ナルニ基キ前陳ノ協同經營ハ以テ幾分カ之ヲ防クニ足ルハ明カナリ然レトモ尙此點ニ關スル一ノ主因ハ本邦營業者カ海外ノ事情ニ通セサルニ在リ之カ爲メ徒ニ風聲鶴唳ニ駭カサレ其結果目前ノ利ヲ賭テ輕卒ニ種類ヲ變更シ或ハ製品ノ投ケ賣ヲ敢テシ自ラ悲境ニ陥ル場合些ナカラス不安ノ念ハ持久ノ策ヲ講スルノ餘地ナシ宜シク同業組合聯合會ハ事業ヲ擴張シ海外各需用地ニ調査委員ヲ常置シ以テ市場ノ狀況、變遷、批評等ヲ迅速且明確ニ報告スルノ要アルト同時ニ政府モ亦其道ニ通曉セル技術官ヲ派遣スルハ實ニ焦眉ノ急務ナリトス

輸出向白絹類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	五	二									
京都府	二〇	三			一					一	〇.三三
神奈川縣	七	二									〇.五〇
埼玉縣	一	一									

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
群馬縣	五	四									
静岡縣	二	一									
宮城縣	三	二									
福島縣	一〇	一									
山形縣	六	三									
秋田縣	二	一									
福井縣	五	三									
石川縣	五	一									
富山縣	一七	二									
計	八八	二六			二					四	八〇.三一

第十章 タフタ、婦人洋服地、リボン類

報告員 審査官 河口 孝

本類ノ出品ハ東京、京都、群馬、栃木、山形ノ二府三縣ニ涉リ何レモ輸出品又ハ輸入防遏品ニシテ本邦ノ絹業界ニ於テ重要ナル位置ヲ占ムルモノナルニ其出品意外ニ少カリシハ遺憾トスル所ナリ

「タフタ」「タフタ」ハ地方ニヨリ之ヲ「タフタ」及「薄琥珀」ノ二種ニ區別セルモ茲ニハ便宜上之ヲ一括シテ「タフタ」名稱ノ下ニ論評セントス其出品ヲ製産地ニ依リテ區別スレハ桐生、米澤輸出織物模範工場、東京（豐玉織物合資會社）ニシテ東京府商人ノ出品モ亦米澤及桐生製ノモノナリ「タフタ」ノ製造ハ近年印度輸出ノ旺盛ト共ニ大ニ發達シ其製作技術ニ於テモ進歩ノ見ルヘキモノアリト雖モ尙改良ヲ要スル點少シトセス概シテ整理ハ其當ヲ得ス「ロール」仕上ノ際壓縮強キニ過クル爲メニヤ布ノ畦ヲ潰シ且光澤ヲ害シ品質ヲ損セルモノ多シ又一般ニ摩擦整理ヲ施シタルモノナシ故ヲ以テ經絲及緯絲ノ並列及交叉ノ不齊ハ矯正セラレサルナリ從ヒテ布面ハ整齊ナラスシテ外見ノ美ヲ損スルノ缺點アリ「タフタ」ノ整理ニ於テハ摩擦整理カ主要ナル工程タルニモ拘ラス當業者カ之ヲ等閑ニ附シテ顧ミサルハ甚タ怪訝



ニ堪ヘタル所ナリ近時絹織物整理改良ノ聲漸ク大ナラントスルニ當リ摩擦整理ノ如キハ最モ其施設ヲ盛ナラシメンコトヲ希望シテ止マサルナリ而シテ「ダフタ」ハ完全ナル摩擦整理ヲ施スコトヲ得ハ「ロ」ル仕上ノ如キハ殆ト必要ナキカ或ハ極メテ輕ク施セハ已ニ充分ナルモノナリ即チ摩擦整理ヲ施シタル後少シク蒸氣ヲ吹キ掛ケ厚紙ヲ間ニ挟ミツツ巻キ取ルカ或ハ仕上糊ヲ要スルモノナルトキハ霧吹装置ニテ極メテ薄ク糊ヲ施シテ乾シ豫メ熱シタル厚紙ト共ニ巻キ取ルハ「ダフタ」ニ於ケル普通ノ整理法ナリ然ルニ本邦ノ現狀ハ前記ノ如ク「ロール」仕上ヲ餘リニ強ク施シ却リテ品質ヲ損スル如キハ今後大ニ改良ヲ要スルナリ此他原絲ノ選擇及機具ノ改良ニ注意シ出來得ル限リ平ニシテ斑ナキ織物ヲ作ル事ニ勉メサルヘカラス又一般ニ絲織キノ際結目ノ附近ヲ指頭ニテ汚シタル箇所又ハ他ノ小纖維カ絲ニ附着シテ其儘織リ込マレ居ルモノアリ山形縣ノ出品ニ於テ特ニ其多キヲ認メタリ薄色ノ無地「ダフタ」ニ於テハ是等ノ缺點ハ特ニ能ク布面ニ表レ其品質ヲ損スルヲ以テ製織又ハ下拵ノ際工女ニ充分ノ注意ヲ與ヘ手指ヲ清潔ニ保タシメ機械器具及工場全部ノ掃除ヲ充分ニ爲シ塵芥又ハ小纖維ノ飛散シテ絲ニ附着セサル様注意スヘシ洋傘地ノ條下ニ於テ述ヘタルカ如ク本邦絹織物ノ製造ハ歐米諸國ニ比シ凡テノ點ニ於テ不注意ナルノ感アリ特ニ無地「ダフタ」如ク飾リナキ織物ノ製造ニ於テハ極メテ些細ノ缺點モ目ニ着キ易キカ故ニ製造ノ際ニハ格段ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス又本邦ノ「ダフタ」ハ歐米ノモノニ比シ手觸リ柔カニシテ「ダフタ」ノ特色タル紙ノ如キ味ニ於テ缺クル所アルカ如シ當業者ノ語ル所ニ依レハ印度向トシテハ敢テ大ナル差支ヘナシト雖モ歐米向ノモノニ至リテハ彼ノ地ニ於テ製造セラレルモノト同様ノ味ヲ有セシメサレハ競争上甚タ困難ナラン是レ實ニ研究ヲ要スルナリ歐米ニ於ケル絹織物特ニ「ダフタ」ノ增量カ盛ニ行ハルルハ良ク人ノ知ル所ナリ本邦ノ當業者ハ安ニ此惡習ヲ踏襲スルノ舉ヲ敢テスルコトナク良ク其利害ヲ考ヘ歐米ノ絹業界ニ於ケル過度ノ增量カ現今需用者ヨリ如何ナル訴ヲ受ケツツアルカ及製造者モ亦其弊ヲ覺リ增量制限ヲ志スニ至レル事實等ヲ熟慮シ慎重ノ研究ヲナサンコトヲ望ム

婦人洋服地 本品中ニハ紋琥珀紋「ダフタ」紋縞子紋緞子紋縞等ノ輸出向紋織物ヲ包含セリ東京府ノ出品ハ京都及甲州産ニ係リ京都産ノモノハ同地織物株式會社ノ製造ニ係レリ其品質佳良ニシテ意匠モ亦斬新ナリト雖モ同社カ自ラ出品シタルモノハ意匠ニ於テ劣リ出品ニ甚タ注意ヲ拂ハサリシモノノ如シ甲州産ノモノハ製織及意匠ニ於テ尙改良ヲ要スル點多シ群馬縣ノ出品中ニハ品位優良ニシテ外國製品ヲ凌クニ足ルモノ二三アリシカ又中ニハ製造粗雜ニシテ且不注意ナルモノアルヲ見タリ例ヘハボカシ絲ノ配列無雜作ナルコト又ハ紋疵ノ多キカ如キ是ナリ今後ノ注意ヲ要ス栃木縣ノ出品ハ概シテ佳良ニシテ解織ノ應用大ニ進歩シ技甚タ巧妙ナルヲ見タリ又出品中模様ニ金絲ノ縫ヲ處々ニ挿ミタルモノアリシカ意匠斬新優雅ナルヲ覺ヘ共ニ大ニ賞賛ノ價値アルヲ認メタリ之ヲ要スルニ前記各種ノ輸出織物ノ製造ハ近年大ニ進歩シタルノミナラス其基礎モ亦確立スルニ至リタルハ甚タ喜フヘシ機械ノ應用モ漸々ニ發達シ準備工程ノ如キハ大ナル製造家ハ概ネ機械的ニ之ヲ營ムノ有様トナレリ然レトモ本邦輸出織物ヲシテ歐米ノ市場ニ於テ各國ノ製品ト競争セシムルニハ製作技術上尙足ラサル所アルヲ覺ユルナリ當業者ハ小成ニ安ンセス奮勵事ニ當リ以テ大成ヲ期スルノ覺悟ナカルヘカラス

「リボン」本邦ニ於ケル「リボン」ノ需用ハ近年著ク發達シタルト共ニ其製造モ亦大ニ進歩セリ東京府ノ出品中其組織意匠等新規ニシテ時好ニ投シ整理モ亦佳良ニシテ外國品ニ匹儔スルニ足リ綬用「リボン」ニ於テモ亦其技大ニ見ルヘキモノアリタリ然レトモ又他ニ技術ノ拙劣ナルモノナキニ非ス京都及桐生ノ出品ハ技術尙幼稚ニシテ耳ノ整ハサルコト及整理ノ惡シキ等改良ヲ要スヘキモノ多キヲ見タリ「リボン」ノ需用ハ本邦ニ於テ日ニ益多キヲ加フルノミナラス清國ニ於ケル需用ハ甚タ多クシテ歐洲諸國ヨリ年々同國ニ向ヒテ輸出スル額ハ夥シキモノナリ故ニ本邦ノ「リボン」業ヲシテ將來清國市場ニ於テ歐洲諸國ト競争シ得ルマテニ發達セシムルハ國家經濟上最モ必要ニシテ且大ニ有望ナルコトナリ近時歐洲ノ「リボン」業ヲ見ルニ電氣動力ヲ家内工業ニ應用スルコトニ依リ工場組織ト競争ヲ維持シ得



ルニ至レルカ如シ蓋シ「リボン」織機ハ其構造動力ヲ應用スルニ最モ便利ナルヲ以テ甚シク其構造ヲ變  
 スルコトナクシテ手力ニ依リタルモノヲ機械力ニテ運轉セシムルヲ得ルナリ本邦ノ機業地ニシテ電  
 氣動力ヲ得易キ地方例ヘハ甲州ノ如キハ電氣動力ヲ應用スル家内の「リボン」業ノ企畫ヲナスニ於テハ  
 其成功ヲ期スルコト蓋シ難事ニ非サルヘシ之カ模範トシテハ佛國「サンテチエン」瑞西「バーゼル」地方ノ  
 「リボン」業ノ狀況ヲ調査シ以テ適當ナル經營法ヲ案出スルコト可ナラン

タフタ、婦人洋服地、リボン類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一二三	六	—	—	—	—	—	—	—	二	〇.三三
京都府	二六	二	—	—	—	—	—	—	—	—	〇.五〇
群馬縣	三五	一二	—	—	—	—	—	—	—	—	〇.五〇
栃木縣	二〇	六	—	—	—	—	—	—	—	—	〇.五〇
山形縣	四	一	—	—	—	—	—	—	—	—	〇.〇〇
計	二〇八	二七	—	—	—	—	—	—	—	一五	〇.五五

第十一章 絹綿交織類

第一節 交織縐子

報告員 審査官 岩下龍太郎

交織縐子ノ出品ハ多クハ黒觀光縐子三丈三尺物ニシテ茶、鴉ノ如キ色物ハ其數少ク前者ハ後者ヨリ品  
 質優等ナリトス力織機製ニ屬スル都縐子、九重縐子及織姫縐子ハ品位特ニ優リ桐生産輸出向廣縐子亦  
 精巧ナリ其他手織機製九寸幅ノモノ概シテ品質佳良ナルハ練磨ノ功ヲ積ミシニ因ルト雖モ其今日ア  
 ル原因ノ一ハ機械撚絲ノ供給増加シ其應用範圍ノ擴張セラレシニ歸セスンハアラス綿緯カ耳端ニ於  
 テ小サキ輪狀ヲナシ一見不快ノ感ヲ抱カシムルモノノ如キハ斯業者ニ對シ大ニ改良ヲ促スモノナリ  
 東京府 本府ノ出品ハ東京市商店ノ出品ニ係リ重ニ桐生産觀光縐子ヲ陳列セリ就中品質良好ナルモ

ノ數點アルヲ見タリ

京都府 本府ノ出品中特ニ優秀ナルモノヲ京都織物株式會社ノ都縐子及九重縐子トス色澤、趣味、耳具  
 合等要件ニ適ヒ價額亦相當單ニ同府出品中ノ逸品タルノミナラス此類全部ヲ通シテ卓絶シタルモノ  
 ナリ近來同社ハ支那向縐子ノ製造ニ熱誠ヲ注ケルニ拘ラス餘力能ク此良品ヲ製スルハ感賞スヘシ  
 群馬縣 本縣ノ出品ヲ工業組織上ヨリ大別スレハ機械的組織ノ製品、半機械的組織ノ製品及手巧的組  
 織ノ製品ノ三種トナル

機械的組織ノモノニ於テハ絲綫管卷、整經等ノ補助工程ヲ行フニ洋式機械ヲ用キ製織スルニモ力織機  
 ヲ用フルモノニシテ現時之ヲ實行スルハ桐生織物株式會社アルノミ其製品ハ即チ織姫縐子ナリ

半機械的組織ト名ツケシハ補助工程ニ洋式機械ヲ使用シ機臺ニハ力織機ヲ用キサルモノヲ意味ス同  
 縣山田郡廣澤村機業家飯塚春太郎ハ夙ニ機械的組織カ製品ニ及ホス効果ヲ確信シ先ツ以テ工場ノ組  
 織ヲ所謂半機械的トナシ良質ノ「タフタ」類ヲ製出シテ好評ヲ得タリシカ今回出品セシ輸出向廣幅觀光  
 縐子ハ實ニ此組織ノ下ニ製造セシモノナリ

手巧的組織ニ於テハ補助工程ニ洋式機械ヲ用キス手織機製織ニモ手織機ヲ用ユルモノニシテ多クハ  
 本機屋カ原料ヲ購入シ精練染色整經等ノ工程ヲ終リシ後之ヲ賃業者ニ托シテ織ラシメ製織ノ上ハ自  
 家或ハ專業者ニ托シテ整理ヲナシ商品トス即チ手巧的賃機組織ニ依レルモノナリ

出品ノ優等ナルモノハ桐生織物株式會社ノ織姫縐子、飯塚春太郎ノ輸出向觀光縐子等ニシテ手巧的製  
 品中ニモ品質佳良ナルモノ數點ヲ見タリ然レトモ其全部ヲ通シテ批評スレハ耳端不體裁ニシテ緯糸  
 輪狀ヲ呈シ外觀ノ美ヲ缺キタルモノ多カリシハ特ニ改善ヲ要ス又整理ノ不完全ナルモノ又ハ耳絲緊  
 張ノ結果縐ヲ生シタルモノアリ是亦將來ノ注意ヲ要ス然レトモ概シテ品位ノ進歩シタルハ喜フヘキ  
 現象ナリトス而シテ手巧的製品ニ於テ比較的進歩ノ著カリシハ細諸撚絲ノ供給豊富トナリ經絲向ト  
 シテ之ヲ使用シ易キ機會ヲ斯業家カ得ルニ至リシハ其主因ノ一トシテ指ヲ屈セサル得ス即チ擧ケテ



之ヲ模範工場桐生撚絲合資會社ノ興起ニ歸スルニ躊躇セサルナリ  
 凡ソ黑觀光縐子ニ付着眼スヘキ要點種々アリ而シテ製造家ノ常ニ苦心スル一ハ經緯色相ノノ調和ニ  
 シテ事容易ニ似テ其實至難ナリ絹經青味黒ナレハ綿緯ヲ赤味黒トナシ整理後ニ於ケル色相ノ變化ヲ  
 モ豫想シテ之ヲ妙合セシムルニ在リ整理品表面ノ色相青味ヲ含ム黒ナレハ光澤アレトモ濃度ヲ缺キ  
 赤味ヲ帶フレハ濃ク見ユレトモ光澤ニ乏シキ嫌アリ故ニ赤味ナク又青味モナク所謂烏ノ濡羽色コソ  
 希望スル所ナレ此ノ如キ經緯色相綜合ニ因ラスンハ得ルコト能ハス此點ハ常ニ口ニスル所ニシテ其  
 實績ヲ擧クルハ困難ナルニ今回ノ出品中調和其度ヲ得タルモノ少カラサリシハ經驗ノ功勞ヲ賞スル  
 ニ餘リアリ

經緯色相ノ關係光澤ノ良否立筋ノ有無整理ノ趣味等ニ就キテハ概シテ成績佳良ナレトモ仕上ニヨリ  
 手織機製縐子緯絲ノ延ヒテ生スル耳端ノ不體裁ニ至リテハ前説ノ如ク反省ヲ促スコト切ナリ緯絲ノ  
 毛伏セニ用キル糊料ノ強弱其度ニ適セス仕上ケタル緯絲ノ質堅硬トナリ隨ヒテ製織ノ際耳端ニ於テ  
 輪狀ヲ呈スルナリ今糊料ノ調製ヲ研究シ毛伏セノ目的ヲ達セシムルト同時ニ緯絲ニ柔順性ヲ與ヘナ  
 ハ耳端ニ準シテ織込マレ此缺點ヲ除去スルコトヲ得ン此點大ニ考究ヲ要ス

第二節 後染縐子

報告員 審査官 岩 下 龍 太 郎

後染縐子トハ生織ノ絹綿交織縐子ニシテ製織後精練染色及整理ノ加工ヲナシ商品トスルモノニシテ  
 主トシテ輸出向ナリ是レ其名稱ノ基ツク所ニシテ近年京都織物株式會社及桐生織物株式會社主トシ  
 テ之カ製造ヲ爲ス昨春印度向「タフタ」ノ不況ヲ呈スルヤ後染縐子之ニ代ハリ愈盛況トナレリ  
 出品ハ東京府及群馬縣ノミニシテ京都府特ニ京都織物株式會社ノ出品ヲ見サルハ遺憾ナリキ出品中  
 絹經ト綿緯トノ色相其妙合ヲ缺キ緯絲ノ濃度經ヨリ淡ク地割レヲ生シ整理具合不良ナルモノナキニ  
 非スト雖モ概シテ良品多キハ喜悅ニ堪ヘス

東京府 本府ノ出品トシテハ會和嘉一郎ノ富貴緞子アルノミ品質佳良稱揚スヘシ  
 群馬縣 本縣ノ出品中其一半ハ桐生織物株式會社ノ出陳ニ係ルモノニシテ力織機製他ノ一半ハ個人  
 的機業家ノ出品ナリ桐生織物株式會社ノ出品ハ原料ノ選擇染色ノ具合整理ノ趣味等頗ル優等ナリ其  
 他ノ出品中亦二三ノ逸品ナキニ非ス

供給需用ニ超過スレハ其價額低落スルハ自然ノ理勢ニシテ當業者ハ平昔之カ調和ニ注意スルヲ要ス  
 良品供給ノ超過ハ或程度迄憂フルニ足ラスト雖モ粗製品ノ濫造セララルハ顧慮スヘキ所ニシテ警戒  
 ヲ加フヘキナリ輸出織物ノ盛衰興廢ハ製産ノ多寡工業道德ノ如何品質ノ善惡品質ト價格トノ關係需  
 用先流行ノ變遷等ニ因ルハ勿論ニシテ殊ニ粗製ト濫造トハ影響ヲ及ホスコト極メテ多シ單ニ良品ヲ  
 製出スルノミヲ以テ能事トスルニ非サレトモ粗製濫造ヲ防キ根本ヲ強固ニスルコトナクハ其他ノ手  
 段之ヲ施スモ得テ隆盛ノ實ヲ擧クルコト能ハサルナリ  
 後染縐子ハ經トシテ生絲ヲ使用スルモノナレハ若シ粗惡ノ原料ナレハ製織上非常ノ不利益ヲ招クカ  
 爲メ自然經絲ニハ良質ノ原料ヲ選擇スルヲ普通トス然ルニ緯絲ニ至リテハ往々注意ヲ怠ル者アリ時  
 トシテハ異種或ハ粗惡ナル綿絲ヲ混織シ染色後横段ヲ生スルカ如キ不結果ヲ來スコト之ナキニ非ス  
 要スルニ原料ノ精選經絲ノ密度等ハ製織上第一着ニ注意スヘキ要件ナリ若シ不幸ニシテ其當ヲ失ス  
 レハ如何ニ精練染色ニ意ヲ用キ如何ニ整理ニ心ヲ盡スモ結局粗惡ノ譏ヲ招キ少數ノ粗品ハ大都良品  
 ノ名聲ヲ害スルニ至ラン當業者常ニ製造上ノ注意ニ就キテ怠リナカラントヲ望ム

第三節 綿縐珍類

報告員 審査官 岩 下 龍 太 郎

價額低廉ニシテ中流以下ノ嗜好ニ適スル綿縐珍類ノ出品ハ特リ群馬縣ニ於テ之ヲ見ル而シテ其品質  
 模様等佳良ナルモノナキニ非スト雖モ此種ノ現況ヲ代表スルニ足ルモノナキハ遺憾ナリ近來桐生地  
 方内國向織物界ニハ高等美術品少ク帶地類トシテモ本縐珍ヨリ綿縐珍ニ移リシ有様ナリ由來美術織



物ニ於テハ本邦中獨特ノ妙技ヲ有スル京都ニ之カ製造ヲ托シ生産力ノ一部ヲ輸出織物ニ盡シツツアル桐生カ一部ヲ内地向ニ注ク時ニ當リ日常美術品ノ製織ニ着眼セシハ計ノ得タルモノナラン凡ソ織物ノ價值ハ原料ノ高下ヲ以テ決スヘキニ非ス綿緞珍トシテ性質完備セハ之ヲ精巧品トシテ珍重スヘキナリ當業者綿入タル故ヲ以テ輕々ニ附シ去ルナク常ニ之カ改善ニ奮勉センコトヲ熱望シテ止マズ

### 第四節 交織御召類

報告員 審査官 近藤 徳太郎

絹綿交織御召縮緬類ノ出品ハ栃木縣最モ多ク之ニ次ク東京府トス然レトモ東京府ニ於ケル織物商ノ出品ニ係ルモノハ其製産地重ニ栃木縣ニシテ稀ニ群馬縣製品ヲ交ユルニ過キス要スルニ此種織物ノ主産地ハ栃木縣足利ニシテ品質佳良ナルモノ同地ノ品ニ多キヲ認メタリ  
絹綿交織御召類ニハ數種アリ綿緯御召綿壁緯御召等ハ皆絹經綿緯ノ製品ニシテ交織御召中ノ優等品ナリ其他綿經ニ絹ノ縞絲ノミヲ加ヘタルモノモ少カラズ好評御召九重御召日ノ出御召漣御召靜浪御召楊柳御召等ノ名稱ヲ附スルモノ是ナリ固ヨリ經絲ニ浪スル絹絲ノ分量ニ異同アレトモ之ヲ要スルニ其名優美ナルモノハ自ラ顧客ノ耳ヲ喜ハシ好奇心ヲ満足セシムルノ効力アレハ戸々競フテ奇抜ノ命名ヲ下シ日新又日新底止スル所ナシ而シテ其組織ニ至リテハ更ニ變ルコトナク孰レモ交織御召縮緬ノ範圍ヲ出テス名ハ假ニシテ決シテ其實ヲ現サスト雖モ強ヒテ之カ區別ヲ索ムレハ各製造家ニ依リテ多少製品上ニ現ルル特色ヲ有スルノミ此製品ノ特色ナルモノカ亦一方ニ於テ製作ノ巧拙ヲ判斷セシムル唯一ノ標準ナレハ從ヒテ顧客ノ嗜好需用ヲ左右スル主因トナルナリ  
就中足利ノ交織御召ハ其創製極メテ古ク維新前外國綿絲ノ橫濱ニ始メテ輸入セラレタル時ニ興リ爾來時好ノ變遷ニ伴ヒテ一盛一衰ハ免レサルモ近ク風通織流行ノ時ニ於テハ交織風通御召ト變化シ前年來御召縮緬ノ流行恢復ノ徵アルヤ忽チ新御召縮緬ノ名ヲ以テ再生シ遂ニ今日ノ如ク交織御召トナリテ世上ニ行ハレ目下其勢ヲ逞フス是ノ如ク其組織製作ハ些々タル變更ニ過キスト雖モ市場ノ組織

アルカ爲メ世ノ嗜好ヲ察スルコト早ク機敏ノ變化ヲ製品ノ上ニ現スハ足利ノ最モ得意トセルコトハ人ノ既ニ知ル所ナリ今回ノ出品ヲ見ルニ數年以來其製作一步ヲ進メタルノ觀アリテ流石ニ足利ノ足利タル所以ヲ想ハシム而シテ其進歩ヲ導キシ所ノ原因種々アレトモ最モ著キ近因ハ曩ニ農商務省貸下ノ撚絲機械ヲ以テ模範工場ヲ設立シタルコト興リテ大ニ力アリト信ス當初諸撚絲ノ如キハ專ラ輸出織物製造ノ需用ニ應スル目的ニ過キサリシモ内地向織物製造者モ亦之ヲ用キテ効能空シカラサルヲ知ルヤ靡然皆競フテ之ヲ利用スルニ至リ一面ニハ絲操機械緯卷整經ニ至ルマテ海外ニ於ケル斬新ノ式ニ倣フテ改良シ整理ニ於テモ種々新工風ヲ擬ラシタル結果昔日ノ如ク經絲ニ糊ヲ施スノ必要ヲ感セス大ニ絹絲天然ノ美ヲ發揮スルコトヲ得タルト同時ニ綿絲モ亦「マーセライズ」製ヲ用フル如キ其原質及製作ノ改善ハ忽チ品位ヲ高メ殆ト本場御召ヲ壓倒スルノ勢アリ即チ外觀ノ美ニ加フルニ價格低廉ナレハ世上ノ需用増加シタルハ自然ノ數ナリトス昨明治三十九年度ノ産額五十九萬反此價格二百〇二萬一千餘圓ニ達シ其販路ハ全國ニ亘ルト雖モ尙輓近邦人ノ海外ニ移住スルモノ漸ク多キヲ加フル爲メ亦多少ノ輸出ヲナスニ至レリ製作上ノ改善ニ就キテハ既ニ前述セシカ如シ縞柄模様等ニ至リテハ種類甚タ多ク老幼貴賤社會ノ各階級ニ於ケル需用ヲ充タシ自然流行ノ大勢ヲ形造リ本場御召カ動モスレハ機先ヲ制セラレテ呆然タルハ獨リ價ノ低廉ナルノミニ非ス需給ノ權衡ニ於テ大ニ合理ノ生産力アレハナリ模様縞柄中最モ斬新ナルモノヲ舉クレハ「ホグシ」模様ノ御召ニシテ極メテ新意匠ノモノナリ精巧緻密ノ度未タ海外ノ捺染經琥珀類ノ程度ニ達セサルモ其雅趣ニ富ミテ日本服裝ニ適シタル所及本邦固有ノ形紙ノ利用ニ至リテハ大ニ見ルヘキモノアリ東京其他ヨリ出品シタル本御召中ニモ此種捺染經應用ノモノ一二ヲ見タルカ或ハ足利ヨリ材料ヲ輸入シテ製シタルモノナランヲ疑フ大形模様流行ノ今日「ホグシ」織ノ應用ハ頗ル時機ニ適シタル考案ニシテ尙發達ノ餘地充分ナレハ一層當業者ノ奮勵ヲ希望ス又楊柳ナルモノハ前年ニ於テハ機械的ニ直縱線ノ縞ヲ現シタルモノナルカ兩三年來亦斜線ニ現シタルモノアリ敢テ最新ト云フニ非サルモ亦一進歩タルヤ明カナリ



絹綿交織類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一八二	三三二	—	—	—	—	六	—	—	九	〇、二八
京都府	四一	四	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、五〇
新潟縣	六	五	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、二〇
群馬縣	一七八	六八	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、六四
栃木縣	一四四	五七	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、六〇
静岡縣	六	五	—	—	—	—	—	—	—	—	〇、六〇
計	五五七	一七一	—	—	六	二〇	三〇	三〇	—	九〇	〇、五二

第十二章 白綿布類

報告員 審査官 竹下直次郎

此種ニ屬スル出品ハ白木綿、天竺金巾、キヤラコ、雲齋、足袋底、綿帆布、タオル、敷布、綿レース、縞子、洋燈心等ナリ今各品種ニ就キテ批評セン

白木綿ハ手織機製ノモノ及器械織機製ノモノアリ品種ニ就キテモ各地方各、特長アリテ一定ナラス或ハ現今尙壁機ヲ用キテ手紡絲ヲ織込ムモノナキニ非サルモ今回ノ博覽會ハ汎ク是等ヲ網羅セサルヲ以テ其盛衰興亡ハ出品ニ依リテ窺知スル能ハス抑、白木綿ハ我邦織物界ノ一要素ニシテ海外輸出ノ途漸ク開ケ器械織ノ應用亦繁ヲ加フルノ好時期ニ在リ而シテ東京ハ白木綿ノ主産地ト云フニハ非サルモ一大集散地タルノ實ハ即チ之アリ平素此種ノ織物ノ取引ヲ盛ニ營ムモノ實ニ尠カラズ然ルニ出品寥寥タリト云フニ至リテハ如何ニモ物足ラヌ心地ナキ能ハス蓋シ白木綿タル外觀粗野ニシテ變化ナク出品ノ多少ニ拘ラス普通觀客ノ注意ヲ惹ク能ハサルヲ以テノ故ナランカ然リト雖モ苟クモ其出品單ニ受賞ヲ唯一ノ目的トスルニ非サルヨリハ其出品點數ニ於テ其裝飾ニ於テ將又出品解説ニ於テ今少シク熱心懇切ナランコトヲ望マサルヘカラス天竺金巾、キヤラコ、雲齋等ノ出品亦甚タ少シ

富士瓦斯紡績會社ハ雲齋、金巾、厚織木綿、キヤラコ、シーチング等各種ヲ出品セリ同社ハ創業以來爰ニ年アリ自家紡出ノ原絲ヲ以テ製織シ紡績ノ進歩ト相待チテ製品益、精巧ヲ加ヘ戰後産額ヲ増大シ社運益、隆盛ニ向ヘリ今回ノ出品中廣幅金巾最モ好評ナリ雲齋ハ綾目充分ニ立タス絲班綿緯アリ將來一段ノ改良ヲ望ム

三重紡績會社ハ關西地方ニ於ケル同業會社ヲ併合シ社運益、盛大ヲ極メツツアリ然レトモ今回ノ出品牡丹印天竺布僅々二十嗎ノミニシテ陳列宜シキヲ得ス品質ハ絲班綿緯アリ緯絲ノ打込ミ屈曲シ平素吾人ノ期待セシ三重紡績ヲ代表スルニ足ルヘキ出品トハ思ハレス

東京府薩摩治兵衛及愛知縣水野文治郎出品ノ白木綿ハ同一工場ニ於テ豊田式織機ニテ製織セラレタルモノニシテ品質大ニ嘉スヘシ經絲ニ撚絲ヲ用キタル分ハ製織極メテ良好ナルモ漂白粉ノ臭氣殘留スルヤラ感セリ

奈良縣ハ木綿同業組合ノ名ヲ以テ小幅厚織及手拭地ヲ出品セリ厚織ハ朝鮮向トシテ新規ノモノナレトモ下拵不良且絲班アリ其三十八年豊田式織機ヲ用キテ製シタルモノハ成績稍、良好ナリ大和木綿ハ縣下特有物産ノ一ニシテ年額百萬圓以上アリ品質概シテ良好ト云フニ非サルモ裏地手拭地トシテ京阪地方ニ需用アリ其品種亦雜多ナレトモ組合ノ規約能ク維持セラル將來輸物ニ付テ一段ノ發展ヲ望ム

埼玉縣ノ白木綿ハ又我邦有數ノ特産ナリ今回ハ木綿織物同業組合ノ名義ヲ以テ出品アリ生白及晒アリ中形地ヲ主トセリ其他撚厚地ノモノアリ又、ガーゼアリ製品概シテ良好ナレトモ何レモ手機式賃織組織ナリ産額ハ近年増加シテ年額百五十萬圓ニ達セリ

愛知縣ハ我邦ニ於ケル小幅白木綿ノ泰斗ナリ然レトモ今回ノ出品ハ寥トシテ恰モ横綱力士休場ノ感アリ評スルニ由ナシ只前掲水野某ノ一點アルノミ

愛媛縣宇和島反物會社出品生瓦斯ハ製織大ニ佳ナレトモ僅ニ一點ニシテ以テ其業況ヲ代表シ難シ



新潟縣中形地ハ製作普通丸山惣吉出品ノ白木綿ハ用途少シ

三重縣松坂ノ白木綿、茨城縣龍ヶ崎木綿普通ナリ産額未タ云フニ足ラス

岐阜縣ノ朝鮮向白木綿ハ其業規模未タ大ナラサルカ織耳宜シカラス

静岡縣ノ「シルケツト」白七子稍、佳ナリ川井某ノ白木綿耳瑕アリ用途少シ

德島縣ノ出品ハ技術拙劣云フニ足ラス

東京府高松伊助小倉雲齋清韓向白木綿ハ織取耳瑕アリ篠原式之助出品ノ鼻緒地ハ製織今一層入念ヲ要ス

栃木縣中形、裏地ハ普通ニシテ綿糸ハ腰弱キニ過キ又織取アリ

足袋底ハ出品少數ニシテ木綿織合名會社ノ器械織一大進歩ナリ從來普通ノ織底ハ緯絲ニ太キ絲ヲ用フルヲ以テ投杼式ノ緯絲ハ瞬間ニシテ盡クシ屢杼ヲ取換ヘ之カ爲メ無用ノ時間ヲ徒費スルコト多シ然ルニ器械織ニ於テハ其太キ緯絲ヲ打込ムニ恰モ蒔織機ノ横絲ニ於ケルカ如ク小杼ニ卷リ取タル太キ緯絲ヲ直ニ挿込ミ其水絲ノミ投杼ニ依リ打込ム裝置ナルヲ以テ屢杼ヲ取換フルノ煩ナク時間ヲ節約スルコト多大ニシテ織工ノ工程大ニ増加スルヲ得タリ是レ斯業界ニ於ケル一大進歩トシテ稱揚スルニ足ル右ノ外東京ノ出品トシテモ小菅集鴨、横濱、福島等ノ監獄及静岡地方ノ産出ニ係リタルモノアリ其種類雜多ニシテ器械織アリ手織機織アリ生底アリ紡績及ガラ紡績ヲ含ム晒アリ又「メリヤス」屑絲ノ利用アリ多クハ普通以下ノ製品ニシテ概シテ打込ミ甘ク織班アリ晒白ノ不完全ノモノアリ中ニ廣幅底ニシテハ新規ト云フヘキモノアリシカ尙打込ノ足ラサルヲ覺ヘタリ

足袋底ニ用フル原料絲ハ普通經絲ニ二十番二子撚絲緯絲ニ十番四子又ハ水車紡三乃至四子、水絲ニ四十番片絲ヲ用キタリ

尙大阪及東京ヨリ足袋底用小幅雲齋三河産及葛城織ノ出品アリ前者ハ組織晒白兩ナカラ佳良ニシテ後者ハ打込甘ク且晒白不完全ナルヲ見タリ

洋燈心ハ岡山縣島田製織所唯一ノ出品ニシテ製品ニ付キテハ特ニ稱スルニ足ラサルモ其用途ノ普及セルハ嘉スヘシ

綿帆布ハ獨リ近江帆布會社ノ出品アルノミ同社ハ創立既ニ年アリ製織技術漸ク進歩シテ外國ノ上等品ニ追及シツツアリ將來益、健全ナル發展ヲ望ム

「タオル」ハ大阪、東京、静岡、三重等ヨリ出品アリ本邦ニ於ケル「タオル」界ハ近年益、其産額ヲ増大シ輸出盛大ニ赴クハ賀スヘシ其製織練晒等モ大ニ進歩シ器械織ノ應用益、多キヲ加ヘタリ原絲ハ兩經又ハ浮絲ニノミ撚絲ヲ用キ緯ニ片撚ヲ用キタルモノアリ又全部片撚ノモノアリ「シルケツト」ヲ用キタルモノアリ出品中間々浮絲足止メノ不充分ニシテ絲拔ケノ甚シキモノアリシハ當業者ノ戒飾ヲ要ス

樹織敷布ノ出品ハ東京及仙臺ヨリ之アリ近年旅館其他一般衛生ノ普及ヨリシテ頓ニ需用ヲ加ヘ産額著シク増進セリ今回ノ出品ハ製作概シテ普通ニシテ原料ハ經ニ二十番片絲又ハ四十二番撚絲緯ニ十番乃至三十番片絲ヲ使用セリ紋樣竝ニ組織ニ於テ新意匠ノモノナキニ非サルモ餘リニ意匠ニ拘泥シテ却リテ其實用ノ本旨ニ悖ルモノアリ即チ紋織浮絲ノ長キニ失スル爲メ洗濯摩擦ニ堪ヘス縞敷布ニ於ケル染色不良ノ爲メ汚及洗濯ニ弱キカ如キ敷布トシテ最モ忌ムヘキナリ將來ノ改良ヲ望ム其他組織ノ粗ナルモノ織耳ノ屈曲セルモノ亦同シ

綿「レース」ハ足利地方一人ノ製造ニ限ラレ其製品稍、佳ナリ未タ需用ノ盛大ヲ見ルニ至ラス

緞子織ハ島根縣ヨリ林某ノ出品アリ器械織ニシテ稍、進歩セリ然レトモ其實用ニ就キテハ甚シク稱揚ニ値セス

「コットンブレード」ハ「バテン、レース」ノ原料トシテ多額ノ輸入アリ好望ノ産業ナルニ未タ其製織ヲ試ムルモノナカリシカ今回ノ博覽會ニ於テ東京府根津某ノ出品ヲ見タルハ大ニ慶スヘキ所トス

白綿布類出品竝ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	九八	二二	一	一	二	五	六	一	一四	〇、六四	







スヘキカ此等ハ殊ニ個人製造ニ於テ陥リ易キ事柄ニ屬スルカ如クナレトモ同業組合機關ノ整備セル今日其制裁タニ強固ナランニハ此等ノ缺點ヲ矯正センコト實ニ輕易ノ業タルヘシト信ス又近來漸次ニ組織ノ粗雜ニ流ルルノ傾向ヲ來セルノ觀ナキニ非サルハ本業ノ前途ニ對シテ甚タ憂慮ニ堪ヘサルコトトス是レ畢竟佳良ナル起毛機ノ使用ニ伴ヒ容易ニ完全ニ起毛セラルルヨリ生スルノ弊ナリト認メサルヘカラス元來綿「フ」ラネル「ハ」織維短ク甘燃ノ緯絲ヲ善ク打チ込ミテ組織セシムルヲ適當ナリト信ス然ルニ製作者ハ此ノ如キ特殊ノモノヲ用キシテ單ニ普通ノ絲ヲ用キテ粗ラク組織シテ以テ柔軟ト彈力トヲ與ヘントシ起毛機ノ完全ナルヲ利用シテ地合ノ粗惡ナルヲ瞞着セントスルノ疑ナシトセス此ノ如クシテ何ソ能ク堅牢ニシテ善美ナル製品ヲ望ムヘケンヤ今各府縣別ニ細評スレハ次ノ如シ

東京府石田萬兵衛出品ハ何レモ皆無地「ネ」ルニシテ組織ヨク可ナリノ彈力ヲ備ヘ地合別ニ申分ナキモノナレトモ染色佳良ナラス變色シ易ク起毛少シク長キニ過クルノ嫌ナシトセス若シ夫レ滿韓地方ノ如キ起毛長キヲ厭ハサルノ地ニ之ヲ致セハ最モ適當ナル商品ナランモ内地用トシテハ不適當ナレハ今少シク起毛及染色ニ注意ヲ拂ハンコトヲ要ス

東京府前川商店出品ハ綿「ネ」ル、無地「ネ」ル、捺染「ネ」ル等ナリキ何レモ商品トシテノ資格充分ナルカ如シト雖モ無地物ニ至リテハ染色ニ如何ハシキモノ數點ヲ認メタルハ同店ノ爲メニ甚タ惜シム所ナリ然レトモ都娘、兩面捺染「ネ」ルニ至リテハ組織整齊充分ノ彈力アリ起毛惡シカラス一見本「ネ」ルナルカヲ疑ハシムル程ナリ意匠別ニ否ムヘキ點ナク染色又惡シカラス今回出品中ノ優秀ナルモノト云フヘキカ東京府高松伊助出品ハ紋羽數十點ナリキ組織善良ニシテ起毛稍完カラサルカ如シト雖モ紋羽トシテハ先ツ好良ナルモノト云フヘク柄行ハ單ナル棒縞ナレトモ是レ其用途ノ然ラシムル所ニシテ別段非難ヲ加フヘキモノニ非ス

大阪府高崎善三郎出品ニ係ル名譽兩面捺染綿「フ」ラネル「ハ」京都都染會社ニ於テ加工セシモノナリキ同

社ハ本邦ニ於ケル兩面捺染ノ嚆矢トモ稱スヘキ程アリテ其品質綿「ネ」ル「中」殆ト主位ニ座スヘキモノタリ思フニ現今京都綿「ネ」ル株式會社及和歌山第一綿「ネ」ル株式會社ハ互ニ相比肩シテ本邦綿「ネ」ルノ明星タルノ形勢アリ之ヲ今回ノ出品ニ徵スルニ特ニ稱揚スヘキ點ヲ認メタルモ概シテ無難ノモノト云フヘク強ヒテ其缺點ヲ指摘セハ組織堅キニ過キ彈力ニ乏シク從ヒテ地合ノ風味ニ物足ラヌ所アリ然レトモ柄行温雅ニシテ清楚ナル苦心ノ程察スヘキナリ要スルニ普通商品トシテ別段ノ非難ハナキモノト謂フテ可ナリ

愛媛縣ハ白「フ」ラネル「フ」以テ名聲アル地方ナリ而シテ此地方ニ於テ良品ヲ出スモノヲ求ムレハ先ツ指ヲ阿部合名會社ニ屈セサルヘカラス之ヲ今回ノ出品ニ見ルニ前段概論ニ於テ陳述セシ缺點ノ一二ハ遺憾ナカラ之アリト認メサルヲ得スト雖モ又大ニ可否スヘキノ點ヲ認メス同社ノ所謂誠實ナル出品ニシテ先ツ善良ナル商品ト認メテ可ナリ由來本社ハ夙ニ伊豫ニ於ケル綿「ネ」ル業ノ率先者ヲ以テ自任シ社會モ之ヲ許ス程アリテ業務ノ方針常ニ誠實ニシテ着々文明的組織ト設備トヲ加ヘ今ヤ多數ノ力織機ト完全ナル起毛機トヲ具ヘ品質ノ精良ヲ期スルニ汲々タリ又從來如何ナル恐慌ト不振トニ遭遇スルモ嘗テ其品質ト營業振リトヲ變セス十年一日ノ如ク常ニ一定不動ノ態度ヲ維持シ來リシカ故ニ社會ノ信用益々強固トナリ社運益々隆盛ニシテ今日ニ於テ獨「ノ」商標ハ斯界ニ於テ見本ナシノ取引ヲ安全ニセラルルノ狀況ナリト云フ其他野間直政、矢野肇、岡田恒太郎外數名ノ出品アリシモ何レモ地合ト起毛トノ一致セサルアリ或ハ染色ノ伴ハサルアリ一得一失遺憾ナカラ共ニ完備ノモノト認ムルコト能ハス

和歌山縣第一綿「ネ」ル株式會社ハ綿「ネ」ル界ノ泰斗トシテ其名噴々タルハ京都綿「ネ」ル株式會社ト共ニ世人ノ一般ニ認ムル所ナリ而シテ本邦綿「ネ」ル輸入防遏者トシテ又間接輸出者トシテ斯界ニ貢獻セシ功勞ノ多大ナル已ニ社會ニ定評アリ之ヲ今回ノ出品ニ見ルニ緋無地ハ組織佳良彈力乏シカラス染色亦惡シカラス同社ノ出品トシテ遜色ヲ認メサルカ如シ然リト雖モ捺染品ニ至リテハ起毛ニ付キテ稍憚



ラサル所アリ染色不可ナシト雖モ意匠ノ點ニ於テ殊ニ稱揚スヘキ程ノモノヲ認メス而シテ全體ヲ通シテ織幅ノ不同アルハ實ニ吾人ヲシテ其何ノ爲メナルカヲ疑ハシムルニ至ル實ニ名聲噴々タル同社ノ爲メニ執ラサル所ニシテ白玉ノ微瑕ト云フヘシ

總「フ」ラネル類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	四三	四	—	—	二	—	—	—	二	〇、五〇
大阪府	一一	三	—	—	—	—	—	—	—	〇、三三
静岡縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山縣	三	一	—	—	—	—	—	—	—	—
德島縣	四	六	—	—	—	—	—	—	—	〇、五〇
愛媛縣	二一	九	—	—	—	—	—	—	—	〇、〇〇
計	八五	二一	—	—	二	五	四	七	一八	〇、八六

第十四章 木綿緋類

報告員 審査官 高田吉親

木綿緋ヲ出品セシハ東京府外十五縣ニシテ就中出品ノ多カリシハ東京府及奈良縣ノ二トス而シテ最モ少カリシハ千葉、兵庫、岐阜等ノ諸縣ナリ  
今出品ノ状態ヲ見ルニ各府縣區々ニシテ或ハ少キニ過キ或ハ下流當業者僅ニ數點ヲ出品セル等到底其府縣產物ノ代表品ト見做スヘカラサルモノアリ現ニ緋製產地トシテ有名ナル愛媛縣ノ如キハ管ニ一名ノ出品ニ過キス鹿兒島、岐阜、鳥取ノ如キモ等シク一名ニシテ福岡縣モ亦僅ニ五名ニ過キス其他ノ府縣ノ出品モ多クハ甚タ少クシテ殊ニ其府縣ヲ代表スヘキ出品ヲ缺クハ特ニ遺憾トスル所ナリ  
木綿緋ハ近年其需用著シク増加シ之ヲ五年前ニ比スレハ總產額ニ於テ殆ト五割ヲ増加シ地方ニヨリテハ倍額以上ノ増加ヲ見ルニ至レリ染色ノ如キハ年毎ニ人造染料ノ應用盛ニシテ現ニインヂゴビユ

ア及硫化色素等ノ應用ニ依リテ價格ノ低減ヲ來シタルノ結果需用ヲ擴張シ產額ヲ増大シタルカ如キ緋括器、織拔器、緋染器等ノ發明及板締糊ノ特許方法ニヨリ人力ヲ省キテ緋模様ノ純白ヲ圖レルカ如キ共ニ一段ノ進歩ヲ認ムト雖モ製織ノ方法ニ至リテハ依然トシテ改進セルヲ見ス是レ恐クハ木綿緋製織最良ノ極度ニシテ小局部改善ノ外之レ以上ノ大進歩ハ容易ニ企及シ能ハサル所タルヘキカ左ニ出品中重ナルモノニ就キ批評ヲ試ミン

東京府及埼玉縣 武藏緋ハ元來村山緋又ハ所澤緋ト通稱シ主トシテ東京府北多摩郡北部ト埼玉縣入間郡南部ニ産スルモノ近來互ニ協同シテ同業組合ヲ組織シ武藏緋ノ名稱ヲ以テ世ニ立ツニ至レリ而シテ最近五ヶ年間ノ產額ハ一ヶ年平均約八十五萬反其價格百二十七萬五千圓ニシテ漸次販路擴張明治三十九年度ニ於テハ其產額百二十萬九千六百反ニシテ之カ集散地ハ埼玉縣入間郡所澤町ナリトス此ノ如ク武藏緋カ盛況ヲ呈シ來リシハ其價格カ久留米緋ニ比シ著ク低廉ナルヲ以テ中流以下ノ社會ニ於テモ之ヲ賞用スルニ至リシニ因ル將來益、有望ノ事業トシテ之ヲ獎勵スルノ價值アルハ論ヲ俟タスト雖モ緋織物ノ需用頻年増加スルニ從ヒ新產地ノ勃興ト他ノ緋產地ノ改進トハ輕視スヘカラス當業者益、奮ヒテ改進ノ道ヲ講セスンハ或ハ他ニ一籌ヲ輸スルノ憂ナキヲ保セス茲ニ二三改良ノ要項ヲ掲ケテ斯業者ノ參考ニ資セン

- 一、今少シク込ミタル箆及細絲ヲ使用スルヲ要ス 箆目粗ニ失スルヲ以テ組織ノ密度ヲ缺キ布面粗造ナルヲ以テ自然強度ノ摩擦ヲ受ケ侵入シタル塵埃等ハ容易ニ脱去シ難ク又一度洗濯ニ逢ヘハ著ク収縮スルノ缺點アリ又太絲ナルカ故ニ初夏初秋ニハ適スレトモ盛夏ニハ不適ナリ
- 二、今少シク小柄若クハ中小柄トナスヲ要ス 現時ノ製品ハ中柄最モ多キヲ占ムルモノノ如シ中柄ハ年若キ婦人ノ需用ヲ俟タサルヘカラサルニ太絲ヲ使用シ而モ布面粗ナルヲ以テ甚タ不適ナリ
- 三、染色ノ改良ヲ要ス 紺色ハ著ク摩擦ニ弱キヲ認ム是レ濃藍ニテ急速ニ染メ上クルノ缺點ナルヘク中ニハ煮サル絲ヲ使用セルモノヲモ認ムト雖モ染料ハ必シモ藍ノミニ限ルヘキニ非ス原絲ハ凡テ煮



絲ヲ用キ藍染ナラハ今一層濃度ヲ高メ一面適良ノ色想ニシテ堅牢ナル色素ヲ採用スルノ道ヲモ講スルヲ要ス  
四、丈幅ノ規定ヲ嚴守スルヲ要ス 片羽緋ハ洗濯後特ニ収縮シ易キヲ以テ丈幅ヲ充分ニ規定シ堅ク守ルヘキヲ要ス

奈良縣 大和緋ノ出品ハ白緋及紺緋ニシテ主トシテ板縮ヲ應用スルノ特長アリシカ硫化色素ヲ使用セシ以來一時緋部分ノ鈍青トナリ爾來苦心研究遂ニ特種ノ糊ヲ用キ稍純白ノ緋ヲ製織スルニ至レリ出品中色合適良ノ優等品トシテ見ルヘキモノ少カラスト雖モ尙色合其他ニ於テ缺クル所ノ製品多キヲ認ム兔ニ角漸次品質一定ニ近ツキ改良ノ實ヲ擧ケツツアルノ跡ヲ認メ得ルナリ  
近來大和緋ノ名聲漸ク揚リ盛ニ中流以下ニ賞用セラレ其産額數年前ニ比スレハ殆ト倍加シテ二百二十餘萬圓ヲ算スルニ至レリ此ノ如ク其産額ハ膨大シ且品質改良ノ實ヲ擧ケタルニモ拘ラス其趣味ニ於テハ久留米緋ニ及ハサルモノアリ即チ紺緋ニ於テハ仕上硬固ニ失スルト色素ノ選擇及其處理法ノ不充分ナルトハ主トシテ其原因タラサルヲ得ス白緋ニ於テハ其緋部ノ鮮明ヲ缺クハ主ナル缺點トシテ指摘セサルヲ得ス紺緋ニ於テハ久留米緋ノ趣味ヲ模範トシテ而モ一層低廉ナル物品ノ製織ニ努メツツアル徳島アリ愛媛アリ白緋ニ於テハ其意匠及技倆ニ於テ輕視スヘカラサル中野緋アリ其ニ勁敏ナリト云ハサルヘカラス當業者現時ノ奮勵新進ノ氣象ヲ失ハス前記ノ缺點ヲ排除シ古來辛酸ノ經歷ヲ有シ而モ前途有望ナル大和緋ノ名聲ヲ益發揮スルニ努メンコトヲ望ム

群馬縣 中野緋トシテハ大島紬ニ類似スル絹綿交織緋ノ産額最モ多ク木綿緋トシテハ瓦斯白緋ノ出品アリ本品ハ瓦斯絲ノミヲ使用スルアリ又紡績絲ヲ混シタルアリ其外觀優良ニシテ之ヲ大和緋ニ比スルニ技倆ニ於テハ劣ラサルヲ認ムト雖モ價格概シテ不廉ニシテ其感觸ハ柔軟ニ失スルノ嫌アリ本品ハ專ラ盛夏ノ候ニ使用セラルルヲ以テ之ニ適當ノ仕上ヲ施スカ或ハ原絲ノ改良ヲ圖リ其價格ヲ今一層低廉ニシテ産額ノ増大ニ努メハ將來紬緋ト共ニ同地有望ノ産タルヲ失ハサルヘシ

徳島縣 本縣ノ緋木綿ハ製造ノ範ヲ久留米ニ取リ染色下拵ヨリ製織ニ至ルマテ久留米ノ式ニ倣ヒ製品亦久留米緋ニ酷似スルモノアリ從ヒテ染色組織共ニ堅實ナリト雖モ技術ノ未タ熟達セサルヨリ品質遠ク久留米ニ及ハス一二點稍見ルヘキモノアリシモ全體ノ出品點數少ク從ヒテ賞スヘキモノ少カリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ古來藍ノ本場タル同縣ハ將來益研鑽ヲ重ネ協力改良産額ノ増大ヲ計ランコトヲ希望ス

静岡縣 本縣ノ出品ハ別ニ批評スヘキ特點ヲ認メス近來設立セラレタル工業試驗場ニ於テ木綿緋ノ研究ニ從事セルヲ聞ク由來織物産地トシテ知ラレタル同縣ナルヲ以テ當業者奮勵緋製産各地ヲ詳察シ大ニ發展ヲ圖ラレンコトヲ望ム

福岡縣 古來緋ノ本場トシテ名聲噴々新進ノ緋産地カ範ヲ久留米ニ取ルハ木綿紺緋トシテノ佳趣良味ヲ具備シ常ニ一頭地ヲ拔ケルニ依ル試ミニ其獎賞スヘキ特點ヲ擧ケンカ

一、染色著ク堅牢ナルコト

二、緋ノ部分白上リニシテ而モ純潔ナルコト

三、組織密ナルヲ以テ冬物トシテモ愛用セラレ塵埃ノ侵入ヲ防キ水ニ浸スモ収縮ノ度少キコト

四、織リ上リ硬ニ失セス軟ニ流レサルヲ以テ感觸最モ良好ナルコト  
今回ノ出品ハ僅少ナリシモ其品質ハ何レモ留久米ノ本色ヲ具シ就中會社出品ノモノニ於テ品位優良ナルモノヲ認メタリ若シ夫レ其品位ノ上ヨリ推想スレハ久留米緋ノ産額ハ著キ速度ヲ以テ増加セサルヘカラサルニ其速度ハ却リテ伊豫及奈良地方ニ及ハサルハ何ソヤ蓋シ其價格カ品位ニ相當セリト爲スモ中流以下ノ需用ニハ適シ難クシテ却リテ其販圖ハ大和伊豫若クハ武藏緋等ニ蠶食セラレ自然中流以上ノ社會ニ向ヒテ其需用ヲ擴充シツツアルノ狀況ニ在リ是レ果シテ久留米緋ノ前途ニ向ヒテ祝スヘキヤ否ヤ速斷スヘキニ非サルモ向上的擴張ノ範圍ハ比較的狭少ナルヘキハ推知スルニ難カラサルヲ以テ其品位ト趣味トヲ没セサル程度ニ於テ一層低廉ナル物品ノ産出ヲ講シ更ニ下流ノ需用ニ



向ヒテモ膨大スルノ方法ヲ講スルハ策ノ得タルモノニ非サルナキカ  
 鹿兒島縣 今回出品ノ薩摩絣ハ極メテ少數ニシテ之カ批評ヲ下スヘキニ非スト雖モ東京市岩谷商會  
 出品ノ同絣ハ代表品ト認ムヘキヲ以テ之カ概評ヲ試ミントス  
 薩摩絣ノ特點ト認ムヘキハ小柄意匠ノ精緻ニシテ一種上布の感觸ヲ有スルニ在リ數年以來組織染色  
 共ニ多少改良セラレタルノ痕跡アルカ如キモ絣織物ノ需用頻年増加シ各地ノ産額ハ著ク増加セルニ  
 モ拘ラス反ツテ減退ノ象ヲ來シツツアルハ何ソヤ一言ニシテ之ヲ悉クセハ舊慣ヲ墨守シ改良鈍キノ  
 結果ニ歸セサルヘカラス  
 現今一般需用者ノ嗜好ハ鮮美ナル紺色ニシテ絣模様ノ純白ナルニ在ルヲ以テ色想暗黒ニ過キ絣部分  
 ノ純白ナラサル薩摩絣ノ改良ハ目下ノ急務ナルヘシ之ヲ改良スルニハ藍建藍染ノ改良及現今施行シ  
 ツツアル仕上方法ノ注意ニ在ルヘク價格不廉ノ缺點ハ工費ノ節減ニ留意セサルヘカラス  
 之ヲ要スルニ薩摩絣トシテ世ニ知ラレタルニモ拘ラス一ケ年ノ産額僅ニ十萬圓ニ足ラス微々トシテ  
 振ハサルハ主トシテ舊慣ヲ墨守シ敢テ大ナル改良ヲ企圖セサルニ基因セスンハアラス若シ夫レ他産  
 地ノ特點ヲ吸取シテ同地ノ得點ヲ利用シ以テ舊態ヲ一新スルアランカ蓋シ其前途ハ洋々トシテ春海  
 ノ如クナランナリ

愛知縣 由來佐々絣ヲ以テ有名ナル本縣ノ出品トシテハ餘リニ僅少ニ過キス到底代表品タルモノナ  
 ク批評ヲ試ムルコト能ハサルハ遺憾トスル所ナリ  
 沖繩縣 本縣産絣ノ特點ハ上布の感觸趣味ヲ有シ近ク之ヲ見レハ暗黒ニシテ絣模様鮮明ナラス之ヲ  
 衣類トシテ着用スルニ至リ絣模様ノ鮮明タルハ獨得ノ長所ナリト雖モ他府縣カ攷々トシテ研究改良  
 スルニモ拘ラス敢テ改良進歩ノ形跡ナク依然トシテ舊態ヲ存スルノミ是ヲ以テ世ノ趨向ニ伴ハス價  
 格不廉ニシテ需用擴張セス從ヒテ産額増大スルヲ認メサルハ遺憾トスル所ナリ幸ニ特種ノ長所ヲ利  
 用シ世ト共ニ着々改良セラレンコトヲ希望ス

島根縣 島根縣ノ出品ハ極メテ少數ナルノミナラス同縣絣ノ代表品タルモノヲ見サルハ甚々遺憾ト  
 スル所ナリ同縣ハ小柄小柄ヨリモ寧ロ大柄繪絣ニ巧ニシテ其進歩世人ヲ驚カシム然レトモ他  
 府縣ノ産額増大スルノ例ニ比シ遅々トシテ振ハサルノ傾キアルヲ聞ク恐クハ昔時流行セシ繪絣ノミ  
 ニ意ヲ注キタルノ結果ニ非サルナキカ須ク大勢ヲ洞觀シテ世ト共ニ改進シ時勢ニ適應スルノ製品ヲ  
 出サンコトヲ望ム  
 愛媛縣 本縣ノ絣ハ數年以前ヨリ大ニ改良ヲ加ヘタルヨリ聲價揚リ産額ノ増大ナル匹儔稀ナリ然ル  
 ニ僅ニ一點ノ出品ノミニシテ而モ代表品タラサル下等品ナルヲ以テ批評スルノ價值ヲ認ムル能ハサ  
 ルヲ恨ム

木綿絣類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協賛賞	受賞合計	受賞割合
東京府	四七三	一一三	—	—	七	一六	三〇	—	—	五三	〇、四七
兵庫縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
埼玉縣	八八	二四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	三六	三一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
奈良縣	二四一	四九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛知縣	六	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡縣	二七	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岐阜縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島取縣	五	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
島根縣	二〇	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—
德島縣	二七	一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛縣	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



福岡縣	四六	五	二	一	一	三	〇、六〇
鹿兒島縣	二	一	一	一	一	一	一
沖繩縣	二一	四	一	一	一	二	〇、五〇
計	一、〇〇五	二六七	三	一三	四六	六四	一、二六〇、四七

第十五章 木綿縮類

報告員 審查官 鈴木廉之介

木綿縮ハ栃木縣ノ出品最モ多シ滋賀、德島、島根等ノ諸縣ハ產地ナルニモ拘ラス一ノ出品ナカリシハ遺憾トスル所尙東京府ノ出品ノ多數ハ其產地栃木縣ナレハ本會ノ木綿縮ハ殆ト栃木縣ノ一人角力タルノ觀アリ今出品物ヲ廣幅物ト着尺物トニ區別シ批評ヲ試ミン

一廣幅縮 廣幅物ノ製織ハ明治十九、二十年ノ交足利地方ニテ尺三乃至尺二幅ノモノヲ製シ清國其他ニ輸出ヲ試ミタルニ始マリ其後二尺幅ノモノ輸出向商品トシテ製織セラレ爾來廣幅物ハ獨リ輸出向トシテノミナラス内地ニテモ、シヤツ股引等ノ裁縫ニ便益ナルヲ以テ需用頓ニ増進シ並幅物ノ製織家ハ漸次廣幅物ノ製織ニ移ルニ至レリ

廣幅物ノ輸出額ハ未タ甚タ大ナラスト雖モ其輸出先ノ極メテ廣汎ナルコトハ他綿織物中多ク其比ヲ見サル所ニシテ香港、支那、英領印度、北米合衆國ヲ主トシ韓國、濠洲、比律賓諸島、布哇其他英、獨、佛等皆多少ノ輸出アラサルハナシ

木綿縮ノ販路夫レ此ノ如ク廣大ナルニモ拘ラス其產出區域甚タ狹小ニシテ栃木、滋賀、群馬、山口、島根等僅々數縣ニ過キス而モ栃木縣ヲ除クノ外ハ輸出縮ノ產地トシテ極メテ幼稚ナルカ如シ將來好望ナル輸出縮ニシテ其產出此ノ如キ狀態ニ在ルモノハ蓋シ該織物ハ普通總織ト少シク其趣ヲ異ニシ撚絲及整理等ニ就キテ特種ノ技術ヲ要スルモノアルニ因ルナランカ

出品ノ廣幅物二尺幅竝ニ尺三幅ニシテ出品中栃木縣川島久兵衛ノ瓦斯縮ノ如キハ精巧ニシテ一見縮類ニ非サルカヲ疑ハシムルモノアリシモ多數ハ尋常普通ノモノノミニテ數年前ニ比シテ著ク進步シ

タルノ跡ヲ認メス唯楊柳縮ニ於テ斜線ヲ施シタルカ如キハ從來多ク見サリシ所ノモノニシテ近來ノ一進步トシテ算フヘキカ

縮類ニ在リテハ其染色カ普通ノ縮木綿トハ其趣ヲ異ニセルモノアリテ從來染料ノ選擇上困難ヲ感セシカ硫化染料ノ輸入以來縮製織上一大便利ヲ得タルニヨリ今回ノ出品ニ於テハ柄合及色目共ニ必ス面目ヲ新ニセルモノアルヘシト豫想セシモ事實ハ之ニ反シ其出品ハ皆依然トシテ舊態ヲ改メス何等進步ノ點ヲ見ルヲ得サリシハ遺憾ナリキ

足利地方ノ出品ハ比較的優良ニシテ佐野地方ノモノハ品位概シテ足利産ニ劣レリ價格低廉ナルノ點ニ於テ需用ハ寧ロ後者ノ方多大ナルヘシト雖モ若シ一步ヲ誤ルトキハ直ニ粗製ノ弊ニ陥ルノ虞ナシトセス當業者タルモノ自ラ警戒ヲ要ス群馬縣ノ出品ハ僅少ニシテ其全豹ヲ評シ難シト雖モ蓋シ佐野地方産ノモノニ伍スヘク東京府ノ出品ハ其產地大抵栃木縣ナレハ別ニ評言ヲ要セス山口縣ニ於テハ近年切リニ廣幅物ノ製織ヲ獎勵セル結果漸次其產額増加ノ勢アルハ慶スヘシ其出品ニ就キテ見ルニ撚絲ノ改良見ルヘキモノアリ整理ニ於テハ尙一層ノ改良ヲ要ス

從來縮類均整ヲ缺クト云ヒ或ハ整理不完全ナリト常ニ縮ニ對シテノ非難ノ聲タリ而シテ今復之ヲ繰リ返ササルヲ得サルヲ悲ム思フニ撚絲ノ改良及整理ノ完全ヲ期スルニハ從來ノ手工又ハ不完全ナル器械ノミニ依ルモ到底其目的ヲ達シ能ハサラン當業者須ク完全ナル器械使用ノ途ヲ講スヘシ茲ニ一策トシテ當業者ニ告ケント欲スルモノハ地方ノ狀況ニ應シテ共同經營若クハ他ノ適當ナル方法ニ依リテ一ヶ所乃至二ヶ所ノ撚絲及整理工場ヲ設ケ完全ナル器械ヲ設備シ其地方當業者一般ノ需用ニ應シテ撚絲及整理ノ改良ト其一定トヲ圖ルニ在リ此ノ如キハ最モ時宜ニ適スルノ所置ニシテ斯業發展上ニ一步ヲ進ムルモノニ非サルナキカ當業者ノ一考ヲ煩ハシ其奮起ヲ望ムモノナリ

二、着尺縮 着尺縮ハ中形浴衣地ノ流行以來漸次其需用ヲ奪ハレ近年ニ至リテハ遂ニ全ク壓倒セラレタルノ姿ニシテ古來有名ナリシ高鳴縮、銚子縮、岩國縮等ハ衰微ノ極ニ達シ實ニ氣息奄々タルノ狀態ニ



在リ足利、佐野等ノ縮製織家ハ夙ニ着尺物ノ製織ヲ廢シテ多クハ廣幅物ニ移レリ此ノ如クシテ在來ノ縮ナルモノハ僅ニ白縮若クハ中形生地トシテ尙需用セラルルニ過キスシテ縞縮若クハ緋縮ハ既ニ世ニ捨テラレタルノ觀アリ從ヒテ今回ノ出品ニ就キテ見ルモ縮緯ヲ用キタルモノハ主トシテ綿織物ニ屬スヘキ御石縮緬、壁縮緬、明石縮等ニシテ在來ノ縮ニシテハ獨リ銚子縮ノ出品ヲ見ルノミナリキ着尺物ノ出品ハ其產地概シテ栃木縣ニシテ其點數僅少ナリ該出品ニハ優良品ニ乏シク特ニ稱揚スルニ足ルモノナシ就中明石縮ハ縮縮不完全ニシテ着服中四肢屈伸ノ甚シキ部分ニ於テ能ク其原形ヲ保チ得ヘキヤヲ疑ハシムルモノアリ壁縮ハ中流以下ノ需用品トシテ恰好ナルヲ認ムト雖モ其趣味ニ於テハ聊慊タラサルモノアリ緯絲ノ撚リ方若クハ經絲ノ細太及其粗密等ニ就キテ當業者ノ研究ヲ要ス銚子縮ハ從來縮縮ノ不整、地合ノ厚硬、縮柄ノ不鮮明ヲ以テ其特質ナリトシテ誇レルモノノ如シ是レ銚子縮ノ衰頹セル所以ニシテ最近二三年間ノ産額ハ毎年僅ニ千二百反ニ過キス將ニ千葉縣ノ一物産タルノ資格ヲ失ハントス當業者ノ反省ト奮起トヲ望ムヤ切ナリ

木綿縮類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	八七	二二						二		四	〇、一九
京都府	二	一								一	一、〇〇
群馬縣	八	七								三	〇、四三
千葉縣	三	一								一	一、〇〇
栃木縣	一四〇	七一			一	四	一五	二三		三三	〇、四六
愛知縣	一	一								一	一、〇〇
山口縣	三	一								一	一、〇〇
計	二四四	一〇三			一	五	一九	一八		四三	〇、四一

第十六章

綿雜類

報告員 審査官 吉田 佐次郎

綿雜類ニハ木綿縮、普通絹綿交織物及無地木綿等ヲ含ムカ故ニ需用ノ範圍廣大ニシテ從ヒテ製產地域極メテ廣ク全國多少ノ製産アラサルナキノ有様ニシテ其出品ニ府二十二縣ニ涉レリ然レトモ東京、新潟、埼玉、群馬、愛知、静岡、岐阜、富山、徳島、福岡ノ諸府縣ヲ除クノ外ハ毎縣ノ出品者甚タ少ク又有名ノ産地ニシテ出品ノ絶無ナルアリ爲メニ各地方ニ於ケル此種織物ノ現況ヲ仔細ニ觀察シテ其進歩ノ跡ヲ詳ニスルコト能ハサルノミナラス各地ノ製産品ヲ比較品評スルノ便ヲ得サリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ出品ノ最も多キハ主催地タル東京府ニシテ東京織物問屋同業組合、織物製造同業組合、青梅織物同業組合其他個人ノ出品ニ於テ全力ヲ之ニ傾注シタルノ跡歴然タリ之ニ次クハ埼玉縣ニシテ各組合ノ出品ハ優ニ其狀況ヲ示スニ足ル群馬、静岡、愛知等ノ諸縣ハ出品少カラスト雖モ其地ニ於ケル此種織物製造ノ現況ニ比スレハ種々ナル點ニ於テ尙物足ラヌ所アルヲ感シタリ要スルニ東京及其附近ノ地方ハ大ニ出品ニ力ヲ注キ距離遠サカレル地方程漸次重キヲ置カサリシハ事實ナリ

即チ木綿縮、普通絹綿交織物及無地織物等ハ之ヲ數年前ニ比スレハ著ク進歩シ來リ其製産額非常ノ増加ヲ示シ細物ト太物トヲ問ハス製織上ニ對スル注意緻密トナリ染色ニ組織ニ學理應用ノ實ヲ顯シ殊ニ木綿縮ハ意匠ヲ新ニシ社會需用ノ向上ニ伴ヒ嗜好ノ變遷ニ應シテ廣ク上下ノ需用ヲ充タスコトニ汲々タルカ如キ又近時事業ノ勃興ニ伴ヒ工賃ノ増加ハ省力器械ノ發明ヲ喚起シ簡易ナル足踏織機ヨリ動力織機ニ至ルマテ其數ノ加ハルト同時ニ之カ使用者亦日々ニ加ハリ大ニ生産費ノ節減ヲ計ルカ如キハ實ニ一大進歩ト謂ハサルヘカラス絹綿交織物ノ如キハ少量ノ絹絲ヲ交織シテ組織紋様等ノ作用ニヨリ能ク高等織物ノ外觀ヲ與ヘ廉價ニ供給ヲナスハ實ニ喜フヘキノ現象ト謂ハサルヘカラス然レトモ一般ニ本類織物ノ整理ニ關シテハ今尙研究ヲ要スヘキモノ甚タ多シ



本會ノ出品中本類ニ屬スル輸出織物ノ尠カリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ日露戰役以後清韓輸出ノ織物ハ著シク増加シ中ニハ本類ニ屬スヘキモノ少カラサル筈ナルニ出品ノ大部ハ内地需用品ニシテ對外的織物ノ出陳極メテ少カリシハ輸出織物ノ將來ニ向ヒテ惜マサルヲ得サルナリ今重ナル地方ノ出品物ニ就キ各別ニ之カ批評ヲ試ミン

東京織物問屋同業組合ノ出品ハ東京府及他府縣ノ製産ニ係ル織物ニシテ其種類甚タ多ク茲ニ一々細評ヲ加ヘス宜シク他ノ製造組合及各製産地ノ出品物ニ就キテ批評スル所ノモノヲ参照スルヲ要ス東京織物製造同業組合ノ出品ハ其品種極メテ多様ニシテ瓦斯雙子ヲ除クノ外特産ト稱スヘキモノナシ雙子類ハ組織柄合等一般ニ見ルヘキモノアリ其他ノ織物ニ至リテハ品質佳良ノモノナキニ非スト雖モ組合間ニ何等ノ脈絡ヲ有セス各自其好ム所ヲ製造スルノ狀全ク他地方ノ組合ト其趣ヲ異ニセルカ如シ品種ノ多様ナルハ敢テ不可ナルニ非ス要ハ組合カ多種ノ製産業者ヲ網羅シテ其制裁能ク行ハレ製品改良上進ヲ圖リテ益其産額ヲ増大ナラシムルコト是レ吾人ノ切ニ希望シテ止マサル所ナリ青梅織物同業組合ノ出品ハ重ニ木綿及絹綿交織ノ夜具地坐蒲團地黃縐ニシテ其組織ニ於テハ敢テ進歩ノ跡ヲ認メスト雖モ染色ヲ改良シテ堅牢度ヲ増シタルハ大ナル進歩ト謂ハサルヘカラス即チ木綿夜具縐ノ地色トシテ用キラルル海老茶ニ在來複雜ナル理論的染法トシテ應用ノ困難ヲ以テ目セラレタル「カツプリング」法ヲ用フルカ如キ又絹ノ地色ニ堅牢ナル「ジャース」色素ノ配合ヲ以テ染メ丹寧吐酒石ノ後處理法ヲ施行スルカ如キ是ナリ此他着尺玉川紬唐棧縐黃縐晒縐紅梅縐結城縐等ノ出品アリ何レモ染色佳良ナレトモ縐物類ニ至リテハ其種類難駁ニ過クルノ嫌アリ宜シク品種ヲ定メ組合員協力シテ其製産額ヲ多大ナラシムヘシ聞ク所ニヨレハ同組合ハ常務技術者ヲ置キ常ニ機業家ヲ巡視シテ染色ノ堅牢度ト尺幅ヲ検査セシメ不良ノ製品アレハ不合格ノ印ヲ押捺シテ嚴重ニ製品ノ取締ヲナシ且毎月二回府廳ヨリ専門技術家ノ出張ヲ乞ヒ當業者ヲ集メテ講話會ヲ開キ又毎年春期一回染色講習會ヲ開催シ尙新染料ニ就キテハ常ニ之カ試験ヲナシ適當ト認ムルモノハ其染法ヲ教授指導シテ專ラ改

善ニ意ヲ用キ斯業ノ爲メ盡ス所甚タ多シト同地方ニ於ケル織物ノ産額年々増加ヲ示シツアル所以ノモノ偶然ニ非ス若シ夫レ更ニ整理法ヲ研究シ之カ實行ヲ見ルニ至レハ一段ノ進歩ヲ見ルニ至ラン八王子及飯能地方ノ絹綿交織ハ何レモ佳良ニシテ特ニ中村宗三郎出品ノ「ローレル」縐ノ如キハ製織ノ技術整理ノ工程等大ニ見ルヘキモノアリ

東京埼玉織物同業組合聯合會ハ東京織物問屋同業組合中ノ第五部ト埼玉織物同業組合トノ聯合會ヨリ成ルモノニシテ會テ埼玉織物カ其需用ノ増加ニ伴ヒ粗製濫造ノ弊風ヲ釀シ信用地ニ委セントスルノ時ニ際シ兩者合同シテ織物改良同盟會ヲ組織シ信用ノ恢復ニ勉メテ漸次改良ノ實ヲ擧ケ産額亦多キヲ加フルニ至レリ其後東京ニハ東京織物問屋同業組合埼玉ニハ埼玉織物同業組合ノ設置ヲ見ルニ至リシカ製造業者ト問屋トノ聯合組織ハ斯業發展上一日モ缺クヘカラストナシ同盟會ノ事業ヲ繼承シ定款ヲ定メテ聯合會ヲ組織シ織物需用ノ狀態ヲ調査シ製産家ハ製品ノ改良ニ意ヲ用キ相頼リ相助ケ染織技師ヲ置キ試験所ヲ設ケ當業者ノ指導ト染色組織等ノ検査ヲ勵行シ現今ノ産額六百萬反ニ達スルノ盛況ヲ呈スルニ至レリ今回ノ出品ハ組合員中ヨリ制限ヲ定メテ七十餘名ノ出品ニ止メタルモノニシテ其品種ハ甚タ多シ品質ノ統一ニ就キテハ未タ完全ナリト云フヲ得サレトモ染色柄合等進歩ノ著キヲ見ル殊ニ絳染ニ至リテハ其技術大ニ進ミ染色ノ堅牢度ヲ増シタルハ喜フヘシ然レトモ改良ノ餘地尙少カラス殊ニ其整理法ノ如キ徒ニ在來ノ方法ニヨラス機械的的操作ニヨリ糊料ノ如キモ之ヲ化學的ニ研究スルトキハ其外觀手觸リ等更ニ數層ノ美ヲ増スニ至ランカ

埼玉木綿織物産盛同業組合ノ出品ハ主ニ青縐ニシテ流石ニ本場處ノ名ニ背カス織物ニ一種特有ノ味ヲ有シ一般ニ歡迎セラレ今回ノ出品中正藍ヲ以テ染メタルモノト硫化色素ト藍トヲ併用シタルモノトアリ時勢ノ進歩ニ伴ヒ染料ノ變遷ハ實ニ適當ナルヲ信スルモノナリト雖モ硫化色素ハ絶對的堅牢ナリトシテ其染上ノ色合藍ニ酷似セルモノハ悉ク之ヲ採用シテ可ナリトノ過信ニ出テサランコトヲ切望スルモノナリ硫化色素ニハ種々アリテ其堅牢度一様ナラス又摩擦ニ對スル剝ケ口ノ呈スル色合



ハ染料ニ由テ異ナルモノナレハ其割ケ口ノ如何ヲ檢スルコトハ此種織物ニ缺クヘカラサル要件ナリト云ハサルヘカラス自下世人需用ノ狀況ヲ見ルニ摩擦ニヨル割ケ口ハ藍ノ呈スル青色ヲ喜フカ故ニ染料應用ニ對シテモ可成丈割ケ口ノ藍ニ酷似ノモノヲ選擇スルヲ要ス多クノ硫化色素ハ種々ノ鼠色ヲ呈シ世人多クハ之ヲ嫌忌スルヲ以テ此點ハ大ニ注意アラントコトヲ希望ス

埼玉木綿織物同業組合ノ出品ハ往々ニシテ見ルヘキモノナキニ非スト雖モ種類品質ノ一定ヲ缺ク而シテ組織柄合等更ニ一段ノ講究ヲ要ス

群馬縣ノ出品ハ悉ク邑樂織物同業組合ノ製品ニシテ納戸緋、色緋、御召緋、擬大島緋等アリ緋織物ニ對シテ有名ナル産地タル丈ク意匠技術等頗ル人目ヲ惹クニ足ルモノアリ大島緋ハ事業ノ創始以來日尙淺キニモ拘ラス其成績頗ル佳良ニシテ年々需用ノ範圍ヲ加ヘツツアルハ喜フヘシ出品物ヲ比較スルニ色合ノ一定セザルト染色ノ堅牢ナラサルモノアルハ惜ムヘシ尙地風硬キニ失スルモノアリ是等ハ更ニ研究ヲ要ス交織緋ハ經絲ニ八十番ノ瓦斯絲ヲ用キ緯絲ニ玉紡又ハ絹絲ヲ使用シ玉紡ヲ用キタルモノハ其價格二圓乃至三圓ニシテ絹絲ヲ用キタルモノハ五圓乃至六圓位ナリ價格ノ低廉ニシテ外觀ノ大島紬ニ類スルハ社會ノ需用ヲ増加スル所以ナレハ更ニ製品ノ一定ヲ謀リ染色ノ堅牢度ヲ増シ以テ需用者ノ満足ヲ得ンコトニ注意スルヲ望ム

新潟縣ノ出品ハ重ニ見附町ノ製產品ニシテ長岡市其他ノ出品ハ僅ニ數點ニ過キス見附物ハ絹綿交織瓦斯緋等ニシテ比較的進歩ノ跡ヲ認メサルハ遺憾トスル所ナリ望ムラクハ社會ノ進運ニ鑑ミ組織ニ染色ニ將柄合ニ技ヲ練リ術ヲ凝ラシ改良進歩ノ實ヲ擧ケンコトヲ

栃木縣ノ耳出シ其他普通ノ絹綿交織物ハ他ノ高等絹綿交織物ノ發達ニ伴ヒ漸次技術ノ進歩ヲ呈シ少量ノ絹絲ヲ交ヘ低廉ナル價格ヲ以テ美觀ヲ裝フタル製品ヲ供給スルノ技能ハ大ニ稱揚スルニ足ル

愛知縣ハ尾西織物同業組合ノ出品多キニ居ル出品物ノ名稱ハ區々ニシテ一ナラスト雖モ能ク社會需用ノ變遷ヲ察シ嗜好ヲ喚起スルノ技能ヲ有シ組織柄合等頗ル見ルヘキモノアリ然レトモ吾人ノ觀察

ニヨレハ今回ノ出品ハ未タ同地方製織ノ現況ヲ充分ニ社會ニ示スニ足レルモノトハ認ムル能ハス本縣ニハ輸出織物ノ品種少カラサルニ僅カニ膠布、紺木綿等數點ノ出品アルニ過キス此少數ノ出品物ハ何レモ佳良ナリシモ其多數ノ製品ヲ比較品評スルヲ得ザリシハ遺憾トスル所ナリ尾西織物同業組合ハ明治三十八年ニ於テ其範圍ヲ擴メ組合員ノ數二千ニ及ヒ製品ノ檢査勵行ノ結果トシテ尺幅一定シ染色堅牢ノ度ヲ加ヘタルハ喜フヘシ

岐阜縣ノ出品狀態モ亦愛知縣ト同一ニシテ出品物多種ニシテ見ルヘキモノ少カラスト雖モ未タ地方織物ノ現況ヲ示スニ足ラサルモノニ似タリ而シテ輸出織物トシテモ僅ニ被面布一點アルニ過キス本縣ハ組合ニ於テ製品ノ取締ヲ爲スノ外縣ニ於テ輸出織物ノ檢査ヲ行ヒ粗製濫造ノ弊ヲ防ク等頗ル斯業ノ改良ニ勉メ居レリ

静岡縣ハ比較的多數ノ出品ヲ爲シ品種ハ木綿、絹綿、交織、無地物ニシテ組織染色ハ其ニ佳良ナルモノ多シト雖モ柄合ニ就テハ尙研究ヲ要ス細地綿物ニ至リテハ人造色素ヲ用キタルモノアレトモ太地物ハ重ニ正藍ヲ使用シ居ルモノノ如シ一般ニ地色ニハ注意シテ綿絲ノ染色ニハ用意ヲ缺ケルノ感ユリ遠州綿ハ主トシテ中流以下ノ需用ニ充ツヘキモノニシテ屢洗濯ヲ經テ地色ト共ニ綿絲モ其美ヲ損セサルヲ要スルモノナレハ此點ニ對シ一層ノ力ヲ致サンコトヲ希望ス近來本縣ハ足踏織機ヲ使用スルモノ多ク織耳能ク整ヒ地風平滑價格亦貴カラス斯ノ如キハ大ニ世間ノ需用ニ適スルモノナレハ益、品質ヲ完全ニシ社會ノ嗜好ニ投センコトヲ期スヘシ

宮城縣ノ仙臺地織、福島縣ノ會津縞等ハ數年來格段ナル進歩ヲ認メス

徳島縣ハ木綿、絹、織、紺、緋、色等ノ出品アリ近來縞物地色ニハ一般ニ硫化色素ト藍トヲ併用シ品質稍一定セリト雖モ縞柄ニ至リテハ更ニ一段ノ工風ヲ要ス又往々縞絲ノ染色不堅牢ナルモノアリ假令地色ハ堅牢ナルモ縞絲ニシテ之ニ匹敵セザレハ日光洗濯等ニヨリテ其美ヲ損シ需用者ヲシテ不滿ノ感ヲ抱カシメン宜シク注意シテ益、改進ノ策ヲ講スヘキナリ



福岡縣ハ久留米綿ノミニシテ組織柄合等清楚ニシテ見ルヘキモノアリト雖モ一般ニ織幅ノ狭キニ失スルハ惜ムヘシ

其他大阪、神奈川、兵庫、千葉、奈良、三重、青森、岡山、廣島、愛媛等ノ府縣ノ出品アリト雖モ何レモ少數ノ出品ニシテ各地方ノ實狀ヲ出品ニ就キテ見ルコト能ハサリシハ遺憾トスル所ナリ

以上各地出品物ノ概評ヲ終ルニ當リ尙一般ニ就キテ少シク述フル所アラントス

近來本邦ノ織物業ニ就キテ大ニ稱揚スヘキ價值アリト認ムルモノハ各地染織同業組合ノ活動ニ在リ勿論組合ニ在リテハ久シキ以前ヨリ大ニ實績ヲ擧ケ他ノ模範タルヘキモノアリシト雖モ多クハ獎勵機關トシテノ實ヲ顯スニ至ラス有名無實ノモノナキニ非サリシカ近年ニ至リテハ概シテ各地方トモ染織ノ特長ヲ發揮シ其製産力ヲ増加センニハ組合ノ活動ニヨラサルヘカラサルヲ認メ組合ニ専門技術家ヲ置キ實地指導ノ任ニ當ラシムルト同時ニ一方ニ於テハ製品検査ヲ勵行シ定款ニ違フ者ハ假借ナク之ヲ處分スルノ實ヲ現ハスニ至リ組合員ニ於テモ從來定款ヲ以テ一種ノ形式的ノモノト爲シ重ヲ之ニ措カサリシ者組合幹部ノ定款勵行ヨリシテ其規定ノ忽諸ニ附スヘカラサルヲ知リ能ク之カ實行ニ勉メ舊慣墨守ハ斯業發展ノ策ニ非サルヲ看取シ進ミテ新智識ヲ求メ一方ニハ定款ノ改正ヲ促シ他方ニハ製品ノ改善ヲ行ヒ定款ノ規定ハ之ヲ製品ノ上ニ現出シ大ニ需用者ニ満足ヲ與ヘ各地ノ製産額年ト共ニ多キヲ加フルニ至レルハ實ニ喜フヘキノ現象ト謂ハサルヘカラス然レトモ組合ノ活動スヘキ餘地ハ尙甚タ廣シ即チ科學ハ日々ニ進歩シテ吾人ニ研究材料ヲ供給シ生活程度ノ上進ハ嗜好ノ變遷ヲ來シテ供給者ニ新工風ヲ促スコト切ナリ此時ニ當リ各地組合ハ益奮勵シテ其準備ノ工程ヨリ整理ニ至ルマテ學理ニ據リ經驗ニ徵シ組合員ノ指導ヲ怠ラス常ニ社會需用ノ狀勢ニ鑑ミ改良上進ノ途ヲ講センコトヲ切望ニ堪ヘス

社會生活ノ向上ニ伴ヒ流行ノ變遷漸次複雑トナリ此種織物ノ如キモ柄合組織等ノ珍奇ナルモノノ歡迎セラルルノ傾向アリ爲メニ組織ヲ異ニシ又ハ纖維ノ結合狀態ニ工風ヲ凝ラシ若クハ纖維ニ特種ノ方

法ヲ應用シ實用新案法、特許法等ノ保護ノ下ニ種々ノ考案ヲ費スモノ多キニ至リシハ喜フヘシ此等ノ事タル學理ヲ根底トナシ之ニ經驗ヲ加ヘ初メテ完成ノ域ニ達スルモノナレハ宜シク日進ノ科學ヲ應用シ需用ヲ喚起スルニ足ルヘキ製品ノ製造ヲ爲スヘシ殊ニ編柄ノ意匠ヲ新ニスルコトハ易キニ似テ其實容易ナラス大ニ考究スルノ價值ヲ有ス

染色法ハ各地組合ノ活動ニ依リ進歩ノ著キヲ認ム是レ染色技術カ織物製造中重要ノ工程ナルカ故ニ各組合カ極力之カ改善ニ勉メタル結果ニ依ラスンハアラス今ヤ堅牢ナル人造色素ハ日々ニ其數ヲ増シ色彩意ニ從フテ之ヲ得ヘシ然レトモ日ヲ逐フテ一層優秀ナル色素ノ發明アルハ從來ノ例ニ徵シテ知ルヘク殊ニ其應用法宜シキヲ得テ始メテ其特長ヲ發揮スルモノナレハ益研究ヲ怠ラサランコトヲ希望ス

染料ニ就キ尙一言スヘキモノアリ或ハ染料カ一地方ニ盛ニ使用セラルルニ當リ價格競争ノ結果漸次染料ノ品質ヲ惡シクシ爲メニ其地方織物ニ影響ヲ及ホスモノアルヲ聞ク此ノ如キハ當業者ノ最モ注意ヲ要スヘキ點ニシテ殊ニ吾人ハ國家事業トシテ染料及藥品ノ檢定所ヲ設ケ其取締ヲ嚴ニセラレンコトヲ希望スルモノナリ

低廉ナル原料ヲ以テ高價ナル織物ニ摸擬スル織物ハ其技術大ニ進ミタルヲ認ム綿セル擬大島絨綿上布等ノ如キ是ナリ然ルニ此等摸擬的織物中ノ或モノハ其色合地風等ヲ近似セシムルニ汲々トシテ未タ染色ノ堅牢度ヲ之ニ伴ハシメ能ハサルモノアルハ遺憾トスル所ナリ

事業ノ勃興ニ伴ヒ勞銀ノ騰貴ハ省力器械ノ應用ヲ促シ足踏織機、力織機等ノ此種織物ニ利用セラルルノ傾向ヲ來シタルハ實ニ喜フヘキノ現象ニシテ品質ノ一定ヲ期スル上ニ於テモ効果大ナリト信ス然ルニ此等ノ省力器械ヲ使用スルニ就キテハ研究ノ忽諸ニ附スヘカラサルモノアリ當業者益其技ヲ磨キ内外ノ需用者ヲ満足セシメンコトヲ期スヘキナリ

綿雜類出品並ニ授統計表



府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一、三一七	二二九			五	八	二六	三八		七七	〇、三四
大阪府	二〇	三					一	一		二	〇、〇六
神奈川縣	四	一								一	一、〇〇
兵庫縣	二	一								一	一、〇〇
新潟縣	四四	二二				一	一			二	〇、五二
埼玉縣	二〇七	五二			一	三	一〇	六		二二	〇、五二
群馬縣	七四	五五				一	三	一		一六	〇、二一
千葉縣	七	二					二	一		一	〇、五〇
栃木縣	五〇	二二					二	三		一五	〇、二三
奈良縣	五	二						一		一	〇、五〇
三重縣	一三	八					二	四		六	〇、七五
愛知縣	九八	四三					一	五		二九	〇、六五
静岡縣	一四九	二二				二	四	九		一六	〇、七六
岐阜縣	三九	二二				一	二	六		一三	〇、五九
宮城縣	六三	一一					三	二		五	〇、五二
福島縣	二六	七					二	二		四	〇、五七
青森縣	二五	一									
秋田縣	二	四									
福井縣	八	一									
岡山縣	三	一									
廣島縣	一	一									
德島縣	五	二					四			一	〇、三九
愛媛縣	七	一									
計	二、三二一	五六二			八	二二	八四	一二二		二二八	〇、三八

第十七章 麻織物類

報告員 審査官 高田吉親

麻織物ノ出品ハ一府七縣ニシテ其點數多カラス而シテ日本製麻株式會社出品ノ外優良品ニ乏シク北海道及奈良縣ノ如キ一モ出品ナカリシハ遺憾トスル所ナリ  
 麻織物中着尺物ハ其産額年々減少セルノ傾向アリ就中手紡原料ヲ使用スル硫球上布、越後上布ノ如キハ大ニ其産額ヲ減シ製織技術ノ方法ニ至リテモ機械製原料ヲ用キタル會社製品外一二ヲ除キ些ノ進歩發達ヲ認ムルノ點ナカリシハ遺憾ナリキ

日本製麻株式會社ノ出品ハ帆布、ダツク、厚織麻布、チヨツキ地、ナプキン、シート等ニシテ他ノ着尺物ノ産額ヲ減スルニ反シ年々其産額ノ増大ヲ見ルノミナラス品質亦完全ノ域ニ近ケルヲ認ム該會社ハ明治三十六年七月ニ於テ下野製麻株式會社、近江麻絲紡績會社、大阪麻絲株式會社ノ三社合併シ資本金二百萬圓ヲ以テ成立セシモノニシテ合併以前ニ於ケル各會社ノ營業モ左マテ古カラス本邦ニ於テハ比較的新興ノ業ナルヲ以テ多少ノ困難逆境ヲ聞キシトアルモ漸次順潮ニ發達シテ紡績ヨリ製織ニ至ル凡テノ工程ニ於テ機械ヲ利用シ一面當業家需用ノ紡績麻絲ヲ供給スルト同時ニ帆布「ダツク」ナプキン、「シート」等ヲ製織シテ一意輸入防遏ニ勉メタルノ功空シカラス陸海軍遞信ノ三省ヲ始メ其他ノ需用ニ應シツツアリ本會ノ出品ヲ檢スルニ慥ニ優良品タルヲ失ハス就中北海道亞麻及外國製ノ原料ヲ用キテ製織シタル鹿沼帆布ノ如キハ組織緊密堅牢ニシテ優秀今回ノ出品中他ニ其比ヲ見サル所ナリ本年更ニ北海道製麻株式會社ト合同ノ約成立セルヲ聞ク前途益奮勵一層技術ノ改進ト産額ノ増大トヲ圖リ輸入防遏ト同時ニ輸出ヲ計ランコトヲ希望ス  
 上布類ニハ縞緋及白着尺物等ヲ含ミ沖繩、石川、滋賀、新潟、福井、栃木及鹿兒島ノ七縣ヨリ出品セシモ其數



極メテ少ク殊ニ鹿兒島、栃木ノ如キハ出品人各一名ニシテ福井其他ノ縣モ甚々尠ナルノミナラス其出品多クハ各縣ノ物産ヲ代表シ得ヘシト認メ難ク從ヒテ詳評ヲ下スコト頗ル困難タルヲ免レス今此種ノ概評ヲ下セハ左ノ如シ

沖繩縣ノ出品ハ原料凡テ手紡ニシテ一種ノ趣味ヲ有シ染色ハ正藍ニシテ洗濯ニ對シ脱色少ク硬度亦減退ノ憂ナク毛羽立チ易カラスシテ需用ニ適スト雖モ漸次機械紡績絲ヲ原料トシタルモノニ壓倒セラルルノ傾向アルト同時ニ價格ニ於テ競争スルコト能ハス且其需用甚々大ナラサルトニヨリ追々産額減退ノ跡ヲ認ム寧ロ特種ノ嗜好ヲ充タスニ過キスシテ現今ノ狀態ヲ改變スルニ非スンハ工業品トシテノ發展得テ望ムヘカラス敢テ當業者ノ猛省ヲ促ス

滋賀縣ノ出品ハ其數甚々少ク充分ナル批評ヲ下ス能ハスト雖モ同縣ノ製品ハ重ニ低廉ナル機械紡績麻絲ヲ原料トシ時勢ニ推移シテ改進セルヲ以テ漸次産額ヲ増シ價格亦不廉ノ嫌ヲ避ケ相應ノ需用アリ然レトモ今回ノ出品ヲ檢スルニ優良品ニ乏シク同縣下代表品タルモノヲ見サルハ甚々遺憾トスル所ナリ當業者須ク奮勵益、製品ノ改進ヲ計リ産額ノ増大ヲ期スルコト肝要ナリ

石川縣ノ出品ハ緋及縞ノ二種ニシテ脱色少ク可ナリノ製品ナレトモ敢テ舊態ヲ改メス格段ノ進歩ヲ認メサルハ遺憾ナリ

新潟縣ノ出品ハ極メテ僅少ニシテ優秀ノ製品ナク嘗テ盛況當時ノ製品ニ比スレハ寧ロ減退ノ非難ヲ免ルル能ハス恐クハ一面機械紡績ノ麻絲ヲ原料トシタル上布ニ壓倒セラルルノ傾向アルト同時ニ同縣當業者寧ロ絹布ノ製織ニ意ヲ注クカ如キ勵精ヲ缺クノ結果ナカラシカ

「マツト」其他ハ東京市ヨリ一名ノ出品アリシノミニシテ他ニ比較スヘキモノナシト雖モ漸次産額ヲ増シ輸入防遏ニ勉メタルハ賞スヘクヘシ「ヤン」布ノ如キ特ニ然リトナス而シテ製品概シテ甚シキ缺點ナシト雖モ「マツト」ハ組織一層堅實ヲ計リ日光及摩擦ニ堪ユヘキ染色ヲナスト同時ニ益、産額ノ増大ヲ期センコトヲ希望ス

洋服眞地ハ東京市ヨリ一名ノ出品アリ麻織、交織、綿織等ニシテ之カ製造ノ創始ハ日清戰役後ニ在リ年々輸入金額約十萬圓内外ナリシカ此織物製造ハ幾分輸入ノ防遏トナリ陸軍其他ノ需用ヲ充タセリ現品ハ組織及仕上ニ於テ多少ノ缺點アルヲ免レス製織創始以來日尙淺クシテ充分ノ好果ヲ見ルニ至ラサルヘシト雖モ將來有望ノ事業タルハ論ヲ俟タス益、奮勵改進産額ノ増大ヲ計ランコトヲ希望ニ堪ヘス坐蒲團地及脚絆地ハ東京市ヨリ出品アリ近江製ナリ品質優良ナラス脚絆地ハ福井縣ノ出品ニシテ稱揚スヘキ製品ニ非スト雖モ此種ノ需用益、多キヲ以テ價格ノ低廉ト組織ノ堅實ヲ勉ムルコト肝要ナリ

麻織物類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	五四	八	—	—	—	—	—	—	—	四	〇、三七
新潟縣	五	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木縣	二	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一、〇〇
滋賀縣	二六	八	—	—	—	—	二	—	—	四	〇、五〇
福井縣	一三	三	—	—	—	—	—	—	—	一	〇、三三
石川縣	二〇	一	—	—	—	—	—	—	—	五	〇、四五
鹿兒島縣	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沖繩縣	二二	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一五五	六一	—	—	—	—	—	—	—	二五	〇、三九

第十八章 毛織物

報告員 審查官 齋 藤 俊 吉

毛織物ノ出品ハ東京府下ノ製造ニ係ルモノ最多數ヲ占メ兵庫縣之ニ次ク總體ヲ通シテ其點數少ク未タ絹及木綿織物ニ比スヘクモ非スト雖モ我國ニ於ケル毛織物ノ需用程度ノ昂進ハ供給ノ不足ヲ告クルト同時ニ之カ製造ヲ促シ一方ニ在リテハ輸入ヲ防遏シ他方ニ在リテハ我國ニ適セル新毛織物ノ要



求盛ニシテ毛絲ノ消費高ヲシテ年一年ニ多キヲ加ヘシムルニ至レリ而シテ本會ニ於ケル毛織物出品數ハ之ヲ從來ノ博覽會又ハ共進會ノ出品ニ對比セハ其増進ノ度實ニ著キモノアリ是レ獨リ斯業界ノ爲メノミナラス我國家經濟上甚々慶スヘキノ現象ナリトス

出品ノ毛織物ヲ通覽スルニ紡毛織物ハ一般ニ大工場ノ出品ニ係リ梳毛織物及其交織物ハ個人的小工場ノ出品ニ多キヲ見ル是レ紡毛織物ハ技術複雜ニシテ操業容易ナラス且機械ニ多大ノ資金ヲ要スルニ歸因スルモノナリ紡毛織物ノ出品ハ「フラネル」「ラツグス」「ブランケット」「抄紙用フェルト」「アーミークロス」等ノ起毛絨ヲ主ナルモノトシ其他二三ノ「メルトン」ニシテ又梳毛織物及其交織物ハ「カバート」「コーチング」「ファンシー」「ウーステッド」「コーチング」「ウーステッド」「モスリン」「肩掛」「膝掛」「女袴地」「旗布地」及「セル」ノ類ヲ主ナルモノトス

右各種毛織物ハ其創業ハ極メテ近キ過去ニ屬シ其最モ古キモノト雖モ尙未タ二十年ヲ出テサルナリ此短少ノ年月ニ在リテ而モ隣保ノ關係ニ乏シク其原料タリ用機タリ孰レモ輸入ニ屬シ且其製造技術ニ於テハ我國固有ノモノニ直ニ應用シ得ヘカラサル新事業ナルニ拘ラス本會出品物ノ如キ大ニ見ルヘキモノヲ得タルハ毛織物需用ノ度著ク増加セル秋ニ在リテ大ニ人意ヲ強フスルニ足ル然レトモ之ヲ外國製品ニ比スルトキハ其技術ニ於テ未タ及ハサルコト遠シトノ語ヲ發スルノ已ムヲ得サルモノアルハ誠ニ遺憾ナリ

紡毛織物ハ技術上著ク熟練ノ度ヲ増シ近來其製品大ニ進歩シタリト雖モ工程ノ未タ完全ナラサルモノ多キヲ發見セリ即チ紡績ニ於ケル「カーデング」ノ不充分ニシテ從ヒテ絲條ノ平等ナラサル原絲ヲ用キテ製織シタルモノ少カラサルコト是ナリ其原因ハ紡績機ニ力量以外ノ仕事ヲ爲サシムルノ結果ニ外ナラス而シテ斯ノ如キ細太不平等ナル絲條ハ撚數ニ差違ヲ生スルニヨリ縮絨工程ニ於テ表面ニ不均一ヲ來タシ從後ノ壓絨ニヨリ一時表面ヲ補修シ得ルカ如シト雖モ決シテ永久的補修ニ非ス又經絲ノ配列數ヲ減シ緯絲ノ打込數ヲ少カラシメ以テ縮絨時間ヲ節約セリト認メラルルノ出品アリ是レ毛

織物ノ種類ニヨリテハ趣味上ヨリ或ハ必要ナルコトアリト雖モ一般ノ毛織物ニ應用スルハ當ヲ得タルモノト云フヘカラス其他壓絨ノ不完全「ブローイング」ノ不適當ナル等改良ヲ要スヘキモノ少カラス梳毛織物ニ於テハ東京製絨株式會社カ紡績製絲シテ製織セルモノト「ウーステッド」「モスリン」工場「トッブ」ヨリ製絲セルモノトヲ除キテハ他ハ孰レモ梳毛絲ヲ他ヨリ購買シ其多クハ外國ヨリ輸入セルモノヲ用キテ製織シタルニ過キス而シテ我國未タ「トッブ」ヲ供給スヘキ工場ナキト毛絲紡績工場ノ多カラサルカ爲メ柄合ノ變化ニ富ミタル梳毛織物ヲ製造スルコト能ハス是レ吾人ノ最モ遺憾トスル所ナリ

「ウーステッド」「モスリン」ハ創業日尙淺キニ拘ラス進歩著大ニシテ産額年々數百萬圓ノ上ニ昇リ普通品ハ殆ト全ク海外ノ輸入ヲ防遏スルニ至レリ然レトモ是等ハ概ネ規模狭小ナル個人的工場ノ製織ニ係リ東京モスリン會社製品數點ヲ除キテハ製織仕上共ニ不完全ナルモノニ非サレハ織下シノ未製品ヲ見ルニ過キス特ニ色「モスリン」及女袴地ノ類ハ毛立甚シク且折毀ノ存在スルモノ多キヲ見ル是レ毛織物トシテノ適當ナル處理ヲ施ササルニヨルモノニシテ深ク研究ヲ要ス

「ウーステッド」「コーチング」竝ニ「ファンシー」「ウーステッド」「コーチング」ノ類ハ材料ノ不適當ナルト仕上法宜シキヲ得サルコト等紡毛織物ニ就キ評セシカ如シ  
 「セル」ハ創業以來年ヲ經ルコト未タ幾許ナラサルモ其進歩著ク就中其優良ナル出品物ハ外品ニ比シ劣ルナキノミナラス柄合等ハ我國ノ嗜好ニ適スルヲ見ルニ至レリ然レトモ出品中尙製織適當ナラサルモノ及仕上法ノ不完全ナルモノ等アリ特ニ「メンデング」即チ補修ノ工程ヲ缺ケルハ一大缺點ト云フヘシ其他仕上法ノ理ヲ解セス仕上ニ於ケル各工程カ其織物ニ及ホス影響ヲ知ラスシテ漫然施行セルカ如キモノアリ

旗布ノ出品ニシテ材料製織共ニ宜シキヲ得タルヲ見ルハ蓋シ本會ヲ以テ始トス其他「フラネル」「肩掛」「膝掛」等ハ特ニ評スルノ必要ヲ認メス

終ニ臨ミテ毛織物業者ニ向テ尙一言ヲ要スヘキモノアリ他ナラス仕上工程ニ於テ紡績及製織上ノ缺



點ヲ補修セントスルハ大ナル誤ナリ又仕上工程ハ絲質組織染色ノ如何及其織物所要ノ趣味ニ應シ同  
 一ノ織物ニ在リテモ常ニ同一ノ方法同一ノ工程ヲ施スヘキモノニ非ス換言スレハ材料ノ性質所要ノ  
 外見趣味ヲ明ニシ最モ熟練セル手ヲ以テ經驗ニヨリテ施行スルヲ要スルモノナリ當業者タルモノ深  
 ク之ニ留意シ研究ヲ怠ル勿レ

毛織物出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	二六九	五三	—	—	—	二	六	六	—	一六	〇、三一
大阪府	一六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫縣	二七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木縣	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛知縣	六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三二一	五八	—	—	—	三	六	六	—	二〇	〇、三四

第十九章 敷物類

報告員 審査官 森田儀一郎

本類ノ重ナル出品ヲ綴通トシ由多加織及經木織敷物等多少ノ出品ヲ見タリ今左ニ種類ヲ分チテ之カ  
 批評ヲ試ミン

綴通 東京府ノ出品最モ多シト雖モ製產地ハ殆ト大阪府ノ工場トス組織稍佳ナルモノアリト雖モ配  
 色圖案概シテ不良ニシテ内地向綴通ハ殆ト舊套ヲ因襲スルニ止マリ輸出向ノモノニ於テハ室内裝飾  
 等ニ通セスシテ立案シタルモノ多キニ居ルハ最モ遺憾トス毛綴通ハ其配色圖案稍佳ナリト雖モ整理  
 ノ不完全ナル爲メ高價ナル商品モ充分其價値ヲ發揮スルニ至ラス將來ハ整理ノ上ニ力ヲ竭スヲ要ス  
 又綴通ハ一般ニ一種ノ惡臭ヲ放ツヲ以テ之ヲ除去スル方法ヲ講スルコト急務ナリトス  
 由多加織 内地向ノ製品ハ染色ノ上ニ更ニ改良ヲ施ササルヘカラス輸出向ニ至リテハ綴通ト同シク

配色圖案ニ想ヲ練ラハ更ニ需用ヲ増加スルニ至ルヘキカ

經木織敷物 富山縣下ノ出品ニシテ經木ト綿絲トヲ以テ「シユニール」絲ノ如キ緯絲ヲ作り之ヲ織リテ  
 花紋ヲ捺シタルモノナリ即チ低廉ニシテ鮮麗ナル色澤ヲ有スト雖モ之ヲ邸宅ニ用ユルトキハ甚ク野  
 卑ナル感ヲ呈スヘク又出品ノ如キ配色及組織ニテハ未タ實用ニ適スルモノト認ムルヲ得ス然レトモ  
 尙發明者ノ研鑽ヲ經ハ將來相當ノ商品トナル望アリ一層ノ奮勵ヲ要ス

敷物類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一二七	七	—	—	—	—	—	—	—	五	〇、七一
大阪府	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新潟縣	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
富山縣	一二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一四五	一〇	—	—	—	—	—	—	—	六	〇、六〇

第二十章 臺灣出品染織物類

報告員 審査官 高田吉親

臺灣ノ出品中織物ニ屬スルモノハ鳳梨布、蕃布、粗麻布等ニシテ染物ニ屬スルモノハ染色シタル木綿、金  
 巾類又ハ蕃布等ニ過キスシテ頗ル單純ナリ

鳳梨布ハ鳳梨ノ葉ヲ擇擢シ表裏ノ外皮ヲ適當ノ法ニヨリテ剝キ取り該纖維ヲ水晒トナシタル後絲ト  
 ナシ創始時代ノ大和機ニ類似スル織機ニヨリテ織製シタルモノニシテ臺灣産織物中比較的優秀ナル  
 モノナリ本品ハ多クハ淡褐色ニシテ専ラ帷子用トシテ需用アリ

蕃布ハ苧麻纖維ヲ以テ最モ簡單ナル創始時代ノ織機ニヨリ製織スルモノニシテ主トシテ蕃人ノ衣類  
 ニ供用セリ

粗麻布ハ黃麻ヲ以テ織製シタルモノニシテ専ラ米袋ヲ製スルニ用フ



右種類ノ織物ヲ概評スレハ未タ商品タルノ價值ヲ有スル域ニ進ミタルモノナク僅ニ副業トシテ若クハ自家用トシテ之ヲ製シタルニ過キササルモノノ如シ然レトモ出品中鳳梨布ハ比較的細絲ヲ用キ夏期用トシテ特種ノ趣味ヲ有スルノミナラス價亦廉ニシテ其産額漸次増加ノ見込アリ之カ製絲晒白ノ良法ヲ施シ或ハ染色仕上等ノ加工ヲナシ適良ノ織機ヲ選ヒテ多數ノ産出ヲ見ルニ至ラハ麻織物一部ノ競争品タルヲ得ヘキノミナラス應用ノ道ハ一二ニシテ止マラサルヘシ臺灣婦人ノ纏足ハ織物工業ノ發展ニ不適ナリトノ速斷ヲナシ之カ獎勵ヲ擲棄スルカ如キハ遺憾ナリトス近來二三ノ土人及内地人ハ機業傳習所ナルモノヲ設ケ職工ノ養成産額ノ増加ヲ圖ラントス先見ノ明アリト謂フヘシ然レトモ本島ノ如キ創始ノ時代ニ於テハ須ラク保護政策ヲ施スカ否ラサレハ有力ナル人士及適切ナル技術者ニヨリテ之ヲ經營スルニ非スンハ其功績ハ得テ望ムヘカラサルナリ

藩布及粗麻布ハ特ニ評スルノ價值ナシ  
 染布ノ主ナルモノハ紺、淺黃、黑色ニシテ紺及淺黃色ハ専ラ泥藍ヲ使用シ黑色ハ藍下ニ「タンニン」劑ト鐵質物トヲ以テ上染スルヲ普通トナセリ

藍建ニ用フル「アルカリ」ハ貝殼灰ニシテ酸酵劑トシテハ糖密又ハ酒(酸ナラン)ヲ用フ其建法ハ頗ル迂遠ニシテ最初ヨリ使用ニ至ルマテ十數日間ヲ要スト云フ濃紺色ヲ染ムルニハ藍液ニ浸ス毎ニ乾燥シ三十日間ヲ要スルコトアリ而シテ染上前ニハ必ス膠液ニ浸シテ乾燥シ尙二三回藍液ニ通シ乾燥後之ヲ盤上ニ載セ其上ニ適當ナル重石ヲ回轉シテ仕上ケ以テ光澤ヲ出ス仕上ノ染布ハ上光強ク手觸リ硬固ニ失スルノ感アリ普通用トシテハ甚タ不適當ナルモ同地需用者ノ嗜好ニ適ストセハ希望ヲ述フルノ要ナケン藍建及其染法ハ堅牢度ヲ増サシムルニハ適良ノ法ナリト雖モ少シク迂遠ニ失スルノ嫌アリ多少ノ改良ト共ニ人造色素ノ應用ヲ講スルヲ要ス又黒染ニ於テモ同様ノ必要アリト認ム

臺灣出品染織物類出品並ニ授賞統計表

府縣名 出品點數 出品人員 金牌 銀牌 一等賞 二等賞 三等賞 褒狀 協贊賞 受賞合計 受賞割合

臺 灣 七〇 四九 一 一 二七 一 二八 〇、五七

第二十一章 韓國出品染織物類 報告員 審査官 高 田 吉 親

韓國ノ出品ニハ絹布アリ綿布アリ麻布アリ絹布中ニモ生絹、光絹、色絹、春紗、絹縮、絹縞、本縞、蒲團地等ノ各種類ヲ含ミ綿布麻布中ニモ數種類ヲ出品セリ

此ノ如ク其出品ハ全體ニ於テ雜駁ヲ極メタルノミナラス其大部分ハ支那、日本等ノ製品ニシテ粗造ナル綿布、麻布及絹布類ヲ除クノ外韓國製品ト認ムヘキモノナシ

出品中輸入絹布類ハ其組織及仕上ニ於テ比較的良好ナリト雖モ染色ノ不堅牢ナルハ爭フヘカラサル點ニシテ一段ノ改良ヲ要スヘキナリ

韓國産出絹及紬織物類ハ原料ノ不同及織斑等織物トシテノ缺點尠カラサルヲ認ムト雖モ其原料ハ益豐富ナルヘキ見込アルヲ以テ職工ノ養成ト専門的經營ト相俟チテ多額ノ産出ヲ見ルニ至ラハ將來有望ナル産物タルヲ疑ハサルナリ

綿布ハ自國産綿花ヲ紡車ニテ紡績シ我國ノ蹻織機風ノモノニテ織リ立ツルモノニシテ何レモ家族的工業ニ屬シ製品頗ル粗雜ナリ而シテ其産額ハ不明ナルモ主産地ニ於テハ一ケ年五十萬圓内外ヲ産スルアリ又百萬匹ヲ産スルアル等ニ徴スレハ其全産額ハ尠シト云フヲ得サルナリ而シテ支那及本邦ヨリノ輸入ハ年々五百萬圓以上ニ達シ漸次増加ノ趨勢アリト云フ

此ノ如ク自國産ノ綿布ハ漸次輸入品ニ壓倒セラレツツアルハ其地質ノ粗雜ナルト其價格ノ割合ニ不廉ナルニ歸セスンハアラス

近時輸入紡績絲ヲ自國手紡綿絲ニ混織シ以テ輸入綿布ノ増進ヲ防遏セントスルハ獎スヘシ然リト雖モ紡績法ニ機具ニ大改良ヲ施シ嚴格ナル職工養成法ヲ採リ以テ有力ナル人士カ熱誠ナル經營ヲナスニ非スンハ輸入ノ大勢ハ遂ニ蠶食シ盡サスンハ止マサルニ至ルヘシ當事者ノ奮勵ヲ促ス



其他綿、ネルノ如キ瓦斯綾織ノ如キ或ハ「タオル」ノ如キ漸次需用増大ノ傾向アルニモ拘ラス一、二ノ出品ニ過キス

麻布中其粗雜ナル下等品ハ囊類及雜用ニ中等品以上ハ喪服又ハ夏服ニ使用セラル其産額ハ約六七十萬圓ニシテ輸入モ亦殆ト同額ナリト云フ

中等品以上ノ出品物ハ素ヨリ我上布類ニ及ハスト雖モ原絲組織共ニ見ルヘキモノアリ而シテ其精練晒白及仕上ノ工程ニ於テ一段ノ進歩ヲ促スト同時ニ綿布ノ項ニ於テ述ヘシカ如ク輸入ヲ防遏スルノ道ヲ講スルハ今日ノ急務ナリト謂ハサルヘカラス

染物ニ屬スル出品ハ其染色數種ニ過キス即チ黒紺、淺黃、桃色等ノ染布ナリ出品ノ數及種類僅少ニシテ而モ其技術亦幼稚ノ域ニ在ルハ韓國舊來ノ習慣トシテ男女トモ概ネ白衣ヲ着ケ僅ニ未婚ノ男女ハ色物ヲ着クルモ其染色ハ殆ト二三ニ限ラレタルニ因ルヘシト雖モ已ニ法令ヲ以テ着色衣ノ獎勵ヲナセシヲ以テ是ヨリ漸次染色業ノ發展ヲ來スヘキハ明瞭ナリ唯今回ノ出品ニ就キテハ批評スルノ價值ナキヲ遺憾トス

韓國出品染織物出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
韓國	一四二	八	一	一	一	一	二	一	一	四	〇、五〇

### 第三篇

## 第一章 友禪類

報告員 審査官 鶴 卷 鶴 一

本類ニ屬スル出品ヲ分チテ一、毛斯倫友禪染二、綿布友禪染三、絹布友禪染四、肩裏長褙袴及裾模様友禪染五、半襟類六、友禪染雜類即チ帛紗裝飾品其他以上ノ種類ニ屬セサルモノノ六種トス今左ニ之カ批評ヲ試ミントス

### 第一節 毛斯倫友禪染

毛斯倫友禪染ハ價格低廉ニシテ外觀美ナルヨリ本邦都鄙一般ニ使用セラレ其需用極メテ廣シ當業者カ圖案配色等時好ノ投合ニ意ヲ用キルコトノ深キハ本會ノ出品之ヲ證シテ餘アリ而シテ比較的廉價ニシテ一見燦爛衆目ヲ惹キ易ク縮緬友禪ナルヲ疑ハシムルノ外觀ヲ裝フコトニ汲々タルノ跡歴然トシテ之ヲ見ルヲ得ヘシ然レトモ圖案配色ニ於ケル苦心ハ往々突飛ニ走り模様ヲ野卑ナラシメ配色ノ調和ヲ失セシムル等非難スヘキモノ亦少カラズ殊ニ價格ノ競争ハ色素ノ選擇、染法ノ改善及整理ノ研究等ノ考慮スルニ暇アラサシムルモノカ是等ノ點ニ於テハ進歩ノ認ムヘキモノ甚タ乏シ殊ニ今回ノ出品ニ於テ注目スヘキハ比較的優等ノ出品カ大商店若クハ大製造家ニ乏シクシテ中流ノ商店又ハ製造家ニアリシコト是ナリ素ヨリ販路其他ノ關係ニ因ルナランモ當業者ノ一考ト奮勵トヲ希望シテ止マサル所ナリトス

### 第二節 綿布友禪染

綿布友禪染ハ其出品僅少ナリシモ特リ大阪府の場淑彦ノ新毛斯倫友禪染ハ毛斯倫友禪染代用品トシテ稍、成功セシモノト認ムルコトヲ得ヘシ同人ノ觀光縮緬友禪染及輸出縮緬友禪染ハ特ニ稱揚スル程ノ價值ヲ有スルモノトハ認メ難シ

### 第三節 絹布友禪染

絹布友禪染ハ數年以來一般ニ圖案配色ノ點ニ於テ大ニ進歩セリト雖モ新案ヲ採用セシ結果往々全體ノ調和ヲ缺キ未タ巧妙ノ境ニ達セサル者多ク或ハ今尙舊習ヲ墨守スルモノアリ或ハ徒ニ珍奇ヲ以テ時好ニ投セントシ却リテ突飛ニ陥リシ者アルハ甚タ遺憾トスル所ナリ又出品中圖樣大ニ過キ單ニ陳列品トシテハ美觀ヲ呈スルモ實用ニ供スルニハ不適當ナルヲ感スルモノ少カラス是等ハ出品者ノ一考ヲ要スル所トス染色上ノ一新法トシテ京都府島村善助ノ出品中絹布ニ銅版ヲ以テ印刷染色セシ者アリ其方法斬新ナリト雖モ圖樣ハ細線ヲ應用シ得ルノミニシテ地色其他ノ配色ノ細大トナク自在ニ



染色スルノ方法ヲ缺クヲ以テ應用ノ範圍狹少ナルハ惜ムヘシ尙一段ノ研究ヲ要ス兎モ角斯道ノ爲メ此種研究ノ結果新法ノ續出センコトヲ希望ス

第四節 肩裏長襦袢及裾模様染

長襦袢及裾模様染出品中圖案配色及染色共ニ見ルヘキモノ尠カラス就中三越吳服店、飯田新七、高島屋、大村彦太郎(白木屋)、古屋徳兵衛(松屋)等ノ出品ニ於テ佳品アルヲ認ム一般ニ圖案配色染色等ノ點ニ於テ當業者苦心研究ノ跡ヲ認メ得ヘシト雖モ未タ全ク舊習ノ脱セサルモノアリ徒ニ珍奇ヲ求メテ成功セサルモノアリ例之漆畫ヲ應用シテ却リテ一般ノ調和ヲ缺キ加フルニ地質ノ美ヲ損セシカ如キ或ハ礦物性染料ヲ應用スルニ固着劑ノ不適當ナルモノヲ使用セシカ如キ是ナリ

第五節 半襟類

半襟類ハ刺繡ヲ施セシモノ其過半ヲ占メタリ園田治郎吉、荒川益次郎、宮本儀助等ノ出品ニ於テ佳良ノモノアリシト雖モ一般ニ圖案配色ノ點ニ於テ改良スヘキ點尠カラス殊ニ寶石珠玉ヲ附着セシモノノ如キハ珍奇ニ過キ實用ニ不適當ナルモノト認ム

第六節 友禪染雜類

友禪染雜類ニ屬セシモノハ帛紗及飾飾品等ノ友禪染ニシテ就中古屋徳兵衛出品ノ帛紗及西村總左衛門ノ天鵝絨友禪染額地ハ見ルヘキモノナリシカ其他ノ出品ハ概シテ圖案配色共ニ陳腐タルヲ免レス出品中極メテ細密ナル圖案ヲ採用シ徒ニ製作ノ技ヲ誇ルカ如キモノアリシカ是等ハ一考スヘキモノナリトス

友禪類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	七六九	一四五	一	六	八	一一	一一	一	三七	〇、二五	

京都府	五四	一六	一	二	一	一	一	一	六	〇、三七
大阪府	一五	三	一	一	二	一	一	一	一	〇、三三
神奈川縣	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一
新潟縣	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一
群馬縣	一五	五	一	一	一	一	一	一	一	一
栃木縣	三一	七	一	一	一	一	一	一	一	一
愛知縣	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一
靜岡縣	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
福島縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
秋田縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
石川縣	三	三	一	一	一	一	一	一	一	一
計	九〇二	一八七	一	八	一〇	一四	一六	一	四九	〇、二六

第二章 無地染及紋附類

報告員 審査官 高松 徳治 郎

此類ニ屬スル出品ハ一、綿布無地染二、絹布無地染三、毛布無地染四、雜無地染五、紋附類ノ五種ニシテ其出品ニ府十三縣ニ涉レリ請フ逐次之ヲ概評セン

第一節 綿布無地染

綿布無地染ハ重ニ東京府ノ出品ニシテ金巾裏地染十中ノ七八ヲ占ム數年前ニハ「インヂゴ」ヲ以テ染色ヲ施シタル金巾裏地アルヲ見タリシカ本會ノ出品ニ於テ斯ノ如キモノヲ見サリシハ斯業ノ一進歩ニシテ孰レモ摩擦作用ニ堅牢ナリシハ喜フヘシ然レトモ日光洗濯作用ニ對シ褪色若クハ變色スルモノ多カリシハ遺憾ノ至リナリ獨リ由本元三郎出品ノ濃花色裏地ハ硫化色素ヲ應用セシヲ以テ日光洗濯摩擦ノ作用ニ對シテ堅牢ナリシカ外觀美ナラス殊ニ醋酸作用ニ堪ヘサリシハ是亦遺憾トスル所ナリ



但シ硫化色素ノ應用ハ斯業ノ一進歩タルコト疑ヲ容レヌ  
 吾人カ數年來期待セシ所ノ新事業タル光澤綿布<sup>ビーストウールゼーシヨ</sup>ノ製造及無地染ハ今回其出品ヲ見ルニ至リシハ欣喜  
 ニ堪ヘス然レトモ其出品ハ比較的色彩澤善美ナラス整理拙劣ニシテ外觀毫モ「マルゼーシヨ」ノ工  
 程ヲ施シタルノ形跡ヲ認メス單ニ色素ノ吸收ヲ容易ナラシメタルニ過キスシテ却リテ普通裏地ヲ「ジュ  
 ライナ」カレンダ」ニ通セシモノヨリモ劣ルノ觀アリ而シテ其染色ハ黑色ヲ除クノ外一般ニ堅牢ナ  
 ラス價格亦不廉ナリ該事業ハ創業日尙淺キヲ以テ豫期セシカ如キ善美ナル成績ヲ見ルニ至ラサルナ  
 ラン元來該事業ハ蝙蝠傘地用綿縞子ノ輸入ヲ防遏シ進ミテハ輸出ノ好望ヲ荷フヘキ至大ノ關係ヲ有  
 スル事業タルハ勿論其他諸種ノ綿布ニ施シテ極メテ有利ノ事業タルヘキヲ信スルカ故ニ將來益奮勵  
 シテ完美ナル結果ヲ擧クルニ汲々タルヲ望ム陸軍軍服用雲齋「カーキ」染ハ之ヲ數年前ノモノト比照ス  
 ルニ顯著ナル進歩ノ形跡ヲ認ム其出品ヲ見ルニ礦物染料植物染料ノ二種アリ礦物染料ハ東京府ニ在リテ  
 ハ日清染布株式會社(泉源太郎)日本染織會社(大阪府)ニ在リテハ天滿染工場ヨリ出品シ其色相ハ陸軍省  
 所定ノ通りニシテ孰レモ染色堅牢價格亦低廉ナリ只整理ノ點ニ於テ少シク硬キニ失ス將來此點ニ就  
 キテ一層ノ改良ヲ望ム其他滿州向「シーチング」無地染ニ就キテ日清染布株式會社ノ出品ハ色相整理共  
 ニ佳良價格亦廉ニシテ將來輸出品トシテ有望ノ事業ナリ唯日光作用ニ對シ稍堅牢ナラス將來染料ノ  
 選擇ニ就キテ一層ノ改良ヲ要ス天滿染工場出品ノ佛青ハ硫化色素ヲ以テ染色ヲ施シタルヲ以テ染色  
 堅牢ナリト雖モ整理稍不完全ナルヲ免レス日本染織會社出品ノ「シーチング」潮染ハ「インダンスレン」ヲ  
 以テ染色ヲ施シタルヲ以テ染色堅牢ナリト雖モ其色相稍野卑ニ失ス之ニ「メランスレン」ヲ配合セハ適  
 常ノ色ヲ得ルナラン又同會社ノ整理ニ就キテハ尙一層ノ改良ヲ要ス滿州向「シーチング」ハ其染料ノ選  
 擇及整理ニ就キテ改良ヲ施セハ輸出品トシテ將來有望ノ事業タルヤ疑ナシ  
 其他新「モスリン」無地染ハ色澤、手觸等佳良ニシテ一見「モスリン」タルノ觀アリト雖モ一般ニ染色不堅牢  
 ナリ今後染色ノ改良ヲ圖ルアラハ需用ノ途増加シ價格ノ低廉ナル或ハ無地「モスリン」ヲ壓倒スルニ至

ラン

### 第二節 絹布無地染

絹布無地染ノ重ナルモノハ絲好花色絹、紅絹ニシテ東京府、群馬縣ノ出品ヲ多シトス今回出品ノ絹布無  
 地染ハ數年前ニ比シテ毫モ進歩ノ形跡ヲ認メス色澤佳良ナリト雖モ一般ニ染色不堅牢ニシテ甚シキ  
 ニ至リテハ單ニ冷水ニ浸漬スルノミニテ脱色シタルモノ多シ是レ染色ヲ施シタル後整理ヲ爲ス際仕  
 上糊中ニ色素溶液ヲ混合シテ整理セシモノナラン其價格低廉ナリト雖モ品質極メテ粗惡ニシテ殊ニ  
 花色絹ニ至リテハ分析試驗ノ結果仕上糊ノ重量ハ絹ノ重量ト略相等シ將來品質、染色、整理ニ就キテ改  
 良ヲ施スコトナク在昔今日ノ狀態ヲ維持センカ絹裏地需用ノ途ハ益減退スルニ至ラン當業者ニ向ヒ  
 テ一層ノ注意ヲ望ム

### 第三節 毛布無地染

毛布無地染ノ重ナルモノハ「モスリン」無地染、カシミア、袴地染、「フラネル」無地染、海軍用旗布等ナリ  
 「モスリン」無地染ハ東京、大阪二府ノ出品ニシテ單ニ色合鮮美ニシテ價格低廉ヲ旨トセシヲ以テ其染色  
 堅牢ナルモノ少シ

「カシミア」袴地無地染ハ整理稍見ルヘキモノ少カラスト雖モ染色一般ニ堅牢ノモノ少シ袴地ナルモノ  
 ハ第一日光、水洗作用ニ耐ユル染色ヲ施ササルヘカラスト然ルニ今回出品ノ袴地ニ於テ日光ニ堅牢ナル  
 モノ少キハ遺憾トスル所ナリ當業者宜シク需用ノ途ニ從ヒ染色ヲ施サンコトヲ望ム

「フラネル」無地染ハ重ニ東京府ノ出品ニシテ整理完全シ其染色ハ日光、水洗作用ニ堅牢ナルモ洗濯作用  
 ニ不堅牢ナルヲ免レサリキ

### 第四節 雜無地染

雜無地染ノ重ナルモノハ絹綿交織縞子無地染、天鵝絨無地染等ナリ絹綿交織縞子無地染ハ群馬、東京ノ  
 出品ニシテ桐生織物會社ノ出品ニ就キテ二三稍見ルヘキモノアリト雖モ概シテ染色ノ工程不完全ニ



シテ綿絲ノ濃度ハ絹絲ノ濃度ト相等若クハ稍淡キニ失スルノ結果其表面乃チ絹絲ノ部分ニ經筋染段ヲ現セリ元來縹子ナルモノハ染縹子、織縹子ノ如何ヲ問ハス經絲ヨリモ縹絲ノ三割方濃厚ニ染色ヲ施ササレハ絹絲ノ部分ニ經筋染段ヲ現ス結果トナル是レ製織ニ向ヒテ改良ノ全力ヲ盡セシ結果染色ニ就キテ改良ヲ施スノ違ナキニアランカ今後染色及整理ニ就キテ當業者ニ一層ノ改良ヲ望ム

第五節 紋附類

紋附ノ出品ハ僅少ニシテ殊ニ其本場タル京都府ノ出品ナキハ遺憾トスル所ナリ前回ニ比シ著キ進歩ノ形跡ヲ認メスト雖モ獨リ山梨縣西室逸作ノ羽二重紋附ハ色澤善美ニシテ紋部ノ區劃判然シ染色稍堅牢ナリ其他ノ出品ニ在リテハ一二見ルヘキモノアリシモ多クハ舊來ノ染法ヲ墨守シ一般ニ色澤ニ乏シク堅牢ノモノ少クシテ紋部ノ區劃判明ナラサルヲ惜ム

無地染及紋附類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	四四七	六六	一	四	五	一〇	六	一	二六	二六	〇、三九
大阪府	三一	四	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
兵庫縣	六	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
新潟縣	六	二	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
埼玉縣	八	四	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
群馬縣	三一	七	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
栃木縣	二三	四	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
愛知縣	二	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
静岡縣	六	三	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
山梨縣	五	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
岐阜縣	九	五	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五

宮城縣	三	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
福島縣	一	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
秋田縣	九	六	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
福井縣	一五	一	一	一	一	一	一	一	六	六	〇、二五
計	五九二	一〇七	一	五	六	一五	一五	一	四二	四二	〇、三九

第三章 形附類

報告員 審査官 下山 又次郎

此類ニ屬スル品種ヲ細別スレハ中形、更紗、小紋、染紉、染手拭及雜類ニシテ其出品ハ東京、京都、大阪、新潟、埼玉、群馬、栃木、愛知、静岡、岐阜、宮城、山形、秋田ノ三府十縣ニ涉レリ而シテ東京府ノ出品其大部ヲ占ム今形附類一般ニ就キテ概評スレハ時好ニ伴フテ意匠斬新配色優美ナルニ至リシコト縹織ニ酷似ノ染紉ヲ製品スルニ至リシコト縹織物、紋捺物ニ織染模様ヲ應用スルニ至リシコト又色素ノ適用ニヨリ交織物ニ染分ヲ爲シタルモノ技術巧妙ニ拔染ヲ爲シタルモノ等之ヲ數年前ニ比スレハ種々ナル點ニ於テ進歩ノ形跡顯著ナルモノアリ大ニ稱揚スルニ足ル然レトモ未タ之ヲ以テ斯業ノ彼岸ニ達シタルモノトハ謂フヘカラス尙進ミテ工業組織ノ改善、捺染機械ノ適用、仕上機械ノ利用、補助器具ノ改良、染料ノ選擇及應用、産額ノ増大、販路ノ擴張、工費ノ省減等改善發展ノ餘地多シ元來本邦ノ色染業タル規模概ネ狭少工場組織トシテ見ルヘキモノハ寥々晨星ノ如キ有様ナレハ機械器具ノ不完全、製法ノ不一致、製品ノ不揃、價格ノ不同等得テ免ルヘカラス今之カ改善ヲ計リ工場組織ト爲シ機械器具ノ如キ文明ノ利器ヲ設備應用スルトキハ製品ノ一定、製産額ノ安固、工費ノ省減、價格ノ低廉等ヲ期シ得ヘク從ヒテ内地ノ販路ヲ擴張シ得ルノミナラス進ミテハ海外ノ需用ニ應スルコト亦難キニ非サルヘシ

今回ノ出品中静岡縣ノ形染株式會社、大阪府ノ吉川染工場、東京府ノ東京染絨株式會社、日比野紋左衛門管理都染株式會社ノ出品ノ如キハ何レモ機械ヲ設備シテ捺染、整理ヲ爲セルカ故ニ其製作精巧ニシテ



品質一定シ成績大ニ見ルヘキモノアルハ喜フヘシ

#### 第一節 中形染

中形染ハ老若男女貴賤貧富ノ別ナク邦人一般ノ夏季用衣服地トシテ最モ廣ク需用セララルモノナレハ日光洗濯摩擦等染色ノ堅牢度ハ勿論品位ノ高尚價格ノ低廉等ニ就キテ注意スルヲ要ス今回出品ノ中形染ハ東京府外五縣ニシテ一般ニ意匠斬新技術精巧品位高雅染色堅牢等ノ諸條件ニ富メルモノ多ク殊ニ其染色ハ單ニ白布ニ應用シタルモノノミニ止マラス縞織物紋織物ニモ應用シ織模様ト形附ト相待チテ趣味ヲ深カラシメタルモノ多カリシハ稱揚スヘシ

東京府東京市ハ古來中形染ノ本場所トシテ有名ナリ今回ノ出品ヲ見ルニ其點數ノ多キハ勿論意匠斬新技術精巧ナル優ニ他縣ノ上ニ卓出セリ然レトモ日比野紋左衛門及日本染絨株式會社ノ機械染出品ノ外多クハ舊態ヲ墨守シ在來ノ形紙捺染法ヲ施シツアルハ大ニ遺憾トスル所ナリ國勢進步ノ程度ト他工業界ノ活動發展トニ對照セハ機械ノ適用工費ノ省減ハ當業者ノ大ニ考慮スヘキ問題ナラスヤ琦玉縣 川越町其他ヨリ少數出品アリタレトモ東京風ノ中形ニシテ特筆スルノ點ナシ

秋田縣 地方的需用品ニシテ敢テ評言セス

栃木縣 阿久津末吉出品特許染ハ尙技術ノ研磨ヲ要ス古口長藏ハ多數ノ出品ヲ爲シ概シテ無難ナル製品ナレトモ意匠及技術等ニ於テ尙研究改良ヲ要スルモノアリ

静岡縣 日本形染株式會社出品綿布形染ハ先年來邦人發明ノ捺染機械ヲ中形其他ノ形染ニ適用シ爾來幾多ノ研究ト經驗トニヨリテ今日其成績大ニ見ルヘキモノアルハ斯業界ノ模範タリ尙時好ニ伴フテ一層ノ改善ヲ望ム

新潟縣 三條活色中形ハ從來東京ニ次キ技術精巧ニシテ數十萬圓ノ産額ヲ有セルモ其出品物ハ別段進步ノ跡ヲ認メス是レ近年同地ニ於テ特許緋染ノ勃興セシニ依ランカ

#### 第二節 更紗染

更紗染ハ東京府外二府三縣ノ出品ニ係リ其地質ハ綿布絹布モスリン等アリ本品ハ概シテ格段ナルモノヲ見サリシカ大阪府吉川喜作東京府水島三右衛門出品ノ如キハ嘉賞スヘキモノニシテ吉川喜作出品ノ捺染毛斯倫ハ機械捺染ヲ施シ模様鮮明技術精巧成績佳良ナルヲ見タリ

更紗ハ服地夜具敷物地裝飾地表具地等應用ノ範圍極メテ廣ク需用多大ナルニモ拘ラス實際ニ於テ比較的發展セサルハ嘆スヘシ宜シク機械ノ應用ヲ盛ニシテ製作工程ヲ完全ニシ加フルニ原料ノ精選價格ノ低廉等ニ意ヲ用キ以テ輸入品ニ拮抗スヘキ製品ヲ供給スルコトニ務ムヘキナリ今更紗染ノ外國ヨリ輸入スルモノ甚タ多シ然ルニ當業者多クハ從來ノ姑息法ヲ墨守シテ改進スル所ナシ敢テ當業者ノ一大猛省ヲ希望スルモノナリ

#### 第三節 小紋染

小紋ノ出品ハ東京府外一府四縣ニ涉リ其數極メテ少シ就中東京府ノ出品ニ於テ技術佳良稍見ルヘキモノアルヲ認メタリ其他ノ府縣ノ出品ニ就キテハ舉ケテ言フヘキ程ノモノナカリシハ遺憾トスル所ナリ

#### 第四節 染 緋

染緋ハ中形染ニ次ケル多數ノ出品ニシテ東京府外一府四縣ニ涉レリ染緋ハ比較的近年ノ工風ニ成レルモノニシテ色染術ノ進步應用範圍ノ膨脹ニシテ斯業ノ爲メ大ニ喜フヘシ

夫レ織緋ハ一種固有ノ特質アリト雖モ木綿織物トシテ比較的價高ク其低廉ナルモノニ至リテハ多クハ地質粗惡染色亦不完全ナルヲ免レス然ルニ染緋ニ於テハ織緋ノ如キ繁雜ナル工程ヲ要セス比較的簡便ナル方法ヲ以テ緻密ナル緋ヲ表出シ得ルカ故ニ價格比較的低廉ニ仕上ケ得ルノ便アリ未タ其趣味ニ於テハ織緋ニ及ハサルモノアリト雖モ當業者此點ニ於テ一層ノ研究ヲ凝ラシ粗製濫造ノ弊ニ陥ラスンハ織緋ト競争ノ地位ニ立チテ他日大ニ發展シ得ルノ機アリト信ス



東京府日本染絨株式會社、豐島特産株式會社、京都府吉本平次郎、静岡縣日本形染株式會社ノ如キ兩面糊  
捺染機械ノ應用製作ニシテ意匠斬新、技術精巧、品位高雅、染色堅牢ノ出品ヲ見ルニ至リシハ大ニ嘉賞ス  
ヘキコトトス

東京府 日本染絨株式會社出品ニ就キテハ前述ノ如シ、豐島特産株式會社出品、豐島緋、西彦兵衛出品、日  
ノ出緋ノ如キ鹽化、アニリン色素ヲ使用シ、染色堅牢、技術亦精巧ナリ、神野清五郎出品、東華絨染緋ハ技術  
巧ニシテ一見大島絨ノ如ク、價格亦廉ナルハ賞スヘシ

京都府 吉本平次郎ハ曩キニ鹽化、アニリンヲ紋附黒染ニ應用シ、次キテ同染料ヲ用キテ染緋ニ代用ス  
ヘキモノヲ製センコトヲ企圖シ、種々工風ノ末遂ニ其目的ヲ達シ、今日精巧優美堅牢ナル染緋ヲ製出ス  
ルニ至リシハ大ニ嘉スヘキコトトス

新潟縣 三條町ノ出品ナリ、同地ハ元來中形産地ナリシカ、近年京都ヨリ第六九七八號ノ特許分權ヲ得  
之ヲ同業間ニ於テ使用スルニ至リ、始メテ染緋業起リ、期年ナラスシテ其産額數十萬圓ノ多キニ達シタ  
リト云フ、今其出品ヲ見ルニ技術稍、熟達シ、織緋ニ類似セリト雖モ、未タ色染上ノ工程操作ニ缺クル所ア  
リ、今後は等ニ付キ一層ノ研究ト改善トヲ謀ラハ將來有望ノ産物トナラン

静岡縣 日本形染株式會社出品、大島染緋ハ中形染ト同様機械捺染ニシテ、技術精巧、品位亦佳ナリ  
宮城縣 土糊製藍緋染緋ニシテ、價格ノ低廉ハ大ニ稱揚スヘシ、尙意匠ノ變化ト産額ノ増加トハ一工風  
ヲ要ス

山形縣 山口龜太郎出品、臙月緋ハ特許權ヲ有セルモノニシテ、意匠ノ優雅、技術ノ精妙ナルハ大ニ稱揚  
スヘシ、特ニ近年染緋ノ技術ニ注意ヲ惹クニ至リシハ實ニ臙月緋ノ發賣以來ノコトトス、其功ヤ没スヘ  
カラサルナリ

第五節 染手拭

染手拭ハ東京府ノ出品ニ止マリ、大阪府ノ出品ナカリシハ遺憾トス

出品中模様優美、技術精巧大ニ稱揚スヘキモノアリシト雖モ、往々模様ノ野卑ニ陥リシモノ少カラズ、蓋  
シ日常用品タル染手拭ノ製作ニハ殊ニ地質ノ佳良、染色ノ堅牢、模様ノ優美、價格ノ低廉等ニ注意シ、需用  
者ニ満足ナル製品ヲ供給スルノ計ヲ爲ササレハ其販路ヲ減縮スルノ憂ナシトセス、當業者ノ奮勵ト注  
意トヲ希望スルト同時ニ進ミテハ改良方法ノ研究ニ力ヲ盡サンコトヲ希望シテ止マス

第六節 形附雜類

雜類中ニハ風呂敷地、形附、印半纏、板緋、コールテン、捺染、葛布捺染、蓆摺、手巾、紙布捺染等種々ノモノアリテ  
東京、大阪、群馬、秋田ノ二府二縣ノ出品ニ係レリ  
東京府出品、風呂敷地、染物ハ博覽會模様最モ多數ヲ占メタリ、而シテ其技術ハ概シテ通常一般ノモノト  
認メタリ

「コールテン」ノ捺染ハ一般ニ需用多キ柄合ナリシト雖モ、其地質ノ粗惡ナルト、拔染工程ノ操作及整理ノ  
不完全ナルトハ大ニ改善ヲ要スヘキモノナリキ  
其他ノ形附雜類ニ至リテハ特ニ批評スルコトヲ敢テセス

形附類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一二七一	一五九	一	六	一〇	二二	三〇	一	一	六八	〇.三三
京都府	一八	四	一	一	一	一	二	一	一	四	一.〇〇
大阪府	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	〇.五〇
新潟縣	九二	二〇	一	一	一	二	五	一	一	八	〇.四〇
埼玉縣	二四	四	一	一	一	一	二	一	一	二	〇.五〇
群馬縣	一九	一	一	一	一	一	一	一	一	二	〇.一八
栃木縣	三七	一	一	一	一	一	三	一	一	五	〇.七一
愛知縣	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一.〇〇



静岡縣	七八	五	一	一	一	一	二	〇・四〇
岐阜縣	二	一	一	一	一	一	一	〇・四〇
宮城縣	二六	五	一	一	一	一	二	〇・四〇
山形縣	一〇	一	一	一	一	一	一	一・〇〇
秋田縣	一二	七	一	一	一	一	一	〇・一四
計	一、五九六	二二七	一	七	一四	三〇	四五	九七
								〇・四三

第四章 纈纈類

報告員 審査官 竹下直次郎

絞染ハ有松絞、紅絞、絲好絞ヲ通シテ出品數少ク頗ル寂寥ヲ極ム而シテ重ニ愛知、京都、東京ノ出品ニシテ福岡、新潟、徳島ノ産ヲ見ス、技術ニ就キテモ一二精巧ヲ盡シタルモノアルモ概シテ舊來ノ方法工程ヲ蹈襲スルニ過キスシテ特ニ新機軸ヲ案出シタルモノナキハ遺憾ナリキ

抑、絞染ハ内國向ノミニ限ラレ其販路甚タ廣カラス、近年ニ至リテ卓被襟飾等其應用ヲ研究セルモ未タ深ク需用者ノ嗜好ヲ導クニ足ラス、絞染ノ特長ハ其外觀ノ普通染物ニ比シテ奇異ナルト觸觸リノ良好ナルトニ在リ之ニ特殊ノ意匠ヲ加ヘ百尺竿頭更ニ一步ヲ進メテ外人ノ嗜好ニ適スルモノヲ案出センコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ假令ハ外國婦人殊ニ合嬢向ノ衣裳ナリ蓋シ此事タル需用者ヲシテ其手工ノ綿密ニシテ日本の技術ニ待ツヘキコトト價格ノ尋常ナラサルコト等ヲ了知セシメサルヘカラス敢テ當業者ノ一考ヲ煩ハスモノナリ

今回ノ出品中鹿子絞長襦袢ニシテ稍、精緻掬スヘキノ値アルモノ二三ヲ見タリシカ其他ノ襦袢半襟類ニ於テ特ニ絞染トシテ稱揚スルニ足ルモノナリキ

有松絞ハ十數年來機械絞ノ新案續出シ加フルニシルケツト「應用以來其面目ヲ一新シ長足ノ進歩ヲ爲シタルモ近時ニ於テ特ニ進歩ノ著キモノヲ見ス繪羽其他手絞ノ如キハ已ニ技倆ヲ發揮スルノ餘地

ナキニヤ數年來進歩ノ見ルヘキモノナシ堅牢染料ヲ應用シテ友禪的纈纈ノ研究果シテ如何

絲好及羽二重絞ハ其技術敢テ前二者ニ當ラスト雖モ染色多趣其用途ノ擴張ニ伴フテ産額倍蓰ノ兆アリ今後益、其技術ノ精巧ト意匠ノ妙トヲ加ヘンコトヲ望ム

「モスリン」絞ハ近年其需用ヲ擴張セルモ今回ハ出品ナシ

絞染ノ淵源ハ遠ク上代ニ在リテ其技術ノ精巧ヲ競ヒタルハ中古ノ頃ニ在リ其生地ノ精良ナル染料ノ多趣ナル機械應用ノ端ヲ開キタル蓋シ今日ヲ以テ其技術ノ最タルモノトスルヲ得ヘシ

抑、我邦ノ染色法ニシテ全然機械作業ニ轉スヘカラサルモノ三アリ即チ友禪、中形及絞染ナリ前二者ノ如キハ後年或ハ機械的「プリント」ニ轉移スルノ時期ナキニシモ非ス然レトモ彼ノ狹窄鹿子絞ノ如キハ蓋シ永久ニ手工的作業ヲ離ルヘカラサルモノナリトス當業者益、研究ヲ重ネテ其意匠ニ其手工ニ其方法ニ一層ノ改良ト精緻トヲ加ヘテ我邦美術界ノ精華タラシメンコトヲ望ム

纈纈類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	五四	一四	一	一	一	二	一	一	一	三	〇・二一
京都府	七	三	一	一	一	一	一	一	一	三	一・〇〇
埼玉縣	三	一	一	一	一	一	一	一	一	三	一・〇〇
群馬縣	四	三	一	一	一	一	一	一	一	三	一・〇〇
愛知縣	五〇	一九	一	一	一	三	八	八	一	一九	一・〇〇
秋田縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一・〇〇
計	一一九	四一	一	一	一	四	一一	一〇	一	二五	〇・六一

第五章 染絲類

報告員 審査官 吉武榮之進

染絲ノ出品ハ甚タ少數ニシテ從ヒテ特筆スヘキ出品アラサリシモ多少注意スヘキモノヲ左ニ掲ケン



東京府下青梅町青梅染絲株式會社ノ染綿絲ハ未タ完全ノモノト謂フヲ得スト雖モ大ニ改良シタル跡アリテ近年同地方織物ノ聲價ヲ博スルニ至リタルモノ偶然ニ非ス又東京埼玉織物同業組合聯合會ノ染綿絲ハ其數最モ多ク且各種ノ染料ヲ用キタルモノニシテ同會カ染料ノ選擇等ニ注意ヲ怠ラサルヲ示スモノナリ染毛絲ノ出品中ニ「モスリン」ノ耳絲ニ使用スルモノアリタリ其紅梅色ハ堅牢ニ染ムルコト難キモノナルカ今回出品試驗ノ結果未タ充分ナラサリシコトヲ證セリ其染法ニ就キテハ更ニ一層ノ研究ヲ望ム

染絲類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	八六	五								二	〇、四〇
京都府	一一	一								一	一、〇〇
大阪府	一〇	一								一	一、〇〇
栃木縣	二	一								一	一、〇〇
静岡縣	一	一								一	一、〇〇
計	一一〇	九								四	〇、四四

第四篇 刺繡及手巾類

第一章 刺繡類

報告員 審査官 近藤 徳太郎

刺繡類ノ出品ハ東京、京都、神奈川、兵庫、愛知、滋賀、石川、徳島、福岡ノ二府七縣ニシテ出品點數少キニ拘ラス各地方ノ製作品アリ相互ノ技術ヲ比較參照スルニ付甚タ便益ヲ得タリ  
由來本邦ニ於ケル刺繡ノ技ハ其歴史極メテ古ク而シテ古今ヲ通シ其製品カ美術的器具ニ適用セララルコト多クシテ今回ノ出品ニ於テモ其大部分ハ匾額、屏風等ニ施サレ之ニ次クモノハ卓被ノ種類ナルヲ見タリ殊ニ本邦ノ繡技ハ世界ニ於テ其精巧ヲ認メラレ又之ヲ誇ルノ價值モ充分備レリト謂フヲ得

ヘケン加フルニ數年前ヨリ運針ニ於テ一種斬新ナル繡法ノ端緒ヲ開發シタリシカ今回ノ出品ヲ見ルニ著キ進歩ヲ爲シ動物ノ圖ノ如キ秋毫ノ微モ克ク一縷ノ纖絲ヲ以テ現シ決シテ原圖ノ筆意ヲ失ハサルモノアリ波浪岩ニ激シテ泡沫飛散スル細點モ其真相ヲ現シ得タル技巧ハ全ク従前ノ繡法ニ改良ヲ加ヘテ研究シタル新法ノ賜モノナリ如是本邦ノ繡技ハ精巧精緻ニシテ飽クマテ美術的ナレハ世界ノ注意ヲ惹クコト決シテ偶然ニアラス圖案意匠モ倍々美術ノ域ニ入ラントシ獨リ日本畫ノミナラス西洋畫ヲモ克ク針頭ヲ以テ寫シ得テ眞ニ迫ラシムルノ妙技ハ嘆賞スルニ餘リアリ然レトモ是レ一二優逸ナルモノニ對スル評言ノミ其多クノモノハ尋常一樣ナルモノアルヲ如何セン望ムラクハ將來益々進ミテ精ニ精ヲ加ヘ綴ニ綴ヲ凝ラシテ刻苦經營一層微妙ノ域ニ達センコトヲ  
然ルニ刺繡ナルモノハ往々美術的工藝ノ一方ニ偏スルノ傾向ナキニ非サレトモ斯ノ如キハ徒ニ刺繡ノ範圍ヲ狹隘ナラシムルモノニシテ既ニ本邦ニ於テモ衣服其他ニ之ヲ應用シタルモノ中興最モ盛ニシテ一時廢レタルモ僅ニ襟地等ニ其痕跡ヲ止メ近年ニ至リ又挽回ノ機運ニ向ヘリ海外ニ於テモ今ハ社會ノ各階級ニ傳播シテ日常ノ用品ニ之ヲ適用スルコト盛ナルニ至レリ是ヲ以テカ吾人ハ當業者カ銳意其範圍ノ擴大ニ着眼センコトヲ希望シテ止マサリシニ本會ノ出品ニ於テ此希望ニ近ツキツアルノ現象ヲ發見シタリシハ欣喜ニ堪ヘサルナリ即チ羽二重地ニ「ミシン」刺繡ヲ施シタルモノノ如キ固ヨリ其技術ハ頗ル幼稚ニシテ將來幾多ノ研究ト改良トヲナスニ非サレハ一ノ商品ト爲ス能ハス前途甚タ遼遠ノ感ナキニ非サルモ應用ノ一轉化タルヲ疑ハス又出品ノ部類ヲ異ニスレトモ「ドロノウォー」クノ如キ即チ繡技ノ一化身ニシテ而モ今ハ海外ヘ輸出スルコト盛ナリト云フ本邦固有ノ刺繡ニ於テモ尙他方面ニ向ヒテ新進路ヲ求ムルノ必要アリ之ヲ要スルニ匾額屏風ノ如キ其用途ノ貴族的ナルモノ素ヨリ可ナリ然レトモ更ニ手巾ノ如キ皿敷ノ如キ其他諸般ノモノニ應用シテ用途ノ平民的ナランコトヲ計ルハ當業者ノ考慮ヲ要スヘキモノナラスヤ是レ既ニ今回ノ出品ニ於テ大ニ實現シタル所アリト雖モ未タ其範圍ノ狹少ナルコトハ免ルヘカラス原料絲ノ如キモ敢テ絹絲ニ限ルヘキニ非ス麻絲



綿絲亦可ナリ要ハ刺繡品其物ノ用途ニ應シテ選ムヘキナリ之カ染色亦然リ斯クシテ多方面ニ涉リテ應用ノ途ヲ研究シ來レハ國內ノ需用ハ更ナリ輸出ノ望亦甚タ多シ高等ナル日本刺繡ハ敢テ言ハスモカナ日常ノ刺繡品ニ就キテハ更ニ一層ノ進歩ヲ近キ將來ニ於テ實現センコト吾人ノ大ニ希望シテ止マサル所ナリ

刺繡類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	四一	二二							五	五	〇.二二
京都府	一七	三							六	九	三.〇〇
神奈川縣	五	三							一	一	〇.三三
兵庫縣	七	三							三	三	
愛知縣	七	一									
滋賀縣	一〇	二									
石川縣	一	一									
德島縣	三	一									
福岡縣	二	一									
計	九三	三七							六	二二	〇.六〇

第二章 手巾類

報告員 森田儀一郎  
審査官

絹手巾ハ一箇年ノ輸出額四五百萬圓ヲ下ラス其消長ハ國際貿易上重大ノ關係ヲ有スル所ノ品種トス今出品ニ就キテ見ルニ刺繡ヲ施シタルモノ多ク價額從ヒテ貴ク捺染ヲ應用セシ廉價ナルモノ至リテ少キハ殆ト意想外ニシテ配色意匠等更ニ進境ヲ認メス誠ニ遺憾ナリトス刺繡手巾ノ如キハ高價ナル商品ナルヲ以テ歐米ニ於ケル嗜好ノ變遷ヲ豫知シ常ニ流行ヲ喚起スルカ如キ施設ヲ爲シ得ヘクンハ更ニ輸出ヲ増加スヘク刺繡機械ノ利用ノ如キハ當業者ノ研究調査ヲ望ム所ナリトス

綿手巾ハ少許ノ出品ニシテ生地ハ主トシテ英國ヨリ輸入シ之ヲ裁縫スルニ過キス又形附綿手巾ハ其染色甚タ不良ニシテ洗滌後再用ニ適セサルヲ認ムルモノ多カリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ歐米ノ下級民ノ常用スル手巾ハ染色堅牢ニシテ地質亦密能ク久シキニ耐ヘ彼等ノ生計上誠ニ適當セリ總ヘテ需用スル者ノ生計ト嗜好トヲ精査シテ之ヲ満足セシムルニ足ル要件ヲ充ス如ク注意センコトハ製造業上最モ必要ノ事ニ屬ス尙將來益其需用ノ増加スヘキ綿手巾ノ原料生地ヲ本邦ニ於テ悉ク製織シ外國ヨリ仰クコトナキニ至ランコトヲ望ム

麻手巾ニ於テモ其生地ハ輸入品ナリ生活ノ程度ノ進ムニ從ヒ將來益其需用ハ増加スヘキヲ以テ原料ノ製織ヲ謀リ以テ獨立ノ事業ト爲サンコトヲ望ム

手巾類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一一〇	七								二	〇.二八
福井縣	二	一								一	一.〇〇
石川縣	二一	三								三	一.〇〇
計	一三三	一一								六	〇.五四

第五篇 絲綿類

第一章 生絲其他蠶絲類

報告員 西直次郎  
審査官

本類出品最モ多キハ東京府ニシテ其他ノ出品ハ神奈川縣外十四縣ニ涉レルモ僅ニ一二點ニ過キサレモノ多シ今詳細府縣別トシテ表示スレハ左ノ如シ

府縣名	器械製	坐繰製	玉絲	柞蠶絲	合計點數	出品人員
東京	五八	二二	二一	一	一〇一	九八
京都	一	一	一	一	一	一







ルヲ以テ同所ノ成績ニ比シ論評シ難キモ本府出品生絲ノ器械検査成績ハ各項目共ニ良好ナリトス  
 本府生絲ノ出品ハ總出品數ニ對シ七割以上ノ多キニ達シ府下ニ產出スル生絲全般ノ概況ヲ窺知スル  
 ニ足レリ今其製絲家ノ產額ヲ按スルニ一箇年二三百斤内外ノ製產高ニ過キサルモノ最モ多數ニシテ  
 二千斤以下ノ生産者八割以上アリ此種ノ生絲中地遣ニ供スルモノアレトモ合同販賣ヲ以テ輸出ニ供  
 スルモノ亦尠カラズ二千斤以上二萬斤以下ノモノ一割五分、二萬斤以上ノモノハ僅ニ五分ニ過キス然  
 レトモ此内共同組織又ハ獨立經營ニシテ大ニ其製品ヲ改良シ一定ノ荷物ヲ多數ニ製造シテ販賣セル  
 者アリ其產額ハ數年來年々増進シツツアルナリ市價ニ於テハ今回出品中飛切ノ如キ最優等ヲ見スト  
 雖モ上一番格ニ比シ十圓乃至三十圓方上位ニ達セルモノアリ要スルニ府下ノ製絲業ハ近年着々進歩  
 シツツアリト謂フヘシ此際一方ニ於テハ原料ノ精選ニ力メ他方ニ於テハ繰絲ノ技術ヲ研キ進ミテ生  
 絲整理ノ方法ヲ一定セハ遂ニ市場ノ好評ヲ博シテ前途有望ノ位置ニ達スヘシ其他生絲ノ出品ハ神奈  
 川縣外十二縣ニシテ前表ニ示セル如ク點數人員共ニ極メテ少數ナルヲ以テ各縣ノ全般ヲ窺フニ由ナ  
 ク依リテ茲ニ總括シテ概評ヲ試ミントス

肉眼鑑定ニ於テハ色澤感觸共ニ頗ル劣レルモノ數點アリシモ品質概シテ佳良ナリ繰ノ整理亦良好ナ  
 ルモノ多シ然レトモ總揚ニテ三層ヲ生セルモノアリ繰巾ハ僅ニ一寸六分ノモノアリ方絲ハ太キニ失  
 シ且三編三ヶ所ノモノアリ鑿角ハ皆無ノモノ甚タ多シ宜シク之カ一定ノ方法ヲ施スヘシ

器械検査ニ於テ再繰中ノ切斷數二回ノモノ僅ニ三點一回ノモノ七點其他ハ無切斷ナリ繰度ハ九「デニ  
 ール前後ノ細絲三點其他ハ概ネ十四「デニール前後ノ太絲ナリ而シテ細太不齊ノ差ハ三「デニール乃至  
 四「デニールニ達シタルモノ數點アリシカニ「デニール以上三「デニール以下ノモノ三割、「デニール二五  
 以上二「デニール以下ノモノ五割ノ多キニ達セリ類節ハ五百「メートルニ對シ大類ハ三顆乃至四顆ノモ  
 ノ二點、二顆ノモノ數點皆無ノモノ二點其他ハ一顆ノモノ多シ小類ハ二百顆以上ノモノ二點、百顆以內  
 ノモノ一點ナリシカ百顆以上二百顆ノモノ大半ヲ占メ強力ハ優劣ノ數相半シ通常ノモノ甚タ少シ伸

度ハ優レルモノ大多數ニシテ通常ノモノ及劣レルモノ各一點アリ要スルニ器械検査ニ於テ強力ハ劣  
 レルモノ多シト雖モ他ハ概シテ良好ナル成績ナリトス

以上各出品者ノ業務ノ狀況ヲ察スルニ產額ハ一箇年五千斤以下ノモノ三割二分、五千斤以上一萬斤以  
 内ノモノ一割八分、一萬斤以上即チ約二百箇ヲ製造スル者五割アリ市價ニ於テハ上一番格以下ノモノ  
 アリシモ又飛切及準飛切ニ屬セルモノアリ而シテ上一番格ヨリ二三十圓高ノモノ最モ多シトス以上  
 ノ製造生絲中已ニ市場ニ於テ聲價ヲ博セルモノアレトモ今一般品質ニ改良ヲ加ヘ產額ヲ増シ以テ賣  
 行上ノ便利ヲ圖ルノ必要アルヘシ

本會出品ノ生絲ニ對スル審査成績ノ概要前述ノ如シ想フニ海外ニ於ケル生絲需用ノ益増進スヘキハ  
 勿論本邦ニ於テモ絹織物ノ輸出ヲ圖ル者年ヲ追フテ漸ク多キヲ加ヘリ是ヲ以テ製絲業亦其規模ヲ擴  
 張シ品質ヲ一定シ產額ヲ増大ナラシムルノ必要アリ然ルニ我製絲場ノ如キハ海外ノ其レニ比シテ規  
 模ノ大ナルニ拘ラス其組織ノ基礎未タ確實ナラサルモノ多シ宜シク可及的協同一致以テ其進歩ノ域  
 ニ達センコトヲ期スルヲ要ス

玉絲ハ悉皆東京府ノ出品ニシテ稍見ルヘキモノ數點アリシモ概ネ評スルニ足ラサルモノ多シ想フニ  
 我粗製織物ニ對シ其需用尠カラサルヘシ然レトモ尙其製造ノ方法如何ニ依リ販路ヲ増シ其利益ヲ倍  
 スルニ至ラン現ニ三州地方ニ於ケル改良玉絲ノ如キハ獨リ内地ニ於テ著ク其需用ヲ増シタルノミナ  
 ラス遠ク歐米諸國ニ輸出ノ道ヲ開キタリ宜シク之ニ倣ヒ改善ヲ圖ルヘシ

柞蠶絲ハ京都府及佐賀縣ノ出品各一點ニシテ品質見ルヘキモノアリ抑柞蠶ハ明治十五六年ノ頃關西  
 地方ニ於テ之ヲ飼育シ大ニ其業ノ發達ヲ試ミタル者アレトモ繰絲ノ術ヲ知ルニ由ナク遂ニ中絶ノ姿  
 トナレリ而シテ數年來名古屋地方ニ於テ支那產柞蠶絲ヲ用ウル者年ヲ追フテ漸ク増加シ又戰勝後滿  
 州地方ヨリ原料繭輸入ノ便ヲ得テ昨今東西ニ其製絲業ヲ計畫スル者アリ今ヤ歐米諸國ニ於ケル柞蠶  
 絲ノ需用ハ年々増加ノ傾キアリ又伊國ニ於テハ之カ飼育ヲ試ミツツアリト云フ宜シク本邦ニ於テモ



飼育ニ製絲ニ之カ増殖ヲ圖ルヘキハ國家經濟上緊要ノ事ナリトス

二五〇

生絲其他蠶絲類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	一〇一	九八			三	一	三	二〇		二七	〇.二八
京都府	一	一									
神奈川縣	八	二									
埼玉縣	四	四									
千葉縣	二	二									
群馬縣	二	二									
栃木縣	一	一									
静岡縣	一	一									
長野縣	二	二									
宮城縣	二	二									
福島縣	一	一									
鳥取縣	一	一									
島根縣	一	一									
佐賀縣	一	一									
宮崎縣	二	二									
北海道	一	一									
計	一三二	一二三	五	八	一〇	二	三	四六	〇.三八		

第二章 絹撚絲

報告員 審查官 今西直次郎

絹撚絲ノ出品ハ東京、京都、群馬ノ二府一縣ニシテ殊ニ京都ノ出品ハ僅ニ一點ニ過キス、其他ノ地方ノ出品ナカリシハ甚タ遺憾ナリトス

東京府ノ絹撚絲ハ悉皆八王子町ノ出品ニ係リ其種類ハ片撚一本片撚三本片撚諸撚二本諸撚四本諸撚六本諸撚八本諸撚十本諸撚壁撚生壁色壁本壁絹綿壁撚撚斜子用經緯絲甲斐絹用經緯絲等ニシテ器械製撚絲ハ其數甚タ少キモ原質佳良撚合整一ナルモノ多シ八丁撚ト稱スル舊式製ノ撚絲中壁撚ノ如キ精巧ナルモノ數點アリシカ其他ハ區々ニシテ評スルモノ少シ此種ノ撚絲ハ重ニ八王子絹織物ニ供スルモノニシテ其產額少カラスト雖モ撚絲工場ノ規模狭小ニシテ一定ノ品位ヲ多量ニ供給スルコト難シトス要スルニ從來八王子地方ハ器械撚絲ノ必要ヲ感スルモノ少カリシカ近年久保田撚絲工場ノ如キ佛國器械撚絲ノ製造ニ從事スルヤ同業ノ競争ハ一年一年ニ熾ニシテ之カ製品ノ改良進歩ヲ促シ延イテ織物ノ聲價ヲ揚クルニ至ランコト期シテ待ツヘシ

群馬縣ノ絹撚絲ハ悉ク桐生町ノ出品ニシテ其種類ハ片撚雙撚併撚壁撚紡績壁瓦斯壁「タフタ」用撚絲玉撚絲等ナリ其品質製作共ニ見ルヘキモノ數點アリシカ其他ハ特ニ評ヲ下スニ足ルヘキモノ少シ從來桐生地方ノ撚絲ハ八丁撚ノミナリシカ同地方ノ機業家ハ内外向共精良撚絲ノ必要ヲ感シテヨリ既ニ桐生織物會社ノ如ク率先シテ器械撚絲ヲ施シ近年更ニ模範撚絲工場ヲ設ケ益々其需用ヲ増加シ今ヤ同地方撚絲總額中器械撚絲其半數ヲ占ムルニ至レルハ大ニ進歩セルモノト謂フヘシ

要スルニ我邦撚絲ノ業況ハ之ヲ數年前ニ比スレハ漸次進歩シツツアリ殊ニ戰勝後ハ機業ノ好況ニ伴ヒ一時沈衰ニ傾ケル工場モ回復シ一般好地位ニ在リト謂フヘシ

撚絲ノ輸出ニ關シテハ歐米諸國ニ於テ其販路有望ナルニモ拘ラス未タ輸出ノ開ケサルハ種々ノ原因アルナリ其主ナルモノハ米國ハ從價稅三割佛國ハ從價稅百キロニ付三百法ヲ課シツツアレハ此二國ニ對シテハ容易ニ販路ヲ需メ難シ歐洲諸國中輸出ノ見込アル國々ハ瑞西、獨逸、澳國等ニシテ從來此諸國ニ供給セル撚絲ハ佛國製又ハ伊國製ナリトス伊佛ノ撚絲家ハ往昔生絲ヲ購入シ之ヲ撚絲トシ投機的ニ歐洲市場ニ販賣セシカ其結果失敗ニ終リタル者多シ爾來撚絲家ハ概ネ生絲及撚絲商ノ注文ニ應シ賃銀ニ依リテ製造スル事トナレリ然ルニ近年伊佛ハ製絲及撚絲ノ經濟上非常ノ競争ニシテ其賃銀

二五一



隨ヒテ低廉トナリ昨今機業ノ好況ニ依リ經絲撚賃「キロ」二百六十六分付七法一法ハ我三十八錢五厘ニ昇リタレトモ通常五六法ニシテ之ニ金利運搬費保險料等ヲ合算スレハ彼我殆ト大差ナカルヘシ又撚絲ハ織物ニ依リ其織度及撚度等ヲ異ニシ殊ニ近年絹織物流行ノ頻繁ナルニ隨ヒ撚絲ノ用途モ時々變更セザルヲ得ス故ニ遠隔ノ需用地而モ彼我氣脈ノ不通ナル國々ニ向ヒ投機的輸出ヲ試ムルハ頗ル危険ナルモノノ如シ撚絲ハ生絲ノ如ク販路モ廣カラス賣行上不便ナリト雖モ獨逸ノ如キ撚絲工場ノ設ケナキ國ニ於テハ頻リニ我國ト直接取引ヲ希望スル者アリ又近頃澳國ヨリモ撚絲ノ試賣ヲ促ス者アリテ既ニ我撚絲家中見本ヲ以テ歐洲諸國ニ販路ヲ開カントスルモノアリ想フニ彼我取引ノ方法其宜シキヲ得ハ多少撚絲輸出ノ道ヲ開クニ至ランモ亦測リ知ルヘカラス況ヤ内地ノ需用トシテハ業既ニ甚大ノ必要ヲ感シツアルニ於テヲヤ

之ヲ要スルニ撚絲ハ内外向共ニ前途有望ニシテ之カ改良進歩ヲ圖ルヘキ餘地尙甚タ多シトス戰勝後百般ノ工業勃興スルニ際シ物價ノ騰貴職工ノ爭奪其他ノ競爭益激甚ナレハ勢ヒ撚絲ノ如キモ歐米式器械ノ働作ニ依リ製産力ヲ増加スルノ方策ヲ講究スルハ今日ノ急務ナリト信ス

絹撚絲出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	賞受割合
東京府	八二	三三	—	—	—	二	五	七	—	一四	〇、四三
京都府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
群馬縣	三〇	一七	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一一三	五二	—	—	—	二	七	一五	—	二七	〇、四一

第三章 眞綿

報告員 審査官 今西直次郎

本會出品ノ眞綿ハ其點數極メテ僅少ナリ而シテ其出品府縣ハ東京及岐阜ノ一府一縣ノミナリキ原質工作共ニ稍見ルヘキモノニ點アリシモ特ニ評スルニ足ラス從來眞綿ハ内地需用ノ多キハ勿論海外絹

絲紡績用ノ材料トシテ輸出セル數量モ亦尠カラサリシモ本邦ニ於テ絹絲紡績業ノ開始セララルヤ屑繭屑絲類ノ如キハ多ク其工場ニ買收セラレ又近年玉絲ノ製造ヲ改良シ著ク其販路ヲ擴張セシヲ以テ玉繭ノ如キハ其製造ニ供スルモノ頗ル多ク隨ヒテ眞綿ノ産額亦減少スヘキ筈ナレトモ農商務省統計表ニ據レハ最近五箇年間ノ産出高平均六萬五千貫目アリ用途ハ衣服夜具及紬織物ノ原料等ニシテ其需用ハ敢テ減少セルモノト謂フヘカラス要スルニ眞綿ノ主要原料タル玉繭ハ玉絲製造ニ多ク供セララルモ我蠶絲業ノ發展ニ伴ヒ屑繭ノ生産モ亦尠カラサルヘシ而シテ當業者中是等屑繭ノ處理其宜シキヲ得サルカ爲メ空シク廢物ニ歸セシムルモノ多シ精練其他之カ整理ノ方法ヲ講セハ眞綿トシテ尠少ナラサル利益ヲ得ルニ至ラン

眞綿類出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	賞受割合
東京府	四	二	—	—	—	—	—	—	—	二	一、〇〇
岐阜縣	二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	六	二	—	—	—	—	—	—	—	二	〇、六六

第四章 綿絲、麻絲、紡績絹絲、金銀絲、縫絲其他ノ雜絲

報告員 審査官 十時 元

本類ノ出品ハ東京府ヲ除クノ外他府縣ノ出品少カリシハ眞ニ遺憾トスル所ナリ

第一節 綿絲類

木綿紡績絲ハ之ヲ數年前ニ比スレハ却リテ其品位ヲ墜セシニハ非サルカノ感アリ特ニ太絲ニ於テ最モ然リトス然レトモ是レ全ク本會ノ出品物ハ特ニ紡出セル別製品ニ非スシテ日常製出セルモノヲ其儘出品シタルニ起因セシモノナルヘキハ原綿ノ比較的劣等ナルノミナラス鏽々タル大會社ニシテ僅



ニ一玉ヲ申譯的ニ出品セシカ如キ狀況ニ徴シテモ明カナリ製造技術ノ進否如何ニ就キテハ其進度ノ確ニ著キモノアルヲ認ム即チ太絲ノ如キ其原綿ノ劣等ナルモノヲ使用セルニ比シテハ絲筋均一ニシテ類節少ク撚度強力適當ニシテ總數ニ過不足ナク玉造ノ佳良ナルモノノ多キハ以テ之ヲ證スルニ足ルヘシ然レトモ出品中ニハ絲筋不同多ク強力少キモノノ類亦之ナキニ非ス是等ハ機業家ノ常ニ訴フル所ニシテ殊ニ近來力織機ノ利用増加セシト共ニ精良ナル原絲ノ必要ハ一層切ナルモノアリ是レ實ニ常業者ノ大ナル注意ヲ希望セサルヲ得ス出品綿絲ノ種類ハ十手十六手二十手二十手兩撚三十二手兩撚四十二手兩撚六十手兩撚八十手兩撚等ニシテ本邦綿絲紡績業ハ明治二十八年頃ヨリ大ニ發展シ中絲細絲ノ製造増加セシノミナラス瓦斯絲製造ノ工場サヘ各所ニ起ルニ至リ而シテ此等工場ハ太絲紡績ニテ習得シタル技術及經營ヲ直ニ取捨應用シタル結果其成績ハ實ニ當時ノ豫想ニ反シ好結果ヲ奏シ品質亦精良ニシテ外國品ト大差ナク三十六年頃ヨリ四十手内外ノ外國製品ヲ全ク驅逐シ又瓦斯絲モ逐年輸入減少シツツアルノ事實ナルヲ以テ全ク綿絲ノ輸入ヲ防遏スルノ時ハ蓋シ遠キニ非サルヘシ

抑綿絲紡績業ハ本邦工業中屈指ノモノニシテ從ヒテ其盛衰消長ハ國家經濟上至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ之カ研究發達ヲ圖ルハ實ニ緊要ノ事ニ屬ス左ニ斯業ニ對スル吾人ノ希望ヲ開陳シ以テ常業者ノ一考ヲ請ハント欲ス

本邦綿絲ノ支那、香港、朝鮮、比律賓、露領亞細亞、英領印度等ノ海外ニ輸出スルモノ昨三十九年ノ總額ハ二十六萬七千三百餘捆ニシテ其大部分ハ支那ニシテ他ハ殆ト論スルノ用ナシ支那ニ向ヒテノ輸出ハ上海、牛莊、天津、芝罘等ノ諸港ヲ經由スルモ就中上海ニ於ケル取引最モ多量ナルカ如シ而シテ同港ニ於ケル日印兩國ノ綿絲ノ輸入高ヲ比較センニ

日印綿絲ノ上海ニ於ケル輸入高比較

本邦綿絲	印度綿絲	本邦綿絲	印度綿絲
明治三十五年 一〇〇〇	四二三五	明治三十六年 一〇〇〇	二三八〇

同 三十七年 一〇〇〇	一九二五	同 三十八年 一〇〇〇	二六四五
同 三十九年 一〇〇〇	四四九〇		

備考 上表ハ只比例ニテ示シタルモノニシテ紡績聯合會報ニ依ル

此ノ如ク上海ニ於ケル本邦綿絲ノ輸入ハ印度綿絲ノ其レニ比シ殆ト二分ノ一乃至五分ノ一ニ過キス若シ夫レ上海ニ於ケル印度綿絲ヲ驅逐シ代フルニ本邦綿絲ヲ以テスルヲ得ハ其利益スル所實ニ僅少ナラサルヘシ昨三十九年ニ於ケル本邦綿絲ノ產額ハ九十四萬五千六百五十五捆ニシテ輸入綿絲二萬百十七捆ナリ此内海外へ輸出セシ總額二十六萬七千三百餘捆紡績聯合會報ニ依ルヲ引去リ六十九萬七千九百三十四捆半ハ今ク三十九年ニ於テ内地ニ需用セラレタルモノナルカ今一捆三百斤トシ本邦ノ人口ヲ五千萬ト假定スルトキハ一人一箇年間ニ使用スル綿絲ノ量ハ四斤二分弱ナリ若シ此割合ヲ以テスルモ支那四億ノ人民カ一箇年ニ使用スル所ノ量ハ實ニ莫大ナラスヤ故ニ假令支那一國ヲ綿絲ノ輸出國トスルモ斯業ノ擴張ハ國家經濟上實ニ必要ノ事業タルヘシ

然ルニ上海ニ於ケル需用ノ情況ハ前表ノ如ク本邦綿絲ノ印度綿絲ニ及ハサルコト遠シ其理由果シテ如何産額少クシテ需用ヲ充タス能ハサルニ依ルカ品質彼ニ及ハサルカ爲メカ價格ノ不廉ナルノ致ス所カ是レ大ニ調査研究ヲ要スル問題ニシテ當業者ノ一願ヲ切望シテ止マサル所ナリ

第二節 麻 絲

麻絲ノ出品ハ日本製麻株式會社ノ外二三ノ出品アリシノミニシテ北海道製麻株式會社ノ出品ナカリシハ遺憾ナリキ然レトモ現今右兩社合同ノ協議中ナリト云フ或ハ此等ノ事情ノ爲メ出品セサルモノナルカ

今回ノ出品ノ麻絲中一段ノ進歩ヲ爲シタリト認ムヘキハ蚊帳用麻絲ニシテ當業者ノ苦心ハ最初ハ専ラ護謨拔キ及漂白ノ二工程ニシテ殆ト用途ノ差別ナク右二工程ニ勉メタル傾アリシ結果蚊帳用絲ノ如キハ從來本邦固有ノ蚊帳絲ノ色澤及味ヲ失シタルノ憾アリシモ當業者ノ技術的研究ト熟達トニ依



リ今ハ殆ト從來ノ麻絲ノ色澤及味ト髣髴タラシムルニ至リシハ確ニ著キ進歩トモ謂フヘキナリ  
抑本邦諸種ノ工業ハ日露戰爭前後ニ於テ其需用供給ノ關係ヲ異ニスルコト殆ト一般ナルカ製麻業ノ  
如キモ其變化著キモノノ一ナルヘシ試ニ最近四箇年間ニ於ケル麻絲布輸入ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ

麻絲輸入表

年次	數量	價格	年次	數量	價格
明治三十六年	一二九,七八七	一〇七,三二六	明治三十七年	二二,三八八	二〇,七一〇
同 三十八年	一三〇,六八二	一二四,〇九八	同 三十九年	二七五,八一	二九四,六九八

麻帆布粗布及其他ノ諸麻布輸入表

年次	數量	價格	年次	數量	價格
明治三十六年	七三五,八〇一	二一〇,七九八	明治三十七年	一,八八一,一三七	七三五,〇九七
同 三十八年	六,七二三,二一九	二,九四〇,七〇三	同 三十九年	八三〇,〇三九	三四二,六四七

又麻絲ノ輸出ハ一箇年僅ニ二萬圓内外ニシテ昨三十九年ニ於ケル内地需用ノ麻絲布ノ狀況ハ約左ノ如シ

本邦產出麻絲	數量	價格	本邦產出麻布	數量	價格
輸入麻絲	五七五,〇〇〇	三四五,〇〇〇	輸入麻絲	二,一八四,〇〇〇	一,五七一,六〇〇
	二七八,八一	二九四,六九八		八三〇,〇三九	三四三,六四七
計		五,六五九,九四五			

備考 三表中前ノ二表ハ貿易年表ヨリ摘載シ最後ノ一表ハ製造工場ニ就キテ實地調査シタルモノナルヲ以テ大體ニ於テ確實ナルモノト認ム

此外手紡麻絲ノ量ハ依ルヘキ統計ナキヲ以テ數字ヲ以テ表示スルコト能ハスト雖モ蓋シ其需用ノ量亦尠少ナラサルヘシ假ニ前表ノミニ依ルモ昨三十九年ニ於ケル内地需用ノ麻絲布ノ總量ハ價格ニ於テ五百六十五萬九千九百四十五圓ニシテ輸入麻絲布ノ量六十三萬七千三百四十五圓ハ内地需用ニ不

足スル譯ナリ此ノ如ク麻絲ノ需用ハ益增加シ加フルニホース、ベルト、リッネル原料等ノ新用途起リ輸出網絲及晒絲等ニ向ヒテ充分力ヲ盡ス餘地ナキ有様ニ非スヤ若シ夫レ輸入ヲ防遏シ販路ヲ海外ニ擴張スル事ヲ得ハ其國家ニ裨益スルコト亦少カラサルヘシ  
近時日本及北海道ノ兩製麻會社ノ合同説アリ幸ニ成立スルヲ得ハ事業ハ益擴張セラレ製品ノ一層精良ニ赴クハ言フ俟タサル所ニシテ斯業ノ爲メ將國家ノ爲メ大ニ喜フヘキコトナリ

第三節 紡績絹絲

紡績絹絲ヲ出品シタルハ絹絲紡績株式會社及富士瓦斯紡績株式會社ノ二社ニシテ本邦紡績絹絲ヲ網羅シテ遺サス其種別ノ整然タル本類中ニ冠タルヲ覺フ  
本邦紡績絹絲ノ產額ハ現今約二十三萬四千七百貫目餘即チ八十八萬一千二十七キロ餘ニシテ三十二年ノ產額三十五萬キロニ比シ五十三萬一千二十七キロヲ增加セシ譯ニシテ實ニ業ノ發達ニ伴ヒ紡績絹絲ノ材料タルヘキ屑物ノ產額ハ實ニ巨額ニシテ去ル三十八年ノ產額ヲ見ルモ一百七十二萬六千五百三十四貫目餘ニシテ此内海外ニ輸出セシ量ハ實ニ一百四萬七百二十五貫目(農商務統計ニ依ル)多キニ達スルモノノ如シ若シ此輸出額ノ全部ヲシテ紡績絹絲トシ内地織物ニ使用スルモ將輸出ニ供スルモ其製産上ヨリ生スル本邦ノ利益ハ實ニ尠少ナラサルヘシ  
絹絲紡績業ハ其發展ノ比較的遅々タルノ感ナキニ非ス其原因素ヨリ種々ナルヘシト雖モ本邦ノ紡績絹絲ハ歐米產ニ比シ製品比較的高價ナルハ必ス其一因タルヘシ將來製作上一層ノ改良ヲ加ヘ製産費ノ節減ニ勉メ賣價ヲシテ大ニ低廉ナラシムルヲ得ハ各種ノ織物ニ對スル用途ハ益開ケ内地ノミニテモ之ヲ消費スルノ量實ニ莫大ナルニ至リ更ニ本邦織物界ニ一段ノ進歩ヲ來スニ至ラン當業者一層ノ奮勵ヲ希望ス

第四節 金銀絲、縫絲、刺繡絲其他ノ雜絲

金銀絲ノ出品ハ極メテ僅少ニシテ之ヲ以テ全般ヲ評スヘカラスト雖モ單ニ少數ノ出品ノミヲ以テ批



評スレハ何レモ改良進歩ノ認ムヘキ點甚タ乏シキハ遺憾トスル所ナリ  
 絹縫絲ハ近來紡績絹絲、柞蠶絲、シルケツト「絲」カタン「絲」等ノ如キ格安代用品ノ製造増加シタル爲メ從來  
 ニ比シ産額増加セサルモ綿縫絲ハ裁縫機應用増進シタルト共ニ「カタン」絲ノ製造各地ニ起リ在來ノ手  
 撚ニ換フルニ簡易ナル機械ヲ用キ玉卷、カード卷、ボツピン卷等競フテ意匠ヲ凝ラシ需用者ノ嗜好ニ適  
 セシメ近時又清韓各國ニ輸出スルニ至レリ從ヒテ産額頗ル増加スルヲ見ル「バテン」絲、「メツキ」絲、刺繡絲  
 等モ近時「レース」及「ドロイン」ウオーク等ニ使用セラレ或ハ窓掛トナク卓子掛、椅子掛、枕掛、皿敷、ハンカチ  
 ーフ、寢臺掛等トシ海外ニ輸出セララルル量實ニ尠カラス此ノ如ク新用途發見セラレタルハ斯業ノ爲メ  
 大ニ喜フニ足ル然レトモ染色及原料ノ配合等佳良ナラサルモノアルハ大ニ遺憾トスル所ニシテ當業  
 者ノ注意ヲ要ス

麻繩秤絲、蠶絲等モ從來ノ製品ニ比シ製作技術ノ進歩セルモノアルヲ認ム

綿絲、麻絲、紡績絹絲、金銀絲、縫絲、雜絲出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	三五五	三八	一	二	五	二	二	四	一	一六	〇、五〇
京都府	二二三	三	一	一	一	一	一	一	一	三	一、〇〇
大阪府	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
栃木縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
三重縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
愛知縣	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
岐阜縣	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
長野縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
福井縣	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
香川縣	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇
計	三九五	五〇	一	四	五	五	二	四	一	二一	〇、四二

### 第六篇 晒白、精練其他各工程ニ屬スル諸品及製造ニ關スル器具

報告員 審査官 森田儀一郎

#### 第一章 工程ニ屬スル諸品

本類ニ屬スル出品ハ其點數左マテ多カラスト雖モ種類ニハ種々アリ今其重ナルモノニ付批評スルコト次ノ如シ

川俣絹布整練株式會社出品ノ羽二重整練ニハ染色シタル見本ヲモ添ヘテ出陳シアリ精練整理ノ方法等佳ナルヲ認メタリ

綿布綿絲漂白ハ概シテ色澤ニ於テ尙一段ノ研究ヲ望マサルヲ得ス石灰漂白ノ如キ地質ヲ損セサル點ハ可ナリト雖モ未タ完シト稱スルヲ得ス

獸皮、羽毛、毛織物ノ洗濯色上ハ技術稍佳ナリ此業ノ如キハ本邦稀ナルモ要求ハ實ニ繁シ幸ニ一層ノ研磨ヲ爲スヲ望ム

ウール羅紗ハ毛纖維ヲ綿布ニ或塗材ヲ以テ粘着セシメ羅紗ノ如キ外觀トヲ與ヘ防水ノ性アリ雨衣等ニ供スル目的ヲ以テ造ラレタルモノニシテ粘着セシ毛纖維ハ容易ニ剝脱セス價格低廉ナルカ故ニ需用多ク將來有望ナルモノトス唯油ノ臭氣ヲ放テ不快ノ感ヲ與フルヲ惜ム

「モスリネツト」ハ綿布ニ白色羊毛ヲ特種ノ藥品ヲ用キテ粘着セシメ毛製ノ「モスリン」ノ如キ外見手觸ヲ與フルニ在リ特許ヲ得タルモノニシテ未タ商品トシテ市場ニ供給スルニ至ラスト雖モ其價格ノ低廉ナル一部ノ需用ヲ起スヘキ望アリトス

工程ニ屬スル諸品出品並ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	金牌	銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	協贊賞	受賞合計	受賞割合
東京府	三三二	一二	一	一	一	一	一	三	一	三	〇、二六
神奈川縣	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇〇







在ルモノ極メテ寥々タルノ觀アルニ至リテハ吾人ハ呆然自失セサラント欲スルモ得ンヤ夫レ斯ノ如ク多クノ出品人カ根本の大誤解ノ結果トシテ出品目錄、出品解説書ノ如キ概モスレハ粗漏杜撰ニ陥リ局ニ出品ノ審査ニ當ルモノニ向ヒテ容易ナラサル煩勞ヲ除義ナクシタリキ又陳列區ノ裝飾方ニ就キテ觀ルモ全館ノ裝飾ト各自ノ裝飾トハ互ニ相調和セス個々派立ニテ些ノ聯鎖ナク自家ノ裝飾ニシテ衆目ヲ惹クニ足ラハ他者ノ陳列ニ妨害ヲ與フルヲ意トセス其間一點ノ德義ナキモノノ如キハ人ヲシテ嘔吐セシメントス其他有數ノ製產地ニシテ其ヲ代表スルニ足ルヘキ出品ヲ爲ササルカ如キ信用アル大工場又ハ大商店ニシテ僅ニ申譯的ノ出品ヲ敢テシテ愧チサルカ如キ這般ノ事實ヲ一々列舉センカ恐クハ僕ヲ更フルモ及ハサラントス然リト雖モ吾人ハ其多クヲ語ルコトヲ避クヘシ只將ニ來ルヘキ博覽會又ハ共進會ノ出品ニ就キテハ從來ノ經歷ニ鑑ミテ一層ノ注意ト熟慮トヲ當局者及出品人諸氏ニ希望スルアラソノミ

### 第二章 審査關係職員

本部ニ屬スル審査職員ハ部長ノ外審査官三十五名ニシテ別ニ審査官ノ業務ヲ補助スル爲メニ審査囑託三十五名、審査補助二十四名ノ任用アリ又部内全般ニ係ル普通事務ハ書記五名ヲ採用シテ之ニ當ラシメタリ審査職員ノ分掌左表ノ如シ

#### 高松部審査分掌表

部長正四位勳三等工學博士 高松 豊吉

#### 第十二部 染織、刺繡

##### 第九類 織物

##### 其一 内地向白絹類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

主査報告員 正七位 山田 三郎

從七位 林 精一

從七位 齋藤 俊吉

從七位 岩下 龍太郎

審査囑託

萩島 信吉

##### 其二 絲織類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

從六位 柴田 才一郎

從六位 萩原 清彦

主査報告員 從七位 早崎 龜壽

從七位 關本 幸次郎

審査囑託

久野 益吉  
廣岡 伊助

##### 其四 御召、風通、絹上布類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

從六位 高力 直寛

從六位 萩原 清彦

主査報告員 從七位 近藤 德太郎

從七位 岩下 龍太郎

報告員 從七位 岩下 龍太郎

審査囑託

堀越 常七  
牛山 武兵衛  
古屋 徳兵衛

##### 其三 袖太織類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

主査報告員 從七位 山田 三郎

報告員 從七位 早崎 龜壽

從七位 關本 幸次郎

審査囑託

向山 忠次郎

##### 其五 博多織類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

從六位 高力 直寛

從六位 萩原 清彦

主査報告員 從七位 岩下 龍太郎

從七位 早崎 龜壽

審査囑託

岩下 龍太郎

萩島 信吉  
久野 益吉  
小菅 丹治  
堀越 常七  
池田 彌太郎



其六 袴地類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

正六位 高力 直寬

從六位 萩原 清彦

主查報告員 從七位 早崎 龜壽

審 查 囑託

萩島 信吉  
小菅 丹治  
古屋 德兵衛  
山田 爲三

其七 甲斐絹、洋傘地、洋服裏地

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

正六位 高力 直寬

從七位 森田 儀一

主查報告員 從七位 齋藤 俊吉

審 查 囑託

萩島 信吉  
久野 益吉  
牛山 武兵衛  
古屋 德兵衛

其八 高等絹織類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

正六位 高力 直寬

從六位 井手 馬太郎

主查報告員 從七位 近藤 德太郎

審 查 囑託

會和 嘉一郎  
飯田 藤次郎  
田中 忠三郎  
山田 爲三

其九 輸出向白絹類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

正七位 下山 又次郎

主查報告員 從七位 森田 儀一郎

報告員 從七位 森田 儀一郎

久野 益吉  
小菅 丹治  
飯田 藤次郎  
古屋 德兵衛  
伊藤 彌太郎  
池田 彌太郎

其十 輸出向柄物類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

正六位 高力 直寬

從七位 近藤 德太郎

主查報告員 從七位 河下 龍太郎

審 查 囑託

會和 嘉一郎  
飯田 藤次郎  
田中 忠三郎  
山田 爲三

其十二 白綿布類

主 任 正六位 柴田 才一郎

從六位 高田 吉親

主查報告員 正七位 竹下 直次郎

審 查 囑託

安田 源藏  
山田 爲三  
中村 宗三郎  
田邊 正助  
堀越 常七

其十一 絹綿交織類

主 任 正六位勳五等 山口 貴雄

從六位 萩原 清彦

從七位 近藤 德太郎

從七位 早崎 龜壽

其十三 綿ヲラネル類

主 任 正六位 柴田 才一郎

正七位 竹下 直次郎

正七位 下山 又次郎

川崎 榮助  
松下 定吉  
中村 磯八  
向山 小平次



主查報告員 正七位 山越八郎  
從七位 吉田佐次郎  
審查囑託

其十四 綿緋類

主任 正六位 柴田才一郎  
主查報告員 從六位 高田吉親  
從七位 本田佑武  
從七位 吉田佐次郎  
正八位 鈴木廉之介  
審查囑託

其十五 綿縮類

主任 正六位 柴田才一郎  
從六位 高田吉親  
正七位 竹下直次郎  
從七位 本田佑武  
正八位 鈴木廉之介  
主查報告員

其十六 綿雜類

主任 正六位 柴田才一郎  
正六位 山口貴雄  
正七位 島中牛五郎  
正七位 下山又次郎  
從七位 吉田佐次郎  
主查報告員  
審查囑託

其十七 麻織類

主任 正六位 岡本金一郎  
從六位 高田吉親  
主查報告員

田邊正助  
中村平三郎  
向山小平次郎  
中村宗三郎  
井上倉吉  
栗原和吉  
安田源藏  
堀越常七  
中村磯八

正七位 動六等 十時元  
從七位 本田佑武  
從七位 渡邊季吉  
審查囑託

八毛其十 織類

主任報告員 正六位 高力直寬  
從五位 勳三等工學博士 大竹多氣  
從六位 勳四等 渡部謙吉  
從六位 勳五等 竹下直次郎  
正六位 勳五等 齋藤俊吉  
主查報告員  
審查囑託

小菅丹治  
牛山武衛  
古屋德兵衛

其十九 段通其他敷物類

主任 正六位 勳五等 山口貴雄  
正六位 高力直寬  
正六位 井手馬太郎  
審查官

端善次郎  
白石甚兵衛  
小菅丹治  
古屋德兵衛

其二十 臺灣出品染織物類

主任報告員 正七位 近藤德太郎  
從七位 森田儀一郎  
主查報告員  
審查囑託

高橋爲三郎  
田中忠三郎  
飯田藤次郎  
曾和嘉一郎

其二十一 韓國出品染織物

主任 正六位 岡本金一郎  
從六位 山口貴雄  
主查報告員 從六位 高田吉親  
正七位 勳六等 十時元  
審查官

小菅丹治  
牛山武衛  
古屋德兵衛



從七位 本 田 佑 武  
審 查 囑 託

小 菅 丹 治  
牛 山 武 兵 衛  
古 屋 德 兵 衛

第一百類 染物

其一 友禪染

審 查 官

主 任 從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

正 六 位 井 手 馬 太 郎

主 查 報 告 員 正 六 位 鶴 卷 鶴 一

從 七 位 關 本 幸 次 郎

從 七 位 岩 下 龍 太 郎

審 查 囑 託

古 屋 德 兵 衛

牛 山 武 兵 衛

園 田 治 郎

山 田 忠 三 郎

久 野 益 吉

廣 岡 伊 助

谷 岡 金 太 郎

端 岡 金 太 郎

白 石 甚 兵 衛

其二 無地染

審 查 官

主 任 從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

主 查 報 告 員 從 六 位 高 松 德 次 郎

從 七 位 竹 下 直 次 郎

從 七 位 本 田 佑 武

從 七 位 渡 邊 季 吉

審 查 囑 託

青 木 直 治

伊 藤 琴 三

古 屋 德 兵 衛

牛 山 武 兵 衛

山 本 元 三 郎

西 澤 善 七 郎

端 善 次 郎

白 石 甚 兵 衛

其三 形附類

審 查 官

主 任 從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

正 六 位 井 手 馬 太 郎

主 查 報 告 員 從 六 位 高 松 德 次 郎

正 七 位 下 山 又 次 郎

從 七 位 吉 田 佐 次 郎

審 查 囑 託

青 木 直 次

其四 纈類

主 任 審 查 官

從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

正 六 位 井 手 馬 太 郎

從 六 位 高 松 德 次 郎

正 七 位 勳 五 等 竹 下 直 次 郎

正 八 位 鈴 木 廉 之 介

審 查 囑 託

廣 岡 伊 助

園 田 治 郎

其五 染絲類

主 任 審 查 官

從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

從 六 位 高 松 德 次 郎

正 七 位 伊 達 道 太 郎

正 七 位 勳 六 等 十 山 越 八 郎

正 七 位 山 越 八 郎

第一百十一類 刺繡

其一 刺繡 審 查 官

審 查 官

主 任 從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

主 查 報 告 員 從 六 位 高 松 德 次 郎

正 七 位 竹 下 直 次 郎

從 七 位 本 田 佑 武

從 七 位 渡 邊 季 吉

審 查 囑 託

青 木 直 治

伊 藤 琴 三

古 屋 德 兵 衛

牛 山 武 兵 衛

山 本 元 三 郎

西 澤 善 七 郎

端 善 次 郎

白 石 甚 兵 衛

其三 形附類

審 查 官

主 任 從五位勳五等 吉 武 榮 之 進

正 六 位 井 手 馬 太 郎

主 查 報 告 員 從 六 位 高 松 德 次 郎

正 七 位 下 山 又 次 郎

從 七 位 吉 田 佐 次 郎

審 查 囑 託

青 木 直 次

主 任 正六位勳五等 山 口 貴 雄

正 六 位 高 力 直 寬

主 查 報 告 員 正 六 位 井 手 馬 太 郎

正 七 位 近 藤 德 太 郎

從 七 位 森 田 儀 一 郎

審 查 囑 託

飯 田 藤 次 郎

會 和 嘉 一 郎

田 中 忠 三 郎

中 西 儀 兵 衛

主 任 正六位勳五等 山 口 貴 雄

正 六 位 井 手 馬 太 郎

主 查 報 告 員 正 七 位 近 藤 德 太 郎

從 七 位 森 田 儀 一 郎

審 查 囑 託

岩 下 龍 太 郎

中 西 儀 兵 衛

飯 田 藤 次 郎

會 和 嘉 一 郎

田 中 忠 三 郎

第一百十二類 絲、綿 其一 生絲



主任報告員 審查官  
從五位勳六等 今西直次郎  
從六位 石居一郎

其二 絹撚絲  
主任報告員 審查官  
從五位勳六等 今西直次郎  
正六位勳五等 山口貴雄  
正六位 高力直寬  
正七位 近藤德太郎  
從七位 早崎龜壽

主任報告員 審查官  
從五位勳六等 今西直次郎  
正六位勳五等 山口貴雄  
正六位 高力直寬  
正七位 近藤德太郎  
從七位 早崎龜壽

其三 眞綿

町田德之助  
西田嘉兵衛  
藤掛與左衛門  
道明新兵衛

主任報告員 審查官  
從五位勳六等 今西直次郎  
從六位 石居一郎

其四 綿絲其他絲綿類

主任 正五位勳三等工學博士 大塚要

主任報告員 審查官  
正六位 高力直寬  
從六位 高田吉親  
正七位勳六等 十時元  
正七位 山越八郎

第百十三類 晒白、精練其他各工程ニ屬スル諸品

主任報告員 審查官  
從五位勳五等 吉武榮之進  
正六位勳五等 山口貴雄  
正六位 柴田才一郎  
從七位 柴田精一郎

第百十四類 染織物製造ニ關スル器具標本等

主任報告員 審查官  
從五位勳五等 吉武榮之進  
正七位 山越八郎  
從七位 森田儀一郎

主任報告員 審查官  
從五位勳五等 吉武榮之進  
正七位 山越八郎  
從七位 森田儀一郎

稻生文作  
大山清一郎  
加藤武八  
大芝一雄  
佐久間保久太郎  
服部宇左衛門  
星野知次  
吉川良治  
松下喜藏  
赤松元太郎  
小澤信次郎  
荒井谷吉  
大木正一  
塚原千一  
手島淳藏

吉岡直富  
近藤只三  
三浦德次郎  
近藤健資  
檀三郎  
小野精一  
野口寬一  
森山哲三  
榎本安節  
白井彰信  
近藤健資  
大迫愛千代  
日比野太兵衛  
三浦德次郎

第三章 官廳出品及外國出品

調査員 審査官  
岡本金一郎  
同 伊達道太郎  
同 十時元

農商務省商品陳列館出品

「モックケット」プラシ及傘用綿布(無地、紋織、壓形、捺染等)ノ標本各種ハ對外貿易上極メテ注目ヲ要スヘキ織物ノ種類ニ屬シ又輸出刺繡ノ變遷ハ明治初年ヨリ順次刺繡技術ノ發展ヲ標本ニ依リ現セルモノニシテ孰レモ當業者ノ參考トナスヘシ



農商務省工業試驗所出品

染料堅牢度比較試驗第三回報告及標本ハ其研究ノ事項斯業界ニ最モ重要ナルモノニシテ回ヲ重ヌル毎ニ精鑽ヲ加フ以テ當業者ノ參考トナスヘシ

千住製絨所出品

白毛布、茶褐毛布、茶褐霜降絨、各兵科徽章絨並ニ反毛ヲ用キタル霜降絨、白絨及毛布試製品等ナリ抑、反毛事業ハ廢物利用ノ毛織物ヲ製スル重要ナル工程ニシテ本所ニ於テ之ヲ試製セシハ最モ適切有益ノ事ト謂フヘシ殊ニ反毛原料ノ標本トシテ日露戰役ノ際出征軍人カ使用セシ頭巾、手袋靴下等ノ洗濯シタルモノヲ示セルハ一般觀覽者ニ利益ヲ與フルコト甚タ大ナリト信ス

韓國平壤理事廳出品

寧邊、成川、熙川、右郡等ノ紬及絹十三點及原料紬絲四點アリ由來同地方ハ韓國ニ於ケル紬類ノ產地タリト雖モ其製品粗雜ナルヲ免レス將來大ニ改良ヲ加フルノ必要アルヲ認メタリ

三井物産合名會社出品

綿及綿絲各種毛及毛絲各種輸入綿布人造絹絲等ニシテ左ノ二表ハ綿布及絹絲ノ產地、價格等ヲ表示セルモノナリ

名	稱	商標	產地	幅	長	一反ノ價格	用途
二巾	生金巾	二頭「カンガルー」印	「マンチエスター」	三一	一一〇	一一六〇〇	裏地用俗ニ綿「モス」ト稱スルモノ
同	上	三角鳥印	同上	三一	一一〇	一一四〇〇	綿「モス」用主トシテ絳染
三巾	「キヤラコ」	兵隊印	同上	四四	四六	八〇〇〇	裏地用
同	上	三虎印	同上	四四	四六	七〇〇〇	裏地用
三巾	木瓦斯金巾	銀天印	同上	四五	四七	一一〇〇〇	上等裏地用浴ニ羽二重金巾ト稱スルモノ
晒	金巾	天人印	同上	三六	五〇	八〇〇〇	「ハンケチ」「シャツ」其他雜用

品名	品位	產地	單位	價額	品名	品位	產地	單位	價額
人造絹絲	A印	英國	一封度ニ付	四三〇〇	人造絹絲	金色	英國	一封度ニ付	四五〇〇
同	B印	同上	同上	三〇〇〇	柞蠶絲	清國	和百斤ニ付	三六〇〇〇〇	

此等ノ出品ハ就レモ當業者參考ノ資トナスニ足ル

稻畑東京支店出品

毛絲及「トップ」並ニ「クロードフレ」會社發行ノ歐米各國新流行織物染物帖數點ハ該業者ヲ益スルコト大ナリト謂フヘシ

柴田染料商出品

段通用原料色染標本、人造絹絲色染標本、「モスリン」及綿布等ノ捺染標本並ニ純粹青藍ヲ應用セル武州青、縞、伊勢崎銘仙、近江帷子、久留米、大和白、村山、山、等ノ織物標本ハ以テ當業者ノ參考トナスニ足ル

合資會社鱗與商店出品

硫化染料ヲ應用セル朱子、青縞、中形染及「ダイヤミン」染料應用ノ青梅蒲團、縞、緋、入、雙子等ハ前項柴田商店ノ出品ト相待チテ當業者ノ研鑽採擇ニ資スル所多カラシ

井口銀藏出品

英國「グラスゴウ」、「エッチ、エス」商會ノ白及縞、「フラネル」、縱瓦斯、カシミヤ「地」並ニ獨國「ハンボルグ」市「メーケル」商會ノ白及色、「フラネル」、無地縞、「ネル」、「カシミヤ」地、「テーブル」掛、「ラッコ」膝掛、白及赤毛布等ハ英獨兩國ノ製造ニ係リ當業者ノ參考ニ供スヘシ

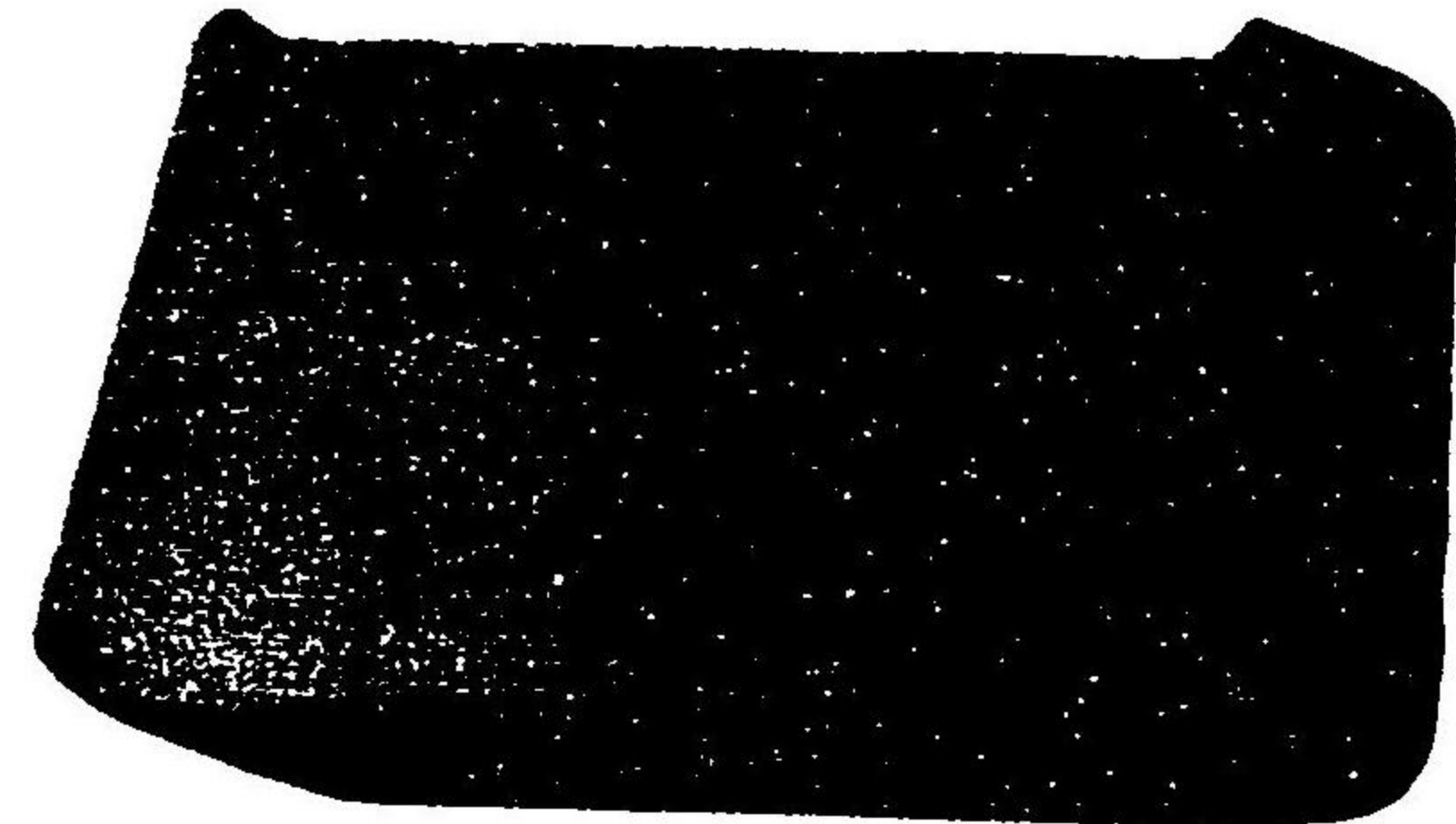
杉本鶴五郎出品

麻製食卓用品三點ヲ見タリ

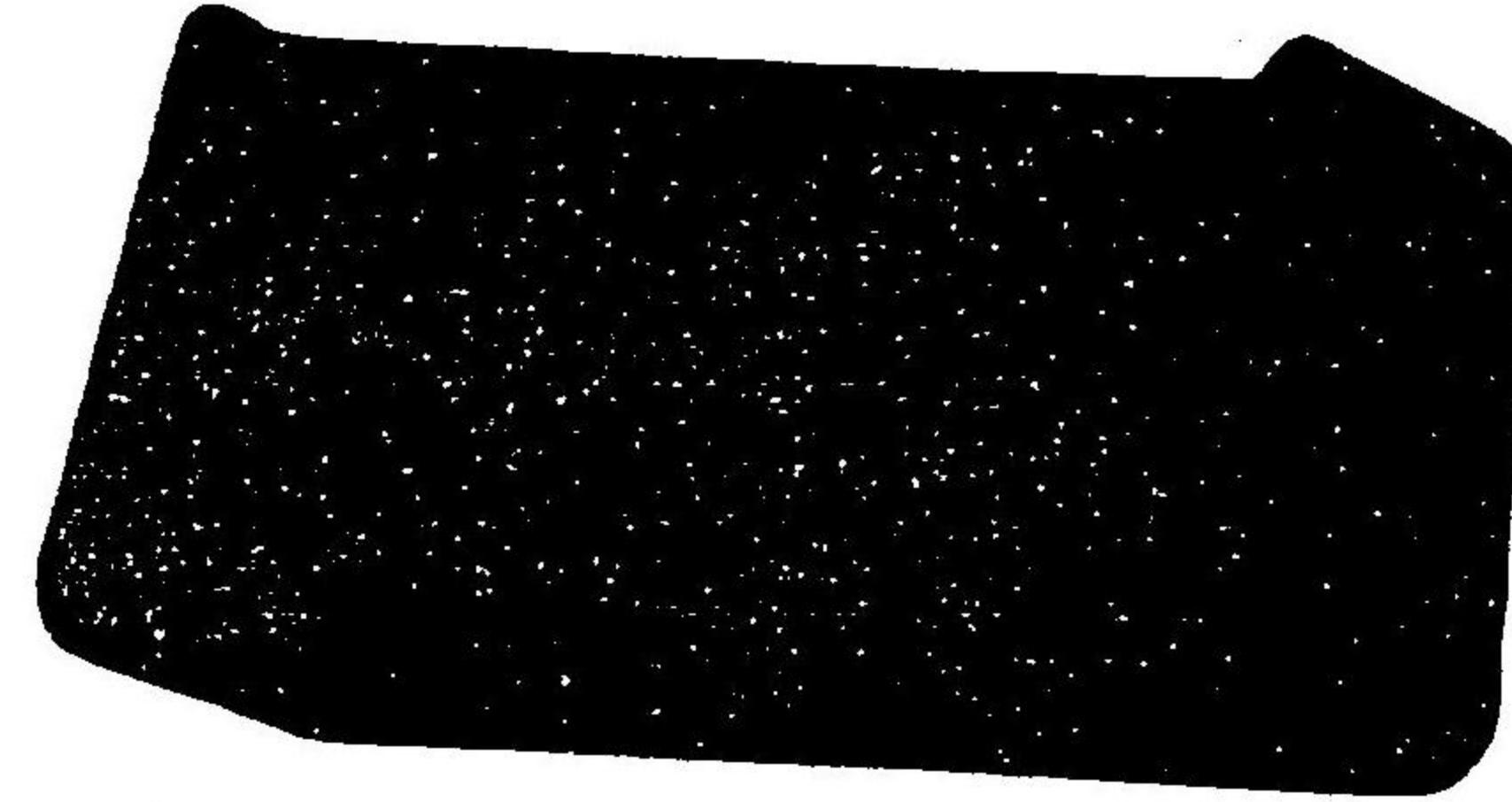


「ボラック」兄弟商會出品

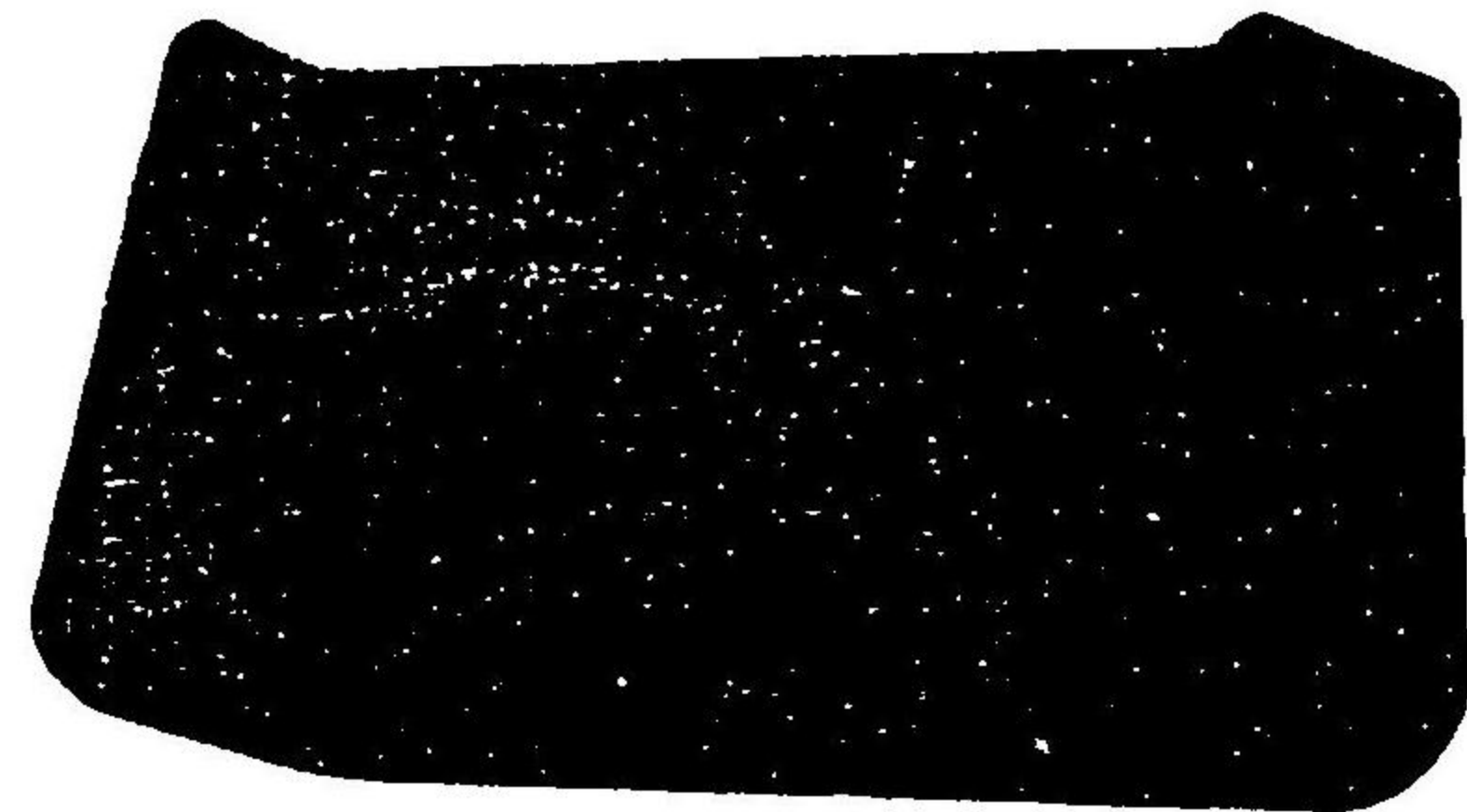
瓦斯綿絲八十番絲ハ品質佳ナルモ價格不明ナリ  
之ヲ要スルニ今回外國館ニ於ケル此種ノ出品ハ大阪ニ於ケル第五回内國勸業博覽會ノ時ニ比シ甚タ  
尠少ナルハ大ニ遺憾トスル所ナレトモ亦以テ當業者ヲ裨益スルコトノ大ナルヲ認メスンハ非サルナ  
リ



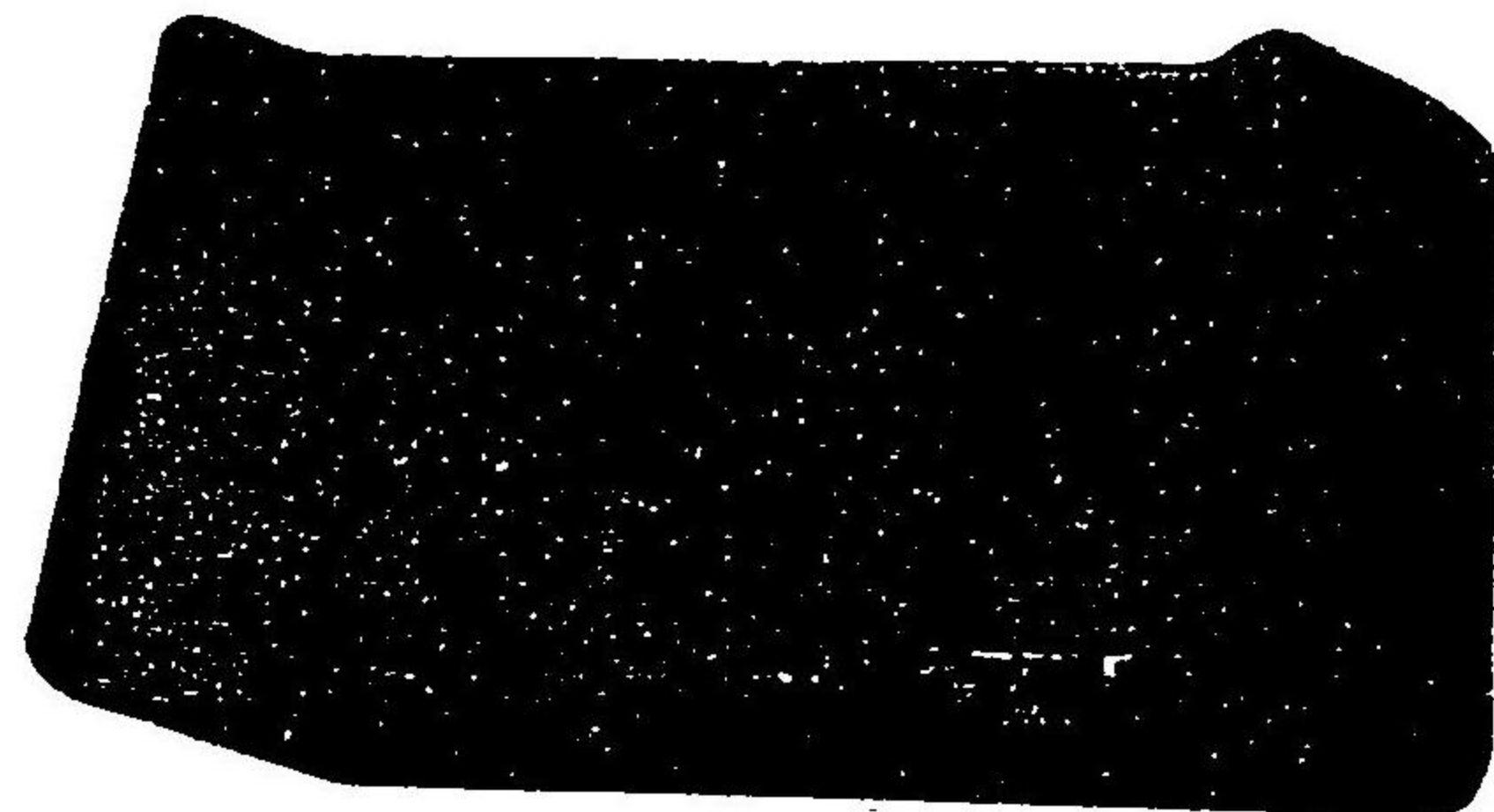
印+ $\frac{1}{2}$ るためとまや 圖一第



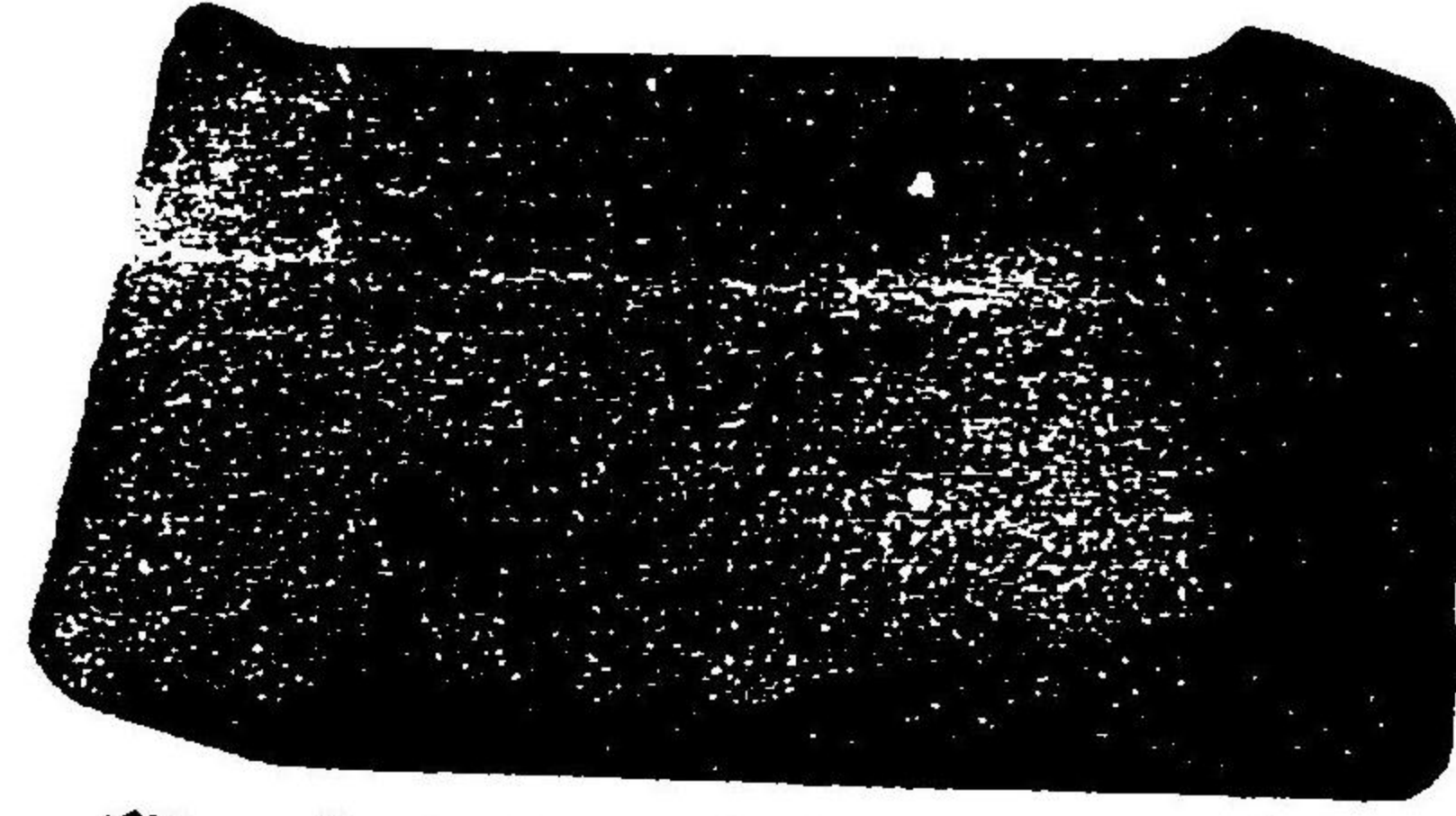
印+ $\frac{1}{3}$ るためとまや 圖二第



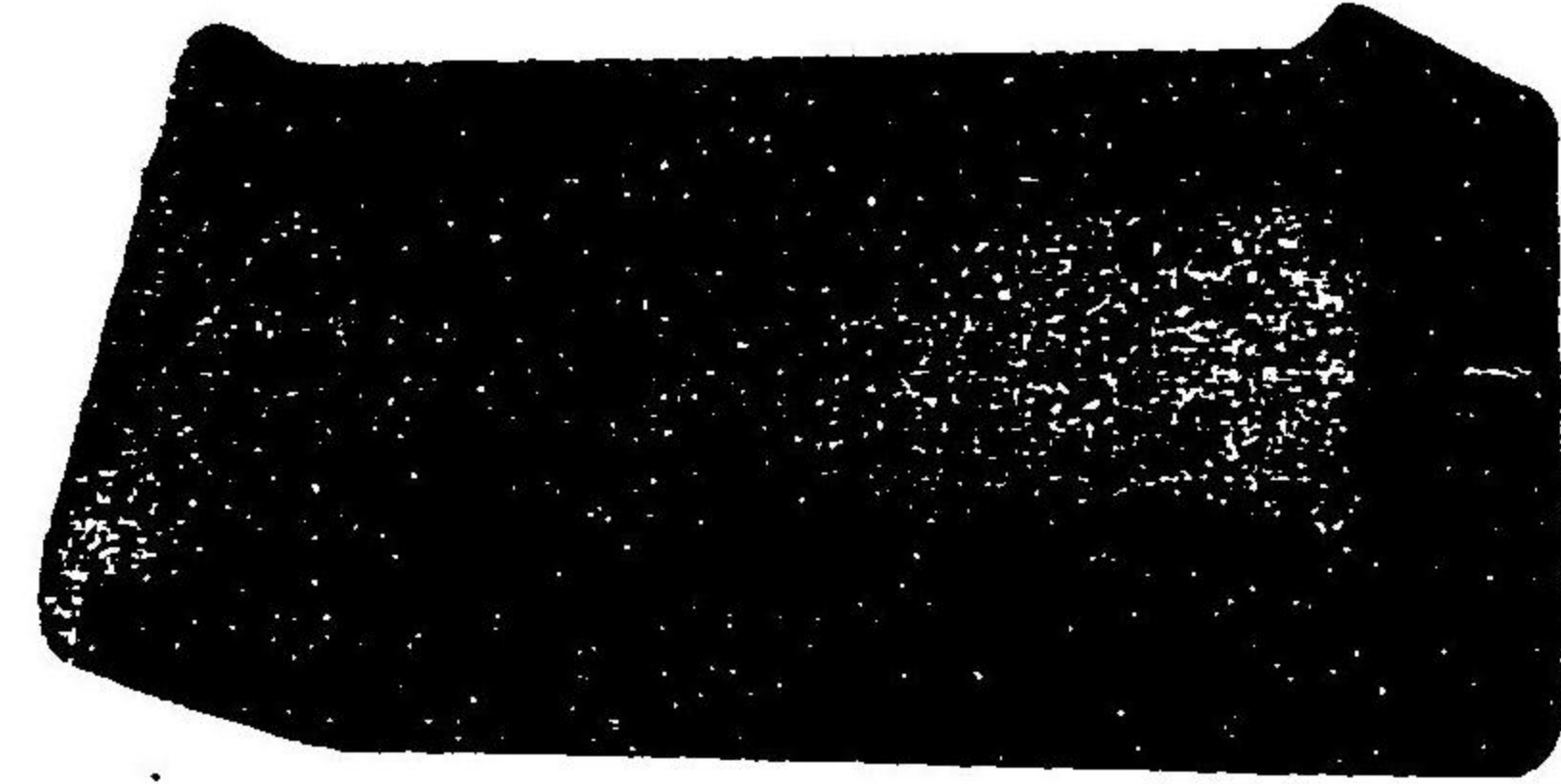
印+ $\frac{1}{4}$ るためとまや 圖三第



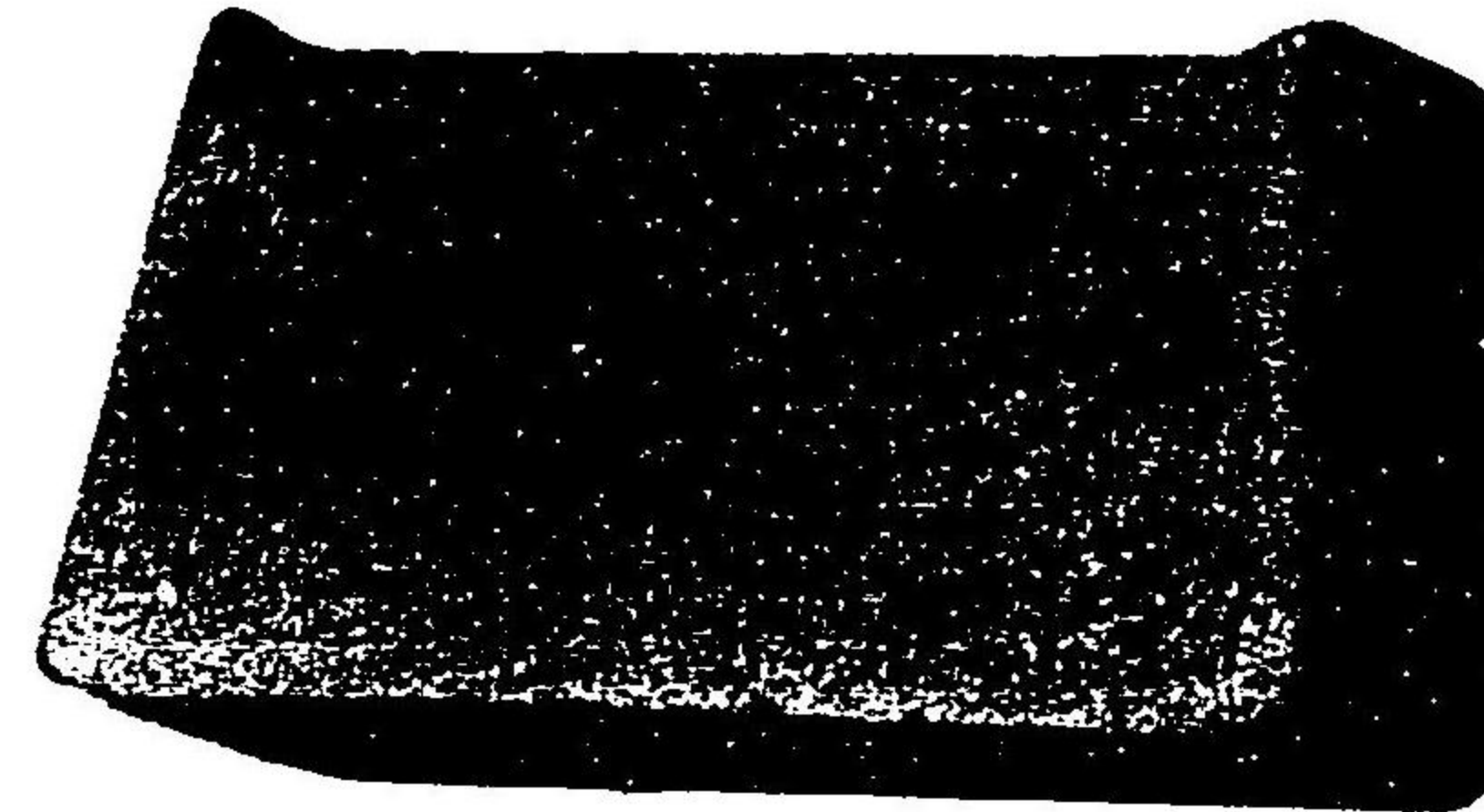
印%るためとまや 圖四第



印- $\frac{1}{2}$ るためとまや 圖五第



印- $\frac{1}{3}$ るためとまや 圖六第



印- $\frac{1}{4}$ るためとまや 圖七第



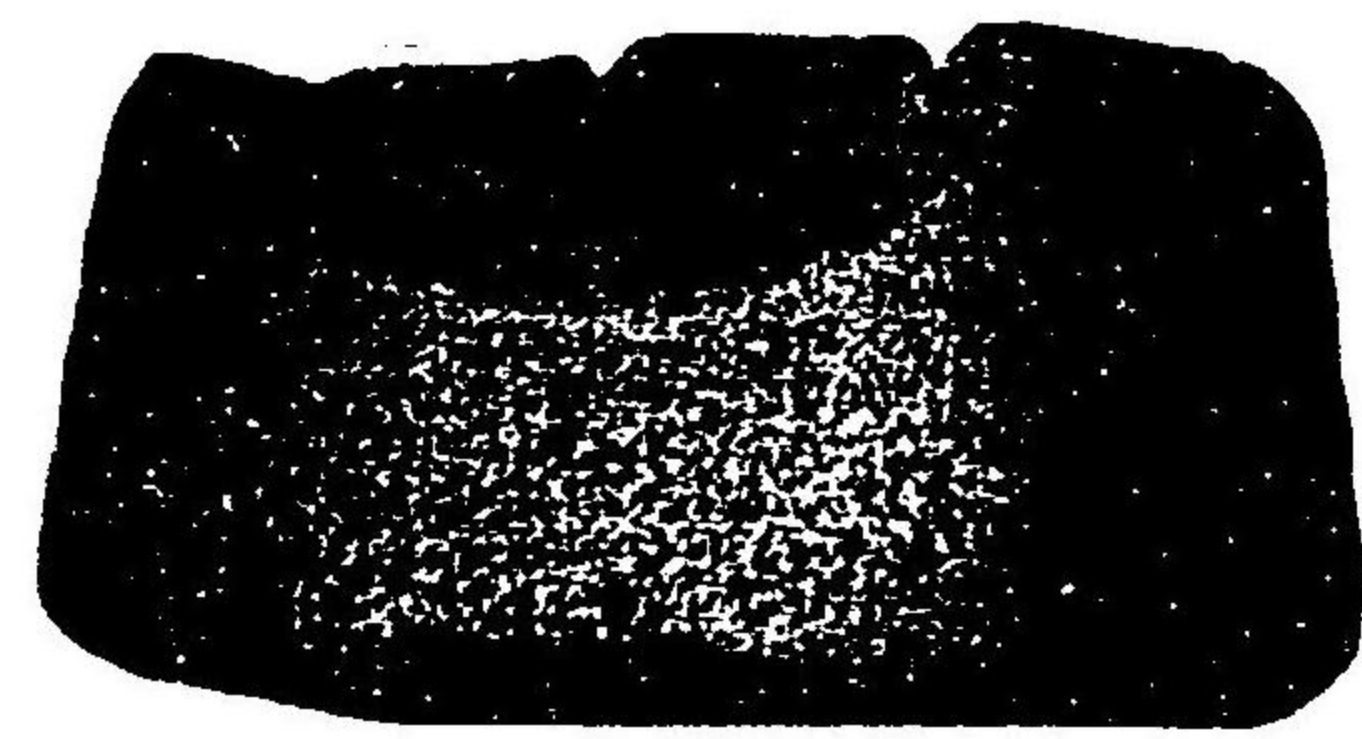
外番るためとまや 圖八第

(東京製版所印行)

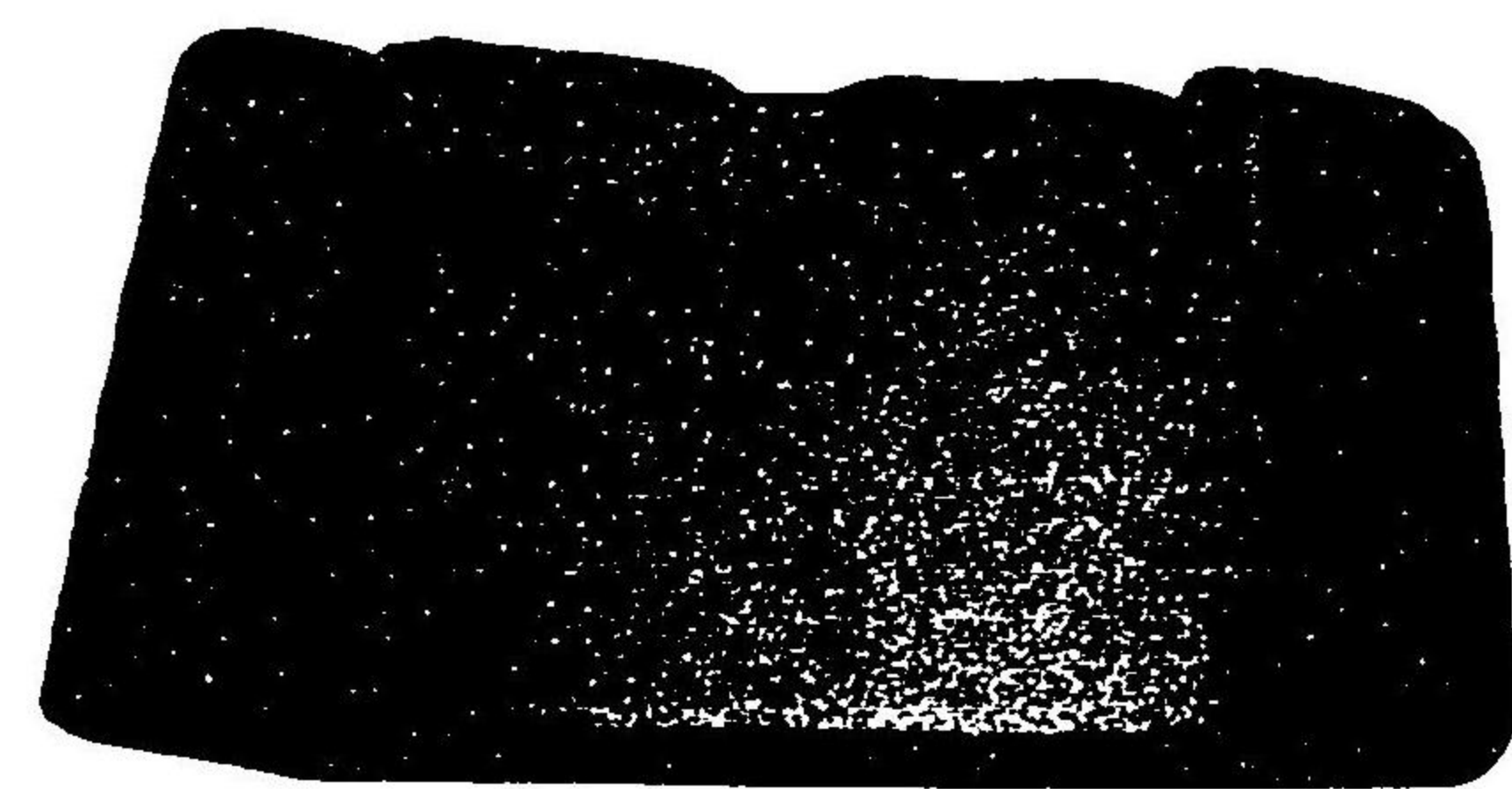




ためとまや 圖十第  
大倍百部下印一まる



印軟るため日朝 圖九第



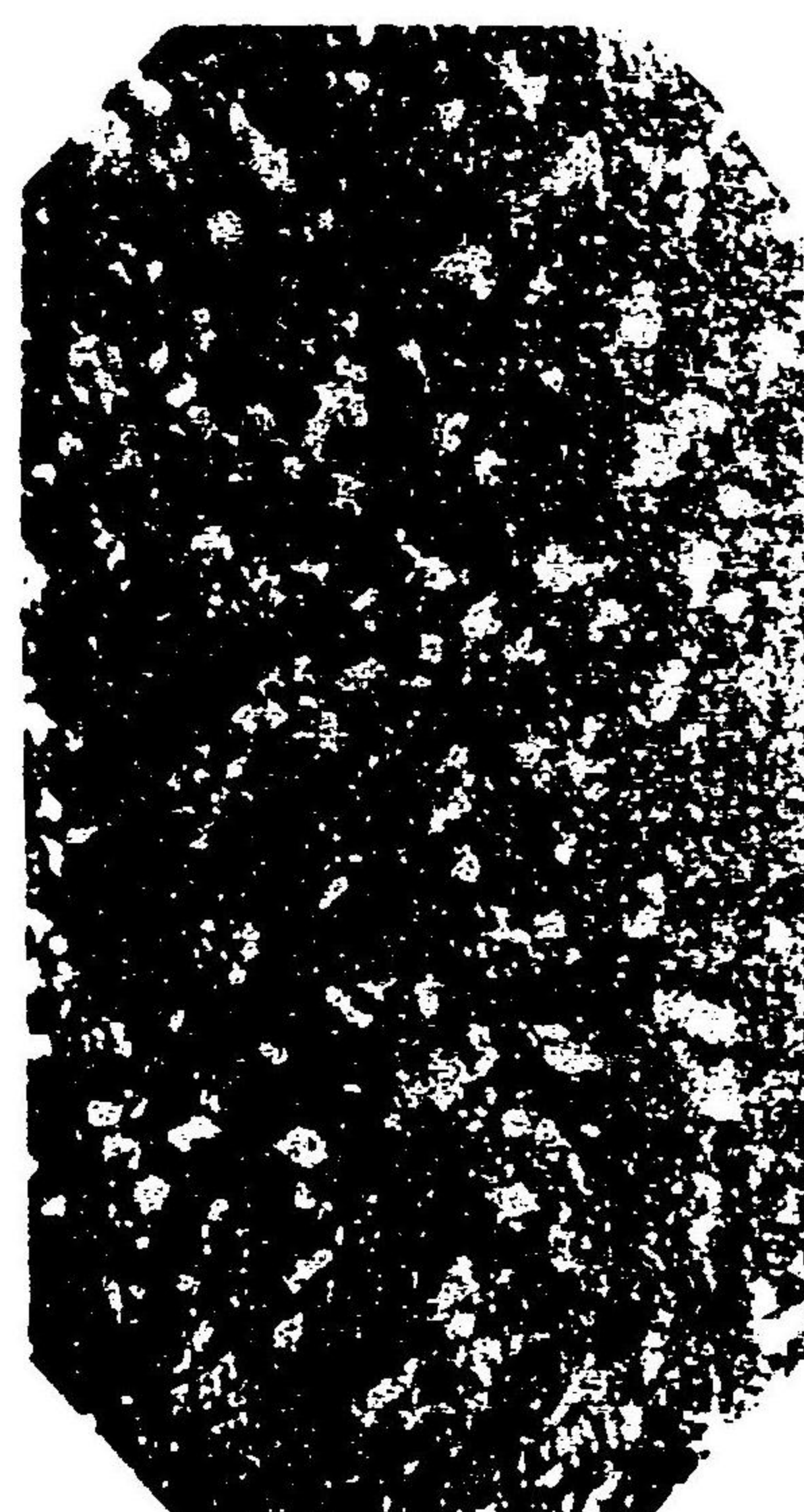
印硬るため日朝 圖九第



るためとまや 圖三十第  
大倍百二部上印+ $\frac{1}{2}$



ためとまや 圖二十第  
大倍百部下印+ $\frac{1}{2}$ る



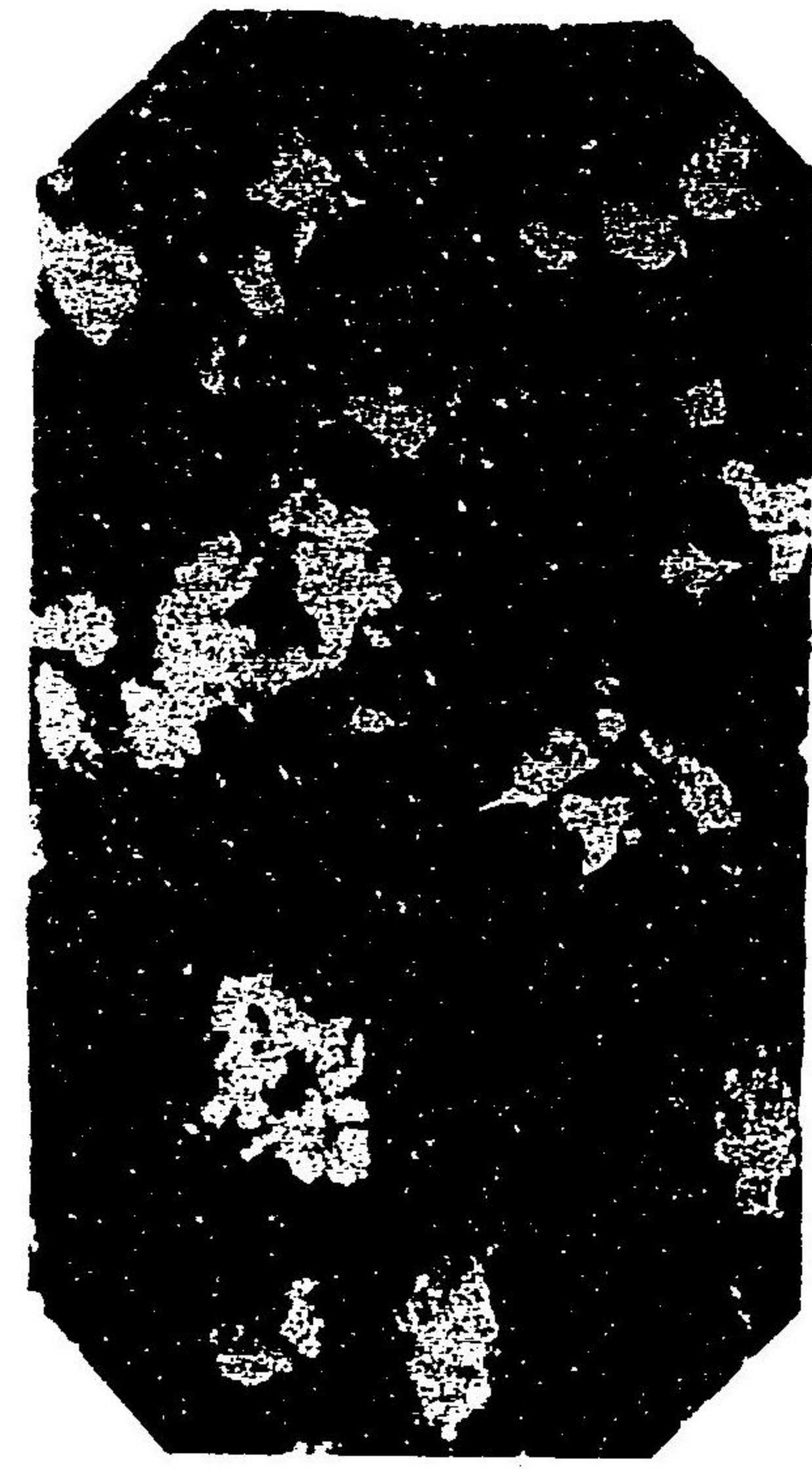
ためとまや 圖一十第  
大倍百部上印一まる

(東京製版所印行)





ため日朝 圖五十第  
大倍百二部上印軟る



ため日朝 圖四十第  
大倍百部下印軟る



めありのぐま 圖七十第  
大倍十五百二部充填るた



りのぐま 圖六十第  
大倍百晶結るためあ

(東京製版所印行)

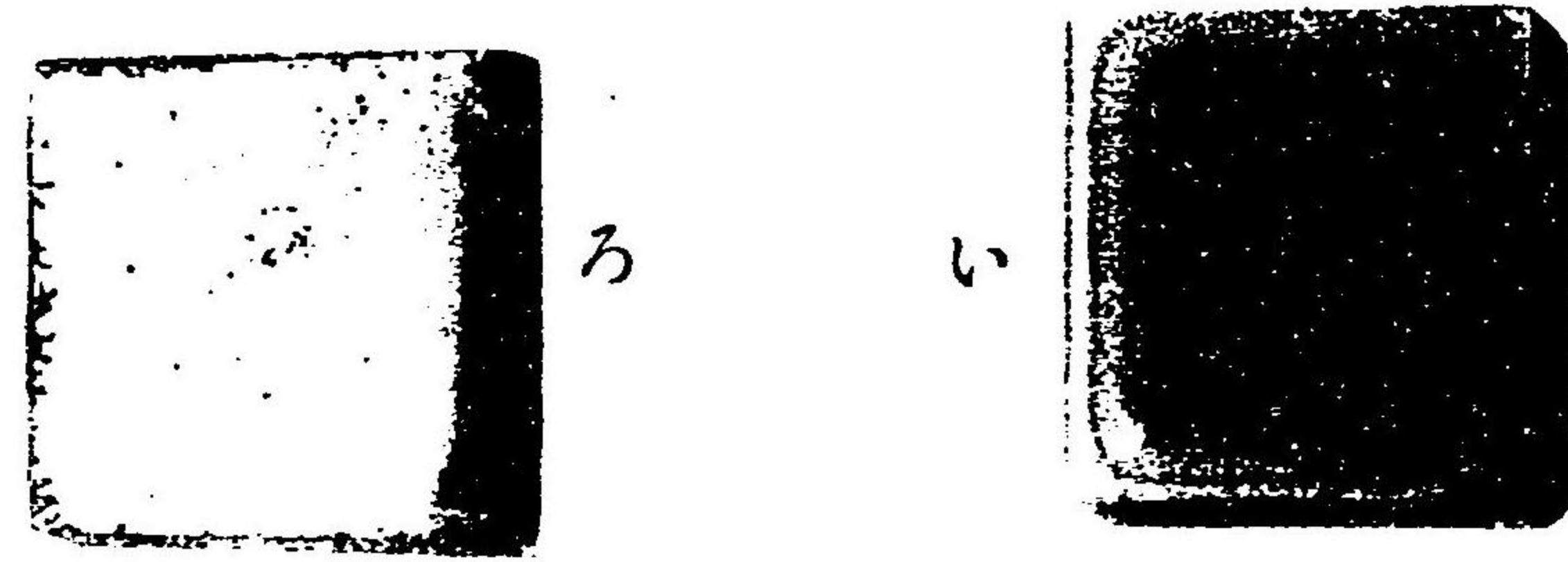


圖 八 十 第



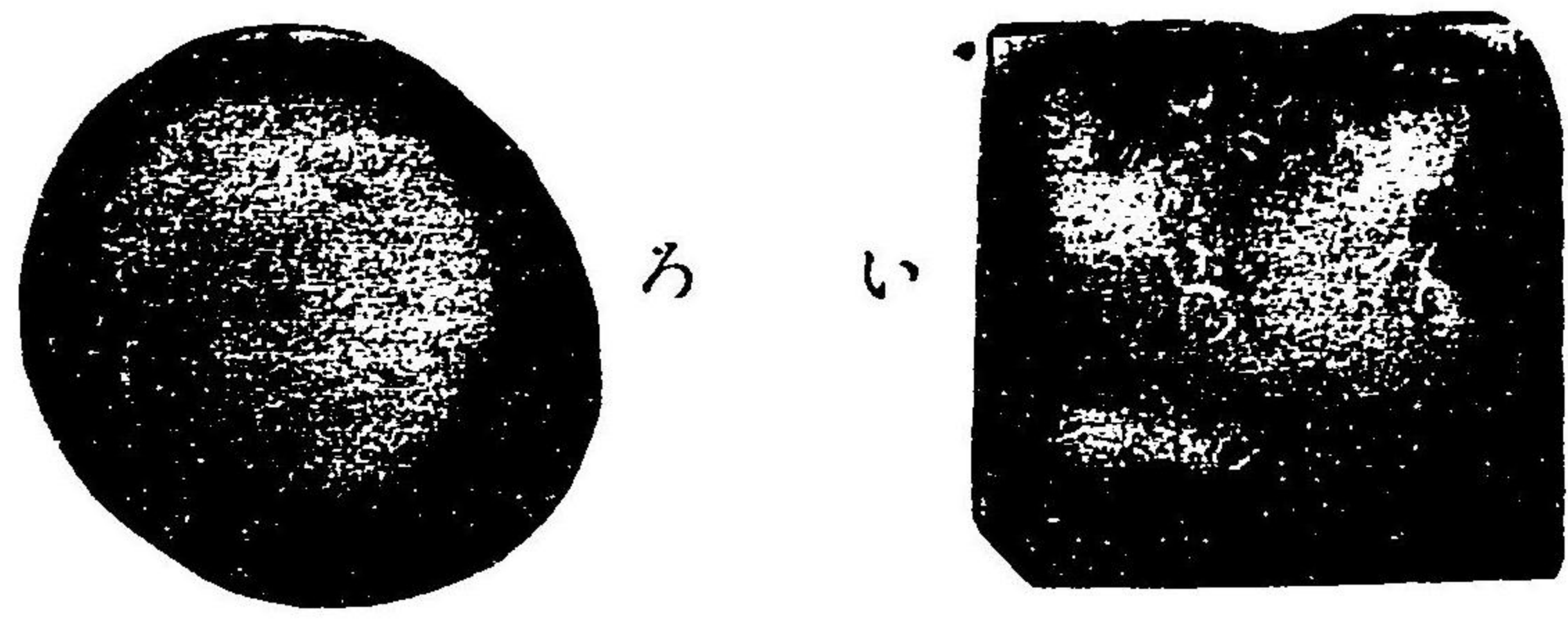
ろ い

圖 九 十 第



ろ い

圖 十 二 第



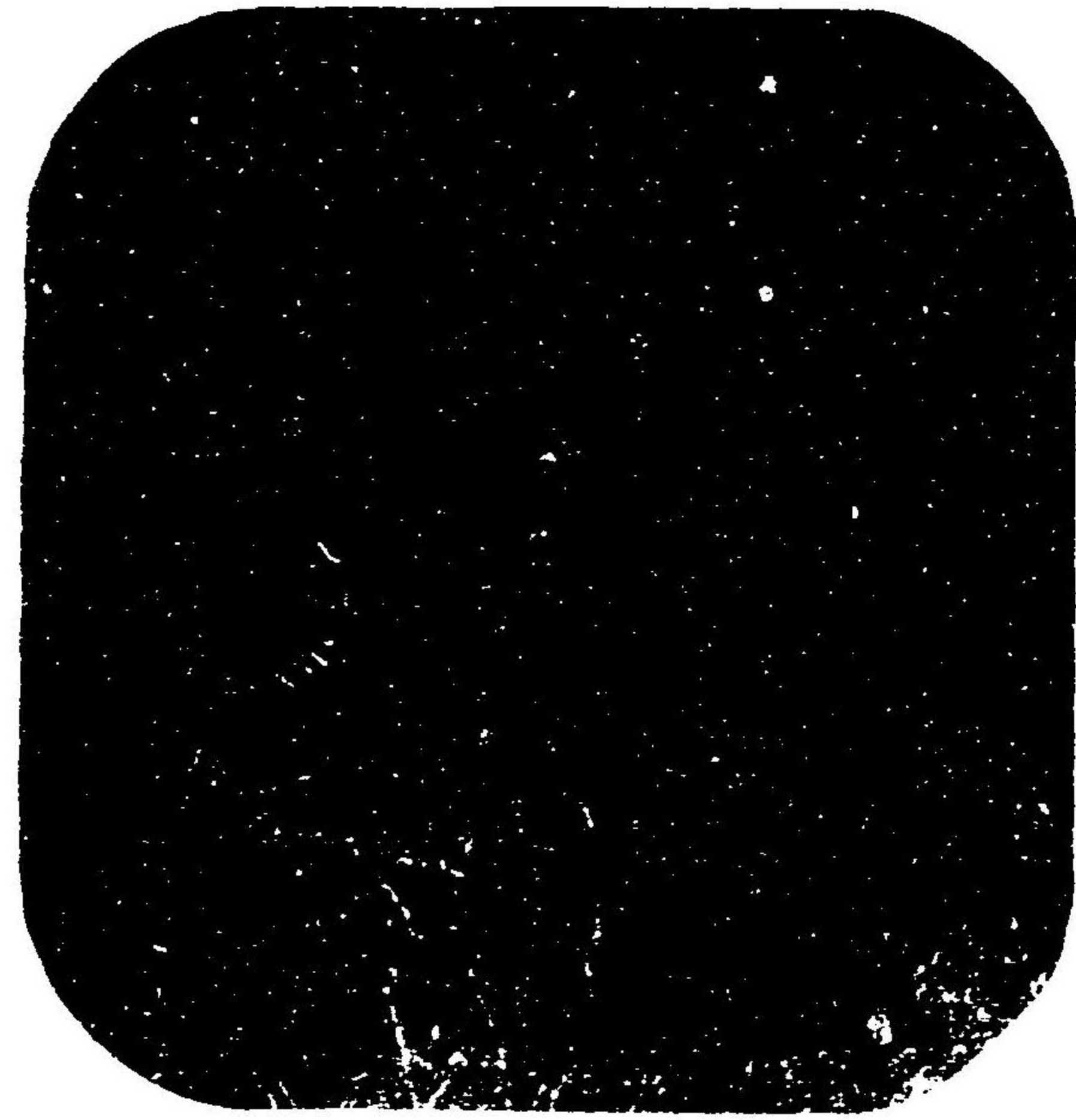
ろ い

は

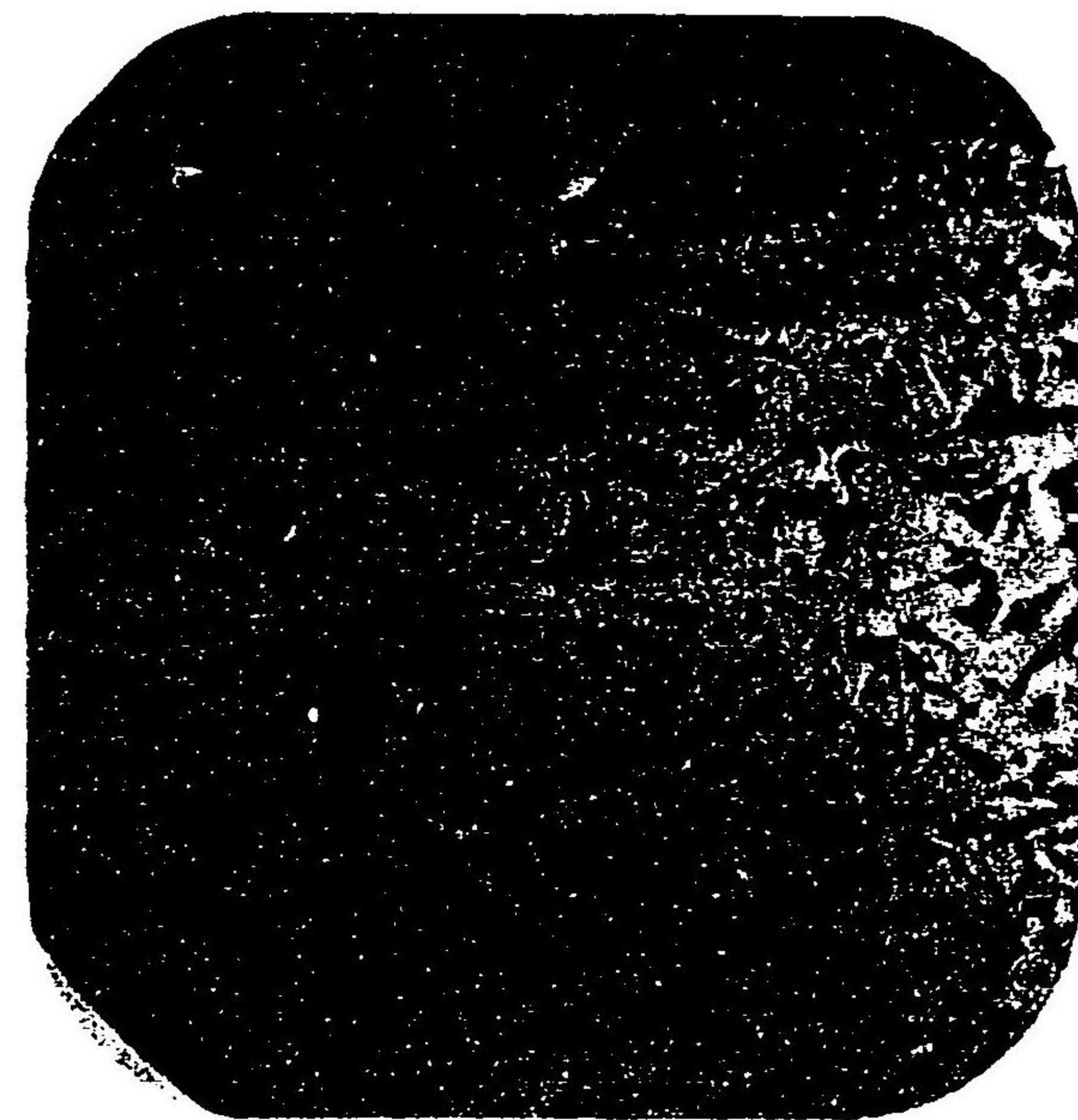


(東京製版所印行)





大倍百部廓外ノ鋼許特 圖二十二第



大倍百部内ノ鋼許特 圖一十二第



骨溝傘洋鋼許特 圖四十二第  
ノモシセ品出大倍千



倍千骨溝傘洋鋼許特 圖三十二第  
ノモシセ却冷テニ中空テシ熱赤大

(東京製版所印行)



東京勸業博覽會審査報告卷九渡邊審査部中正誤

頁數	行數	誤	正
三七	七	三七、二〇五	三七、三〇五
三七	九	しむ	しむ
同	同	加納ノ次ニ	山ヲ脱ス
二二	四	現ノ次ニ	ニヲ脱ス
二二	二	原料	原料
二六	三	セス	セハ
二六	五	でるぶらと	でるぶらと
同	三	鋼網ノ間	欠字ハ謬リ
二九	二	揚掛	揚機
二九	五	摩磨用	磨磨用
二九	一	機械箱	機械油
二九	二	括弧中ノ文字ハ	全部削除
三〇	一	金爪石	金爪石
三〇	二	造幣局	造幣局
三〇	一	まるちぶら	まるちぶら
三〇	三	銳尾	鑛尾
三〇	三	熔鑛爐	熔鑛爐
三〇	二、七、四、八	溶鑛	溶鑛
三八	三	初メノ四脈聯ヲ	初メノ三脈聯ヲ

頁數	行數	誤	正
三〇	九	階段	階段爐
三〇	一	金熱利用	鍍熱作用
三二	三	最低坑水坑道	最低坑水坑道
同	九	十二封	十二封度
同	八	うるふれ一汰磐	うるふれ一汰盤
三三	三	附スルニ能ハス	ニノ字衍
同	四	供給	供給
三三	二	熔鑛製煉所	熔鑛製煉所
三四	五	古世紀	古世紀
同	八	方灰石	方解石
同	九	閉亞鉛鑛	閉亞鉛鑛
三五	五	熔鑛煉	熔鑛製煉
三七	二	はんちんぐとん	はんちんぐとん磨
三九	三	古岸	右岸
三三	三	中世紀	中生紀
同	三	金〇、〇〇ニ及ヒ	金〇、〇〇二%及ヒ
三三	八	銀約〇、五%九七、五%	銀約〇、五%銅九七、五%
三七	三	本山選鑛物	本山選鑛場
三六	七	銀〇、一一%	銀〇、一一%



頁數	行數	誤	正
三〇	一九	爐廐	廐爐
三一	二	二臺連結	二臺ニ連結
三二	三	揚箕	揚箕
三三	五	上下坑道	上下坑道
三四	三	轉機一臺	轉機一臺
三五	二	下底	下底
三六	二	一萬五千斤	一萬五千斤
三七	三	古世紀	古世紀
三八	六	骸炭押出機	骸炭押出機
三九	二	五呎ノモノニ	五呎ノモノニ
四〇	三	徑八吋	徑八吋
四一	五	稱古流	稱古流
四二	二	衝程二十吋	衝程二十吋
四三	一	開始	開始
四四	一〇	方灰石	方解石
四五	六	六分目金網	六分目金網
四六	七	石墨片岩	石墨片岩
四七	一	安質母尼	安質母尼
四八	五	石灰岩	石灰岩
四九	三	混吹法	混吹法
五〇	四	鹽化焙燒	鹽化焙燒

頁數	行數	誤	正
三六	四	煙灰	ノ飛散ノ三字ヲ脱ス
三七	二	自働捲下裝置	自働捲下裝置
三八	一	ホシタル	ホシタル
三九	二	右來	在來
四〇	三	數回鑛床ハ	每回鑛床ト
四一	六	之ヲ適應セル	之ニ適應セル
四二	九	其種類	其種類
四三	四	鑛名	鑛石
四四	二	投棄	枝葉
四五	二	消極的	積極的
四六	四	鑛揚クル	捲揚クル
四七	九	重要	重量
四八	九	其經費額	其經費多額
四九	三	トモ全部ニ波及	トアルトモ全部ニ波及
五〇	二	着手セラル	着セル
五一	三	收銀抵キヲ以テ	收銀低キヲ以テ
五二	五	をふるふおーど	をふるおーど
五三	四	成分	最上段ニ移ス
五四	六	不溶解トシテ	不溶解物トシテ
五五	三	須ク此簡單ナル	須ク此簡單ナル
五六	一	型鉛ノ	型鉛ヲ

頁數	行數	誤	正
四〇	九	成分	成分 最上段ニ移ス
四一	五	成分	最上段ニ移ス
四二	三	高揚力離心唧筒力	高揚力離心唧筒力
四三	五	含有滿俺量%	ノ下各ノノ字ヲ加フ
四四	二	混銃器媒介	混銃器ノ媒介
四五	五	まるちん鋼トス	まるちん鋼トハ
四六	九	鹽瀨	鹽頭
四七	三	增加ト	增加ハ
四八	三	之ヲ關發スル	之ヲ關發スル
四九	二	かりぐす	かりぐす
五〇	六	七月十九日	七月九日
五一	九	同三十二年	同三十三年
五二	一	十一月十四日	十一月二十四日
五三	二	空地	空知
五四	四	委棄スル炭量	ハノ字ヲ脱ス
五五	二〇	軸壺ヲ附ス	油壺ヲ附シ
五六	七	空氣機關車	ハノ字ヲ脱ス
五七	五	夕張第二斜坑馬力ノ欄	一〇〇ヲ脱ス
五八	三	徑六呎、八吋	徑六呎、八吋
五九	八	二、六一	二、六
六〇	四	入山捲胴ノ欄	圓錐形ヲ脱ス

頁數	行數	誤	正
四二	四	同徑三呎、五吋	徑三呎、五吋
四三	六	キロ式離心唧筒	井口式離心唧筒
四四	七	ウォルシンダートシ	ウォルシンダートン
四五	二	ソトドラ	リードラル
四六	七	七寸八分ノ五	七吋八分ノ五
四七	一	一〇吋八分	一〇吋八分ノ五
四八	七	變災	變災
四九	二	方城	方城
五〇	五	小形	小形
五一	五	高島	高島
五二	九	燈械油	機械油
五三	九	之ヲ要スル	ニノ字ヲ脱ス
五四	九	分油燈	燈油分
五五	一	燃油	燈油
五六	五	マハンボタン	マンボタン
五七	三	三エフ、シリンドー油	三エフ、シリンドー油
五八	五	アール、アール、ヴァルヴォリンカ	アール、アール、ヴァルヴォリンカ
五九	二〇	コンクリート	コンクリート
六〇	七	鑛物	鑛量
六一	三	使用ニルニ當リ	使用スルニ當リ
六二	四	冶金製造	冶金製品



頁數	行數	誤	正
五三	三	出品數 五六	出品數 六五
五八	五	鋼車軸	鋼車軸
五九	二	千五萬回轉	五萬回轉
同	四	品物ノ批評	出品物ノ批評
五三	三	左ノ八行ヲ脱ス	

尚ホ新橋鐵道廳ニ於テモ家用合金トシテ八十七ノ鉛二十三ノ安質母尼ヲ調査シ現ニ使用セリト云フ畢竟スルニ鐵道工場ニ於テ各二ヶ年毎ニ起ルヘキ一箇ノ汽關車ノ修繕ニ七十乃至八十ぼんどノ多量ヲ要スヘシ今適當ナル方法ヲ以テ最モ廉價ニ此等合金ヲ販賣供給スルヲ得ハ今日分業法ノ盛ナル場合此種ノ合金製造ハ全ク機械工場ノ手ヲ去リ製造販賣業者ニ移ルヘク益々販路ヲ擴張シ隨テ製品ヲ精査スルコトヲ得テ始メテ全ク輸入合金ノ途ヲ絶テ國家ノ富源ヲ増進シ得ヘシ終リニ現今減摩合金製造業者ニ希望スル點ヲ重ネテ左ニ記サン

一、調査スヘキ金屬ノ及ホス影響ヲ熟知スルコト  
 二、適當ナル製品ニシテ最モ低廉ナルヲ得ルニ勉ム  
 ヘキコト

一、調査スヘキ金屬ノ及ホス影響ヲ熟知スルコト  
 二、適當ナル製品ニシテ最モ低廉ナルヲ得ルニ勉ム  
 ヘキコト

頁數	行數	誤	正
五八	表内	大阪鐵工所〇欄	屑鋼
五九	同	東京堅鐵、切斷面積	〇〇61 〇961
同	同	大阪鐵工所引キ張リ	10.9 10.6
同	表	一平方吋ニ付キ噸	
五二	一行	品出人名	品出人名
同	表	田中長兵衛直徑欄	〇25 〇25
五五	九	錫管鉛管	錫管鉛線
五五	九	備付とろり	溝附とろり
五三	三	導率電	導率電
五七	三	銅線	鋼線
五九	三	五百枚	九百枚
同	九	其他筒製品	其他鋼製品
同	六	鉛塊及錠ノ次ニ左ノ四行ヲ脱ス	
同	六	板鉛、茶鉛、管鉛	五二二、六五七圓
同	六	錫塊及錠	一、二八八、六七九圓
同	六	錫箔	九四、九九九圓
五三	二	亞鉛塊及錠	六一九、八七七圓
五三	二	砂質灰岩	砂質凝灰岩
五五	二	出品セリ	出品セル
五九	六	じんとん氏	じんとん氏

# 東京勸業博覽會審査報告卷九

## 渡邊審査部

### 審査通報 第一章 概説

審査部長 工學博士 渡邊 渡

本博覽會中採鑛冶金ニ關スル本部ノ出品ハ總計九百十點ニシテ出品人ノ數百十七名ナリ之ヲ全國ノ鑛業權者約六千名ニ比スレハ僅々百分ノ二ニ過キス然ルニ本邦ノ鑛業ハ近年非常ニ進歩發達シ昨三十九年ノ總産額金一億圓ヲ超エ輸出金額モ亦四千四百萬圓以上ニ達セリ之ヲ他ノ産業ニ比較スレハ頗ル優勢ナルニモ拘ラス出品點數斯ノ如ク少ク其ノ占有セル區域モ亦狭小ニシテ深ク觀覽者ノ注意ヲ惹起スルニ足ラサリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ今其ノ理由ヲ探究スルニ

第一、今回ハ内國勸業博覽會ニ非サリシ爲東京府外ノ出品尠カリシ事  
 第二、當部ノ出品ハ一般ニ外貌美觀ヲ缺キ觀覽者ノ目ヲ歡ハシムルニ難キ事  
 第三、鑛業ハ當業者相互ノ競争比較の激烈ナラサル事  
 第四、國家ノ富源ヲ内外ニ發表シ以テ資金ノ流通ヲ圖ルノ念慮ニ疎キ事  
 第五、鑛業ノ生産物ハ世界市場ノ支配スル所ニシテ賞牌ノ有無若クハ廣告カ販賣上直接ノ關係ヲ有スルコト比較的尠キ事

即チ是レナリ故ニ出品數ハ斯ノ如ク少ナシト雖モ其ノ表示スル所ノ生産額ハ數千萬圓ニ上リ本邦鑛業界ノ巨擘タル者多ク出品セシヲ以テ略本邦最近ノ趨勢ヲ窺フコトヲ得タリ現ニ今回ノ出品人中一ヶ年百萬圓以上ノ生産額ヲ有スル者十二人(延人)ニ達シ其ノ内三百萬圓以上ノ者五人又一千萬圓以上ノ生産額アル者三人ニ及ヘリ是レ今回名譽金牌ノ授賞數多キ所以ナリトス今之ヲ明治三十六年開設







右表ニ據テ之ヲ觀レハ明治三十九年ニ於ケル本邦ノ鑛產額ハ内地ト臺灣ヲ合シテ一億六百八十一萬二千八百九十七圓ノ巨額ニ達セリ之ヲ第五回内國勸業博覽會當時ノ產額五千八百七十七萬三千四百二十四圓ニ比スレハ實ニ八割三分ノ増率ナリトス而シテ各鑛ノ増減ニ對シテハ煩ヲ厭ヒ之カ説明ヲ省ケリ

鑛產額ノ増進前記ノ如ク著大ナル所以ハ全ク各鑛山ニ於テ採鑛及製煉ノ規模ヲ擴張シタルニ因ルト雖モ技術上ノ進步亦與テ大ニ力アルモノトス其詳細ナルモノハ各主任審査官ノ審査報告ニ讓リ茲ニハ唯其注目スヘキ要項ヲ摘記スルコトニ爲セリ

### 第一章 金屬鑛業

本鑛業ニ屬スル出品點數二百五十三點中銅鑛及製銅最モ其ノ多數ヲ占メ金鑛鐵鑛及其製品之ニ亞ク而シテ第五回内國勸業博覽會以降特ニ注意スヘキ技術上ノ進步ヲ擧クレハ左ノ如シ  
第一、一般ニ採鑛ノ規模ヲ擴張シ動力ヲ變更シタル事 鑛山ノ稼行年ヲ經ルニ從ヒ地底深ク掘進シ坑道縱横ニ延長セシカ爲鑛石ノ捲揚坑水ノ汲上坑道ノ開鑿等ニ動力ヲ要スルコト多ク最早從來ノ如ク簡單ナル人力又ハ不經濟ナル汽力ニ藉ル能ハスシテ殆ント全ク水力電氣ヲ採用スルコトナレリ又採掘法ノ如キモ從來坑夫ニ一任スルカ如キ弊風ヲ革メ漸ク學理ニ基キ秩序正シキ方式ヲ採ルニ至レリ要スルニ設備ノ改善擴張ニ依リテ經費ヲ節シ以テ遺漏ナク鑛利ヲ收ムルノ結果鑛產額ヲ増進スルニ至リシナリ

第二、一般ニ貧鑛ノ處理ニ傾ケル事 從來ノ鑛業ニ在テハ動モスレハ所謂拔掘ナルモノ行ハレ鑛床ノ表面ニ於ケル鑛質富良ナル部分又ハ深處ニ在テモ採掘ニ容易ナル軟弱ニシテ良好ナル鑛石ノミヲ選掘セシヲ以テ其結果遂ニ堅硬ニシテ金屬ニ豐ナラサル鑛石ハ其製煉ニ附シテ價值アルト否トヲ問ハス悉ク坑内ニ遺棄スルカ故ニ鑛利ノ遺漏甚シク是レ畢竟良鑛ヲ以テ經濟ノ基礎ト爲セル古來ノ遺風

ニ過キス故ニ一朝鑛質ノ變化ニ遭遇スルトキハ忽チ鑛業ヲ休廢スルノ止ムヲ得サルニ至レリ然ルニ現時ノ鑛業ニ在テハ前項記述ノ如ク地表ノ富鑛ハ次第ニ採リ盡サレ地下ノ深處ニ進ムト同時ニ鑛質漸ク貧劣ニ赴クヲ以テ之ヲ補ハンカ爲一方ニハ經費ヲ減シ又一方ニハ採掘鑛量ヲ増シ貧鑛ヲ以テ經濟ノ基礎ト爲スヲ以テ偶、鑛質ノ變化ニ遭フモ更ニ意ニ介スル所ナク所謂がさこなしノ手段ニ依テ結局利益ノ總額ヲ増スト同時ニ鑛業ヲシテ益、安全確實ナラシムルニ至レリ

第三、亞鉛鑛輸出ノ發達 硫化亞鉛鑛ハ銅鉛等ノ鑛石ニ伴ヒ多量ニ產出スレトモ從來之レヨリ金屬亞鉛ヲ採取スルノ機運ニ達セサリシノミナラス亞鉛鑛ノ存在ハ銅鉛製煉ノ妨害ヲ爲スヲ以テ却テ其ノ除却法ニ苦慮スルカ如キ有様ナリシカ近年亞鉛鑛海外輸出ノ途開クルニ至リ有害物ハ忽チ變シテ有用鑛物ト爲リタリ今回三井鑛山會社ノ神岡鑛山獨リ精選亞鉛鑛ヲ出品セシノミナレトモ其他ニモ產地頗ル多ク昨三十九年中ノ輸出高二萬噸以上其ノ價額六十萬圓ニ達セリ神岡ノ如キモ一昨年迄ハ全ク之ヲ投棄セリ左レハ以上ノ金額ハ新ニ國家ノ利益ヲ増進セシモノト謂フヘシ

第四、硫化鐵鑛需用ノ發達 硫化鐵鑛ハ其ノ銅ヲ含ムト含マサルトニ拘ラス近年硫酸製造業ノ發達ニ伴ヒ著シク其需用ヲ増進セリ前記鑛山局ノ統計ニ據レハ三十九年ニ於ケル全國ノ產額ハ約九百六十六萬貫ナリト雖モ古河鑛業會社ノ久根鑛山ノミニテモ同年中千三百四十七萬貫即チ五萬噸ノ產額アリ其他伊豫ノ持部、紀伊ノ飯盛等ノ產額ヲ合算セハ其實非常ノ巨額ニ上ルヘシ本鑛物ハ本邦ノ太古、古生兩代ノ地層ニ跨リ著大ノ發達ヲ爲セル鑛床ナルヲ以テ今後運輸ノ便愈、開ケ化學製造業愈、發展スルニ至ラハ本鑛ノ需用モ亦著シク増大スルニ至ラン

第五、泥鑛淘汰器ノ進步 銅鑛、金鑛、銀鑛等ノ砂鑛ヲ淘汰スルニハ近年ういるふれー汰盤、おぶあすとろしむ汰盤等盛ンニ用キラルルニ至レリ此外生野及加納鑛ニ於テハ同一ノ目的ニ對シびんだー圓淘盤ヲ試用セシニ好結果ヲ得タリト云フ然ルニ泥鑛ノ淘汰ニ對シテハ從來適當ナル器械ナカリシカ足尾及阿仁銅山ニ於テハういるふれー泥鑛汰盤ヲ以テ在來ノえぶあん圓淘盤ニ代用シ頗ル好結果ヲ得タ



リト云フ近來熔解製煉ニ附スヘキ銅鑛ノ品位ハ著シク低降セルヲ以テ縱令多少ノ熔解劑ヲ要スルニモセヨ選鑛ノ程度ヲ低減シ銅分ノ減失ヲ極減スヘキ最モ簡單ニシテ且ツ最モ經濟的ナル大器械ノ採用ヲ望ム所ナリ

第六、生鑛吹ノ發達 從來銅鑛ハ一旦焙燒ノ後熔解製煉ニ附セシカ爲燃料ノ消費莫大ニシテ製煉費ノ六割以上ヲ占メタリ然ルニ明治三十三年小坂鑛山ニ於テ自熔法ヲ大成セシ以來殆ント燃料ヲ要セス生鑛ノ儘直ニ製煉ニ附スルコト爲リ大ニ費用ヲ減スルニ至レリ第五回內國勸業博覽會ノ際ニハ其應用獨リ小坂鑛山ノミニ限ラレ他ハ試驗中ニ屬セシカ現今ハ日立加納、足尾、吉岡其他重要ノ銅山ハ大抵此ノ法ヲ採用スルニ至レリ

第七、電氣精銅業ノ發達 從來各銅山ノ產銅ハ多ク荒銅ノ儘市場ニ出シ其ノ大部分ハ海外ニ輸出シ外國ニテハ之ヲ以テ電氣分銅法ヲ行ヒ其ノ内ニ含メル金銀分ヲ採収シテ後チ銅線又ハ銅板ト爲シ再ヒ之ヲ本邦ニ輸入セシカ近年ノ主要鑛山多クハ其設備ヲ改メタリ即チ三菱合資會社所屬ノ大阪製煉所ニ於テハ所屬鑛山ノ荒銅ヲ悉ク同所ニ收集シ電力ニ藉テ純精ノ金、銀及銅ヲ分收スルコト爲シ第五回內國勸業博覽會開設ノ當時ハ一ヶ月三百噸ノ電氣銅ヲ製出スルノ規模ヲ有セシカ爾後諸般ノ改良ヲ加ヘ今ヤ倍大ノ製造力ヲ有スルニ至レリ又古河鑛業會社ニ於テハ從來東京本所ニ於テ營ミ來リシ電氣精銅事業ヲ日光清瀧ニ移シ足尾產ヲ始メ院內、阿仁等ノ荒銅ヲ此所ニ集メ大谷川ノ水力電氣ヲ利用シテ之ヲ分銅シ進ミテ仲銅ヲ新設シ銅線、銅板ノ製作ヲ行ハントシ現今其ノ進行中ニ在リ開始後日尙ホ淺ク昨三十九年ノ作業六ヶ月間ニ電氣銅二百三十六萬斤ヲ出セシカ今後尙ホ數倍ノ產額ヲ見ルニ至ラン其ノ他小坂鑛山ニ於テモ亦電氣精銅業ヲ擴張シタルヲ以テ遠カラヌシテ本邦ノ產銅ハ全部電氣銅トシテ市場ニ出ツルニ至ルヘシ

第八、青化製煉業ノ發達 第五回內國勸業博覽會開設ノ當時ハ青化製煉法ヲ用フル所ノ金山ハ肥前波佐見薩摩牛尾及大口並ニ臺灣ノ瑞芳ノ四ヶ所ノミニテ他ハ皆試驗中ナリシカ今ヤ全國ノ金山殆ント

皆此法ニ依ラサルモノナキノ盛況ニ達シタリト雖モ何レモ其應用單ニ砂鑛ノミニ限リテ合金多クシテ取扱ニ困難ナル泥鑛ノ収金ニ及ホスモノナカリシカ其後波佐見、瑞芳、金瓜石等ニ於テ清澄移液式ニ依リテ青化法ヲ泥鑛ニ應用シ次テ佐渡鑛山ニ於テハ最モ完全ナル濾搾式ニ藉テ此難問ヲ解決シタリ近年臺灣ノ產金額ニ激增ヲ來セシハ全ク青化法ノ應用其宜シキヲ得タルニ因ル現金瓜石ハ昨三十九年ニ純金百三十八貫ヲ出シ牡丹坑ハ純金百三十一貫ヲ產セリ是レ實ニ異常ノ増進ニシテ内地金山ノ企テ及ハサル所ナリ

第九、高壓電流應用ノ發達 明治二十三年足尾銅山ニ於テ初メテ電力ヲ鑛業用諸般ノ動力ニ採用セシ以來各鑛山爭フテ水力電氣ヲ應用スルニ至リシコト既ニ第一項ニ述ヘタルカ如シ而シテ當初ハ足尾ノ例ニ倣ヒ悉ク直流式ヲ用キシカ其後電氣工業ノ發達ニ伴ヒ直流式ニ代ヘテ高壓ナル三相交流式ヲ採用スルコトトナレリ第五回內國勸業博覽會開設ノ當時ニ在テハ直流式ニ依ルモノハ小坂、荒川、尾去澤、院內、生野、橋立、五木及日平等八ヶ山以上ニ達セリ然ルニ今ヤ吉岡、日立、椿、山ヶ野、槇峯、牡丹、日光精銅所等皆三相交流式ノ中央水力發電所ヲ新設シ直流本源ノ足尾ト雖モ亦大谷川ノ水力ヲ利用シ三相式ノ中央大發電所ヲ設クルニ至レリ別子銅山ノ電力ハ大部汽力ニ藉ルト雖モ早晚水力ヲ用ユルノ時期到來スヘシ佐渡鑛山ニ於テモ亦近キ將來ニ水力中央發電所ヲ新設セントス之ヲ要スルニ本邦著名ノ鑛山ニ於テハ水源地トハ多少遠隔ノ位置ニ在ルニモセヨ天與ノ動力ニ依頼シ之ヲ高壓ノ電流ニ替ヘテ所用ノ地域ニ誘致スルコソ經濟上策ノ得タルモノト謂フヘシ

金屬鑛業ノ前途改良ニ關スル大島審査官ノ意見ハ當業者ヲ益スルコト甚タ鮮少ナラサルヘキヲ信ス

### 第三章 石炭鑛業

本類ノ出品數ハ六十八點ニシテ其數甚ダ少シト雖モ本邦石炭鑛業者中最大ナル三井鑛山會社ヲ初メ



北海道炭礦汽船、三菱、古河、入山採炭、茨城採炭等有力ノ諸會社ハ大抵出品セリ唯磐城炭礦會社カ東京ヲ以テ顧客トシナカラ今回ノ出品ニ漏レタルハ頗ル遺憾トスル所ナリ

石炭産額ノ増率ハ第五回内國勸業博覽會以降前統計表ニ示スカ如ク三割三分即チ三分一ノ増加ヲ示セリ而シテ三十九年産額中三井鑛山會社ハ約二百萬噸北海道炭礦汽船會社ハ百十二萬噸、三菱會社ハ九十七萬噸ヲ出シ此ノ三會社ノ産額合計約四百十萬噸ニシテ即チ本邦總産額ノ三割一分餘ヲ占ム故ニ此ノ三會社ハ斯業發達上重大ナル位置ヲ有スルモノナリ

技術上ノ進歩ニ就テハ右三會社ノ諸炭坑ヲ初メトシ其ノ他著名ノ炭坑殊ニ入山採炭會社ノ如キ各自ノ情況ニ應シ殆ト遺憾ナキ迄ニ各種ノ設備ヲ爲シタリ就中三十五年以降特ニ注目スヘキ進歩ハ新規鑿坑ノ開鑿、捲揚ノ裝置、坑内外運炭ノ設備、揚水通氣及運搬用電力ノ應用等ナリトス而シテ三池炭坑ノ排水ニ於ケル夕張炭坑ノ通氣ニ於ケル高島炭坑ノ海底採炭ニ於ケル共ニ困難ナル工事ナレトモ克ク成功セルモノト謂フヘク又三池炭坑ニ於ケル運搬捲揚裝置ノ如キハ之ヲ海外諸國ニ於ケル最モ進歩セルモノニ比スルモ遜色ナシト謂ヒ得ヘシ

石炭鑛業前途ノ改良ニ就テ第五回内國博覽會ニ報告セラレタルの場審査官ノ意見ヲ實地ニ應用シテ益スルモノ多シト聞ク今回提出ノ改良意見モ亦當業者ヲ利スルモノ蓋シ鮮少ニアラサルヘキヲ信ス

#### 第四章 石油鑛業

石油及土瀝青ノ鑛業ニ關スル内地ノ出品數百四點之ニ外國館ニ出陳セル諸種ノ外油四十一點ヲ加フルトキハ内外總計百四十五點ニシテ之ヲ第五回内國勸業博覽會ノ出品ニ比スレハ品質ノ精良ニ赴キシコト明白ニ認ムルヲ得ヘシ

石油ハ燈火用トシテ益、其ノ需用ヲ廣ムルノミナラス近年亦發動用燃料及機械滑摩用竝ニ防錆用トシテ著シク其用途ヲ擴メ供給需用共ニ非常ノ増進ヲ爲セリ即チ過去四年間ニ於ケル本邦産石油ノ増額

ハ前記ノ統計表ニ示スカ如ク五割七分ニ當リ累年増進スルヲ以テ能ク外油輸入増額ノ趨勢ヲ防遏スルノ功ヲ奏セリ左ニ項ヲ分テ一二技術上ノ進歩ヲ示サン

油田設備ノ進歩 近來各當業者ハ石油鑛業着手ノ際可及的油田ノ地質ヲ明確ニシ油層ノ状態ヲ了察シ豫メ鑿井ノ難易ヲ料リ之ニ適スル鑿井法ヲ實施シ油井ノ位置ト井深トヲ豫定シ動力ヲ經濟的ニ應用シ油井ノ水止ヲ完全ニシ可及的天然瓦斯ノ燃力ヲ利用シテ出油額ヲ増進スルニ至リシハ進歩ノ著キモノト認ム又搬油ノ設備ニ在リテハ各油田ヨリ製油所ニ供給スルニ便ナル位置ニ設置セシ貯油所ニ鐵管ヲ敷設シ搬油ヲ容易ニシ甚シク運賃ヲ低減セリ

製油ノ進歩 各製油所競テ從來ノ小形ナル平釜ヨリモ容積大ナル圓筒釜ヲ増加シ可及的燃料ヲ節約シ燈油分ヲ含ムコト少キ原油ト雖モ適當ナル蒸餾法ヲ施行シ又洗滌及漂洒ヲ完全ニシ酸類ノ反應或ハ變色ノ憂ヲ除カントシ引火點ヲ高メ燃燒ヲ完全ニスル口金ヲ應用シ光力ヲ十分ニ發揮シ危險ヲ減シ消費油量ヲ節スル等ノ特長ヲ以テ市場ニ供給センコトヲ努ムルニ至レリ

今回出品ノ燈油ハ引火點概ネ華氏七十度ニシテ品位良好ナレトモ其ノ中數點ヲ除ケハ洗滌、漂洒共ニ不十分ニシテ往々變色、濁濁ノ憂アリ殊ニ輕油質燈油ニハ一層此ノ弊アリテ幾分ノ揮發油ヲ雜ヘ燃燒ノ際惡臭ヲ放ツモノアリ此ノ點ハ外油ニ比シテ劣ル所ナルヲ以テ今後改善ノ方法ヲ講セサルヘカラ

機械油、香油用鑛油ハ第五回内國勸業博覽會ノ出品ニ比シテ著シク進歩ノ跡ヲ示シ機械油ハ游離酸ノ含有少キヲ以テ武器、諸器械ノ防錆用ニ適シ又引火點及燃燒ニ就テモ改善ヲ加ヘタル所アリ外國製品ニ對シ世界ノ市場ニ競爭スルコト難カラサルヲ信ス唯一般ニ商標又ハ記號ヲ以テ品質ヲ表示スルノ方法ヲ設ケサルヲ遺憾トス

土瀝青ハ本邦中所々ノ油田附近ニ産スレトモ採掘精製ニ堪ユルモノハ從來秋田縣南秋田郡龍毛及槻木附近ノ鑛床ヨリ産スルノミニシテ今回出品ノ總數二十八點ハ皆其ノ原料ヲ該地方ニ仰ケリ原鑛ハ



品質何レモ佳良ナレトモ仍ホ不純物ノ混在少カラス原料供給ノ事業未タ其緒ニ就カサルノ感アルヲ憾ム  
 今回出品ノ揮發油、燈油、重油、機械油、香油、用鑛油等ノ性質ヲ比較センカ爲メ比重、引火點、粘力、游離酸ノ分量等ニ就キ試驗ヲ施セリ其成績ハ載セテ大塚審査官ノ報告中ニ在リ氏ノ意見ト相俟テ當業者ノ參考トナルヘキモノ蓋シ鮮少ニアラサルヘキヲ信ス

### 第五章 骸炭、煉炭、黑鉛及硫黃

本類ニ屬スル出品總數二十七點ニシテ其ノ内硫黃十七點、骸炭六點、煉炭三點、こゝるたゝ一點ナリ  
 骸炭 鑛石製煉業及各種工業ノ發達ニ伴ヒテ骸炭ノ需用増進シ其ノ産額亦頗ル増大セリ現ニ八幡製鐵所ノ如キハ一箇年十三萬噸ヲ製出スルニ至レリ今回ハ同所ノ出品ナカリシカ之ニ亞キテ多額ヲ出ス田中長兵衛ノ釜石鑛山ヨリ製鐵材料トシテ出品セリ同山ニテハ一年七萬餘噸ヲ製出シ品質良好ナリ近年骸炭製造業ノ進歩ハ獨リ其ノ産額ヲ増加セシノミニ非スシテ副生品ノ採取ニ在リ八幡ノ製鐵所ヲ初メ大阪舍密會社、古河鑛業會社所屬深川骸炭製造所ハ共ニ現今盛ニ副生品トシテ硫酸諸母尼亞、こゝるたゝ、くれをそゝと油、びつち等ヲ製出シ殘餘ノ瓦斯ヲ燃料ニ利用シ以テ骸炭ノ生産費ヲ減少シ併セテ農業及諸工業ノ發達ヲ助勢スルニ至レリ現今本邦ニ輸入スル硫酸諸母尼亞ヲ始メ其ノ他ノ副生品ノ價額ハ實ニ八百四十萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ今後骸炭製造ト共ニ副生品ノ採取ヲ勸メ其ノ輸入ヲ防遏スルコト目下ノ急務ナリトス

煉炭 今回出品セシ日本煉炭會社ハ肥後天草炭ヲ原料トシ約三萬三千噸ヲ出セリ其ノ品質優良ニシテ海軍用トシテ艦艇ノ燃料ニ使用セラル此ノ他ニ海軍省ノ徳山煉炭所、月島ノ帝國煉炭會社等アレトモ出品セサリシハ遺憾ナリ前項骸炭ノ副生品タルびつちハ皆此ノ製造用ニ供セラルト雖モ尙ホ其ノ供給不足ナルヲ以テ海外ニ之カ輸入ヲ仰クノ現況タリ今日家屋用トシテ未タ煉炭ヲ使用スルニ至ラ

スト雖モ將來薪材ノ供給不足ヲ告クルノ場合ニハ必ス其ノ需用起ルヘキヲ以テ當業者ハ今日ヨリ廉價ノびつちヲ内國ニ得ルノ途ヲ講シ其製品ヲ單ニ軍事用ニノミ限ラス廣ク一般ノ燃料ニ充ツル様品質價格ヲ適應セシムルコトヲ努ムヘキナリ

黑鉛 黑鉛鑛山ハ岐阜、富山ノ二縣ヲ主トシ産額次第ニ減退ノ傾キアリテ現時ノ年額二十四萬斤ニ過キス今ヤ工業ノ發達ニ伴ヒ坩堝、鑄止、鉛筆、滑摩劑トシテ需用頗ル多キヲ以テ錫崙産ノ黑鉛ヲ輸入スルニ至レリ今回久保田宗三郎ノ出品シタル各種ノ精製品ハ善ク用途ニ依リテ製品ノ種類ヲ選別シ其製出額亦少カラス前途ノ望ミヲ繋クニ足ル今回五號館ニ出品シタル韓國忠清北道青山郡産及江原道江陵郡産ノ黑鉛ハ共ニ精確ノ調査ヲ爲スノ價値アルモノト認ム

硫黃 本邦ニハ火山頗ル多ク從テ硫黃ノ産出少カラス昨三十九年ノ産額四千五百七十餘萬斤ニシテ累年約一割ノ増進ヲ示セリ就中三井鑛山會社ノ岩雄登鑛山ハ漸次發達シテ本年ハ産額ヲ倍加スルノ計畫ナリト云フ又朝田又七ノ北海道古武井朝田鑛山ハ同人ノ有ニ歸セシ以來僅ニ二年ニ過キサレモ能ク規模ヲ擴張シ産額ヲ増進シ昨三十九年ハ一千三百萬斤此ノ價額二十一萬圓ニ達シ本邦硫黃山中第一位ヲ占ムルニ至リシハ賞讃スヘキモノト認ム

本邦ノ硫黃鑛ハ其品質頗ル優良ニシテ普通硫黃ノ含有量四五割ノモノヲ製煉シ其以下ノモノハ棄テテ願ミス製煉滓ト雖モ仍ホ二割乃至三割ノ純分ヲ保有スルカ如キ状態ナリ然ルニ世界中最モ盛大ナル伊太利ノしゝり島ニテハ最上鑛ト雖モ四割ヲ超エス二割乃至二割五分ハ普通ニシテ一割迄ノ分ハ製煉ニ附セリ技術ノ巧拙言フ俟タスシテ明カナリ又現今世界第二ノ地位ニ達セシ北米合衆國るいじやな州ニ於ケル硫黃鑛床ノ如キハ以前ヨリ其存在ヲ知リシモ其位置深ク地下ニ埋藏シ採掘頗ル困難ナリシカ爲容易ニ發達セサリシカ種々研究ノ結果ふらつし法ト稱スル巧妙ナル地中溶解法ヲ發明シ先ツ深ク地下ノ鑛床ニ達スル所ノ小孔ヲ穿テ之ニ二重ノ小鐵管ヲ降セシ内管ヨリ過熱蒸氣ヲ送りテ地中ノ硫黃層ヲ融解シ流體硫黃トシテ之ヲ外管ヨリ地上ニ噴出セシムルノ裝置ヲ應用シ遂ニ今日



ノ發展ヲ見ルニ至レリ左レハ我カ當業者モ亦獨リ天惠ニノミ安ンセス恰モ金屬ノ製煉ニ於ケルカ如ク自ラ進ミテ貧鐵ヲ處理スルノ方法ヲ講シ今日ノ廢石ヲ再製スルノ程度ニ達セハ産額ヲ現時ノ數倍ニ上スコト敢テ難キニ非サルヘク是レ今日ニ於ケル急務ナリ

今回出品ノ骸炭、煉炭及硫黃ノ比較分析ハ載セテ細井審査官ノ報告ニ在リ此ノ意見ト相俟テ當業者ノ參考トナルヘキコト蓋シ鮮少ナラサルヘシ

## 第六章 冶金製造品

冶金製造品即チ簡單ナル金屬加工品ノ出品總數ハ二百三十七點ニシテ其ノ内鑄鐵管及減摩合金ヲ以テ最モ主要ナルモノトス

減摩合金 減摩合金ハ器械ノ軸承ニ用キテ摩擦ヲ減シ且ツ機軸ノ摩損ヲ防クノ効力アルヲ以テ本邦機械工業ノ進歩ニ伴ヒ其ノ需用ヲ増加セリ今回出品セシハやまとめたる、あさひめたるノ二種ニシテ共ニ内地ニテ製作シ從來輸入品中最モ廣ク用キラレシまぐのりあめたるト共ニ賞用セラル殊ニやまとめたるハ創業以來年ヲ經ルコト久シク其ノ弘布ノ方法及出品排列法共ニ學理ニ原ツキ人ヲシテ首肯セシムル足ル

鑄鐵管 水道及瓦斯工事ノ發達ニ伴ヒ鑄鐵管ノ需用増加シ從テ今日ニテハ内地ニテ其ノ製造ニ從事シ外國品ニ劣ラサルモノヲ出シ殆ト海外ノ輸入ヲ防遏スルニ至レリ其ノ重ナル製造所ハ大阪鐵工所、釜石製鐵所、植田堅鐵製造所等ニシテ三箇所共ニ出品シ製作皆良好ナリ而シテ其製造高モ各所三千噸内外ニ達シ漸次其ノ事業ヲ擴張セリ就中大阪鐵工所ノ製品ハ機械的試驗ノ各方面ニ於テ強力ノ著大ナルヲ示セリ

鉛管、錫管、鉛板及錫箔 近年各種ノ工業興リ是等諸種ノ需用頗ル増加セリ即チ上水管、瓦斯管又ハ電話線用トシテ鉛管ヲ要シ鉛板ハ荷造用ニ供シ錫箔ハ煙草包紙、洋菓子、包紙、麥酒瓶ノ封緘用トシテ用途

廣シ今回出品セシ三田鉛管製造所ハ上記各種ノ製造ニ從事シ製作佳良ニシテ其ノ製出額多ク内地ハ勿論清韓諸國ノ需用ニ應セリ錫箔ハ根岸ナル錫紙製作所ノ出品良好ナレトモ價格ノ一點ニ於テ外國品ト競争スルコト困難ナリ

金箔 用途頗ル増加シ今回ノ出品モ比較的多カリシカ其製造法ニ至リテハ箔打方ニ多少改良ヲ加ヘシ外著シキ進歩ヲ認メス尙ホ講究ヲ要スルハ箔打紙ノ改良ニシテ舶來品ノ如キ耐久性ノモノヲ使用スルコト肝要ナリ又擬金箔ノ製造法ヲ講究シ高價ナル金箔ニ代用ヲ爲スコトモ亦必要ナルヘシ

伸銅事業 電氣工業ノ發達ト共ニ銅線、銅板等ノ需用増加シ隨テ其ノ製作ニ著シキ進歩ヲ見ルニ至レリ既ニ古河鑛業會社ニテハ本所熔銅所ニ於テ其ノ製作ニ從事シ其ノ産出ヲ増シツツアリシカ今回更ニ日光精銅所ニ於テ大谷川ノ水力電氣ヲ利用シ同所製出ノ電氣銅ヲ以テ伸銅業ヲ經營スルコトトシ目下其ノ工事ニ着手セリ數年ノ後ニハ其ノ産額一層増進スルニ至ラン

今回出品ノ減摩合金ニ就テハ化學的、顯鏡的及摩擦試驗ヲ行ヒ以テ其ノ優劣ヲ檢セリ特許鋼ニ就テモ亦化學的及顯鏡的試驗ヲ實施セリ鑄鐵管ニ就テハ強弱ニ關スル各種ノ機械的試驗ヲ實行シ銅線ニ就テハ導電率及抗張力ヲ試驗セリ就中顯微鏡ノ試驗ハ之ヲ撮影シ寫真版ト爲セリ何レモ載セテ俵審査官ノ報告中ニ在リ出品ノ金屬及合金ノ組織ヲ顯鏡的ニ試驗セシハ今回ヲ以テ嚆矢トス氏ノ意見ト共ニ當業者ヲ益スルコト蓋シ鮮少ナラサルヘキヲ信ス

## 第七章 寶石、陶磁材料、磨礪用其ノ他雜用石

本類ニ屬スル出品總數七十四點ニシテ其ノ内砥石最モ多數ヲ占ム其ノ他ハ石灰石、粘土等ナリ寶石ハ加工品トシテノ出品ハ多數ナリシカ應用物料トシテ本部ノ審査ヲ請求セシモノハ一モ之レナシ砥石ハ大久保惣左衛門、井上善七兩人ノ出品其ノ大部分ヲ占メ共同シテ第一號館ノ外部ニ一小亭ヲ建設シ圓砥石及平砥石ヲ陳列セリ尙ホ此ノ外ニ第五號館内ニ韓國慶尙道彥陽郡産ノ水晶ヲ陳列セリ白石英、



煙水晶、紫水晶、小豆色水晶ノ數種アリ、白石英ノ最大ナルハ直徑一尺四寸アリ、其ノ他モ大抵巨大ナレトモ晶形完全ナラス、鑛物學上興味少カラスト雖モ琢磨シテ良珠ヲ得ルコト難シ、尙ホ其ノ產地附近ヲ精査セス或ハ良鑛ヲ得ルヤモ亦知ルヘカラサルナリ

### 第八章 建築、土木、裝飾及彫刻用石材

輓近土木建築工事盛ニ起リ殊ニ東京ノ如キハ建築石材ノ需用頗ル多シ而シテ附近ノ伊豆、相模、安房、常陸、下野ノ諸國ハ諸種ノ石材ノ供給潤澤ナルニモ拘ラス其出品非常ニ少ク建築石材ハ僅ニ四點ニシテ何レモ東京市内ニテハ取扱高極メテ少キモノニ係ル尙ホ美濃赤坂産ノ大理石ヲ以テ彫刻セル矢橋亮吉出品ノ暖爐前飾及横濱共同石材會社ノ出品ニシテ第二會場外國館裏手ニ數種ノ大理石、蛇紋岩、斑輝岩等ヲ以テ造リシ四阿屋、敷石、噴水盤等アリシカ審査請求ノ目的其ノ意匠ニ在リトノ故ヲ以テ第十七部ノ所管ニ移サレタリ從來裝飾及彫刻用材料トシテハ大理石、蛇紋石等ノ數種ニ限ラレシカ近來琢磨術進歩シ花崗岩其ノ他ノ硬質ノ岩石ヲ彫刻研磨スルニ至リシハ斯業ノ一大進歩ト謂フヘシ  
すれ一とは洋風家屋ノ屋根瓦トシテ急ニ需用ヲ増セリ今回ハ比較的多數ノ出品アリ這般ノ材料ニ充ツル粘板岩ハ從來宮城縣桃生郡十五濱村附近ニ産出スルモノヲ以テ最良トシ今回合資會社すれ一と商會及吉村忠兵衛ノ出品ハ共ニ原石ヲ此所ニ仰ケリ又臺灣館ニ篠塚初太郎出品宜蘭即チ蘇澳産ノすれ一とヲ陳列セリ同所ハ昨三十九年十一月ヨリ採掘ニ着手シ經營日淺ケレトモ其質良好ニシテ宮城縣産ト軒輕ナク將來發達ノ望アルモノト認ム

### 第九章 外國製品

外國製品館ニ出陳シタル舶來製品中本部ニ屬スルモノ多數之アリ此等ノ出品物ヲ調査報告スルハ一ハ以テ海外ニ於ケル工業發達ノ現況ヲ知り得ヘク又一ハ以テ内地鑛業界ニ於ケル需用ノ一般ヲ窺フ

ヲ得ヘシ今左ニ項ヲ分テ其ノ概況ヲ記セン

鑛石類 本類ノ出品物ハ専ラ三井物産會社ノ出陳ニ係ル濠洲にゆう、さうすうゑゐるす州ぶろくんひる、ぶろぶらいるとり會社、稼行鑛山所産ノ含銀鉛亞鉛鑛ノ種類及精選鑛ヨリ成レリ本邦ニ於テ使用スル舶來鉛ノ大部ハ實ニ其供給ヲ該社ノ製品ニ仰クモノナリ此出品物中殊ニ興味ヲ覺エタルハ大島審査官カ改良意見中ニ述ヘラレタルでるぶつらと式ノ浮游選鑛法ニ依テ淘汰シタル亞鉛鑛ノ原鑛、精鑛竝ニ鑛尾トはんちんぐとん、へばらいん式ノ壺燒法ニ依リテ熔結セル鑛泥竝ニ其原鑛タル硫化物鑛泥ノ出陳ニアリトス此等ノ方法ハ未タ本邦ニ於テ實施セラレサルモノニシテ大ニ當業者竝ニ專門家ノ參考ト爲ルヘキモノナリ

此ノ外ニ濠洲産ノ赤鐵鑛ヲ出陳セリ是レ亦本邦製鐵業者ノ參考ニ資スヘキモノナリ  
採鑛ニ關スル出品物 採鑛用具ノ出陳ハ高田商會最モ能ク努メ三井物産會社ト相對シ目貫ノ場所ニ於テ廣潤ノ位置ヲ占メ鑿岩用ノ鑛類及鑿岩機ヲ陳列セリ就中うおいたいらいな一式鑿岩機ハ明治三十四年以來同商會カ一手ニテ米國ヨリ輸入シタルモノニテ足尾、小坂、日立、別子等ノ鑛山及鐵道會社ニテ賞用セラレ現今其數百五十六臺ニ達セリト云フ  
わいんべるげる商會ノ出陳ニ係ルうおるふ式安全燈ハ磁力封鎖器ヲ具ヘ坑夫ヲシテ溢リニ開クコトヲ得シメサルヲ以テ爆發ノ危險ヲ減スルノ効力アリ目下北海道及九州ノ炭坑ニ於テ此ノ安全燈ノ使用數七千個ニ達セリト云フ

坑内救命器ハふあーべる、うんど、ふおーぐと商會ヨリ獨逸形一個又ぶりんどりー商會ヨリ英國形一個ヲ出陳セリ此器械ハ潜水器ニ類似シ坑内失火又ハ炭坑瓦斯爆發ノ際坑夫ノ救命ニ用フルモノニテ歐洲ニテハ屢、奇變ニ處シテ成功シタレトモ本邦ニテハ未タ充分ニ之ヲ利用セサルカ如シ  
鋼 綱ハ堅坑ノ捲揚又ハ坑道及索道ノ運搬用トシテ殆ト其供給ヲ外國ニ仰クヲ以テ三井物産會社ヲ始メ五商會ヨリ之ヲ出陳セリ







審査報告

列座	工學博士	大島道太郎
同	工學博士	的場中
同	理學博士	神保小虎
同	同	細井岩彌
同	理學博士	大塚專一
同	理學博士	鈴木木敏
主任	工學博士	大島道太郎

主任	理學博士	神保小虎
同	工學博士	的場中
同	同	細井岩彌
同	理學博士	大塚專一
同	理學博士	鈴木木敏
同	工學博士	鈴木木敏
補助	工學博士	猪間收三郎

第十一章 授賞數及受賞人名

今回勸業博覽會ヲ東京ニ開設シタル當初ノ目的ハ東京府管内ノ産業ヲ鼓舞獎勵スルニ在リタレトモ其實各府縣ヨリモ出品シ均シク審査ヲ請求シタルヲ以テ審査ノ標準ハ之ヲ一府内ノ産業ニ採ラスシテ彼ノ内國勸業博覽會ニ於ケルカ如ク普ク全國産業ノ状態ニ據レリ唯管内ト管外トヲ區別センカ爲賞牌ノ上ニ紀念ノ二字ヲ冠セシノミ左ニ授賞數ヲ管内内外及各等級ニ分テ表示スヘシ

名譽賞牌	授賞數			狀	協贊賞	合計
	一等賞	二等賞	三等賞			
東京府管内	六	二	八	一〇	八	四八
同 管外	二	三	二	一七	二	三四
計	八	五	一〇	二八	一〇	八二

左ニ受賞人名ヲ録スヘシ

金屬鑛業	東京市麴町區八重洲町	古河鑛業會社
------	------------	--------

採鑛ノ進捗ニ伴ヒ規模ヲ大ニシ設備ヲ整ヘテ克ク鑛利ヲ完ウス殊ニ日光ニ大發電所ヲ新設シ大谷川ノ水力ヲ利用シテ電氣精銅ノ業ヲ起シ零碎ノ金銀ヲ分収シテ遺憾ナカラシム其功允ニ賞スヘシ

金屬鑛業 東京市麴町區八重洲町 三菱合資會社

所屬鑛山孰レモ設備ヲ更新シ坑道ヲ延長シテ採鑛量ヲ増加シ水力電氣ニ藉リテ運搬ノ便ヲ圖リ巧ニ貧鑛ヲ處理シテ遺利ナカラシム其功允ニ賞スヘシ

製煉業 東京市麴町區八重洲町 三菱合資會社

大阪製煉所ノ事業ヲ擴張シ電力ニ藉リテ所屬鑛山ノ產銅ヲ精鍊シ之ニ含メル零碎ノ金銀ヲ收メテ遺利ナカラシム電氣精銅業ノ模範トナスニ足レリ其功允ニ賞スヘシ

鐵鑛業及製鐵業 東京市京橋區北紺屋町 田中長兵衛

釜石鑛山ノ規模ヲ擴張シ著ク銑鐵ノ產額ヲ増加シ復率先シテ至難ノ製鋼業ヲ起シ苦心ノ結果收益ヲ見ルニ至レリ斯業經營ノ模範トナスニ足ル其功允ニ賞スヘシ

石炭鑛業 東京市麴町區八重洲町 三菱合資會社

肥筑ノ間ニ在リテ多數ノ炭坑ヲ開キ炭田ノ大小ニ應シテ適當ノ設備ヲ施シ常ニ事業ノ著實ト鑛利ノ經濟トヲ專ニシ逐年產額ヲ増加シ販路ヲ海外ニ擴ム其功允ニ賞スヘシ

石炭鑛業 東京市日本橋區駿河町 三井鑛山合名會社

斬新利便ノ機械ヲ採用シ炭坑ノ設備ヲ完成シテ模範ヲ海内ニ示シ復克ク產額ノ大ヲ致セリ殊ニ三池ニ於テハ軌近一大船渠ヲ新設シ益々海外輸出ノ便ヲ圖レリ其功允ニ賞スヘシ

名譽銀牌

石炭鑛業	東京市麴町區八重洲町	古河鑛業會社
炭坑内外ノ設備ヲ改善シ盛ニ電力ヲ應用シテ產額ヲ増進ス其功賞スヘシ	東京市日本橋區藥研堀町	入山採炭株式會社



炭坑ノ設備ヲ改善シ事業ヲ擴張シ銳意努力磐城炭ノ聲價ヲ發揚シ以テ現時ノ盛運ニ達セシム其功賞スヘシ

二九四

一等賞

銀、鉛、亞鉛鑛、蒼鉛

骸 炭

煉 炭

銅 線

鉛管錫管類

鑄鐵管

鑄鐵管

黑鉛坩堝、耐火用器

二等賞

鐵鑛及銑鐵

硫黃、骸炭

ヤマト、アンチフリクション、メタル

三等賞

石 炭

スレート及屋根瓦

丸砥石及砥石

丸砥石及砥石

久美油

東京市日本橋區駿河町 三井鑛山合名會社  
 東京市麴町區八重洲町 古河鑛業會社  
 東京市京橋區富島町 日本煉炭株式會社  
 東京市麴町區八重洲町 古河鑛業會社  
 東京市芝區三田四國町 日本鉛管製造所  
 東京市京橋區北紺屋町 田中長兵衛  
 東京市深川區西町 東京堅鐵製作所  
 東京市芝區三田小山町 日本坩堝株式會社

東京市日本橋區北紺屋町 雨宮敬次郎  
 東京市日本橋區駿河町 三井鑛山合名會社  
 東京市京橋區三十間堀三丁目 ヤマトメタル商會

東京府北豐島郡千住町 茨城探炭株式會社  
 東京市京橋區木挽町 スレート商會  
 東京市神田區鍋町 大久保惣左衛門  
 東京市日本橋區大傳馬町 井上善七  
 東京市京橋區新富町 日本安全油株式會社

褒 狀

機械箱及香油

金銀箔販賣業

金銀箔

錫 紙

鑛山用燈器

滿俺礦

黑 鉛

無煙石炭

石 炭

石灰石

機械油及燈油

アスファルト

アスファルト及工作品

朝日メタル

鋼 鐵

金屬製煉方法

協 贊 賞

古河鑛業會社出品名譽金牌、金屬鑛業及石炭鑛業

三菱合資會社出品名譽金牌、製鍊業

三菱合資會社出品名譽金牌、金屬鑛業

東京市本所區向島諸地町 碓 文 七  
 東京市日本橋區大傳馬町 竹 内 萬 三 郎  
 東京市京橋區八官町 淺 野 金 太 郎  
 東京市下谷區下根岸町 根 岸 製 作 所  
 東京市京橋區八丁堀五丁目 本 多 敏 明  
 東京府豐多摩郡千駄ヶ谷村 久 保 田 宗 三 郎  
 東京府豐多摩郡千駄ヶ谷村 久 保 田 宗 三 郎  
 東京市赤坂區檜町 桑 田 知 明  
 東京市本郷區湯島一丁目 大 菱 商 會  
 東京府西多摩郡青梅村 青 梅 鐵 道 株 式 會 社  
 東京市芝區荻手町 日 本 製 油 社  
 東京市京橋區銀座二丁目 橫 井 潔  
 東京市京橋區三十間堀二丁目 中 外 ア ス フ ァ ル ト 同 期 會 社  
 東京市京橋區南鍋町 ア ラ イ ア ン ス 商 會  
 東京市京橋區西仲通六丁目 特 許 會 社 東 京 會 社  
 東京市本所區中ノ郷竹町 森 田 源 右 衛 門  
 東京市本所區番場町 近 藤 陸 三 郎  
 大阪市北區新川岸町 石 田 八 彌  
 東京市麻布區北日ヶ窪町 原 田 鎮 治